M-Class

取扱説明書

Mercedes-Benz

表記と記載内容について

マーク	内容
	警告 重大事故や命にかかわるけががを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
	環境 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。
	注意 けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
	知識 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
▶	操作手順などを示しています。
(▷ ページ)	関連する内容が他のページにもあることを示しています。

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車両の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

車両をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書のイラストは主に左ハンドル車のものを使用しています。右ハンドル車では、車両の部品の配置や位置、そして操作方法が異なる場合がありますので、ご注意ください。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/h を超えたときの車両機能や状態についての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車両とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。
- 車両を次のオーナーにお譲りになる場合は、車両と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i メルセデス・ベンツ日本㈱ 公式サイト
http://www.mercedes-benz.co.jp/

メルセデス・ベンツ日本株式会社

さくいん……………………………… 4
はじめに…………………………… 11
各部の名称………………………… 19
安全装備…………………………… 29
オープン / クローズ ……………… 65
シート / ステアリング / ミラー … 89
ライト / ワイパー ………………… 103
エアコンディショナー…………… 119
走行と停車………………………… 131
マルチファンクションディスプレイ … 191
収納 / 室内装備 ………………… 235
メンテナンス / 手入れ ………… 255
万一のとき………………………… 271
ホイールとタイヤ………………… 297
テクニカルデータ………………… 311

ア

アシストメニュー 203
アダプティブハイビームアシスト 109
アダプティブブレーキ 60
アダプティブブレーキライト 57
アテンションアシスト 183
安全のために 11
オートマチック車の取り扱い 13
寒冷時の取り扱い 14
警告ラベル 13
こんなことにも注意 16
診断ソケット 12
全体的な注意事項 11
走行する前に 13
保証の適用 13
メルセデス・ベンツ指定サービス工場 13
イージーエントリー機能 97
イモビライザー 61
インストルメントパネル 20
インテリジェントライトシステム 107
アクティブライトシステム 107
コーナリングライト 108
重要な安全上の注意 107
ハイウェイモード 108
フォグランプ強化機能 108
ウィンタータイヤ 300
ウォッシャー液 318
運転席の適切な位置 90
エアコンディショナーの概要 120
エアコンディショナー使用時の注意 121
エアコンディショナーのコントロールパネル 121
重要な安全上の注意 120
エアコンディショナーの操作 122
AC モードの作動 / 解除 122
ウインドウの曇り取り 125
エアコンディショナーの作動 / 停止 122
エアコンディショナーをオートモードに設定する 123
温度の調整 123
送風配分の設定 123
送風量の設定 124
ゾーン機能の作動 / 解除 124
内気循環スイッチを使用してのコンビニエンスオープニング / クロージング機能 126
内気循環モードの作動 / 解除 126
フロントウインドウのデフロスター 124
余熱ヒーター機能の作動 / 解除 127
リアデフォッガー 125
エアバッグ 33
ウインドウバッグ 37
運転席 / 助手席エアバッグ 35
運転席ニーバッグ 36
サイドバッグ 36
重要な安全上の注意 33
エマージェンシーキー 69
エンジンオイル 316
エンジンの始動 134
エンジンの停止 151
エンジン番号 313
エンジンルーム 256
エンジンオイル 257
エンジンオイル量に関する注意 257
エンジンオイルレベルゲージを使用してのオイル量の点検 258
エンジンオイルを補給する 258
他のサービス用品の点検と補給 259
フロントウインドウウォッシャー / ヘッドライトウォッシャーの補給 260
冷却水の量の点検 259
ボンネット 256
エンジン冷却水温度計 192
応急用スペアタイヤ 273
オーディオメニュー 200
オートマチック車の取り扱い 13
オートマチックトランスミッション 142
DIRECT SELECT レバー 142
運転のヒント 145
オートマチックトランスミッションのトラブル 147
ギアシフト操作 145
シフトポジション 144

重要な安全上の注意 142
ティップシフト 146
パドル 145

オフロード走行装備 186
4MATIC 186
DSR 187
オフロードモード 189

カ

外気温度表示 193

カップホルダー 248

可変スピードリミッター 166

環境保護のために 11

寒冷時の取り扱い 14

キー 66
エマージェンシーキー 69
キーの機能 66
キーの電池 69
キーのトラブル 72
キーレスゴー 67
工場出荷時の設定に復元する 68
ロッキングシステムの設定の変更 68

キーレスゴー 67
キーレスゴー使用時の重要な注意事項 67
集中して施錠 / 解錠する 67

救急セット 272

クルーズコントロール 163

警告ラベル 13

けん引およびけん引始動 288
4MATIC 車両の注意点 290
けん引始動（緊急エンジン始動） 291
けん引フックの取り付け / 取り外し 289
車両を運搬する 290
重要な安全上の注意 288
ぬかるみなどから復帰するとき 291
両アクスルを接地させて車両をけん引する 289

けん引防止機能 62

子供を乗せるとき 43
チャイルドセーフティシート 43
チャイルドプルーフロック 54

小物入れ 236

コンビネーションスイッチ 106
ハイビームヘッドライト 106
パッシング 106
方向指示 106

サ

車載工具 272

サービスプロダクトと容量 314
ウォッシャー液 318
エンジンオイル 316
重要な安全上の注意 314
燃料 314
ブレーキ液 317
冷却水 317

サイドウインドウ 80
コンビニエンスオープニング機能 82
コンビニエンスクロージング機能 82
サイドウインドウの開閉 81
サイドウインドウのトラブル 84
サイドウインドウのリセット 84
重要な安全上の注意 80

サイドビューカメラ 176
サイドビューカメラの作動と停止 177

サンバイザー 250

シート 91
2 列目シートのバックレストの調整 94
シートの電動調整 92
シートヒーター 95
重要な安全上の注意 91
電動ランバーサポートの調整 95
ヘッドレストの調整 93

シートヒーター 95

シートベルト 38
運転席と助手席のシートベルト着用警告 41
シートベルト調整機能 40
シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター 41
シートベルトの高さ調整 41
シートベルトを着用する 40
シートベルトを外す 41
重要な安全上の注意 38

室内センサー ·········· **63**
室内装備 ·········· **248**
12V 電源ソケット ·········· 252
カップホルダー ·········· 248
サンバイザー ·········· 250
灰皿 ·········· 251
反射防止フィルムの装着 ·········· 253
フロアマット ·········· 253
ライター ·········· 252
自動防眩機能 ·········· **100**
車外ライト ·········· **104**
アダプティブハイビームアシスト ·········· 109
インテリジェントライトシステム ·········· 107
コンビネーションスイッチ ·········· 106
非常点滅灯 ·········· 106
ヘッドライトの内側が曇るとき ·········· 110
ライトスイッチ ·········· 104
車載品の収納場所 ·········· **272**
応急用スペアタイヤ ·········· 273
救急セット ·········· 272
車載工具 ·········· 272
停止表示板 ·········· 272
車両に保存されるデータ ·········· **17**
故障データ ·········· 17
データが保存されるその他の装備 ·········· 17
車両の電子機器 ·········· **313**
電子制御部品の改造 ·········· 313
車輪の交換 ·········· **305**
回転方向 ·········· 306
車輪の入れ替え ·········· 305
車輪の清掃 ·········· 306
車輪の保管 ·········· 306
パンクしたとき ·········· 305
ジャンプスタート ·········· **285**
収納エリア ·········· **236**
EASY-PACK フィックスキット ·········· 244
一体型ラゲッジルームカバー / ネットのセーフティネット ·········· 243
小物入れ ·········· 236
収納ネット ·········· 238
テールゲートのコートフック ·········· 244
荷物の固定 ·········· 240
荷物固定用リング ·········· 240
バッグフック ·········· 241
ラゲッジフロアボード下の小物入れ ·········· 246
ラゲッジルームカバー ·········· 242
ラゲッジルームの拡大 ·········· 238
ルーフキャリア ·········· 247
乗員安全装備 ·········· **30**
PRE-SAFE® ·········· 38
SRS（乗員保護補助装置） ·········· 31
エアバッグ ·········· 33
シートベルト ·········· 38
重要な安全上の注意 ·········· 30
チャイルドプルーフロック ·········· 54
上方の操作部 ·········· **26**
診断ソケット ·········· **12**
ステアコントロール ·········· **61**
ステアリング ·········· **96**
イージーエントリー機能 ·········· 97
重要な安全上の注意 ·········· 96
手動式ステアリングの調整 ·········· 96
電動式ステアリングの調整 ·········· 97
スノーチェーン ·········· **301**
スピードメーター ·········· **193**
積載荷物の制限重量 ·········· **319**
積載のガイドライン ·········· **236**
設定メニュー ·········· **204**
センターコンソール ·········· **24**
下部センターコンソール ·········· 25
上部センターコンソール ·········· 24
走行 ·········· **132**
ECO スタートストップ機能 ·········· 137
イグニッション位置 ·········· 133
エンジンの始動 ·········· 134
エンジンのトラブル ·········· 140
重要な安全上の注意 ·········· 132
発進 ·········· 135
走行安全装備 ·········· **55**
ABS（アンチロック・ブレーキング・システム） ·········· 56
BAS ·········· 57
EBD ·········· 60
ESP®（エレクトロニック･スタビリティ･プログラム） ·········· 57

アダプティブブレーキ 60
アダプティブブレーキライト 57
重要な安全上の注意 55
ステアコントロール 61
走行安全装備の概要 55

走行時の注意 154
オフロードを走行するとき 158
寒冷時の走行 157
坂道を走行するとき 162
全体的な走行時の注意 154
タイヤのグリップについて 156
濡れた路面での走行 156
ブレーキ 154

走行する前に 13

走行装備 163
アテンションアシスト 183
可変スピードリミッター 166
クルーズコントロール 163
サイドビューカメラ 176
パーキングアシストリアビューカメラ 178
パークトロニック 171
ホールド機能 169
レーンキーピングアシスト 184

送風口の調整 128
グローブボックス送風口 129
サイド送風口の調整 128
中央送風口の調整 128
リア送風口の調整 129

タ

タイヤ / ホイールの使用 298
走行時の注意 298
タイヤトレッド 299
タイヤの選択、装着と交換 300
ホイールおよびタイヤの定期的な点検 299

タイヤ空気圧 302
指定のタイヤ空気圧 302
タイヤ空気圧警告システム 304

タイヤの回転方向 306

タコメーター 192

チャイルドセーフティシート 43
ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置 47
重要な安全上の注意 43
助手席へのチャイルドセーフティシートの装着 44
推奨チャイルドセーフティシート 52
チャイルドセーフティシート検知システム 45
チャイルドセーフティシート検知システムのトラブル 49
チャイルドセーフティシートの適切な装着位置 49
テザーアンカー 48

チャイルドプルーフロック 54
重要な安全上の注意 54
リアサイドウインドウのチャイルドプルーフロックを設定する 54
リアドアのチャイルドプルーフロックを設定する 54

駐車 151
エンジンの停止 151
重要な安全上の注意 151
長期間駐車するとき 154
電気式パーキングブレーキ 152

長期間駐車するとき 154

停止表示板 272

ディスプレイと操作 192
エンジン冷却水温度計 192
外気温度表示 193
スピードメーター 193
タコメーター 192
マルチファンクションディスプレイの操作 193
メニューリスト 195

ディスプレイメッセージ 211
安全装備 212
エンジン 221
キー 226
車両 224
走行装備 222
タイヤ 224
ディスプレイメッセージを非表示にする 211
はじめに 211
メッセージメモリー 211
ライト 218

テールゲート開口時の寸法 319
テクニカルデータに関する注意事項 312
電気式パーキングブレーキ 152
　緊急ブレーキ 153
　自動解除 153
　自動作動 153
　手動での作動 / 解除 152
　全体的な注意事項 152
電球の交換 112
　重要な安全上の注意 112
　電球交換の概要 113
　リアバルブの交換 113
電動ランバーサポート 95
ドア 74
　内側から集中して車両を施錠および解錠する 74
　内側からドアを解錠して開く 74
　運転席ドアの解錠（エマージェンシーキー） 75
　車速感応ドアロック 75
　車両の施錠 76
　重要な安全上の注意 74
ドアの操作部 27
ドアミラー 98
冬季の使用 300
　ウィンタータイヤ 300
　覚えておいていただきたい項目 300
　スノーチェーン 301
　標準タイヤでの走行 300
盗難防止システム 61
　イモビライザー 61
　けん引防止機能 62
　室内センサー 63
　盗難防止警報システム 61
トリップメニュー 197

ナ

ナビメニュー 198
慣らし運転 132
　最初の約 1,500km まで 132
　重要な安全上の注意 132
日常の手入れ 262
　外装の手入れ 262
　内装の手入れ 268
　手入れに関する注意事項 262
荷物の固定 240
燃料 314
燃料の給油 148
　重要な安全上の注意 148
　燃料と燃料タンクのトラブル 150
　燃料を給油する 148

ハ

パーキングアシストリアビューカメラ 178
パークトロニック 171
灰皿 251
バッテリー 280
　重要な安全上の注意 280
　バッテリーの再接続 284
　バッテリーの充電 284
　バッテリーの接続を外す 283
　バッテリーの装着位置 282
　バッテリーの脱着 284
パノラミックスライディングルーフ
　重要な安全上の注意 85
　パノラミックスライディングルーフの操作 85
　パノラミックスライディングルーフの電動サンシェードの操作 86
　パノラミックスライディングルーフのトラブル 87
パンクしたとき 273、305
　車両の準備 273
ビークルプレート 313
　エンジン番号 313
　車台番号 313
　車台番号やカラーコードが記載されたビークルプレート 313
ヒューズ 291
　エンジンルームのヒューズボックス 292
　重要な安全上の注意 291
　ダッシュボードのヒューズボックス 292
　ヒューズ一覧 293
　ヒューズを交換する前に 292

リアシート下部のヒューズボックス‥293

ホイールとタイヤの組み合わせ‥‥‥‥307

全体的な注意事項‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥307

タイヤ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥308

ホールド機能‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥169

保証の適用‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥13

ボンネット‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥256

マ

マルチファンクションステアリング‥‥‥23

ミラー‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥98

自動防眩機能‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥100

ドアミラー‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥98

パーキングヘルプ機能‥‥‥‥‥‥‥100

メインメニューとサブメニュー‥‥‥‥196

TEL メニュー‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥201

着信を受ける‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥202

通話の拒否、または終了‥‥‥‥‥‥202

電話帳からの発信‥‥‥‥‥‥‥‥‥202

はじめに‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥201

リダイアル‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥203

レーンキーピングアシストの設定 / 解除‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥203

アシストメニュー‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥203

アテンションアシストの設定 / 解除‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥203

はじめに‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥203

オーディオメニュー‥‥‥‥‥‥‥‥‥200

DVD ビデオの操作‥‥‥‥‥‥‥‥201

オーディオ機器またはメディアの操作‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥200

テレビの操作‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥201

ラジオ放送局を選局する‥‥‥‥‥‥200

設定メニュー‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥204

コンフォート‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥209

車両‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥208

設定項目の初期化‥‥‥‥‥‥‥‥‥210

はじめに‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥204

メーター‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥204

ライト‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥205

トリップメニュー‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥197

基本画面‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥197

数値のリセット‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥198

走行可能距離と燃費消費の表示‥‥‥197

デジタルスピードメーター‥‥‥‥‥198

トリップコンピューター " スタート後 " または " リセット後 "‥‥‥‥‥‥‥197

ナビメニュー‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥198

ナビゲーション案内の表示‥‥‥‥‥198

ナビゲーションシステムの他の状況表示‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥199

ルート案内を行なっていないとき‥‥199

ルート案内を行なっているとき‥‥‥199

メニューの概要‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥196

メンテナンスメニュー‥‥‥‥‥‥‥‥204

メーターパネル‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥21

表示灯 / 警告灯‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥22

メーターパネル‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥21

メーターパネルの表示灯 / 警告灯‥‥‥228

安全装備‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥228

エンジン‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥233

シートベルト‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥228

メモリー機能‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥101

記憶された設定の呼び出し‥‥‥‥‥‥102

設定の記憶‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥101

メルセデス・ベンツ指定サービス工場‥‥13

メルセデス・ベンツ純正部品‥‥‥‥‥312

メンテナンス‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥260

メンテナンスインジケーター‥‥‥‥‥260

メンテナンスメニュー‥‥‥‥‥‥‥‥204

ラ

ライター‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥252

ライトスイッチ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥104

デイタイムドライビングライト‥‥‥‥104

ヘッドライトウォッシャー‥‥‥‥‥‥105

ヘッドライトオートモード‥‥‥‥‥‥105

ライトの操作‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥104

リアフォグランプ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥105

ロービーム‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥104

ラゲッジルーム‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥76

車外から自動で開閉する‥‥‥‥‥‥‥78

車内から自動で開閉する‥‥‥‥‥‥‥79

重要な安全上の注意‥‥‥‥‥‥‥‥‥76

外側からの開閉‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥77

テールゲートの開口角度の設定 ······· 79
テールゲートの非常解除 ············· 80
ルームライト ························ 111
緊急時点灯機能 ······················ 111
ルームライトの概要 ················· 111
ルームライトの操作 ················· 111
冷却水 ······························ 317

ワ

ワイパー ···························· 114
フロントウインドウワイパーの
作動 / 停止の切り替え ············· 114
リアウインドウワイパーの
作動 / 停止の切り替え ············· 115
ワイパーのトラブル ················· 117
ワイパーブレードの交換 ············ 116

A

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）································ 56
オフロード ABS ····················· 56
重要な安全上の注意 ················· 56
ブレーキ操作をする ················· 56

B

BAS ································ 57

D

DIRECT SELECT レバー ·············· 142
自動的なパーキングポジション P への
シフト ······························ 143
シフトポジションの概要 ············ 142
ドライブポジション D での
ECO スタートストップ機能の作動 ··· 144
トランスミッションの
シフトポジションの表示 ············ 142
ニュートラル N での
ECO スタートストップ機能の作動 ··· 144
ニュートラル N にシフトする ······· 144
パーキングポジション P に入れる ··· 143
リバースギア R に入れる ··········· 144
DSR ································ 187

E

EASY-PACK フィックスキット ········ 244
EBD ································ 60
ECO スタートストップ機能 ··········· 137
ECO スタートストップ機能の解除 / 作動
······································ 139
エンジンの自動再始動 ·············· 138
エンジンの自動停止 ················ 137
重要な安全上の注意 ················ 137
全体的な注意事項 ·················· 137
ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）··························· 57
4ETS（トラクションコントロール）·· 58
ESP® の機能の設定 / 解除 ·········· 59
オフロード ESP® ··················· 60
重要な安全上の注意 ················ 57

P

PRE-SAFE® ························· 38

S

SRS（乗員保護補助装置） ············ 31
SRS 警告灯 ························· 31
シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッターとエアバッグの作動 ····· 32
はじめに ··························· 31

T

TEL メニュー ······················ 201

数字

12V 電源ソケット ·················· 252
4MATIC ···························· 186

環境保護のために

Daimler AG では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費が抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数が車両の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を車両に載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車両から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動時は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

環 境

Daimler AG は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

安全のために

全体的な注意事項

⚠ 警 告

車両へのあらゆる作業、特に安全や安全に関連したシステムに関する作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場では、車両の作業に必要な専門知識と専用工具を有しています。この目的のため、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備を行なうことをお勧めします。

⚠ 警 告

いくつかの安全システムはエンジンがかかっているときにのみ機能します。そのため、走行しているときはエンジンを停止しないでください。さもないと、車両の安全システムが適切に機能しなくなり、その結果、想定したように運転者や他の方を保護できなくなります。さらに、車両のコントロールを失い、事故の原因になる危険性があります。

⚠ 警告

不適切に行なわれた作業、またはカバー内のケーブルの再配線などの車両への変更は、車両の安全システムが適切に作動しなくなる原因になります。安全システムは、想定したように運転者や他の方を保護しなくなります。さらに、車両のコントロールを失い、事故の原因になる危険性があります。

装着や改造など、車両へのあらゆる作業や変更は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ 警告

電気装備やそのソフトウェアへの作業が不適切に行なわれたときは、これらの装備が作動しなくなるおそれがあります。

電気装備は、車両インターフェースを通じてネットワークされています。電気装備の変更は、改造を施していないシステムの誤作動の原因になります。これらの誤作動は、車両の安全な操作、さらに運転者自身の安全を著しく損なうおそれがあります。

そのため、電気構成部品へのあらゆる作業や改造は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

診断ソケット

⚠ 警告

診断ソケットに機器を接続すると、車両システムの作動に影響を及ぼすおそれがあります。これにより、車両の安全性が損なわれます。事故の危険性があります。

診断ソケットには、いかなる機器も接続しないでください。

⚠ 警告

診断機器や機器のケーブルを診断ソケットに接続すると、ペダル操作の障害になります。突然のブレーキ操作やアクセル操作の際に機器やケーブルがペダルの間に挟まることがあります。その結果、ペダルの動きが妨げられ、事故を起こすおそれがあります。

運転席の足元にはいかなる機器やケーブルも接続しないでください。

! エンジンが停止している状態で診断ソケットに機器を接続すると、バッテリーを消耗します。

診断ソケットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場での診断機器の接続のために装備されています。

診断ソケットに機器を接続すると、排出ガスのモニター情報がリセットされるおそれがあります。これにより、次回の車両検査時に排出ガス基準に適合しなくなることがあります。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場には、車両に適切な作業を行なうために必要な専門知識と専用工具、ならびに設備が備わっています。上記の内容は、特に安全に関わる作業について重要です。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

- 安全に関わる作業
- 点検および整備
- 修理作業
- 装備などの変更や装着、加工作業
- 電気装備に関わる作業

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備を行なうことをお勧めします。

警告ラベル

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報や、車両を安全に使用するための情報などが記されています。警告ラベルは絶対にはがさないでください。

保証の適用

車両の操作を行なうときや車両に損傷が発生したときは、必ず本書に記載されている指示に従ってください。指示に従わないで発生した車両の損傷については、保証の対象外になります。

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をご覧ください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、トランスミッションがポジションP、N以外になっていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、トランスミッションのポジションが走行位置になると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂などでは、アクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずトランスミッションをポジションPにシフトして、電気式パーキングブレーキを効かせて、エンジンを停止してください。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることや、バッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温度に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地域の場合、少なくとも1年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやテールゲートの凍結

ドアやテールゲートが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを損傷しないように注意してください。
- ドアやテールゲートが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやテールゲートを開こうとすると、周囲の防水シールやウェザーストリップを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり凍結していると、ボディを損傷したり、ステアリング操作ができなくなり、事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着し、ステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ウインドウなどが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を落としてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入してくるおそれがあります。

> ⚠ **警 告**
>
> マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンを始動すると、排気ガスが車内に入り、一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- 電気式パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、電気式パーキングブレーキを使用せず、トランスミッションをポジション P にシフトして、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れするおそれがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

  荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災が発生するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

車両に保存されるデータ

故障データ

車両には、故障時や異常時のデータを保存する機能があります。

保存されたデータは、安全装備などが作動するとき、または故障や異常の原因の特定、車両開発などに使用されます。データを使用して、車両の過去の移動経路を調べることはできません。

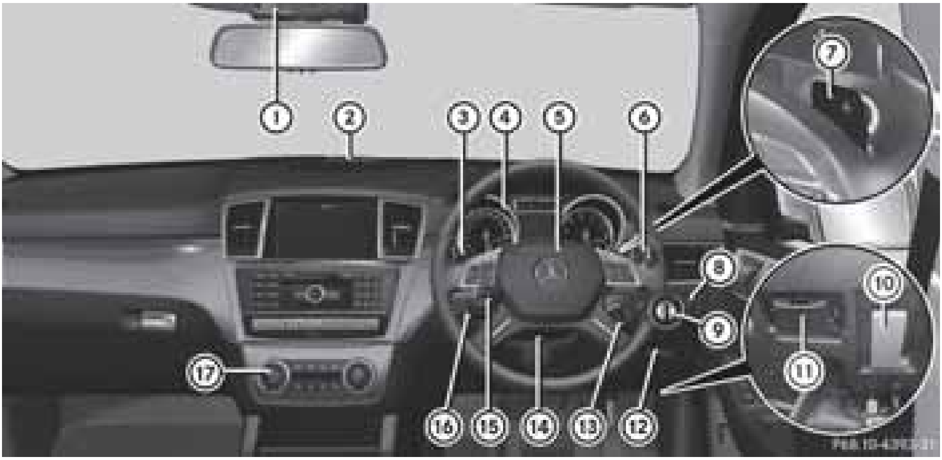
メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、故障診断機によって読み取られたデータは、使用後に消去されます。

データが保存されるその他の装備

COMAND システムでは、ナビゲーションや電話などでデータを保存したり、編集することができます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

インストルメントパネル………… 20
メーターパネル……………………… 21
マルチファンクションステアリング
…………………………………… 23
センターコンソール……………… 24
上方の操作部……………………… 26
ドアの操作部……………………… 27

インストルメントパネル



	名称	ページ
①	上方の操作部	26
②	パークトロニック警告ディスプレイ	173
③	コンビネーションスイッチ	106
④	メーターパネル	21
⑤	ホーン	
⑥	DIRECT SELECT レバー	142
⑦	パドル	145
⑧	日本仕様車には装備されません	
⑨	ライトスイッチ	104
⑩	ボンネットロック解除レバー	257
⑪	診断ソケット	12

	名称	ページ
⑫	電気式パーキングブレーキ	152
⑬	エンジンスイッチ	133
	キーレスゴースイッチ *	133
⑭	ステアリング調整ロック解除レバー *	96
⑮	ステアリング調整レバー *	97
⑯	クルーズコントロールレバー	164
	可変スピードリミッターレバー	168
⑰	エアコンディショナーコントロールパネル	121

* オプションや仕様により、異なる装備です。

メーターパネル

メーターパネル

	名称	ページ
①	スピードメーター	193
②	マルチファンクションディスプレイ	193
③	タコメーター	192
④	エンジン冷却水温度計	192

	名称	ページ
⑤	燃料計	
⑥	メーターパネル照度調整ノブ：時計回りまたは反時計回りにまわす	

表示灯 / 警告灯

	名称	ページ
①	ヘッドライト表示灯	104
②	ESP® 表示灯	230 231 232
③	ハイビーム表示灯	106
④	パーキングブレーキ表示灯（赤色）	232
⑤	パーキングブレーキ警告灯（黄色）	232
⑥	ブレーキ警告灯（黄色）	228
⑦	日本仕様車には装備されません	
⑧	方向指示表示灯	106
⑨	日本仕様車には装備されません	
⑩	SRS 警告灯	232

	名称	ページ
⑪	シートベルト警告灯	228
⑫	日本仕様車には装備されません	
⑬	エンジン冷却水警告灯	233 234
⑭	リアフォグランプ表示灯	105
⑮	エンジン警告灯	233
⑯	燃料残量警告灯	233
⑰	ESP® オフ表示灯	230 231 232
⑱	ABS 警告灯	229 230
⑲	ブレーキ警告灯（赤色）	229

マルチファンクションステアリング

	名称	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	193
②	COMAND ディスプレイ	別冊
③	音声認識スイッチ：別冊の取扱説明書をご覧ください。	別冊
④	受話終了または通話拒否 電話帳 / リダイアル履歴の終了	194
	発信または受話 通話履歴の表示	194
	+ − 音量の調整	194
	消音	194

	名称	ページ
⑤	◀ ▶ メインメニューの選択	194
	▲ ▼ サブメニューの選択またはリストのスクロール	194
	OK 選択の確定 ディスプレイメッセージの消去	194
⑥	戻る 音声認識の解除：別冊の取扱説明書をご覧ください。	194

センターコンソール

上部センターコンソール

	名称	ページ
①	COMAND コントロールパネル	別冊
②	シートヒータースイッチ	95
③	日本仕様車には装備されません	
④	パークトロニックオフスイッチ	171
⑤	ECO ECO スタートストップスイッチ	137

	名称	ページ
⑥	非常点滅灯スイッチ	106
⑦	助手席エアバッグオフ表示灯	45
⑧	ESP® オフスイッチ	57
⑨	日本仕様車には装備されません	

下部センターコンソール

	名称	ページ
⑩	カップホルダー	248
	灰皿	251
	ライター	252
⑪	COMAND コントローラー：別冊の取扱説明書をご覧ください。	
⑫	オフロードモードスイッチ	189
⑬	DSR スイッチ	187
⑭	日本仕様車には装備されません	
⑮	日本仕様車には装備されません	
⑯	小物入れを開く	237

上方の操作部

	名称	ページ
①	左側フロントリーディングランプのオン / オフスイッチ	111
②	フロントルームライトの点灯スイッチ	111
③	リアルームライトのオン / オフスイッチ	111
④	フロントルームライトの消灯 / ルームライトオート制御の解除スイッチ	111
⑤	右側フロントリーディングランプのオン / オフスイッチ	111

	名称	ページ
⑥	パノラミックスライディングルーフの開閉スイッチ	85
⑦	サングラスケース	237
⑧	けん引防止機能解除スイッチ	62
⑨	ルームミラー	
⑩	日本仕様車には装備されません	
⑪	室内センサー解除スイッチ	63

ドアの操作部

	名称	ページ
①	ドアレバー	74
②	集中解錠スイッチ / 集中施錠スイッチ	74
③	M 1 2 3 シート、ドアミラー、ステアリング設定のメモリー / ポジションスイッチ	101
④	電動シートの調整スイッチ	91

	名称	ページ
⑤	ドアミラーの調整および格納 / 展開スイッチ	99
⑥	サイドウインドウの開閉スイッチ	80
⑦	テールゲートの開閉スイッチ	79
⑧	リアサイドウインドウへのチャイルドプルーフロックの設定 / 解除スイッチ	54

乗員安全装備 …… 30
子供を乗せるとき …… 43
走行安全装備 …… 55
盗難防止システム …… 61

乗員安全装備

重要な安全上の注意

シートベルトや SRS（乗員保護補助装置）は相互に補完し、連動して作動する乗員保護装置です（▷31 ページ）。これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する危険性を軽減して安全性を高めます。ただし、シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置の機能を十分に発揮させるため、以下のことに注意してください。

- シートやヘッドレストは正しい位置に調整してください（▷90 ページ）。
- シートベルトを正しく着用してください（▷40 ページ）。
- エアバッグの作動が妨げられていないことを確認してください（▷33 ページ）。
- ステアリングを正しい位置に調整してください。
- 乗員保護装置を改造しないでください。

ℹ エアバッグは、シートベルトを着用した乗員の保護機能を高めます。しかしながら、エアバッグはシートベルトの効果を補助する乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。車両にエアバッグが装備されていても、乗員全員が常に正しくシートベルトを着用しなければなりません。エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。たとえば、エアバッグの作動が正しく着用したシートベルトの保護効果を高めると判断されない場合、エアバッグは作動しません。エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。なぜなら、

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの間に適切な距離を保つことができます。
- たとえば正面衝突の際に、シートベルトは乗員が衝撃を受けた方向に投げ出されるのを防ぐことができます。

エアバッグが作動するような事故が発生した場合は、シートベルトを正しく着用している場合にのみ、本来の保護効果が発揮されます。

> ⚠ **警 告**
>
> 整備作業が適切に行なわれていない場合は、車両の走行安全性が損なわれるおそれがあります。その結果、車両のコントロールを失い、事故を起こす原因になります。また、安全装備が本来の機能を発揮しなくなり、お客様や他の方を保護することができなくなるおそれがあります。
>
> 点検整備や修理などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

> ⚠ **警 告**
>
> 乗員保護装置の以下の構成部品を改造したり、不適切な作業を行なわないでください。正常に作動しなくなるおそれがあります。
>
> - シートベルトとベルトアンカー、シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグを含む乗員保護装置
> - 配線
> - 車載ネットワークで接続された電子制御部品
>
> 衝突の際に車両の減速度がシステムを作動させるのに十分な高いレベルに達しても、エアバッグやシートベルトテンショナーが正常に作動しなくなったり、誤作動するおそれがあります。この理由により、決して乗員保護装置を改造しないでください。
>
> そのため、決して車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

SRS（乗員保護補助装置）

はじめに

SRS は以下により構成されます。

- SRS 警告灯
- エアバッグ
- エアバッグコントロールユニット（クラッシュセンサーを含む）
- 前席および後席左右のシートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

SRS は、事故の際に乗員が車室内の部品にぶつかる危険性を低減します。また事故の際に乗員が受ける衝撃を緩和させます。

SRS 警告灯

SRS の機能は、イグニッション位置が **1** か **2** のとき、またエンジンがかかっているときに定期的に診断されます。そのため、異常が発生した場合は適時検出されます。

メーターパネルの SRS 警告灯 は、イグニッション位置を **1** か **2** にすると点灯します。イグニッション位置を **1** にしたときは数秒後に、イグニッション位置を **2** にしたときはエンジンを始動してから数秒後に消灯します。

⚠ **警告**

SRS に異常が発生すると、各システムが不意に作動したり、減速度の大きい事故が起きても正常に作動しなくなるおそれがあります。

以下のときは異常が発生しています。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに SRS 警告灯 が点灯しないとき
- イグニッション位置を **1** にしたときは数秒間経過しても、またイグニッション位置を **2** にしたときはエンジンを始動してから数秒間経過しても SRS 警告灯 が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときに SRS 警告灯 が再度点灯したとき

このような場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で SRS の点検を受けてください。

シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッターとエアバッグの作動

衝突の最初の段階において、エアバッグコントロールユニットは、車両の減速度または加速度に関連する以下の重要な物理的データの評価を行ないます。

- 持続時間
- 方向
- 強さ

このデータの評価に基づいて、エアバッグは初期の段階で最初にシートベルトテンショナーを作動させます。

ⓘ 前席のシートベルトテンショナーは、前席のシートベルトの先端がシートベルトバックルに正しく差し込まれているときのみに作動します。

前後方向にさらに高い度合いの車両の減速度または加速度があるときは、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

車両には、衝撃の大きさに応じて展開力を 2 段階に制御する、2 ステージ式の運転席 / 助手席エアバッグが装備されています。衝突の際に、エアバッグコントロールユニットは車両の減速度または加速度の評価を行ないます。作動の最初の段階で、運転席 / 助手席エアバッグには負傷の危険性を軽減させるための火薬ガスが充填されます。1000 分の数秒の間に 2 度目の作動のための規定値を超えたとき、運転席 / 助手席エアバッグは完全に作動します。

シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動規定値は、車両の減速度または加速度に応じて適切に設定されます。この作動は本来予防措置です。作動は衝突の開始から適切なタイミングで行なわれます。

ⓘ エアバッグはすべての種類の事故で作動するわけではありません。事故のときにすべてのエアバッグが相互に作動するわけではありません。それぞれのエアバッグシステムは独立して作動します。

エアバッグシステムの作動内容は、検知された衝突の強さ、特に車両の減速度または加速度、および以下のような事故の形態により決定されます。

- 前方からの衝突
- 側面からの衝突
- 横転

車両の減速度または加速度、および衝撃の方向は基本的に以下の要素により決定されます。

- 事故の間の衝撃の配分
- 衝撃の角度
- 車両の変形特性
- 車両に衝突した障害物の特性

衝突の後に発生し、測定された衝撃は、エアバッグの作動に決定的な役割を行なわないだけではなく、エアバッグの作動に指示を与えるものでもありません。

ボンネットやフェンダーなどの車体は、エアバッグが作動することなく著しく変形することがあります。これは、比較的容易に変形するパーツのみで、影響や減速度合いが高くならない場合です。対照的に、車両がほんの少しの変形を受けた場合のみでもエアバッグが作動することもあります。これは、縦方向のボディメンバーなどの非常にかたい車両部分がぶつかり、結果として高い減速度が発生した場合です。

エアバッグ

重要な安全上の注意

エアバッグが作動すると、シートベルトによる保護を補完して、乗員の身体の動きをゆるやかにして拘束します。

エアバッグが作動したときは、作動音が聞こえ、白煙が発生します。ごくまれに作動音が聴力に影響することがあります。発生した白煙は人体への影響はありません。SRS 警告灯 が点灯します。

エアバッグの収納部には、AIRBAG のマークがあります。

警 告

エアバッグは補助的な乗員保護装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。

エアバッグの作動により重大な、または致命的なけがをする危険性を軽減するため、以下の注意事項を守ってください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にして、シートに深く腰かけてください。ヘッドレストは、目の高さで後頭部が支えられるように調整してください。
- 妊娠中の女性は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- 身長 150cm 未満または 12 歳未満の子供は、適切なチャイルドセーフティシートにより確実に身体を固定してください。

- すべての乗員は、できるだけエアバッグから離れた位置にシートを調整してください。運転席シートは安全に車を操作できる位置に調整してください。運転者の胸を運転席エアバッグ収納部の中央からできるだけ遠ざけてください。
- 助手席シートはできるだけ後方に動かしてください。特に子供を乗せたチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着しているときは重要です。
- 子供を含めて、乗員はサイドバッグやウインドウバッグが作動するウインドウ周辺に頭部を寄りかけないでください。
- 助手席エアバッグが無効になっている場合を除いて、助手席シートには後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。助手席シートにチャイルドシート検知システム用トランスポンダーを内蔵したチャイルドセーフティシートを装着したときは、助手席エアバッグは作動しません。助手席エアバッグオフ表示灯 が点灯し続けます。後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートにチャイルドシート検知システム用トランスポンダーが内蔵されていない場合は、子供を乗せたチャイルドセーフティシートを後席の適切な位置に装着してください。前向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着する場合は、助手席シートをできるだけ後方に動かしてください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物が入っていないことを確認してください。
- 特に走行中は、運転席 / 助手席エアバッグ収納部の上に寄りかからないでください。
- ダッシュボードに足をのせないでください。
- ステアリングは必ず外側のみを握ってください。これにより、エアバッグは完全に展開します。ステアリングの内側を握った状態でエアバッグが作動すると、けがをするおそれがあります。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間に、人やペットまたは荷物がないことを確認してください。
- バックレストとドアの間に物を置かないでください。
- アシストグリップやコートフックには、コートハンガーなどのかたい物をかけないでください。

- カップホルダーなどのアクセサリーをドアに取り付けないでください。

エアバッグは瞬時に作動するため、エアバッグによるけがの危険性を避けることはできません。

⚠ 警告

エアバッグは、以下の部分が覆われていない状態で、バッジやステッカーなどが貼付されていないときにのみ、確実に機能します。

- ステアリングパッド部
- ステアリングコラム下部のニーバッグ収納部
- 助手席エアバッグ収納部
- シートのバックレスト外側

⚠ 警告

エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがあります。この白煙を吸い込むと、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがあります。

呼吸障害を防ぐため、安全を確認のうえすみやかに車外へ出てください。サイドウインドウを開き、新鮮な空気で車内を換気することもできます。この白煙は人体への影響はありません。また、車両火災の心配もありません。

⚠ 警告

エアバッグが作動した直後は、エアバッグの構成部品が熱くなっています。火傷をするおそれがあるため、エアバッグの構成部品には触れないでください。

エアバッグはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換しなければなりません。さもないと、次に事故が起こった際にエアバッグで乗員を保護できません。

運転席 / 助手席エアバッグ

運転席 / 助手席エアバッグは、運転席乗員および助手席乗員の頭部および胸部の保護を行ないます。

運転席エアバッグ ① はステアリング前部で、助手席エアバッグ ② はグローブボックス前部および上部で作動します。

運転席 / 助手席エアバッグは、以下のように作動します。

- 衝突の初期段階で車両の縦方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき
- 運転席 / 助手席エアバッグの作動が、シートベルトによる保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルトの着用の有無に応じて作動
- 他のエアバッグとは独立して作動

車両が横転したときは、運転席 / 助手席エアバッグは基本的に作動しません。運転席 / 助手席エアバッグは、車両の縦方向に一定以上の減速度を検知したときに作動します。

助手席エアバッグ ② は、助手席に乗車しているとシステムが判断したときにのみ作動します。センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯 は消灯しています（▷45 ページ）。これにより、チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されているか、あるいはチャイルドセーフティシート検知システムに対応したチャイルドセーフティシートが不適切な方法で装着されていないかを確認できます。

! 助手席に重い荷物を置かないでください。システムが助手席に乗員がいると判断し、事故のときに助手席エアバッグが作動することがあります。作動したエアバッグは交換しなければなりません。

運転席ニーバッグ

運転席ニーバッグは、運転者の以下のような傷害を軽減します。

- 膝のけが
- 大腿部のけが
- 下肢のけが

運転席ニーバッグ ① は、運転席エアバッグに連動してステアリングの下方で作動します。

サイドバッグ

> ⚠ **警 告**
>
> シートカバーを使用したい場合は、安全上の理由により、メルセデス・ベンツ車のために承認されたシートカバーのみを使用することをお勧めします。
>
> シートカバーは、サイドバッグのために裂けることができる縫い目を備えた専用品でなければなりません。さもないと、サイドバッグが適切に作動できなくなり、事故のときに本来の保護効果を発揮することができません。適切なシートカバーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場などで入手できます。

⚠ 警 告

エアバッグをコントロールするセンサーはドアにあります。そのため、ドアやドアトリムにはスピーカーの後付けなども含めて、いかなる改変も行なわないでください。ドアの損傷はサイドバッグの作動に影響を及ぼすおそれがあります。

サイドバッグが作動すると、衝撃が発生した側の乗員の胸部に対する保護を高めます。ただし、以下の部分は保護しません。

- 頭部
- 頸部
- 腕部

フロントサイドバッグ ① とリアシートサイドバッグ ② は、シートバック外側で作動します。

サイドバッグは以下のように作動します。

- 衝撃が発生した側で作動
- 側面衝突のように、衝突の初期段階で車両の横方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき
- シートベルトの着用とは独立して作動
- 運転席 / 助手席エアバッグとは独立して作動
- シートベルトテンショナーとは独立して作動

車両が横転したときは、サイドバッグは基本的に作動しません。ただし、システムが車両の横方向に高い度合いの減速度または加速度を検知し、サイドバッグの作動がシートベルトによる保護機能を高めるとシステムが判断したときを除きます。

ウインドウバッグ

ウインドウバッグは、衝撃が発生した側の乗員の、胸部または腕部ではなく、頭部の保護レベルを高めます。

ウインドウバッグはルーフフレーム側部に内蔵されており、A ピラーから C ピラーの範囲で作動します。

ウインドウバッグ ① は以下のように作動します。

- 衝撃が発生した側で作動
- 側面衝突のように、衝突の初期段階で車両の横方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき
- 助手席乗員の乗車とは関係なく作動
- シートベルトの着用とは独立して作動

- 運転席 / 助手席エアバッグとは独立して作動

PRE-SAFE®（予防乗員保護）

PRE-SAFE® は、車が危険な状態にあることを察知して、乗員保護を高める機能をもたらします。

PRE-SAFE® は、以下のときに作動します。

- BAS が作動するような急ブレーキを効かせたとき
- 物理的な限界を超え、強いアンダーステア状態やオーバーステア状態になるような危機的な状況のとき

PRE-SAFE® は、検知した危険な状況に応じて以下のように作動します。

- 前席シートベルトを引き込みます。
- メモリー機能装備車は、事故のときに助手席シートが不適切な位置にある場合は､適正な位置に調整します。
- 車が横滑りをすると、パノラミックスライディングルーフ * とサイドウインドウが少し開いた状態まで自動的に閉じます。

事故が起こることなく車が危険な状態から脱したときは、PRE-SAFE® によりシートベルトの張力が緩みます。PRE-SAFE® により変更されたすべての設定が元に戻ります。

シートベルトの張力が緩まないとき：

▶ 停車しているときに、バックレストやシートを少し後方に動かします。

シートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

> ⚠ **警 告**
>
> シートを調整している間は、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。

! シートを動かすときは、足元やシートの後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

シートベルトの調整と PRE-SAFE® に組み込まれたコンビニエンス機能に関する情報は、" シートベルト調整機能 " をご覧ください （▷40 ページ）。

シートベルト

重要な安全上の注意

シートベルトは、事故のときに乗員の身体の移動を最も効果的に抑えることができる拘束装置です。乗員を拘束することにより、乗員が車内の部品にぶつかる危険性を軽減させます。

> ⚠ **警 告**
>
> シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、本来の保護効果を発揮することができません。そのような状況では、事故のときに重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。
>
> そのため、乗員全員が常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- 妊娠中の女性は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトは身体に密着させて、ねじれのないように着用してください。そのため、コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。そして、シートベルトを引き上げて上半身に密着させてください。腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。腹部にはかけないでください。必要であれば、ベルトを少し押し下げてから引き戻して、たるみを取ってください。
- シートベルトが鋭利な物やこわれやすい物にかからないようにしてください。特に眼鏡やペン、キーなどがその位置にあったり、衣服のポケットに入っていないことを確認してください。事故のときにシートベルトが損傷して裂け、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。
- それぞれのシートベルトは必ず 1 人だけが使用してください。子供は決して他の乗員のひざの上に座らせて走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに子供を保護することができません。その結果、子供や他の方が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員はシートベルトを正しく着用することができません。この理由により、身長 150cm 未満の乗員は、体格に合った専用の乗員保護装置を使用してください。
- 身長 150cm 未満かつ 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。この理由により、子供の体格に合ったチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供を固定してください。追加の情報は " 安全装備 " 章にある " 子供を乗せるとき " (▷43 ページ)をご覧ください。チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示に従ってください。
- 乗員が使用しているシートベルトで荷物を固定しないでください。

⚠ 警 告

バックレストをできるだけ垂直に近い位置にしないと、シートベルトは本来の効果を発揮することができません。そのような状況では、事故のときに重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

走行する前に、シートが正しい位置に調整され、バックレストができるだけ垂直に近い位置にあることを確認してください。

⚠ 警告

汚れたり損傷したシートベルトや、改造または事故により衝撃を受けたシートベルトは、本来の保護効果を発揮することができません。そのような状況では、事故のときに重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

この理由により、シートベルトに汚れや損傷がないか定期的にチェックしてください。

損傷したシートベルトや事故により衝撃を受けたシートベルトは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

安全上の理由により、車両のためにメルセデス・ベンツにより承認されたシートベルトのみを使用することをお勧めします。

シートベルトを着用する

▶ シートを調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い角度にします（▷90 ページ）。

▶ シートベルトをベルトアンカー ① からゆっくりと引き出します。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、肩を通るベルトが肩の中央に、腰を通るベルトが骨盤のできるだけ低い位置にかかるようにします。

▶ プレート ② の先端をバックル ③ に差し込みます。

シートベルト調整機能：必要に応じて、運転席と助手席のシートベルトが上半身に密着するように自動調整されます。

▶ 必要であれば、シートベルトの高さを調整します。

▶ 必要であれば、肩を通るベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

解除ボタン ④ でシートベルトを外す方法については、" シートベルトを外す " の記載事項をご覧ください（▷41 ページ）。

シートベルト調整機能

シートベルト調整機能では、運転席と助手席のシートベルトが乗員の上半身に密着するように調整されます。

シートベルトは、以下のときに少し引き込まれます。

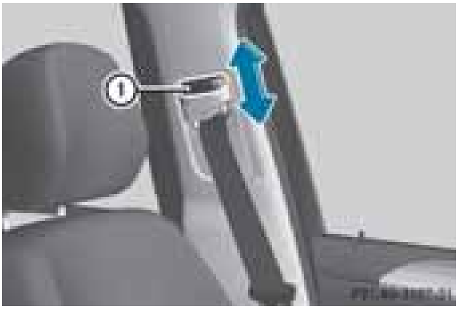
- プレートの先端をバックルに差し込み、イグニッション位置を **2** にしたとき
- イグニッション位置が **2** のときに、プレートの先端をバックルに差し込んだとき

シートベルト調整機能は、乗員とシートベルトの間のたるみを検知すると、それらを密着させるように作動します。マルチファンクションディスプレイにより、シートベルト調整機能の設定と解除ができます（▷210 ページ）。

シートベルト調整機能は、PRE-SAFE® のコンビニエンス機能に組み込まれています。PRE-SAFE® に関する詳しい情報は、"PRE-SAFE®（予防乗員保護）" をご覧ください（▷38 ページ）。

シートベルトの高さ調整

運転席シートと助手席シートのシートベルトは、高さを調整することができます。



肩にかかるシートベルトが肩の中央を通るように高さを調整してください。

▶ **上げる：**ベルトアンカーを上にスライドさせます。

ベルトアンカーが好みの位置に固定されます。

▶ **下げる：**ベルトアンカーのロック解除ボタン ① を押して保持します。

▶ そのままベルトアンカーを下にスライドさせます。

▶ ロック解除ボタン ① から指を放し、ベルトアンカーがロックされていることを確認します。

シートベルトを外す

▶ バックルの解除ボタン ④ を押し、プレート ② をベルトアンカー ① のほうに巻き取らせます。

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。さもないと、シートベルトやプレートがドアやシートに挟まれるおそれがあります。ドアや内張り、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは乗員保護効果を十分に発揮できないため、交換しなければなりません。メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

運転席と助手席のシートベルト着用警告

メーターパネルのシートベルト警告灯 [シートベルト警告灯] は、前席の乗員にシートベルトの着用を促します。警告灯は点灯し続けるか点滅します。また、警告音が鳴る場合もあります。

i シートベルト警告灯 [シートベルト警告灯] について、詳しくは、" メーターパネルの表示灯 / 警告灯 " をご覧ください（▷228 ページ）。

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

フロントシートベルトと後席左右のシートベルトにはシートベルトテンショナーとベルトフォースリミッターが装備されています。

シートベルトテンショナーは、事故のときにシートベルトを引き込み、乗員の身体を密着させせます。

シートベルトテンショナーは、不適切なシート位置や、正しく着用されていないシートベルトを補正することはできません。

シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を引き寄せるためのものではありません。

ベルトフォースリミッターが作動すると、衝突時に巻き上げたベルトの拘束力を緩め、乗員の身体を加わる負担を軽減します。

フロントのベルトフォースリミッターは、フロントエアバッグと連動し、減速力の一部を吸収します。乗員の身体にかかる力を広い範囲に分散させます。

シートベルトテンショナーは、以下のときに作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- SRS に異常がないとき（▷31 ページ）
- フロントのシートベルトテンショナーは、それぞれのシートベルトがバックルに正しく差し込まれているとき

後席左右のシートベルトテンショナーは、シートベルトの着用とは独立して作動します。

シートベルトテンショナーは、事故の状況や衝撃の強さが以下のようなときに作動します。

- 前方または後方からの衝突の際に、衝突の初期段階で車両の縦方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき
- 側面衝突の際に、衝突の初期段階で車両の横方向に高い度合いの車両の減速度または加速度を伴うとき
- 車両が横転するような特定の状況で、衝突の際にシートベルトテンショナーの作動が乗員保護効果を高めるとシステムが判断したとき

エアバッグが作動したときは、作動音が聞こえ、白煙が発生します。ごくまれに作動音が聴力に影響することがあります。発生した白煙は人体への影響はありません。SRS 警告灯 [SRS] が点灯します。

⚠ 警告

シートベルトテンショナーが作動したときは、他の事故が発生したときに追加の保護効果を発揮することができません。そのため、作動したシートベルトテンショナーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

シートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄規則を守ってください。この規則について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。さもないと、事故のときに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

子供を乗せるとき

チャイルドセーフティシート

重要な安全上の注意

⚠ 警 告

急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに、子供が重大な、または致命的なけがをすることを防ぐため、以下の点に注意してください。

- 身長 150cm 未満かつ 12 歳未満の子供は、常に適切なシートに装着したチャイルドセーフティシートに乗せて身体を固定してください。シートベルトは子供向けに設計されていないため、チャイルドセーフティシートが必要です。
- 身長 150cm 未満かつ 12 歳未満の子供は、助手席に乗車させないでください。ただし、チャイルドシート検知システム用トランスポンダーを内蔵したチャイルドセーフティシートに子供の身体を固定している場合を除きます。
- 助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、助手席シートをできるだけ後方に動かしてください。
- 絶対に子供を他の乗員のひざの上に乗せて走行しないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに子供を保護することができません。子供が車内の部品にぶつかり重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ 警 告

チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着しないと、保護機能を発揮できません。衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体が保護されません。子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。この理由により、チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。

チャイルドセーフティシートは後席に装着してください。子供の安全性が高くなります。

チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接していなければなりません。そのため、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。

チャイルドセーフティシートのクッションカバーは、このシートの専用品のみを使用してください。損傷したカバーは、メルセデス・ベンツ純正品のみと交換してください。

車両のためにメルセデス・ベンツにより承認されたチャイルドセーフティシートのみを使用することをお勧めします。

子供を乗車させるときは、子供の体格や年齢、体重に合ったメルセデス・ベンツ純正チャイルドセーフティシートを使用して、身体を固定してください。チャイルドセーフティシートは後席の適切な位置に装着してください。走行している間は、子供の身体がチャイルドセーフティシートに固定されていることを確認してください。

メルセデス・ベンツでは、一覧表に示されたチャイルドセーフティシートのみを使用することをお勧めします(▷52 ページ)。

適切なチャイルドセーフティシートについての詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ チャイルドセーフティシートの清掃は、メルセデス・ベンツ純正カーケア用品の使用をお勧めします。これに関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 警告

子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。車内の部品でけがをするおそれがあります。また、車内が高温または低温になると重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や周りの人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられるおそれがあります。

ホールド機能の注意事項にも従ってください。関連情報はさくいんで見つけることができます。

⚠ 警告

固定されていなかったり適切な位置に置かれていない荷物は、以下のような場合に子供と他の乗員すべてがけがをする危険性を増加させます。

- 事故のとき
- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時

確実に固定できない限り、車内には重い物や硬い物は積まないでください。詳しい情報は、さくいんの "積載のガイドライン" で見つけることができます。

助手席へのチャイルドセーフティシートの装着

助手席サンバイザーに貼付された警告ステッカー

チャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着することを禁止する警告ステッカー

⚠ 警 告

助手席エアバッグが無効にならない場合。

- 助手席エアバッグが作動すると、助手席に装着したチャイルドセーフティシートに乗車した子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。これは子供が助手席エアバッグの近くに着座して作動した場合に特に危険性が高まります。
- 絶対に後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して、子供を乗車させないでください。後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートは、後席の適切な位置にのみ装着してください。
- 前向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して、子供を乗車させるときは、必ず助手席シートを最後方の位置にしてください。

以下の場合は、助手席エアバッグが無効になりません。

- チャイルドシート検知システム用トランスポンダーを内蔵していないチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着した場合
- 助手席エアバッグオフ表示灯 が点灯しない場合

チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、ダッシュボードと助手席側サンバイザーの両面に貼付されています。

推奨されたチャイルドセーフティシートについての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

チャイルドセーフティシート検知システム

助手席側ダッシュボードの側面に、後ろ向きチャイルドセーフティシートを装着する際の注意に関するステッカーが貼付されています。助手席ドアを開くと、このステッカーが確認できます。

助手席に装備されたチャイルドセーフティシート検知システムは、チャイルドシート検知システム用トランスポンダーを内蔵したチャイルドセーフティシートが助手席に装着されているか検知します。この場合は、助手席エアバッグオフ表示灯 ① が点灯します。助手席エアバッグが無効になります。

⚠ 警 告

チャイルドセーフティシート検知システムに対応したチャイルドセーフティシートを装着しても、助手席エアバッグオフ表示灯 [⊠] が点灯しないときは、助手席エアバッグは無効になりません。助手席エアバッグが作動すると、子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

以下に注意してください。

- 後ろ向きで使用するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着しないでください。
- 後ろ向きで使用するタイプのチャイルドセーフティシートは後席の適切な位置に装着してください。

または

- 前向きで使用するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席シートに装着する場合は、助手席シートを最後方の位置に動かしてください。
- メルセデス･ベンツ指定サービス工場で、チャイルドセーフティシート検知システムの点検を受けてください。

チャイルドセーフティシート検知システムの機能と信号の送受信が正しく行なわれるように、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接するようにしてください。不適切に装着されたチャイルドセーフティシートでは、事故のときに保護機能を発揮することができなくなり、けがをするおそれがあります。

ℹ チャイルドセーフティシート検知システムにより助手席エアバッグが無効になっていても、助手席の以下の装置は作動します。

- サイドバッグ
- ウインドウバッグ
- シートベルトテンショナー

⚠ 警 告

助手席シートには、以下のような電子機器を置かないでください。

- 電源の入ったノートパソコン
- 携帯電話
- 磁気カードや IC カード

電子機器からの信号がチャイルドセーフティシート検知システムに干渉することがあります。これはシステムの誤作動につながります。これにより、チャイルドセーフティシート検知システム用のトランスポンダーを装備したチャイルドセーフティシートを装着していない状態で助手席エアバッグオフ表示灯 [⊠] が点灯することがあります。事故のときに助手席エアバッグが作動しません。また、イグニッション位置を **2** にしたときに、SRS 警告灯 [SRS] が点灯するか、SRS 警告灯 [SRS] が点灯し、助手席エアバッグオフ表示灯 [⊠] が短時間点灯しないことがあります。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

ISOFIX は、専用のチャイルドセーフティシートを後席に装着するための標準規格化された固定方式です。左右の後席には、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート用を装着できる 2 組の固定装置が装備されています。

⚠ **警告**

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置を使用してチャイルドセーフティシートを装着した場合、体重約 22kg 以上の子供には十分な保護機能を発揮することができません。この理由により、体重約 22kg 以上の子供は、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置で装着されたチャイルドセーフティシートには乗車させないでください。体重約 22kg 以上の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを 3 点式シートベルトで装着してください。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着しないと、保護機能を発揮できません。衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体が保護されません。子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。この理由により、チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。

安全上の理由により、チャイルドセーフティシートは必ず後席の ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに装着してください。

メルセデス・ベンツ向けに推奨された ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの使用を推奨します。

正しく装着されていないチャイルドセーフティシートは外れるおそれがあり、子供や他の方が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着したときは、必ず左右の固定装置に確実に装着されていることを確認してください。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、保護機能を発揮できなくなるおそれがあります。その結果、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供が重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

この理由により、事故で損傷したり強い負荷を受けたチャイルドセーフティシートや固定装置は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央後席のシートベルトを挟み込んでいないことを確認してください。さもないと、シートベルトを損傷するおそれがあります。

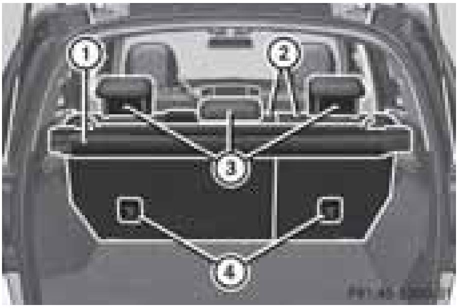
① ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

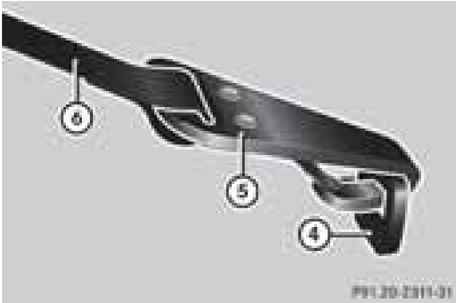
▶ ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着します。ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示に従ってください。

テザーアンカー

テザーアンカーは、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートと後席を接続するための補助的な固定装置です。この装置は、けがの危険性をさらに低減します。

テザーアンカーは後席バックレストの背面にあります。





▶ ヘッドレスト ③ を上げます。

▶ テザーアンカー付きの ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着します。装着時はチャイルドセーフティシートに付属の取扱説明書の指示に従ってください。

▶ テザーベルト ⑥ をヘッドレスト ③ の 2 本の支柱の間に通します。

▶ テザーベルト ⑥ をラゲッジルームカバー ① とバックレスト ② の間に通します。

▶ テザーベルト ⑥ のフック ⑤ をテザーアンカー ④ にかけます。

以下のことを確認してください。

- 図のように、フック ⑤ がテザーアンカー ④ にかかっていること
- テザーベルト ⑥ がねじれていないこと
- ラゲッジルームカバー ① が取り付けられているときは、テザーベルト ⑥ がバックレスト ② とラゲッジルームカバー ① の間を通っていること
- セーフティネット * が取り付けられているときは、テザーベルト ⑥ がバックレスト ② とセーフティネットの間を通っていること

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ テザーベルト ⑥ を張ります。このときはチャイルドセーフティシートに付属している取扱説明書の指示に従ってください。

▶ 必要であれば、ヘッドレスト ③ を押し下げます。テザーベルト ⑥ の動きを妨げていないことを確認します。

チャイルドセーフティシート検知システムのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。	助手席にチャイルドシート検知システム用トランスポンダーを内蔵した純正チャイルドセーフティシートが装着されている。そのため、助手席エアバッグが解除されている。
センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している。 または イグニッション位置を **2** にしたときに SRS 警告灯が点灯するか、SRS 警告灯が点灯し、助手席エアバッグオフ表示灯が短時間点灯しない	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席にチャイルドセーフティシートが装着されていない場合は、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。 ▶ 助手席シートに以下のものを置いているときは取り除いてください。 • ノートパソコン • 携帯電話 • 磁気カードや IC カード 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し続けているとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

チャイルドセーフティシートの適切な装着位置

下表の記号説明：

X　このカテゴリー（適応体重）の子供には適切でないシート

U　この体重カテゴリーでの使用が承認されたユニバーサルカテゴリーのチャイルドセーフティシートに適合

UF このカテゴリー（適応体重）に適合する " ユニバーサル " の前向きチャイルドセーフティシートに適合

L　推奨しているようなチャイルドセーフティシートに適合。以下の表 " 推奨チャイルドセーフティシート "（▷52 ページ）をご覧ください。

	シート位置			
カテゴリー（適応体重）	助手席シート		リアシート	
	助手席エアバッグが無効になっていない	助手席フロントエアバッグが無効になっている [2]	左、右	中央
グループ 0：～ 10kg	X	U, L	U	U
グループ 0+：～ 13kg	X	U, L	U	U
グループ I：9 ～ 18kg	UF	U, L	U	U
グループ II：15 ～ 25kg	UF	U, L	U	U
グループ III：22 ～ 36kg	UF	U, L	U	U

" ユニバーサル " のチャイルドセーフティシートは、オレンジ色の認証ラベルが目印です。

純正チャイルドセーフティシートの認証ラベルの例

2: チャイルドセーフティシート自動検知用トランスポンダー付きの " ユニバーサル " カテゴリーのチャイルドセーフティシートを装着しなければなりません。助手席エアバッグオフ表示灯 [表示灯] が点灯していなければなりません。

* 上記の内容は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。適切なチャイルドセーフティシートについては、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

下表の記号説明：

X この体重やサイズのカテゴリーで ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適さない ISOFIX のポジション

IUF この体重カテゴリーでの使用が承認された " ユニバーサル " カテゴリーに属している ISOFIX 対応前向きチャイルドセーフティシートに適合

IL 推奨しているような ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合。以下の表 " 推奨チャイルドセーフティシート "（▷52 ページ）をご覧ください。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のための後席の適合性

カテゴリー（適応体重）	サイズ等級	装着器具タイプ	左右リアシート
キャリーコット	F	ISO/L1	X
	G	ISO/L2	X
0：～ 10kg **生後約 6 カ月位まで**	E	ISO/R1	IL
0+： ～ 13kg **生後約 15 カ月位まで**	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL
I：9 ～ 18kg **生後約 9 カ月～ 4 歳位**	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF

* 上記の内容は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。適切なチャイルドセーフティシートについては、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

推奨チャイルドセーフティシート

チャイルドシート検知システム用トランスポンダーを内蔵しないチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されている場合：

▶ 助手席シートを最後方の位置に動かします。

カテゴリー（適応体重）	メーカー	タイプ	認証番号（E1 ...）	注文番号（A 000 ...）	チャイルドセーフティシート検知システム
グループ 0：～ 10kg 生後約 6 カ月位まで	Britax Römer	ベビーセーフプラス [3]	03 301146 04 301146	970 10 00	対応
グループ 0+：～ 13kg 生後約 15 カ月位まで	Britax Römer	ベビーセーフプラス [3]	03 301146 04 301146	970 10 00	対応
グループ I：9 ～ 18kg 生後約 9 カ月～ 4 歳位	Britax Römer	デュオプラス	03 301133 04 301133	970 11 00	対応
				970 16 00	非対応
グループ II/III：15 ～ 36kg 約 4 歳～ 12 歳位	Britax Römer	キッドフィックス	04 301198	970 18 00	対応
				970 19 00	非対応

3: 助手席シートを最も後方および最も高い位置に移動してください。

＊ 上記の内容は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。適切なチャイルドセーフティシートについては、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

推奨 " ユニバーサル " ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート：

カテゴリー（適応体重）	サイズ等級	メーカー	タイプ	認証番号（E1 ...）	注文番号	チャイルドセーフティシート検知システム
キャリーコット	F					—
	G					—
グループ 0：～ 10kg	E					—
グループ 0+：～ 13kg	E	Britax Römer	ベビーセーフ ISOFIX プラス	04 301146	B6 6 86 8224	非対応
	D					—
	C					—
グループ I：9 ～ 18kg	D					—
	C					—
	B					
	B1	Britax Römer	デュオプラス	03 301133 04 301133	A000 970 11 00	対応
	A					—

* 上記の内容は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。適切なチャイルドセーフティシートについては、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

チャイルドプルーフロック

重要な安全上の注意

⚠ 警告

子供が後席に乗車するときは、リアドアとリアサイドウインドウのチャイルドプルーフロックを設定してください。さもないと、走行中に子供がリアドアやリアサイドウインドウを開き、彼らや他の方がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。車内の各部に触れてけがをするおそれがあります。車内が高温または低温になると重大な、または致命的な症状を起こすおそれがあります。

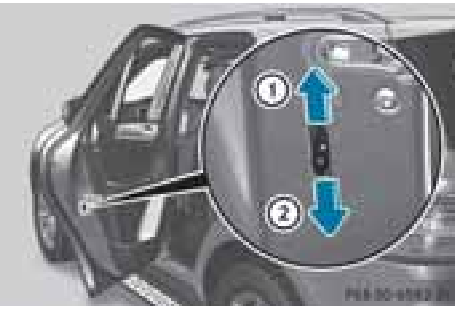
チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や他の方がけがをするおそれがあります。子供が車外に出ると、けがをしたり、車にはねられるおそれがあります。

ホールド機能についての注意事項を守ってください。関連事項はさくいんで見つけることができます。

リアドアのチャイルドプルーフロックを設定する

リアドアのチャイルドプルーフロックは左右独立して設定できます。チャイルドプルーフロックが設定されたリアドアは、車内からは開かなくなります。車が解錠されているときは、ドアは車外から開くことができます。

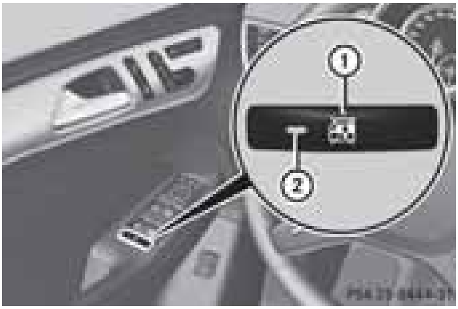


▶ **設定する：**レバーを矢印 ① の方向に上げます。

▶ チャイルドプルーフロックが確実に設定されていることを確認します。

▶ **解除する：**レバーを矢印 ② の方向に下げます。

リアサイドウインドウのチャイルドプルーフロックを設定する



▶ **設定 / 解除する：**スイッチ ① を押します。スイッチの表示灯 ② が点灯しているときは、リアサイドウインドウの操作はできません。操作は運転席ドアのスイッチでのみ可能になります。スイッチの表示灯 ② が消灯しているときは、リアドアのスイッチを使用して、リアサイドウインドウの操作ができます。

走行安全装備

走行安全装備の概要

この章では、以下の走行安全装備に関する情報を記載しています。

- ABS（アンチロック·ブレーキング·システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- アダプティブブレーキライト
- ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）
- アダプティブブレーキ
- ステアコントロール

重要な安全上の注意

運転スタイルを合わせなかったり、注意が散漫になると、走行安全装備は事故の危険性を低減できず、物理的法則の限界を超えることもできません。走行安全装備は、運転の補助のために設計された支援のみを行なうシステムです。先行車との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車との安全な距離を保ってください。注意して運転してください。

ⓘ 走行安全装備は、タイヤが路面を十分にグリップしているときにのみ最大限に効果を発揮します。" ホイールとタイヤ "（▷297 ページ）に記載されている、タイヤや推奨されるタイヤの残り溝の最小値などの注意事項に特に注意してください。

冬の走行状況では、必ずウィンタータイヤ（M+S タイヤ）を装着し、必要であればスノーチェーンを使用してください。このようにすることによってのみ、本書に記載されている走行安全装備の効果を十分に発揮させることができます。

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）

重要な安全上の注意

ℹ " 重要な安全上の注意 " をご覧ください（▷55 ページ）。

ABS は、ブレーキ圧をコントロールすることによりブレーキ時の車輪のロックを防ぐ装置です。これにより、ブレーキを効かせながら、ステアリング操作を続けることができます。

ABS は路面の状況に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動可能になります。滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

> ⚠ **警 告**
>
> ABS に異常があるときは、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。これにより、ステアリングでの操縦性およびブレーキ性能が著しく損なわれ、制動距離が長くなります。
>
> 故障により ABS が解除されたときは、BAS と ESP® も解除されます。特定の状況で横滑りや事故を起こす危険性が高まります。
>
> 運転者は常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせてください。

ブレーキ操作をする

ABS が作動すると、ブレーキペダルに振動を感じることがあります。

▶ **ABS が作動したとき：**必要なだけ、そのままブレーキペダルを踏み続けてください。

▶ **強い制動力が必要なとき：**ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

ブレーキペダルの振動は路面状況が危険であることを知らせるものであり、より慎重に運転することを促す機能を果たします。

> ⚠ **警 告**
>
> ブレーキ操作をするときは、ポンピングブレーキを行なわないでください。ポンピングブレーキを行なうと、制動距離が長くなります。車を停止しきれなくなり、事故を起こすおそれがあります。ブレーキペダルはスムーズにしっかりと踏み込んでください。

オフロード ABS

オフロードモード（▷189 ページ）を作動させたときに、ABS システムが自動的にオフロード路面に適した作動になります。

約 30km/h 以下の速度では、ブレーキ操作の間にフロントタイヤが周期的にロックします。地面を掘る効果により、オフロードでの制動距離を短くすることができます。これにより、車両操縦性が制限されることがあります。

BAS

ℹ " 重要な安全上の注意 " をご覧ください（▷55 ページ）。

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキ時に作動します。ブレーキペダルを素早く踏み込むと、BAS は自動的に制動力を高めて制動距離を短縮します。

▶ 緊急ブレーキの状況が解消されるまで、ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。ABS が車輪のロックを防ぎます。

ブレーキペダルから足を放すと、ブレーキは通常の状態に戻ります。BAS の機能は解除されます。

> ⚠ **警 告**
>
> BAS に異常があるときでも、ブレーキシステムは最大限の制動能力を確保します。しかしながら、緊急ブレーキ時には自動的に制動力を高められないため、制動距離が長くなるおそれがあります。

アダプティブブレーキライト

約 50km/h 以上の速度で走行中に急ブレーキを効かせたとき、またはブレーキ操作中に BAS が作動したときは、ブレーキライトが素早く点滅します。このように、後続車により目立つ方法で警告が行なえます。

約 70km/h 以上からの急ブレーキにより停車したときは、非常点滅灯が自動的に点滅します。ブレーキペダルを再度踏み込むと、ブレーキライトは点灯し続けます。非常点滅灯は、走行速度が約 10km/h 以上になると自動的に消灯します。非常点滅灯スイッチ（▷106 ページ）を押すことにより、非常点滅灯を消灯することもできます。

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）

重要な安全上の注意

ℹ " 重要な安全上の注意 " をご覧ください（▷55 ページ）。

ESP® は、車の走行ラインが運転者の望む進行方向から外れていると判断すると、1 本または複数のタイヤにブレーキを効かせ、車の走行姿勢を安定させます。必要であれば、エンジン出力を調整して、物理的な限界内で運転者の望む方向に車の向きを保つように作動します。ESP® は、濡れた路面や滑りやすい路面での発進操作をアシストします。また、ESP® はブレーキ時の車の姿勢も安定させることができます。

ESP® が作動すると、メーターパネル内の ESP® 表示灯 [ESP表示灯] が点滅します。

⚠ **警告**

ESP® 表示灯 [表示灯] が点滅したときは、以下のようにしてください。

- 状況を問わず、ESP® の機能を解除しないでください。
- 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- 実際の道路と天候状況に運転スタイルを合わせてください。

さもないと、車が横滑りするおそれがあります。

速度が速すぎる場合は、ESP® は事故の危険性を軽減することができません。ESP® は、物理的な法則を越えることはできません。

! ブレーキダイナモでの車の点検は、最大でも 10 秒以内にしてください。イグニッション位置を **0** か **1** にしてください。

ESP® によるブレーキの作動により、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

! ダイナモメーターを使用して検査や性能テストを行なうときは、2 軸ダイナモメーターのみを使用してください。2 軸ダイナモメーターに車両を載せて作業を行なう前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。駆動系部品やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

ⓘ 指定されたサイズのタイヤのみを装着してください。この場合にのみ、ESP® は正しく作動します。

4ETS（トラクションコントロール）

ⓘ " 重要な安全上の注意 " をご覧ください（▷55 ページ）。

トラクションコントロールは ESP® の一部です。

車輪が空転したときは、トラクションコントロールが、空転した駆動輪に個別にブレーキを効かせます。これにより駆動輪の空転を防ぎ、片側が滑りやすい路面などで発進や加速を可能にします。さらに、より多くの駆動力が駆動している車輪に分配されます。

ESP® の機能を解除しても、トラクションコントロールは作動します。

▶ 走行状況に対して適切な場合は、オフロードモード（▷189 ページ）を作動させてください。

⚠ **警告**

速度が速すぎる場合は、トランクションコントロールは事故の危険性を軽減することができません。トランクションコントロールは物理的な法則を超えることはできません。

オフロード 4ETS（トラクションコントロール）

オフロードモード（▷189 ページ）を作動させたときに、4ETS が自動的にオフロード路面に適した作動になります。

ESP® の機能の設定 / 解除

ℹ " 重要な安全上の注意 " をご覧ください（▷55 ページ）。

エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

ℹ 作動条件が揃っている場合は、ECO スタートストップにより車両が停止したときに自動的にエンジンを停止し、発進時には再始動します。このとき、ESP® はエンジン停止前の状態が維持されます。例えば、ECO スタートストップによりエンジンが停止する前に ESP® の機能を解除していたときは、再始動しても ESP® の機能は解除されたままになります。

以下の状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行するとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

⚠ **警告**

上記の状況が解消されたときは、すみやかに ESP® を待機状態にしてください。車が横滑りをしたり、車輪が空転しても、ESP® は車両の制御を行ないません。

ESP® の機能を解除すると、以下のようになります。

- ESP® は作動せず、走行安定性を高められなくなります。
- エンジン出力の制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。車輪の空転により地面を掘ることで、より強い駆動力が得られる場合があります。
- トラクションコントロールシステムは引き続き作動します。

ESP® の機能を解除しているときに 1 本または複数のタイヤが空転したときは、メーターパネルの ESP® 表示灯 [表示灯] が点滅します。この状況では ESP® は車両の制御を行ないません。

▶ **解除する**：ESP® オフスイッチ ① を押します。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [OFF表示灯] が点灯します。

> ⚠ **警 告**
>
> エンジンがかかっているときにメーターパネルの ESP® オフ表示灯 [ESP OFF] が点灯しているときは、ESP® が解除されています。
>
> ESP® 表示灯 [ESP] と ESP® オフ表示灯 [ESP OFF] が点灯しているときは、故障により、ESP® の機能が解除されています。
>
> 特定の状況では、車両が横滑りする危険性が高まります。
>
> そのときの道路や天候の状況に運転スタイルを合わせてください。

▶ **待機状態にする：**ESP® オフスイッチ ① を押します。

メーターパネルの ESP® オフ表示灯 [ESP OFF] が消灯します。

オフロード ESP®

オフロードモード（▷189 ページ）を作動させたときに、ESP® が自動的にオフロード路面に適した作動になります。未舗装路やぬかるみなどの悪路でアンダーステアやオーバーステアが発生したときに遅れて作動することにより、駆動力を向上させます。

EBD

ℹ " 重要な安全上の注意 " をご覧ください（▷55 ページ）。

EBD は、後輪のブレーキ圧を検知して制御を行ない、ブレーキ時の走行安定性を高めます。

> ⚠ **警 告**
>
> EBD に異常があるときでも、ブレーキシステムは最大限の制動能力を発揮します。しかし、急ブレーキ時などには後輪がロックします。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。変化した車両操縦性に対して運転スタイルを合わせなければなりません。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の利便性と安全性を高めるシステムです。アダプティブブレーキには、ホールド機能（▷169 ページ）とヒルスタートアシスト（▷136 ページ）も含まれます。詳しい情報については " 走行時の注意 " をご覧ください（▷154 ページ）。

ステアコントロール

ステアコントロールは、車両の走行姿勢を安定させるのに必要な向きの操舵力をステアリングに伝達し、運転者が適切な回避操作が行なえるようステアリング操作を補助する機能です。

このステアリング補助機能は、特に以下のような状況で作動します。

- ブレーキを効かせたときに、右側または左側の前後車輪が濡れた路面または滑りやすい路面にあるとき
- 車がスリップをし始めたとき

運転者は常にステアリングを制御する必要があります。

> ⚠ **警 告**
>
> ESP® が故障している場合は、ステアコントロールによるステアリング補助は得られません。しかし、パワーステアリングは作動し続けます。

盗難防止システム

イモビライザー

イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させない盗難防止装置です。

▶ **キーにより待機状態にする：**エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ **キーレスゴー * により待機状態にする：**イグニッション位置を **0** にして、運転席ドアを開きます。

▶ **解除する：**イグニッション位置を **1** か **2** にします。

ℹ イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

盗難防止警報システム

システムが待機状態にあるときに以下の部分を開くと、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。

- ドア
- エマージェンシーキーによる車の解錠
- テールゲート
- ボンネット

たとえば、ドアを開いて警報が作動したときは、そのドアをすぐに閉じても警報は解除されません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ **待機状態にする：**リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

表示灯 ① が点滅します。警報システムが約 15 秒後に待機状態になります。

▶ **解除する：**リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を解錠します。

▶ **キーを使用して警報を停止する：**エンジンスイッチにキーを差し込みます。

警報が停止します。

または

▶ キーの 🔓 ボタンまたは 🔒 ボタンを押します。

警報が停止します。

▶ **キーレスゴー操作 * で警報を停止する：**ドアハンドルに触れます。キーは車外にある必要があります。

警報が停止します。

または

▶ エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押します。キーは車室内にある必要があります。

警報が停止します。

けん引防止機能

けん引防止機能が待機状態のときに車両の傾きを検知すると、サイレンが鳴り非常点滅灯が点滅します。たとえば、ジャッキアップなどにより車両の片側が持ち上げられたときに警報が作動します。

▶ **待機状態にする：**リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

けん引防止機能が約 30 秒後に待機状態になります。

▶ **解除する：**リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を解錠します。

けん引防止機能は自動的に解除されます。

誤作動を防止するため、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- 運搬されるとき
- フェリーや車両運搬車などに積載されるとき
- 機械式駐車場などに駐車するとき

けん引防止機能の解除：

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が数秒間点灯します。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

けん引防止機能が解除されます。

けん引防止機能は、以下の操作を行なうまで解除されます。

- 車を再度解錠する
- ドアを再度開いて閉じる
- 車を再度施錠する

室内センサー

室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを検知すると、サイレンが鳴り、非常点滅灯が点滅します。たとえば、車内に人が侵入したときなどに警報が作動します。

待機状態にする：

▶ サイドウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が閉じていることを確認します。

これにより誤作動を防止します。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

室内センサーが約 30 秒後に待機状態になります。

解除する：

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を解錠します。

室内センサーは自動的に解除されます。

誤作動を防止するため、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残るとき
- サイドウインドウを少し開いた状態にしておくとき
- パノラミックスライディングルーフ * を少し開いた状態にしておくとき

室内センサーの解除：

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が数秒間点滅します。

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作 * で車を施錠します。

室内センサーが解除されます。

室内センサーは、以下の操作を行なうまで解除されます。

- 車を再度解錠する
- ドアを再度開いて閉じる
- 車を再度施錠する

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キー…………………………………… 66
ドア…………………………………… 74
ラゲッジルーム……………………… 76
サイドウインドウ…………………… 80
パノラミック
スライディングルーフ ……………… 85

キー

キーの機能

キーで以下の全ての解錠 / 施錠ができます。

- ドア
- テールゲート
- 燃料給油フラップ

⚠ 警告

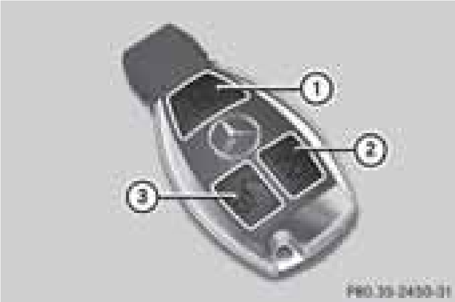
子供だけを車内に残した場合は、彼らは以下を行なうおそれがあります。

- 施錠されていても、車内からドアを開く
- 車内に残されたキーを使用して車両を始動する
- 電気式パーキングブレーキを解除する

それにより、彼ら自身および他の方が危険にさらされるおそれがあります。子供だけを車内に残して車から離れないでください。ごく短時間離れる場合でも、車両から離れるときは常にキーを携帯してください。

⚠ 警告

アクセサリーが重すぎたり、大きすぎる場合は、重量によりエンジンスイッチでキーがまわることにつながったり、ステアリングにひっかかるおそれがあります。これにより、エンジンが突然停止することにつながります。車両のコントロールを失ったり、事故につながるおそれがあります。エンジンスイッチに差し込んであるキーに、重い、または大きなアクセサリーを取り付けないでください。



① [施錠] 車両を施錠する
② [テールゲート] テールゲートを開閉する *
③ [解錠] 車両を解錠する

解錠したときは、非常点滅灯が 1 回点滅します。施錠したときは、それらが 3 回点滅します。

マルチファンクションディスプレイで作動させている場合は、暗いときは周囲のライトも点灯します（▷207 ページ）。

車両が施錠されたことを確認するための確認音を設定することもできます。確認音は、マルチファンクションディスプレイを使用して作動または解除させることができます（▷209 ページ）。

▶ **集中して解錠する：** [解錠] スイッチを押します。

解錠から約 40 秒以内に車両を開かない場合は、以下になります。

- 車両が再度施錠されます。
- 盗難防止警報システム * が再度待機状態になります。

▶ **集中して施錠する：** [施錠] スイッチを押します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キーレスゴー *

キーレスゴー使用時の重要な注意事項

- キーを以下に近付けないでください。
  - 携帯電話または他のキーなどの電子機器
  - 硬貨やアルミホイルなどの金属類

  キーの機能に影響を及ぼします。
- キーが車室内にあるときは、乗員の誰もがエンジンを始動できることに留意してください。

⚠ **警 告**

- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方や、その他の医療用電子機器を使用されている方は、車を使用する前に、あらかじめ医師や医療用電子機器メーカーなどにキーレスゴーによる電波の影響についてご相談ください。
- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方は、キーレスゴーアンテナから約 22cm 以内に近付かないようにしてください。キーレスゴー操作で車を解錠 / 施錠するときやテールゲートを開閉するとき、エンジンを始動するときなどは、キーとアンテナの間で電波が送受信されるため、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

集中して施錠 / 解錠する

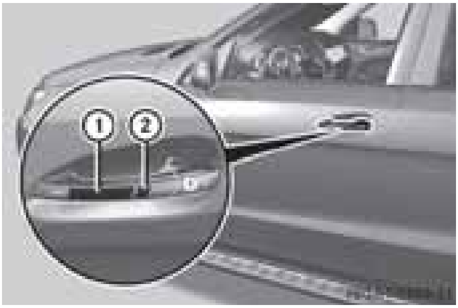
キーレスゴーを使用して、エンジンの始動や車の施錠または解錠ができます。そのためには、常にキーを携帯する必要があります。キーレスゴー機能と従来のキーの機能を組み合わせて使用することができます。キーレスゴーを使用して解錠し、キーの 🔒 スイッチで施錠することができます。

キーレスゴーにより施錠または解錠するときは、キーと対象のドアハンドルとの距離は約 1m 以内でなければなりません。

キーレスゴーは、車両とキーとの間で定期的に通信を行ない、車内に有効なキーがあるか確認します。キーの照合は以下のときに行なわれます。

- 車外のドアハンドルに触れたとき
- エンジンを始動したとき
- 車両の走行中

* オプションや仕様により、異なる装備です。



▶ **解錠する：** ドアハンドルの裏側に触れます。

▶ **施錠する：** ドアハンドルの施錠操作部 ① に触れます。

▶ **コンビニンスクロージング機能を作動させる：** コンビニエンスオープニング機能が作動するまでドアハンドルのコンビニエンスクロージング操作部 ② に触れます。

テールゲートのハンドルを引くと、テールゲートのみが解錠されます。

ロッキングシステムの設定の変更

運転席ドアと燃料給油フラップのみを解錠するようにロッキングシステムの設定を変更できます。これは運転者が単独で走行することが多い場合に便利です。

▶ **設定を変更する：** キーのバッテリーチェックランプが 2 回点滅するまで、🔓 および 🔒 スイッチを同時に約 6 秒間押して保持します (▷66 ページ)。

ℹ 車両の信号範囲内でロッキングシステムの設定を変更した場合は、🔒 または 🔓 スイッチを押すことで、車両も施錠または解錠されます。

このとき、キーは以下のように作動します。

▶ **運転席ドアを解錠する：** 🔓 スイッチを 1 回押します。

▶ **集中して解錠する：** 🔓 スイッチを 2 回押します。

▶ **集中して施錠する：** 🔒 スイッチを押します。

キーレスゴー * では以下のように作動します。

▶ **運転席ドアを解錠する：** 運転席ドアのドアハンドルの裏側に触れます。

▶ **集中して解錠する：** 助手席ドアまたはリアドアのドアハンドルの裏側に触れます。

▶ **集中して施錠する：** いずれかのドアハンドルの施錠操作部に触れます。

工場出荷時の設定に復元する

▶ キーのバッテリーチェックランプが 2 回点滅するまで、🔓 および 🔒 スイッチを同時に約 6 秒間押して保持します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

エマージェンシーキー

全体的な注意事項

車両をキーで解錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーを使用して運転席ドアを解錠し、開いた場合は、盗難防止警報システム * が作動します (▷61 ページ)。

警報を停止するためには、以下のいくつかの方法があります。

▶ **キーにより警報を停止する：**キーの [解錠] または [施錠] スイッチを押します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

または

▶ **キーレスゴー * により警報を停止する：**エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押します。キーは車室内にある必要があります。

または

▶ キーレスゴー * により、車を施錠または解錠します。キーは車外にある必要があります。

エマージェンシーキーの取り外し

▶ 解除キャッチ ① を矢印の方向に押し、同時にエマージェンシーキー ② をキーから取り外します。

キーの電池

重要な安全上の注意

キーの電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

⚠ **警告**

電池は有毒で、腐食性物質が含まれています。この理由により、電池は子供の手の届かないところに離してください。

電池を飲み込んだときは、ただちに医師のところに行ってください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

環 境

バッテリーには有害物質が含まれています。家庭ごみとして廃棄することは違法です。分別して収集され、環境を配慮したリサイクルシステムで廃棄されなければなりません。

バッテリーは環境を配慮した方法で廃棄されなければなりません。放電したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または使用済みバッテリーの収集場所にお持ちください。

電池の点検

▶ [🔒] または [🔓] スイッチを押します。

バッテリーチェックランプ ① が短時間点灯する場合は、電池は正常に作動しています。

バッテリーチェックランプ ① が短時間点灯しない場合は、電池が放電しています。

▶ 電池を交換してください（▷70 ページ）。

ℹ 車両の信号範囲内でキーのバッテリーを点検した場合は、[🔒] または [🔓] スイッチを押すことで、車両も施錠または解錠されます。

電池の交換

CR2025 3V の電池が必要です。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り出します（▷69 ページ）。

▶ バッテリートレイカバー ① が開くまで、キーの開口部に矢印の方向にエマージェンシーキー ② を押します。このときは、カバー ① を押さえないでください。

▶ バッテリートレイカバー ① を取り外します。

▶ 電池 ③ が落ちるまで、手のひらでキーを繰り返し軽くたたきます。

- プラス電極が上方を向くように新しい電池を差し込みます。このときは、糸くずのない布を使用してください。
- 電池の表面に糸くず、脂分および他の汚れがないことを確認してください。
- バッテリートレイカバー ① の前方のタブを差し込み、押して閉じます。
- エマージェンシーキーをキーに差し込みます。
- 車両でキーのすべてのスイッチの機能を点検します。

キーのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
キーを使用して車両を施錠または解錠できない。	キーの電池が放電している、またはほぼ放電している。 ▶ キーのリモコン機能を使用して、再度車両を施錠 / 解錠してください。近い範囲からキーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、🔓/🔒 スイッチを押してください。 作動しないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（▷70 ページ）。 ▶ エマージェンシーキーを使用して車両を施錠（▷76 ページ）または解錠（▷75 ページ）してください。
	キーが故障している。 ▶ エマージェンシーキーを使用して車両を施錠（▷76 ページ）または解錠（▷75 ページ）してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーを点検してください。
キーレスゴーを使用して車両を施錠または解錠できない。	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ リモコン機能を使用して車両を施錠 / 解錠してください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から 🔓 / 🔒 ボタンを押してください。
	キーレスゴーが故障している。 ▶ リモコン機能を使用して車両を施錠 / 解錠してください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から 🔓 / 🔒 ボタンを押してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。 リモコン操作ができないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください（▷70 ページ）。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを施錠 / 解錠してください（▷76、75 ページ）。
キーを紛失した。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、キーを無効にしてください。 ▶ ただちに自動車保険会社に紛失を報告してください。 ▶ 必要であれば、ドアの鍵も交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社に紛失を報告してください。 ▶ 必要であれば、ドアの鍵も交換してください。

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
キーを使用してエンジンを始動できない。	車両の電圧が非常に低い。 ▶ シートヒーターやルームライトなど、必要のない電気装備を停止して、再度エンジンの始動を試みてください。 作動しないとき： ▶ スターターバッテリーを点検し、必要であれば充電してください（▷284 ページ）。 または ▶ 車両をジャンプスタートしてください（▷285 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
キーレスゴーを使用してエンジンを始動できない。キーは車室内にある。	ドアが開いている。そのため、キーが認識されにくくなっている。 ▶ ドアを閉じてから、再度始動操作を行なってください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで、始動操作を行なってください。

ドア

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

子供だけを車内に残した場合は、彼らは以下を行なうおそれがあります。

- 施錠されていても、車内からドアを開く
- 車内に残されたキーを使用して車両を始動する
- 電気式パーキングブレーキを解除する

それにより、彼ら自身および他の方が危険にさらされるおそれがあります。子供だけを車内に残して車から離れないでください。ごく短時間離れる場合でも、車両から離れるときは常にキーを携帯してください。

内側からドアを解錠して開く

車両が施錠されているときも、車内からドアを開くことができます。

▶ ドアハンドル ② を引きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ ① が上がります。ドアが解錠され、開くことができます。

内側から集中して車両を施錠および解錠する

内側から集中して車両を施錠または解錠できます。

集中施錠スイッチまたは集中解錠スイッチを押したときは、燃料給油フラップは施錠または解錠されません。

スイッチは両側のフロントドアにあります。

ℹ キーまたはキーレスゴー * を使用して車両が施錠されている場合は、車両を集中して解錠することはできません。

ℹ 助手席ドアが閉じている場合にのみ、車両を集中して施錠することができます。

▶ **解錠する**：スイッチ ① を押します。

▶ **施錠する**：スイッチ ② を押します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車速感応ドアロック

イグニッション位置が **0** 以外のときに車輪が回転すると、車両は自動的に施錠されます。

そのため、以下のときに閉め出されるおそれがあります。

- 車が押される
- 車がけん引される
- ダイナモメーター上で車両がテストされる

▶ **解除する：**音が鳴るまで、スイッチ ① を約 5 秒間押して保持します。

▶ **設定する：**音が鳴るまで、スイッチ ② を約 5 秒間押して保持します。

ℹ 2 つのうちのいずれかのスイッチを押して、音が鳴らない場合は、対応する設定がすでに選択されています。

車速感応ドアロックはマルチファンクションディスプレイを使用しても設定または解除できます（▷208 ページ）。

運転席ドアの解錠（エマージェンシーキー）

キーで車両を解錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーを使用して運転席ドアを解錠し、開いた場合は、盗難防止警報システム * が作動します（▷61 ページ）。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り出します（▷69 ページ）。

▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアの鍵にいっぱいまで差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを反時計回りに 1 の位置にまわします。

ドアが解錠されます。

ℹ 右ハンドル車では、エマージェンシーキーを時計回りにまわします。

▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車両の施錠（エマージェンシーキー）

キーで車両を施錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

▶ 運転席ドアを開きます。

▶ 助手席ドア、リアドアおよびテールゲートを閉じます。

▶ 集中施錠スイッチを押します（▷74 ページ）。

▶ 助手席ドアとリアドアのロックノブがまだ見えているかどうかを確認します。必要であれば、手でロックノブを押し込みます。

▶ 運転席ドアを閉じます。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り出します（▷69 ページ）。

▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアの鍵にいっぱいまで差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを時計回りに 1 の位置にいっぱいまでまわします。

ℹ 右ハンドル車では、エマージェンシーキーを反時計回りにまわします。

▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。

▶ ドアとテールゲートが施錠されていることを確認します。

▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます。

ℹ 上記のように車両を施錠した場合は、燃料給油フラップは施錠されません。盗難防止警報システム * は待機状態になりません。

ラゲッジルーム

重要な安全上の注意

ラゲッジルームにキーを置いたままにしないでください。さもないと、閉め出されるおそれがあります。

⚠ **警 告**

エンジンをかけた状態でテールゲートを開いていると、排気ガスが車内に入ります。この結果、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。そのため、エンジンがかかっているときは、常にテールゲートが閉じていることを確認してください。

! 開くときは、テールゲートは上方および後方に動きます。そのため、テールゲートの上方および後方に十分な間隔があることを確認してください。

ℹ テールゲート開口時の寸法についての詳細は、テクニカルデータの項目にあります（▷319 ページ）。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

EASY-PACK 自動開閉テールゲート非装備車

以下ができます。

- 車外からテールゲートを手動で開閉する
- 車内からエマージェンシーキーでテールゲートを解錠する

EASY-PACK 自動開閉テールゲート装備車

以下ができます。

- 車外からテールゲートを手動で開閉する
- 車外からテールゲートを自動で開閉する
- 車内からテールゲートを自動で開閉する
- テールゲートの開口角度を制限する
- 車内からテールゲートをエマージェンシーキーで解錠する

外側からの開閉

開く

▶ キーの [🔓] スイッチを押します。

▶ ハンドル ① を引きます。

▶ テールゲートを上げます。

閉じる

⚠ **警 告**

テールゲートを閉じるときに、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。

▶ クロージングハンドル ① を使用して、テールゲートを引き下げます。

▶ テールゲートをロックするまで下ろします。

▶ 必要であれば、キーの [🔒] スイッチまたはキーレスゴー * で車両を施錠します。

ℹ キーレスゴー装備車は、ラゲッジルームにキーが検知されたときは、テールゲートは施錠されません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

車外から自動で開閉する *

重要な安全上の注意

⚠ **警 告**

挟まれるおそれのある人がいないことを確認するため、テールゲートの開閉動作を注視してください。開閉動作を停止するときは、テールゲートのスイッチを押すか、テールゲートのハンドルを引いてください。

! 開くときは、テールゲートは上方および後方に動きます。そのため、テールゲートの上方および後方に十分な間隔があることを確認してください。

ℹ テールゲート開口時の寸法についての詳細は、テクニカルデータの項目にあります（▷319 ページ）。

開く

キーまたはテールゲートのハンドルを使用して、テールゲートを自動で開くことができます。

▶ テールゲートが開き始めるまで、キーの スイッチを押して保持します。

または

▶ テールゲートが解錠されているときに、テールゲートのハンドルを引いて、ただちにハンドルから手を放します。

閉じる

キーまたはテールゲートのクローザースイッチ *、またはテールゲートのキーレスゴースイッチ * を使用して、テールゲートを閉じることができます。

クローザースイッチとキーレスゴースイッチ（EASY-PACK テールゲートおよびキーレスゴー装備車）

▶ **閉じる：**テールゲートのクローザースイッチ ①* を押します。

または

▶ テールゲートが閉じ始めるまで、キーの スイッチを押して保持します。

▶ **閉じて同時に施錠する：**テールゲートのキーレスゴースイッチ ②* を押します。

ℹ テールゲートを閉じて同時に施錠する操作は、すべてのドアが閉じていて、キーがテールゲートの近くにあるときにのみ可能です。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ キーによりテールゲートを開閉する操作は、キーがエンジンスイッチに差し込まれていないときにのみ可能です。

テールゲートが閉じているときに障害物に接触すると、テールゲートは停止し、開きます。

ℹ キーレスゴー装備車は、ラゲッジルームにキーを残したままのときは、テールゲートは施錠されません。

キーが検知されていないときは、テールゲートは閉じません。

車内から自動で開閉する *

⚠ **警告**

挟まれるおそれのある人がいないことを確認するため、テールゲートの開閉動作を注視してください。開閉動作を停止するときは、運転席ドアのテールゲートのスイッチを押すか、引いてください。

車両が停車していて、解錠されているときは、運転席ドアのスイッチでテールゲートを開閉できます。

- ▶ **開く**：テールゲートが開き始めるまで、テールゲートスイッチ ① を引きます。
- ▶ **閉じる**：イグニッション位置を **1** か **2** にします。
- ▶ テールゲートが閉じ始めるまで、テールゲートスイッチ ① を押します。

テールゲートの開口角度の設定 *

重要な安全上の注意

テールゲートの開口角度を設定できます。約半分ほど開いた位置から全開位置の約 10cm 下の間で設定できます。

たとえば、テールゲートの上方に十分な空間がないときなどに便利です。

! テールゲートの開口角度を設定するときは、テールゲートが全開しても十分な空間があることを確認してください。テールゲートを損傷するおそれがあります。開口角度の設定は、できるだけ屋外で行なってください。

設定する

- ▶ **テールゲートを開く**：テールゲートのハンドルを引きます。
- ▶ **テールゲートの開く動作を好みの位置で停止する**：テールゲートのクローザースイッチを押すか、テールゲート外側のハンドルを再度引きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ **位置を記憶させる：**確認音が 1 回鳴るまで、テールゲートのクローザースイッチを押して保持します。

開口角度が設定されます。次にテールゲートを開いたときは、設定された開口角度で停止します。

解除する

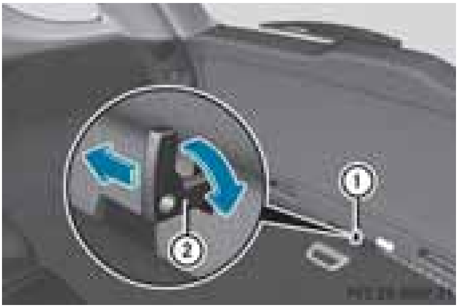
▶ 確認音が 2 回鳴るまで、テールゲートのクローザースイッチを押して保持します。

テールゲートの非常解除

車外からテールゲートを開けられなくなった場合は、テールゲート内側の非常解除を使用してください。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り出します（▷69 ページ）。

ⓘ テールゲート開口時の寸法についての詳細は、テクニカルデータの項目にあります（▷319 ページ）。



❗ 開くときは、テールゲートは上方および後方に動きます。そのため、テールゲートの上方および後方に十分な間隔があることを確認してください。

▶ エマージェンシーキー ② をトリムの開口部 ① に差し込みます。

▶ エマージェンシーキー ② を 90 度まわします。

▶ エマージェンシーキー ② を矢印の方向に押して、テールゲートを開きます。

サイドウインドウ

重要な安全上の注意

⚠ **警 告**

サイドウインドウを開くときは、サイドウインドウとドアフレームとの間に挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。開いている動作の間に、サイドウインドウに触れたり、もたれかけないでください。サイドウインドウが下降しているときに、サイドウインドウとドアフレームとの間に挟まれるおそれがあります。挟まれる危険性があるときは、スイッチを放すか、スイッチを上方に引いてサイドウインドウを再度閉じてください。

⚠ **警 告**

サイドウインドウを閉じるときは、挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。挟まれる危険性があるときは、スイッチを放すか、スイッチを押してサイドウインドウを再度開いてください。

⚠ **警 告**

子供がサイドウインドウを開閉する場合は、けがをすることがあります。

子供だけを車内に残して車から離れないでください。ごく短時間離れる場合でも、車両から離れるときは常にキーを携帯してください。

⚠ **警 告**

チャイルドセーフティシートに固定している場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

子供が以下のようになるおそれがあります。

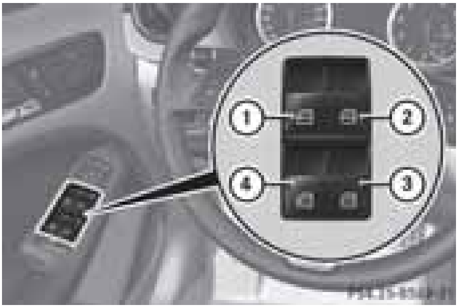
- 車両の部品で、重大な、または致命的なけがをする
- 非常に高い、または非常に低い温度に長時間さらされ、重大な、または致命的なけがをする

子供がドアを開いた場合は、彼らが以下のようになるおそれがあります。

- 他の人が重大な、または致命的なけがをする
- 車外に出てけがをしたり、通過車両により重大な、または致命的なけがをする

子供が車内に乗車する場合は、チャイルドプルーフロックを設定してください。さもないと、車両が動いているときに彼らがドアやサイドウインドウを開き、それにより彼らや他の方がけがをするおそれがあります。

サイドウインドウの開閉



① フロント左
② フロント右
③ リア右
④ リア左

運転席ドアには、すべてのサイドウインドウのスイッチがあります。各ドアにも、対応するサイドウインドウのスイッチがあります。

運転席ドアのスイッチに優先権があります。

ℹ サイドウインドウのチャイルドプルーフロックを設定しているときは、リアからサイドウインドウを操作することはできません（▷54 ページ）。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ **開く：**対応するスイッチを押します。

▶ **閉じる：**対応するスイッチを引きます。

ℹ 抵抗がある位置を越えてスイッチを操作した場合は、対応する方向に自動開閉作動が開始します。再度操作することにより、自動作動を停止できます。

ⓘ イグニッション位置を 0 にするか、エンジンスイッチからキーを抜いた後でも、サイドウインドウの操作を続けることができます。この機能は約 5 分間または運転席ドアか助手席ドアを開くまでそのままになります。

コンビニエンスオープニング機能

走行を開始する前に、車両を換気することができます。以下の機能を同時に実行するためにキーを使用します。

- 車両を解錠する
- サイドウインドウを開く
- パノラミックスライディングルーフ * と電動サンシェード * を開く

ⓘ コンビニエンスオープニング機能は、キーを使用してのみ操作することができます。キーが運転席ドアハンドルの近くになければなりません。

▶ キーの先端部を運転席ドアハンドルに向けます。

▶ サイドウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が好みの位置になるまで、🔓 スイッチを押して保持します。

パノラミックスライディングルーフの電動サンシェードが閉じているときは、電動サンシェードが最初に開きます。

▶ パノラミックスライディングルーフが好みの位置になるまで、🔓 スイッチを再度押して保持します。

▶ **コンビニエンスオープニング機能を中断する：** 🔓 スイッチを放します。

コンビニエンスクロージング機能

全体的な注意事項

車両を施錠するときに、同時に以下ができます。

- サイドウインドウを閉じる
- パノラミックスライディングルーフ * を閉じる

パノラミックスライディングルーフ装備車では、その後に電動サンシェードを閉じることができます。

> ⚠ **警 告**
>
> コンビニエンスクロージング機能を使用しているときは、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。挟まれる危険性があるときは、以下の操作を行なってください。
>
> キーで操作しているとき：
>
> - 🔒 スイッチを放してください。
> - サイドウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が再度開くまで、🔓 スイッチを押して保持してください。
>
> キーレスゴー * で操作しているとき：
>
> - ドアのコンビニエンスクロージング操作部から指を放します。
> - ただちにドアハンドルを引いて保持します。
>
>   サイドウインドウとパノラミックスライディングルーフが開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キー操作での作動

ℹ キーが運転席ドアハンドルの近くになければなりません。

▶ キーの先端部を運転席ドアハンドルに向けます。

▶ サイドウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が完全に閉じるまで、🔒 スイッチを押して保持します。

▶ すべてのサイドウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が閉じていることを確認します。

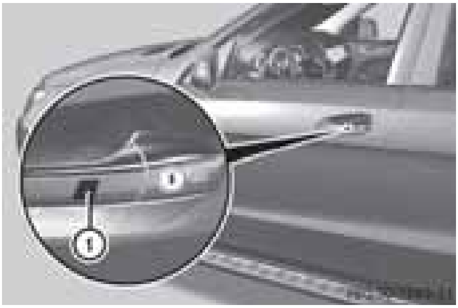
パノラミックスライディングルーフ装備車：

▶ パノラミックスライディングルーフの電動サンシェードが完全に閉じるまで、🔒 スイッチを再度押して保持します。

▶ **コンビニエンスクロージング機能を中断する：** 🔒 スイッチを放します。

キーレスゴー操作での作動 *

キーが車外にあり、すべてのドアが閉じているときに操作できます。



▶ すべてのサイドウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が閉じるまで、ドアハンドルのコンビニエンスクロージング操作部 ① に触れ続けます。

ℹ コンビニエンスクロージング操作部 ① のみに触れていることを確認してください。

▶ すべてのサイドウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が閉じていることを確認します。

パノラミックスライディングルーフ装備車：

▶ パノラミックスライディングルーフの電動サンシェードが完全に閉じるまで、ドアハンドルのコンビニエンスクロージング操作部 ① に触れ続けます。

▶ **コンビニエンスクロージング機能を中断する：** コンビニエンスクロージング操作部 ① から指を放します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

サイドウインドウのリセット

サイドウインドウが全閉しないときは、サイドウインドウのリセットを行なってください。

▶ すべてのドアを閉じます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ サイドウインドウが完全に閉じるまで、運転席ドアコントロールパネルの対応するスイッチを引きます (▷81 ページ)。

▶ さらに 2 秒間スイッチを保持します。

サイドウインドウが再び少し開くときは：

▶ ただちにサイドウインドウスイッチを軽く引いて、サイドウインドウを全閉します。

▶ スイッチを軽く引いたまま 2 秒以上保持します。

▶ スイッチを放した後に対応するサイドウインドウがそのままになっている場合は、サイドウインドウは適切にリセットされています。そのような状況でない場合は、上記の手順を再度繰り返してください。

サイドウインドウのトラブル

トラブル：ウインドウガイドに葉などの物がありブロックされているため、サイドウインドウを閉じることができない。

▶ 物を取り除いてください。

▶ サイドウインドウを閉じてください。

トラブル：サイドウインドウを閉じることができず、原因が分からない。

⚠ **警 告**

強い力で、または挟み込み防止機能がない状態でサイドウインドウを閉じるときは、重大な、または致命的なけがにつながるおそれがあります。サイドウインドウを閉じるときは、挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。

閉じている間にサイドウインドウが妨げられ、再度少し開く場合は、以下のようにしてください。

▶ サイドウインドウが妨げられた後に、サイドウインドウが閉じるまで、ただちに対応するスイッチを再度引きます。

強い力でサイドウインドウが閉じます。

閉じている間にサイドウインドウが再度妨げられて、再度少し開く場合は、以下のようにしてください。

▶ サイドウインドウが停止した後に、サイドウインドウが閉じるまで、ただちに対応するスイッチを再度引きます。

挟み込み防止機能がない状態で、サイドウインドウが閉じます。

パノラミックスライディングルーフ *

重要な安全上の注意

⚠ 警告

パノラミックスライディングルーフを開閉するときは、挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。

挟まれる危険性があるときは、ただちにスイッチを放してください。自動作動の間は、スイッチをいずれかの方向に軽く押して、パノラミックスライディングルーフを停止してください。

⚠ 警告

パノラミックスライディングルーフのガラスは事故のときに割れるおそれがあります。シートベルトを着用していないと、車が横転したときに開口部から投げ出される危険性があります。そのため、けがの危険を減らすために、常にシートベルトを着用してください。

⚠ 警告

子供がパノラミックスライディングルーフを操作する場合は、けがをすることがあります。

子供だけを車内に残して車から離れないでください。ごく短時間離れる場合でも、車両から離れるときは常にキーを携帯してください。

! 雪や氷がないときにのみ、パノラミックスライディングルーフを開いてください。さもないと、故障が発生することがあります。

パノラミックスライディングルーフから物が突き出ないようにしてください。さもないと、シール部を損傷するおそれがあります。

i パノラミックスライディングルーフを開いているときは、走行風の影響などで空気の振動が感じられる場合があります。これは車内のわずかな圧力変動によるものです。この音を低減、またはなくすためには、パノラミックスライディングルーフの位置を変更するか、サイドウインドウを少し開いてください。

パノラミックスライディングルーフの操作

開閉

前席上方の操作部

① チルトアップする
② 開く
③ 閉じる / チルトダウンする

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 対応する方向に、▤ スイッチを押すか、引きます。

ℹ 抵抗がある位置を越えて ▤ スイッチを操作した場合は、対応する方向に自動開閉作動が開始します。再度操作することにより、自動作動を停止できます。

レインクローズ機能

イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにパノラミックスライディングルーフが自動で閉じます。

- 雨が降りだした場合
- 外気温度が極端に高い、または低いとき
- 約 6 時間後
- 電力供給に故障がある場合

車内を換気するため、パノラミックスライディングルーフがチルトアップした状態になります。

ℹ レインクローズ機能で閉じているときにパノラミックスライディングルーフの動きが妨げられたときは、再度少し開きます。その後レインクローズ機能は解除されます。

以下のときは、パノラミックスライディングルーフは閉じません。

- チルトアップしている場合
- 動きが妨げられた場合
- 車両が橋の下にあるときなど、レインセンサーによりモニターされているフロントウインドウの範囲に雨が落ちない場合

パノラミックスライディングルーフの電動サンシェードの操作

全体的な注意事項

電動サンシェードは、車内への日光を遮ります。パノラミックスライディングルーフが閉じているときにのみ、2 つの電動サンシェードを一緒に開閉することができます。

⚠ **警 告**

電動サンシェードを開閉するときは、挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。

開閉

前席上方の操作部

① 開く
② 開く
③ 閉じる

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 対応する方向に、▤ スイッチを押すか、引きます。

ℹ 抵抗がある位置を越えて スイッチを操作した場合は、対応する方向に自動開閉作動が開始します。再度操作することにより、自動作動を停止できます。

パノラミックスライディングルーフおよび電動サンシェードのリセット

パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードがスムーズに作動しない場合は、以下のようにパノラミックスライディングルーフと電動サンシェードをリセットしてください。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ パノラミックスライディングルーフが完全に閉じるまで、抵抗がある位置まで スイッチを矢印 ③ の方向に繰り返し引きます。

▶ さらに 2 秒間 スイッチを引いたままにします。

▶ 電動サンシェードが完全に閉じるまで、抵抗がある位置まで スイッチを矢印 ③ の方向に繰り返し引きます。

▶ さらに 2 秒間 スイッチを引いたままにします。

▶ パノラミックスライディングルーフ（▷85 ページ）と電動サンシェード（▷86 ページ）が再度完全に開くことを確認します。

▶ そのような状況でない場合は、上記の手順を再度繰り返してください。

! リセットした後に、パノラミックスライディングルーフまたは電動サンシェードが完全に開閉しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

パノラミックスライディングルーフのトラブル

トラブル：パノラミックスライディングルーフを閉じることができず、原因がわからないとき。

⚠ **警 告**

強い閉じる力でパノラミックスライディングルーフを閉じるとき、または挟み込み防止機能が解除されている場合は、重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。パノラミックスライディングルーフを閉じるときは、挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。

閉じている間にサイドウインドウが妨げられ、再度少し開く場合は、以下のようにしてください。

▶ パノラミックスライディングルーフが妨げられた後に、パノラミックスライディングルーフが閉じるまで、ただちに上方の操作部の スイッチを抵抗がある位置まで引き下げて保持します。

強い力でパノラミックスライディングルーフが閉じます。

閉じている間にパノラミックスライディングルーフが再度妨げられて、再度少し開く場合は、以下のようにしてください。

▶ パノラミックスライディングルーフが妨げられた後に、パノラミックスライディングルーフが閉じるまで、ただちに上方の操作部の スイッチを抵抗がある位置まで引き下げて保持します。

　挟み込み防止機能がない状態で、パノラミックスライディングルーフが閉じます。

運転席の適切な位置 …… 90
シート …… 91
ステアリング …… 96
ミラー …… 98
メモリー機能 …… 101

運転席の適切な位置

シート調整に関する安全ガイドラインに従ってください（▷91 ページ）。

▶ シート ③ を適切に調整していることを確認します。

シートの電動調整（▷92 ページ）

シートを調整するときは、以下のことを確認してください。

- 運転席エアバッグからできるだけ離れている
- 通常の起きた姿勢で着座している
- シートベルトを適切に着用できる
- バックレストをできるだけ垂直の位置に調整している
- 大腿部が軽く支えられるようにシートの角度を調整している
- ペダルを適切に踏める

▶ ヘッドレストを適切に調整していることを確認します（▷93 ページ）。

そのためには、後頭部がヘッドレストの中央で目の高さで支えられるようにヘッドレストを調整したことを確認します。

ステアリング調整に関する安全ガイドラインに従ってください（▷96 ページ）。

▶ ステアリング ① を適切に調整していることを確認します。

手動式ステアリングの調整（▷96 ページ）

電動式ステアリングの調整（▷97 ページ）

ステアリングを調整するときは、以下のことを確認してください。

- 腕を少し曲げてステアリングを握ることができる
- 足を自由に動かせる
- メーターパネルのすべての表示を確認できる

シートベルトに関する安全ガイドラインに従ってください（▷38 ページ）。

▶ シートベルト ② を適切に調整していることを確認します。

シートベルトは以下のようになっていなければなりません。

- 身体に密着している
- 肩の中央にかかっている
- 骨盤の腰骨にかかっている

▶ 走行する前に、道路や交通状況が十分視認できるようにルームミラーとドアミラーを調整します。

▶ **メモリー付パワーシート装備車：**
シートとドアミラーの設定を記憶させます（▷101 ページ）。

シート

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもシート位置を調整することができます。この理由により、子供だけを車内に残して車から離れないでください。シートを調整して挟まれるおそれがあります。

⚠ **警告**

運転席シートは、停車しているときのみに調整してください。さもないと、シートが動くことにより道路や交通状況から注意がそれ、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故の原因になるおそれがあります。

⚠ **警告**

シートの高さを不用意に調整すると、乗員が挟まれて、けがをするおそれがあります。特に子供は、スイッチを不意に操作して電動シートを調整し、挟まれるおそれがあります。

以下のことに注意してください。

- シートを動かしている間は、シートの下に手を入れないでください。
- 車内の子供がシートの下に手を入れないようにしてください。

⚠ **警告**

シートを調整している間は、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。

エアバッグの注意事項も確認してください。

推奨されているように子供を固定してください。" 子供を乗せるとき " の項目をご覧ください。

⚠ **警告**

後頭部がヘッドレストの中央で目の高さで支えられていることを確認してください。頭部がヘッドレストに適切に支えられていないと、事故のときに、頸部に重大なけがをするおそれがあります。ヘッドレストが固定されていないとき、または適切に調整されていないときは、決して走行しないでください。

⚠ **警告**

シートベルトは、バックレストができるだけ垂直で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ、想定された保護の効果を発揮することができます。シートベルトを適切に着用できないようなシート位置は避けてください。バックレストはできるだけ直立になるように調整してください。バックレストを後方に寝かせすぎた状態で走行しないでください。さもないと、事故や急ブレーキ時に重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

! シートやシートヒーター * の損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときなどは、シートヒーターを作動させないでください。また、シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- 推奨されているようにシートの表皮を清掃してください。" 内装の手入れ " をご覧ください。
- シートの上で重い物を運搬しないでください。ナイフ、くぎまたは工具のような鋭利な物をシートクッションの上に置かないでください。可能であれば、シートは人のみを乗せてください。
- シートヒーターを使用しているときは、ブランケット、コート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシートなどの被覆物でシートを覆わないでください。

! シートを後方に動かすときは、足元やシートの後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷する危険性があります。

! リアシートが前方にたたまれているときは、フロントシートを最も後方の位置に動かすことはできません。さもないと、シートを損傷するおそれがあります。

! バックレストとヘッドレストの高さを調整する前に、サンバイザーがたたまれていることを確認してください。さもないと、ヘッドレストが完全に引き出されているときに、ヘッドレストやサンバイザーを損傷するおそれがあります。

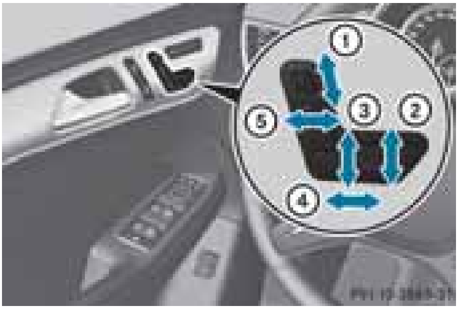
i ヘッドレストは前席から取り外すことができません。ただし、後席のヘッドレストは取り外すことができます（▷94 ページ）。

さらなる情報については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i 関連する項目：

ラゲッジルームの拡大（リアシートの折りたたみ）

シートの電動調整



① ヘッドレストの高さの調整 *
② シートクッションの角度の調整
③ シートの高さの調整
④ シートの前後位置の調整
⑤ バックレストの角度の調整

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ メモリー機能装備車は、PRE-SAFE® が作動すると、助手席シートがそれまで不適切な位置にあった場合は、より良い位置に移動します。

ⓘ メモリー機能 * により、シート位置を記憶させることができます（▷101 ページ）。

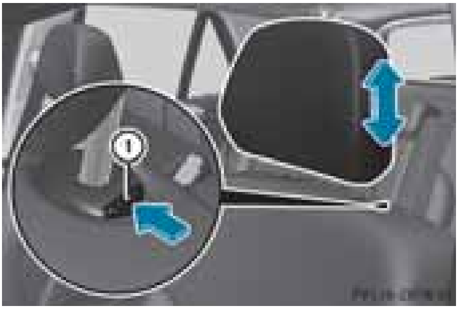
ⓘ メモリー機能装備車は、シートが前方または後方に移動したときは、ヘッドレストが自動的に上下に動きます。

ヘッドレストの調整

ヘッドレストの手動調整

ヘッドレストの高さの調整 *

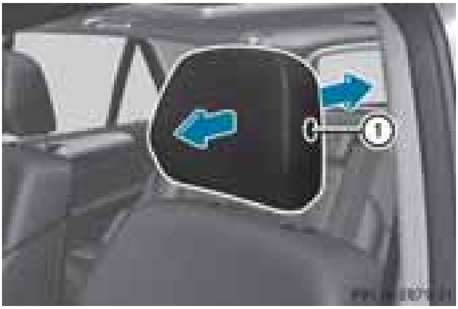
! ヘッドレストは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのみ取り外しを行なってください。



▶ **上げる**：好みの高さにヘッドレストを引き上げます。

▶ **下げる**：解除ノブ ① を矢印の方向に押して、好みの高さにヘッドレストを押し下げます。

ヘッドレストの前後位置の調整



この機能により、ヘッドレストと後頭部の間の距離を調整することができます。

▶ **前方に動かす**：固定するまで、ヘッドレストを矢印の方向に前方に引きます。

数ヶ所の固定位置があります。

▶ **後方に動かす**：解除ノブ ① を押して保持し、ヘッドレストを後方に押します。

▶ ヘッドレストが好みの位置になったときに、解除ノブを放し、ヘッドレストが固定されていることを確認します。

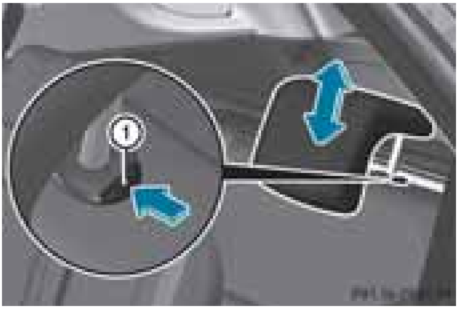
ヘッドレストの電動調整 *

▶ **ヘッドレストの高さを調整する**：ヘッドレスト調整スイッチ（▷92 ページ）を矢印の方向に上または下にスライドします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リアシートのヘッドレスト

ヘッドレストの高さの調整



▶ ヘッドレストがいっぱいまで下がっている場合は、解除ノブ ① を押すことが必要です。

▶ **上げる：**好みの高さにヘッドレストを引き上げます。

▶ **下げる：**解除ノブ ① を押して、好みの高さにヘッドレストを押し下げます。

ヘッドレストの角度の調整

頭部にできるだけ近づくようにヘッドレストを調整してください。

外側 2 個のヘッドレストを調整することができます。

▶ 両手を使用して、裏側に手を伸ばし、ヘッドレストの両側をつかみます。

▶ 好みの位置になるまで、ヘッドレストの下端部を前方または後方に引きます。

リアシートのヘッドレストの脱着

⚠ 警 告

乗員は、ヘッドレストが装着されているシートのみに座って走行してください。事故のときに乗員が重大なけがをする危険性が低減します。

▶ **取り外す：**ヘッドレストを止まるまで引き上げます。

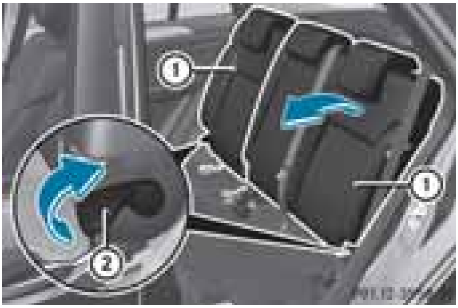
▶ 解除ノブ ① を押して、ヘッドレストをガイドから引き抜きます。

▶ **取り付ける：**外側 2 個のヘッドレストは支柱の切り欠きが進行方向左側になるようにして、中央のヘッドレストは支柱の切り欠きが進行方向右側になるようにして、ヘッドレストを差し込みます。

▶ 固定した音が聞こえるまで、ヘッドレストを押し下げます。

2 列目シートのバックレストの調整

2 列目シートのバックレストの角度を調整することができます。9 段階の固定位置があります。



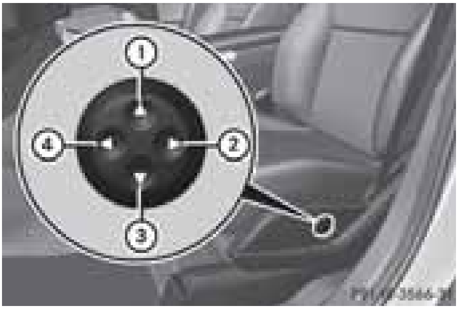
▶ 対応するバックレストが完全に解除されるまで、左または右の解除レバー ② を矢印の方向に引き上げます。

▶ バックレスト ① を矢印の方向に前方に引き、固定させます。

▶ バックレスト ① にしっかりもたれ、固定されていることを確認します。

電動ランバーサポートの調整 *

背中の最適な支持が得られるように、前席のバックレストの形状を個別に調整できます。



① サポートを上げる
② サポートを弱くする
③ サポートを下げる
④ サポートを強くする

シートヒーター *

シートヒーターの使用と停止

⚠ **警告**

シートヒーターを繰り返しレベル **3** に設定すると、シートの温度が過度に上がることがあります。温度の感じ方が鈍い乗員や過度に高い温度に反応しにくい乗員の健康に影響を与えたり、低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがあります。シートヒーターを繰り返しレベル **3** で使用しないでください。

⚠ **警告**

以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、病人、身体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気を誘う薬を服用された方
- 飲酒した方

スイッチの 3 個の赤い表示灯は、選択したヒーターレベルを示しています。

ℹ バッテリーの電圧が低下すると、シートヒーターが停止することがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

約 8 分後に、システムは自動的にレベル **3** からレベル **2** に低く切り替わります。

約 10 分後に、システムは自動的にレベル **2** からレベル **1** に低く切り替わります。

レベル **1** に設定されてから約 35 分後に、システムは自動的に停止します。

▶ イグニッション位置が **1** または **2** であることを確認します。

▶ **作動させる：**希望のヒーターレベルに設定されるまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

▶ **停止する：**表示灯が消灯するまで、スイッチ ① を繰り返し押します。

シートヒーターのトラブル

シートヒーターが短時間で停止したり、作動できなくなります。多くの電気装備が使用されているために電圧が低下しています。

▶ リアデフォッガーやルームライトのような、必要のない電気装備を停止してください。

ステアリング

重要な安全上の注意

⚠ 警告

電動調整式ステアリングは、エンジンスイッチにキーがないときでも調整することができます。そのため、ステアリングが調整された場合に挟まれるおそれがあるため、子供だけを車内に残さないでください。

⚠ 警告

停車しているときにのみステアリングを調整し、ステアリング調整機構が適切な位置に固定されるまでは発進しないでください。さもないと、ステアリング調整機構が適切な位置で調整されていない状態で走行することになります。結果として、ステアリングが不意に動くことにより道路や交通状況から注意がそれ、事故の原因になります。

ただし、車両のステアリング操作には影響を与えません。

手動式ステアリングの調整

① ステアリング調整ロック解除レバー
② ステアリングの高さを調整する
③ ステアリングの前後位置を調整する

▶ ステアリング調整ロック解除レバー① を完全に押し下げます。

ステアリングコラムのロックが解除されます。

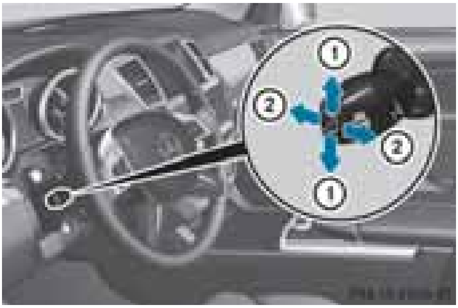
▶ 希望の位置にステアリングを調整します。

▶ ステアリング調整ロック解除レバー① を完全に押し上げます。

ステアリングコラムがロックされます。

▶ ステアリングが固定されていることを確認します。そのときは、ステアリングを上下に押し、または前後に動かしてみます。

電動式ステアリングの調整



① 上下位置の調整
② 前後位置の調整

関連する項目：

- イージーエントリー機能（▷97 ページ）
- メモリー機能（▷101 ページ）

イージーエントリー機能

重要な安全上の注意

イージーエントリー機能は、運転席への乗り降りを容易にする機能です。

マルチファンクションディスプレイにより、この機能の設定と解除ができます（▷209 ページ）。

⚠ 警 告

イージーエントリー機能を設定しているときは、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。

挟まれる危険があるときは、機能を停止してください。以下の操作をしてください。

- ステアリング調整レバーを操作する
- いずれかのポジションスイッチ（▷102 ページ）を押す

ステアリングの動きがただちに停止します。

ポジションスイッチを押したまま保持しないでください。さもないと、メモリー機能によりステアリングとシートが動き出します。

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転席ドアを開くと、イージーエントリー機能が作動して、身体を挟まれるおそれがあります。

イージーエントリー機能設定時のステアリング位置

以下のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- キーレスゴー装備車は、イグニッション位置が **1** のときに運転席ドアを開く
- イグニッション位置が **0** か **1** のときに運転席ドアを開く

ⓘ ステアリングは上端の位置に達していないときのみ、上方に移動します。

走行時のステアリング位置

ステアリングは、以下のいずれかの操作をすると元の位置に戻ります。

- 運転席ドアを閉じる
- エンジンスイッチにキーを差し込む

または

- キーレスゴー装備車は、キーレスゴースイッチを一度押す

エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態で運転席ドアを閉じた場合は、イグニッション位置を **2** にすると、ステアリングは自動的に元の位置に戻ります。

エンジンスイッチからキーを抜いたとき、またはメモリー機能で位置を記憶させたときは、そのときのステアリング位置が記憶されます（▷101 ページ）。

クラッシュセンサー連動機能

事故などによりクラッシュセンサー連動機能が作動すると、運転席ドアを開いたときにステアリングが上方に移動します。これはイグニッション位置に関わらず作動します。これにより、車外への脱出と乗員の救出を容易にします。

クラッシュセンサー連動機能は、マルチファンクションディスプレイでイージーエントリー機能を設定しているときにのみ作動します。

ミラー

ドアミラー

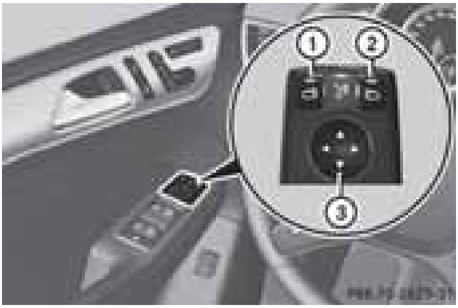
ドアミラーの調整

⚠ **警 告**

ドアミラーは像の大きさを小さくします。対象物は表示されているものよりも実際は近くにあります。車線変更のときなどに、後方を走行している車両との距離を見誤り、事故の原因になるおそれがあります。この理由により、肩ごしに視認することにより後方の車両との実際の距離を確認してください。

より広い視界を確保するため、ドアミラーは凸面になっています。

リアデフォッガーが作動し、外気温度が低いときは、ドアミラーは自動的に温められます。



▶ イグニッション位置が **1** か **2** になっていることを確認します。

▶ 左側ドアミラースイッチ ① または右側ドアミラースイッチ ② を押します。

対応するスイッチの表示灯が赤く点灯します。

しばらくすると表示灯は消灯します。表示灯が点灯している間に調整スイッチ ③ を使用して、選択したミラーを調整します。

▶ ドアミラーを適切な位置に調整できるまで、調整スイッチ ③ を上下または左右に押します。交通状況を適切に視認できるようにします。

ドアミラーの電動格納 / 展開

▶ イグニッション位置が **1** か **2** になっていることを確認します。

▶ スイッチ ① を軽く押します。

ドアミラーが格納 / 展開します。

ⓘ 走行するときはドアミラーが完全に展開されていることを確認してください。さもないと、振動するおそれがあります。

ドアミラーの設定

バッテリーの接続が外れたり、完全に放電したときは、ドアミラーをリセットしなければなりません。さもないと、マルチファンクションディスプレイで " 施錠時のドアミラー格納 " を設定していても、ドアミラーは格納しません（▷210 ページ）。

▶ イグニッション位置が **1** になっていることを確認します。

▶ スイッチ ① を軽く押します。

施錠時のドアミラー格納

マルチファンクションディスプレイで " 施錠時のドアミラー格納 " が設定されている場合は（▷210 ページ）、以下のようになります。

- 車外から車両を施錠するとすぐに、ドアミラーが自動的に格納します。
- 車両を解錠し、運転席または助手席ドアを開くとすぐに、ドアミラーは自動的に展開します。

ⓘ ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納したときは、ドアミラーは展開しません。

ドアミラーが適正な位置にないとき

ドアミラーが押されて適正な位置にないときは、以下のようにしてください。

▶ ミラーが適正な位置で固定される音が聞こえるまで、ドアミラー格納 / 展開スイッチ（▷99 ページ）を繰り返し押します。

ドアミラーが再度固定され、通常通りドアミラーを調整できるようになります（▷99 ページ）。

自動防眩機能

⚠ **警告**

車内に高く積んだ荷物などにより、ヘッドライトから照射された光がルームミラーのセンサーに当たらないときは、ミラーの自動防眩機能は作動しません。

照射された光により眩惑するおそれがあります。交通状況から注意がそれ、結果として事故の原因になることがあります

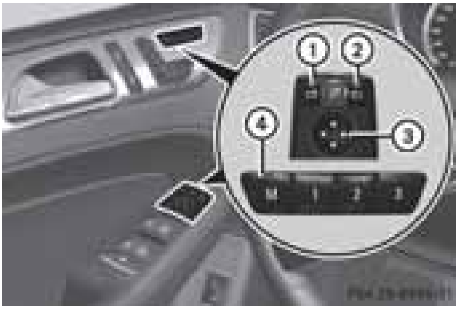
イグニッション位置が **2** で、ヘッドライトから照射された光がルームミラーのセンサーに当たると、ルームミラーと運転席側ドアミラーが自動的に防眩モードになります。

リバースギア **R** に入っているとき、またはルームライトが点灯しているときは、ミラーは防眩モードになりません。

パーキングヘルプ機能 *

駐車時の位置に設定し記憶させる

リバースギア **R** に入れるとすぐに、助手席側ドアミラーを助手席側後輪が見えるような位置にすることができます。この位置を記憶させることができます。



▶ エンジンがかかっていて、停車していることを確認します。

▶ 助手席側ドアミラースイッチ ② を押します。

▶ リバースギア **R** に入れます。

助手席側ドアミラーが、あらかじめ設定させていた駐車時の位置に動きます。

▶ ドアミラー調整スイッチ ③ を使用して、ドアミラーを調整します。後輪および路肩がドアミラーに見えるようにします。

駐車時の位置が記憶されます。

ℹ トランスミッションを他の位置にシフトすると、助手席側ドアミラーは走行時の位置に戻ります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ メモリースイッチ M④ を使用して、駐車時の位置を記憶させることもできます。

▶ 停車して、イグニッション位置が **2** になっていることを確認します。

▶ 助手席側ドアミラーを作動させ、調整スイッチ ③ を使用してドアミラーを調整します。後輪および路肩がドアミラーに見えるようにします。

▶ メモリースイッチ M④ を押し、約 3 秒以内に調整スイッチ ③ のいずれかの矢印を押します。

ドアミラーが動かなければ、駐車時の位置が記憶されます。

ミラーが適正な位置から動いたときは手順を繰り返してください。

記憶させた駐車時の位置を呼び出す

▶ エンジンを始動します。

▶ 助手席側ドアミラースイッチを押します（▷100 ページ）。

▶ リバースギア **R** に入れます。

助手席側ドアミラーの角度が、記憶させた駐車時の位置に動きます。

助手席側ドアミラーは、以下のときに元の位置に戻ります。

- 速度が約 15km/h を越えてすぐ
- リバースギア **R** から他の位置にして約 10 秒経過したとき
- 運転席側ドアミラー選択スイッチ ① を押したとき

メモリー機能 *

設定の記憶

メモリー機能で、例えば 3 人の異なる運転者などの 3 つの異なる設定を記憶させることができます。

以下の項目がひとつの設定として記憶されます。

- シート、バックレストおよびヘッドレストの位置
- 運転席側は、ステアリングの位置
- 運転席側は、運転席側および助手席側ドアミラーの位置

⚠ **警 告**

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもメモリー機能は使用することができます。この理由により、子供だけを車内に残して車から離れないでください。さもないと、シートまたはステアリングを調整して、挟まれるおそれがあります。

⚠ **警 告**

運転席側のメモリー機能は、停車中にのみ使用してください。さもないと、メモリー機能によるシートの移動により交通状況から注意がそれ、結果として事故の原因になるおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- シート位置を調整します（▷92 ページ）。
- 運転席ではステアリングとドアミラー（▷97、98 ページ）を調整します。
- メモリースイッチ **M** を押し、約 3 秒以内にポジションスイッチ **1**、**2**、または **3** を押します。

  選択したポジションに設定が記憶されます。設定が完了すると、確認音が鳴ります。

記憶された設定の呼び出し

- シート、ステアリングおよびドアミラーが記憶した位置になるまで、対応するポジションスイッチ **1**、**2**、または **3** を押して保持します。

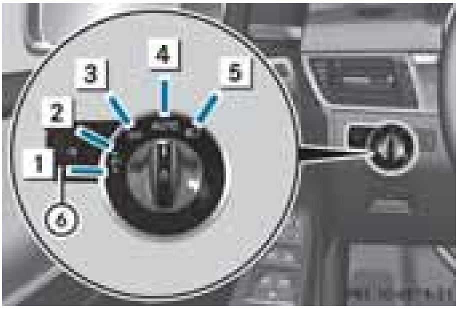
ⓘ ポジションスイッチを放すとすぐに、設定の作動は中断します。

車外ライト…… 104
ルームライト…… 111
電球の交換…… 112
ワイパー…… 114

車外ライト

ライトスイッチ

ライトの操作



1 ◀P 左側パーキングライト
2 P▶ 右側パーキングライト
3 車幅灯 車幅灯、ライセンスライト、メーターパネルなどの照明
4 AUTO オートモード
5 ロービーム ロービーム / ハイビームヘッドライト
⑥ リアフォグ リアフォグランプ

方向指示灯、ハイビームヘッドライト、パッシングはコンビネーションスイッチ（▷106 ページ）を使用して操作します。

! バッテリーが過度に放電しているときは、次のエンジン始動を可能にするために、車幅灯またはパーキングライトが自動的に消灯します。法規に沿って、常に車両を安全にまた十分明るくして駐車してください。車幅灯 [車幅灯] を数時間使用し続けることは避けてください。可能であれば、[P▶] 右側または [◀P] 左側のパーキングライトを点灯してください。

車幅灯およびテールライトは以下のときに自動的に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜いたとき
- イグニッション位置が **0** のときに、運転席側ドアを開いたとき

車両から離れるときに警告音が聞こえるときは、ライトがまだ点灯しています。

▶ ライトスイッチを [AUTO] にまわします。

ロービーム

▶ **ロービームヘッドライトを点灯する：**イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを [ロービーム] にまわします。

メーターパネルの [ロービーム] 表示灯が点灯します。

デイタイムドライビングライト

マルチファンクションディスプレイを使用して、デイタイムドライビングライトを作動または解除できます（▷205 ページ）。

▶ **デイタイムドライビングライト：**マルチファンクションディスプレイを使用して、デイタイムドライビングライトを作動または解除します。

▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。

デイタイムドライビングライトを設定しているときは、エンジンがかかっているときに、車幅灯、LED ドライビングライト、ロービームヘッドライトが点灯します。

ロービームヘッドライトが点灯しているときは、メーターパネルの [ロービーム] 表示灯が点灯します。

ヘッドライトオートモード

▶ **ヘッドライトオートモードを作動させる：**ライトスイッチを AUTO にまわします。

イグニッション位置が **1** のときは、周囲の明るさに応じて、車幅灯が自動的に点灯 / 消灯します。

エンジンがかかっているときは、周囲の明るさに応じて、LED ドライビングライトとロービームヘッドライトが自動的に点灯 / 消灯します。

ロービームヘッドライトが点灯しているときは、メーターパネルの [ロービーム] 表示灯が点灯します。

⚠ **警告**

ライトスイッチが AUTO のときは、霧のときはロービームヘッドライトは自動的に点灯しません。お客様または他の方が危険にさらされるおそれがあります。

そのため、霧の中ではライトスイッチを [ロービーム] にまわしてください。

ヘッドライトオートモード機能は単なる補助です。運転者には常に、車両のライトに関する責任があります。

リアフォグランプ

▶ **リアフォグランプを点灯する：**イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを作動します。

▶ ライトスイッチを [ロービーム] または AUTO にまわします。

▶ [リアフォグランプ] スイッチを押します。

メーターパネルの黄色の [リアフォグランプ] 表示灯が点灯します。

▶ **リアフォグランプを消灯する：**[リアフォグランプ] スイッチを押します。

メーターパネルの黄色の [リアフォグランプ] 表示灯が消灯します。

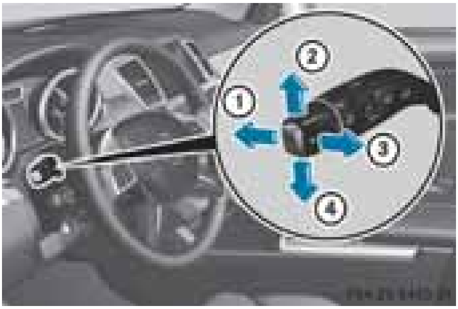
ℹ エンジンを停止して（エンジンスイッチのキーを **1** の位置にして）からエンジンを再始動した場合は、以前のリアフォグランプの設定に戻ります。

ヘッドライトウォッシャー

ヘッドライトが点灯していてエンジンがかかっているときに、フロントウインドウウォッシャーを約 5 回作動させると、ヘッドライトウォッシャーが自動的に作動します（▷114 ページ）。エンジンを停止すると、ヘッドライトウォッシャーの自動作動はリセットされ、カウントは 0 から再開します。

コンビネーションスイッチ

方向指示



① ハイビームヘッドライト
② 方向指示、右
③ パッシング
④ 方向指示、左

▶ **短時間作動させる：**コンビネーションスイッチを矢印 ② または ④ の方向に、抵抗がある位置まで軽く操作します。

対応する方向指示灯が 3 回点滅します。

▶ **作動させる：**コンビネーションスイッチを矢印 ② または ④ の方向に、抵抗がある位置を越えて操作します。

ハイビームヘッドライト

▶ **ハイビームヘッドライトを点灯する：**イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを ≣D または AUTO にまわします。

▶ コンビネーションスイッチを矢印 ① の方向に、抵抗がある位置を越えて操作します。

AUTO 位置では、周囲が暗く、エンジンがかかっているときにのみ、ハイビームヘッドライトが点灯します。

ハイビームヘッドライトが点灯しているときは、メーターパネルの ≣D 表示灯が点灯します。

▶ **ハイビームヘッドライトを消灯する：**コンビネーションスイッチを通常の位置に戻します。

メーターパネルの ≣D 表示灯が消灯します。

パッシング

▶ **点灯する：**イグニッション位置を **1** または **2** にするか、エンジンを始動します。

▶ コンビネーションスイッチを矢印 ③ の方向に引きます。

非常点滅灯

非常点滅灯は、以下のときに自動的に作動します。

- エアバッグが作動したとき
- 約 70km/h 以上の速度から、車両が急減速して停車したとき

▶ **非常点滅灯を作動させる：**スイッチ ① を押します。

すべての方向指示灯が点滅します。このときにコンビネーションスイッチを使用して方向指示灯を作動させたときは、車両の対応する側の方向指示灯のみが点滅します。

▶ **非常点滅灯を解除する：**スイッチ ① を押します。

フルブレーキを効かせた後は、車両の速度が再度 10km/h に達すると、非常点滅灯は自動的に解除されます。

ℹ 非常点滅灯はイグニッションがオフのときでも作動します。

インテリジェントライトシステム

重要な安全上の注意

インテリジェントライトシステムは、そのときの走行や天候の状況に合わせてヘッドライトを自動的に調整するシステムです。車両の速度や天候状況などに応じて路面の照射を向上させる先進機能があります。

システムには、アクティブライトシステム、コーナリングライト、ハイウェイモード、フォグランプ強化機能が含まれます。システムは、周囲が暗いときにのみ作動します。

マルチファンクションディスプレイを使用して、" インテリジェントライトシステム " を設定または解除することができます（▷205 ページ）。

アクティブライトシステム

アクティブライトシステムは、前輪のステアリング動作に応じて、ヘッドライトを動かすシステムです。このようにして、走行している間は関連する範囲が照射されたままになります。これにより、歩行者、サイクリストや動物を認識できます。

作動：ライトが点灯しているとき

コーナリングライト

コーナリングライトは、曲がる方向の広い角度にわたる路面の照射を向上させ、急カーブなどでのより良い視界を可能にします。コーナリングライトは、ロービームヘッドライトが点灯しているときにのみ作動します。

作動：

- 約 40km/h 以下の速度で走行していて、方向指示灯を作動させるか、またはステアリングをまわした場合
- 約 40 km/h から 70km/h の間の速度で走行していて、ステアリングをまわした場合

非作動：約 40km/h 以上の速度で走行するか、または方向指示灯を停止する、またはステアリングを直進位置にまわした場合。

コーナリングライトは短時間点灯したままになることがありますが、最大約 3 分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード

ハイウェイモードは、照射範囲を増やします。

作動：

- 約 110km/h 以上の走行速度で、約 1000m ステアリングを大きく動かさなかった場合
- 約 130km/h 以上の速度で走行した場合

非作動：作動した後に、約 80km/h 以下の速度で走行した場合。

フォグランプ強化機能

フォグランプ強化機能は、運転者が感じる眩しさを軽減し、道路の端の照射を向上させます。

作動：約 70km/h 以下の速度で走行していて、リアフォグランプを点灯した場合。

非作動：作動した後に、約 100km/h 以上の速度で走行した場合、またはリアフォグランプを消灯した場合。

アダプティブハイビームアシスト

この機能を使用すると、ヘッドライトがハイビームとロービームの間で自動的に切り替わるように設定できます。反対方向から接近してくる、または車両の前方を走行しているライトを点灯した車両を認識し、それに従ってヘッドライトをハイビームからロービームに切り替えます。

システムは、他の車両との距離に応じてロービームヘッドライトの範囲を自動的に調整します。システムが他の車両を検知しなくなると、ハイビームヘッドライトを再作動させせます。

システムの光学センサーは、フロントウインドウ裏側の上方操作部付近にあります。

- ▶ **作動させる**：マルチファンクションディスプレイを使用して、アダプティブハイビームアシストを作動させます（▷206 ページ）。
- ▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。
- ▶ コンビネーションスイッチを抵抗がある位置を越えて、矢印 ① の方向に押します（▷106 ページ）。

  暗く、ライトセンサーがロービームヘッドライトを作動させた場合は、マルチファンクションディスプレイに ≣A 表示灯が表示されます。

約 45km/h 以上の速度で走行している場合は、車両と他の道路使用者との間の距離に応じて、ヘッドライトの範囲が自動的に設定されます。

約 55km/h 以上の速度で走行し、他の道路使用者が認識されない場合は、自動的にハイビームヘッドライトが点灯します。メーターパネルの ≣D 表示灯も点灯します。

約 45km/h 以下の速度で走行しているか、または他の道路使用者が認識されている、または道路が十分に照らされているときは、自動的にハイビームヘッドライトが消灯します。メーターパネルの 表示灯が消灯します。マルチファンクションディスプレイの 表示灯は点灯したままになります。

▶ **解除する：**コンビネーションスイッチを通常の位置に動かして戻します。

マルチファンクションディスプレイの 表示灯が消灯します。

⚠ 警告

アダプティブハイビームアシストは走行を支援するための補助機能です。実際の明るさ、視界および交通状況に車両の照明を調整する責任は運転者にあります。

以下のときは、システムが損なわれたり、解除されることがあります。

- 雪、雨、霧または霧雨などの視界が悪い場合
- 光学センサー周囲のフロントウインドウ範囲が汚れていたり、曇っている、またはステッカーで覆われている場合

以下のときは、道路使用者を認識しないことがあります。

- 歩行者など、道路使用者が照明を持っていない場合
- サイクリストなど、道路使用者が暗い照明を持っている場合
- 道路使用者がガードレールの後ろにいるなど、道路使用者の照明が明確に見えない場合
- まれな場合：照明を持っている道路使用者が非常に遅れて、またはまったく認識されないことがあります。

道路使用者が前方を走行している、または車両に接近しているにもかかわらず、自動的にハイビームヘッドライトが解除されなかったり、または作動することがあります。

このように、事故やお客様自身または他の方のけがにつながるおそれがあります。常に交通状況に従い、必要であれば手動でライトを下向きにしてください。

ヘッドライトの内側が曇るとき

外気の湿度が高いときは、ヘッドライトの内側が曇ることがあります。

▶ ヘッドライトを点灯して走行してください。

走行距離や天候（湿度と気温）に応じて、ヘッドライト内側の曇り具合は低減します。

▶ ヘッドライト内側の曇り具合が低減しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でヘッドライトの点検を受けてください。

ルームライト

ルームライトの概要

上方の操作部

① 左側フロント読書灯の点灯／消灯
② フロントルームライトの点灯
③ リアルームライトの点灯／消灯
④ フロントルームライトの消灯／ルームライトオート制御の解除
⑤ 右側フロント読書灯の点灯／消灯
⑥ ルームライトオート制御の作動

ルームライトの操作

重要な安全上の注意

車両のバッテリーの放電を防ぐため、イグニッション位置が **2** 以外のときは、点灯したルームライト機能は一定時間後に自動的に解除されます。

マルチファンクションディスプレイを使用して、アンビエントライトの色合いと照度を設定することができます（▷206 ページ）。

ルームライトのオート制御

▶ **作動させる：**スイッチを中立の位置⑥にします。

▶ **解除する：**スイッチを の位置にします。

ルームライトは以下のときに自動的に点灯します。

- 車両を解錠したとき
- ドアを開いたとき
- エンジンスイッチからキーを抜いたとき

エンジンスイッチからキーを抜いた後も、ルームライトは短時間点灯します。マルチファンクションディスプレイを使用して、この遅延機能を作動させることができます（▷208 ページ）。

ルームライトの手動制御

▶ **フロントルームライトを点灯する：**スイッチを の位置にします。

▶ **フロントルームライトを消灯する：**スイッチを の位置にします。

▶ **リアルームライトの点灯／消灯を切り替える：** スイッチを押します。

▶ **読書灯の点灯／消灯を切り替える：** スイッチを押します。

緊急時点灯機能

車両が事故に巻き込まれたときは、ルームライトが自動的に点灯します。

▶ **緊急時点灯機能を解除する：**非常点滅灯スイッチを押します。

または

▶ キーを使用して車両を施錠および解錠します。

電球の交換

重要な安全上の注意

バイキセノンヘッドライト

⚠ 警告

バイキセノンヘッドライトには高電圧が発生しています。バイキセノンヘッドライトの電気接続部に触れると、感電して、重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。この理由のため、バイキセノンヘッドライトのカバーは取り外さないでください。

バイキセノンヘッドライトの交換はご自身では行なわず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

車両にバイキセノンヘッドライトが装備されているときは、以下のことにより認識することができます。エンジンを始動すると、バイキセノンヘッドライトからの配光は上から下に動き、再度戻ります。このことを見るためには、エンジンを始動する前に、ライトが点灯されていなければなりません。

電球やライトは車両の重要な安全装備のひとつです。そのため、これらすべてが常に適切に機能していることを確認してください。ヘッドライトの設定を定期的に点検してください。

その他のライト

バイキセノンヘッドライト以外にもお客様自身で交換できない電球があります。挙げられている電球のみを交換してください（▷113 ページ）。お客様自身で交換できない電球は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

新しい電球のガラス部分には素手で触れないでください。少しの汚れであってもガラス表面で溶け、電球の寿命を短かくします。装着するときは常に、きれいな布を使用するか、バルブのベース部分にのみ触れてください。

適切な種類の電球のみを使用してください。

新しい電球が点灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

バルブとライトは車両安全性の重要な要因です。そのため、これらが正しく機能することを常に確認しなければなりません。定期的にヘッドライトの設定を点検してください。

⚠ **警 告**

電球やライトは非常に熱くなります。そのため、交換する前に電球を冷やしてください。

電球は子供の手の届かないところに保管してください。さもないと、電球を損傷したり、子供がけがをするおそれがあります。

落下した電球を使用しないでください。そのような電球は、割れたり破裂して、けがをすることがあります。

ハロゲンライトには圧力がかかっており、交換するときに破裂するおそれがあります。そのため、交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用してください。

電球交換の概要

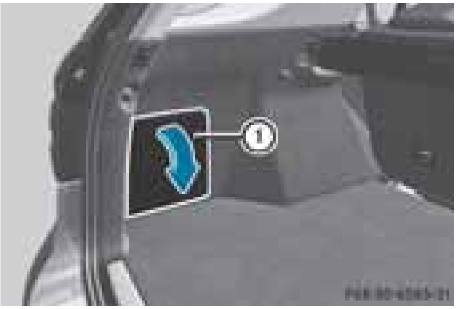
以下の電球を交換することができます。

テールライト
① ブレーキライト：P 21W-L

リアバルブの交換

整備用フラップの開閉

テールライトのバルブを交換する前に、ラゲッジルームのサイドトリムパネルを開く必要があります。



左側サイドトリムパネル

右側サイドトリムパネル

▶ **開く：**整備用フラップ①の上部をドライバーなどで外し、矢印の方向に下方に下げます。

▶ 右側は、救急セットを手前に取り出し、収納ネットを下げます。

▶ **閉じる：**整備用フラップ①を再度差し込みます。

ブレーキライト

- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ ラゲッジルームを開きます。
- ▶ 整備用フラップを開きます（▷113 ページ）。

① ブレーキライト

- ▶ バルブホルダーを反時計回りにまわして、取り外します。
- ▶ バルブホルダーからバルブを取り外します。
- ▶ 新しいバルブをバルブホルダーに差し込みます。
- ▶ バルブホルダーを差し込んで、時計回りにまわしてます。
- ▶ 整備用フラップを差し込みます（▷113 ページ）。

ワイパー

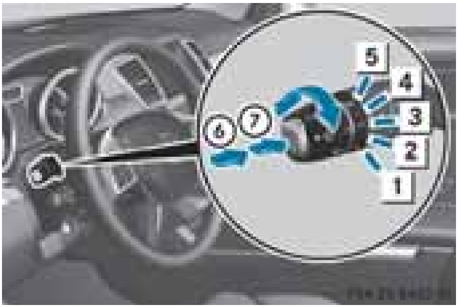
フロントウインドウワイパーの作動 / 停止の切り替え

⚠ 警 告

ワイパーブレードが摩耗すると、フロントワイパーが適切に拭き取れなくなります。交通状況を把握する妨げになり、そのため事故の原因になるおそれがあります。ワイパーブレードは定期的に交換してください。

! ワイパーブレードを損傷するおそれがあるため、フロントウインドウが乾いているときはワイパーを作動させないでください。さらに、フロントウインドウが乾いているときに拭き取ると、フロントウインドウに集められた汚れにより、ガラスに傷が付くおそれがあります。

! 自動洗車機で洗車した後に、フロントウインドウワイパーがフロントウインドウに油膜を残すときは、ワックスや他の残留物が原因であることがあります。自動洗車機で洗車した後は、ウォッシャー液でフロントウインドウを清掃してください。



コンビネーションスイッチ

1 [0] フロントウインドウワイパーの停止
2 [•••] 間欠作動、低（レインセンサーが低い感度に設定）
3 [••••] 間欠作動、高（レインセンサーが高い感度に設定）
4 [—] 連続作動、低速
5 [=] 連続作動、高速
⑥ [1回作動] 1 回作動
⑦ [ウォッシャー] ウォッシャー液を使用した拭き取り

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

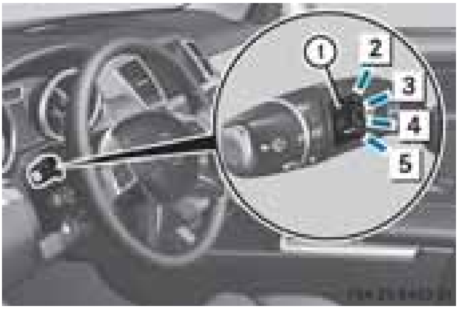
▶ 対応する位置にコンビネーションスイッチをまわします。

! レインセンサーによる間欠作動：雨が降っていない状況でフロントウインドウが汚れているときはフロントウインドウワイパーが不意に作動することがあります。これにより、フロントウインドウワイパーのブレードが損傷したり、フロントウインドウを傷つけるおそれがあります。

この理由により、雨が降っていないときは常に、フロントウインドウワイパーを停止してください。

[•••] または [••••] の位置では、雨の強さに応じて適切な拭き取り頻度が自動的に設定されます。[••••] 位置では、[•••] 位置に比べレインセンサーはより感度がよくなり、フロントウインドウワイパーがより頻繁に拭き取りを行ないます。

リアウインドウワイパーの作動 / 停止の切り替え



コンビネーションスイッチ

① [リアワイパー] リアワイパースイッチ
2 [ウォッシャー] ウォッシャー液を使用した拭き取り
3 [—] 間欠拭き取りの作動
4 [0] 間欠拭き取りの停止
5 [ウォッシャー] ウォッシャー液を使用した拭き取り

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 対応する位置にコンビネーションスイッチのスイッチ ① をまわします。

リアウインドウワイパーが作動しているときは、マルチファンクションディスプレイにマークが表示されます。

ワイパーブレードの交換

重要な安全上の注意

⚠ 警告

ワイパーを作動させているときは、ワイパーアームが動きだし、けがの原因になることがあります。

ワイパーブレードを交換する前に、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーのワイパーアームのみに触れるようにしてください。

! ワイパーアームがウインドウから起きているときは、ボンネットを開かないでください。

ワイパーブレードがないワイパーアームをウインドウの上に載せないでください。

ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを確実に持ってください。ワイパーブレードがないワイパーアームを放して、ウインドウに落ちると、衝撃の力によりウインドウを損傷するおそれがあります。

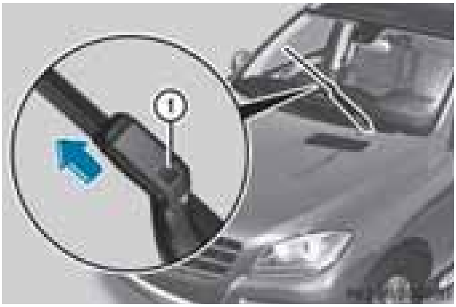
ワイパーブレードの交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

フロントウインドウのワイパーブレードの交換

ワイパーブレードを取り外す

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ フロントウインドウからワイパーアームを起こします。



▶ 解除ノブ ① を確実に押し、ワイパーブレードをワイパーアームから矢印の方向に引きます。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレードをワイパーアームの固定部に合わせ、矢印と反対の方向へスライドさせて固定します。

▶ ワイパーブレードが、適切に固定されていることを確認します。

▶ ワイパーアームをフロントウインドウに下ろして戻します。

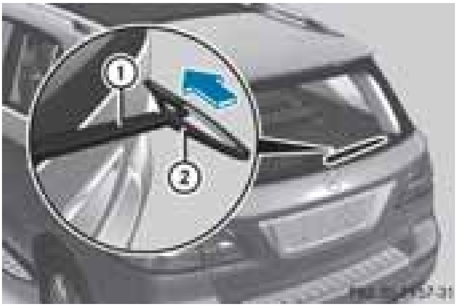
リアウインドウのワイパーブレードの交換

ワイパーブレードを取り外す

⚠ 警告

ワイパーを作動させているときは、ワイパーアームが動きだし、けがの原因になることがあります。

ワイパーブレードを交換する前に、エンジンスイッチからキーを抜いてください。



▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 固定されるまで、リアウインドウからワイパーアーム ① を起こします。

▶ ワイパーブレード ② をワイパーアーム ① に対して直角の位置にします。

▶ ワイパーアーム ① を持ち、外れるまで矢印の方向にワイパーブレード ② を押します。

▶ ワイパーブレード ② を取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレード ② をワイパーアーム ① に合わせます。

▶ ワイパーアーム ① を持ち、固定されるまで矢印と反対の方向へワイパーブレード ② を押します。

▶ ワイパーブレード ② が適切に固定されていることを確認します。

▶ ワイパーブレード ② をワイパーアーム ① と平行の位置にします。

▶ ワイパーアーム ① をリアウインドウに下ろして戻します。

ワイパーのトラブル

ワイパーが妨げられている

葉や雪などが、ワイパーの動きを妨げています。ワイパーモーターの作動が停止しています。

▶ 安全上の理由により、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ 原因となっている障害物を取り除きます。

▶ 再度、ワイパーを作動させます。

ワイパーが作動しない

ワイパーが故障しています。

▶ コンビネーションスイッチの他のワイパーの作動を選択します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

噴射ノズルの位置がずれている

噴射ノズルからのウインドウウォッシャー液がフロントウインドウの中央に当たらなくなっています。噴射ノズルの位置がずれています。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で噴射ノズルを調整してください。

エアコンディショナーの概要…… 120
エアコンディショナーの操作…… 122
送風口の調整………………………… 128

エアコンディショナーの概要

重要な安全上の注意

⚠ **警 告**

エアコンディショナーの設定は、以降の説明に従って正しく行なってください。さもないと、ウインドウが曇ります。これにより交通状況を把握できず、事故の原因になります。

エアコンディショナーは、車内の温度や湿度を制御し、空気中の不快な物質を除去します。

エアコンディショナーはエンジンがかかっているときにのみ作動します。サイドウインドウやパノラミックスライディングルーフ * を閉じて走行しているときにのみ、最適な作動が行なわれます。

※余熱ヒーター機能は、イグニッションがオフのときのみ、作動 / 解除できます。

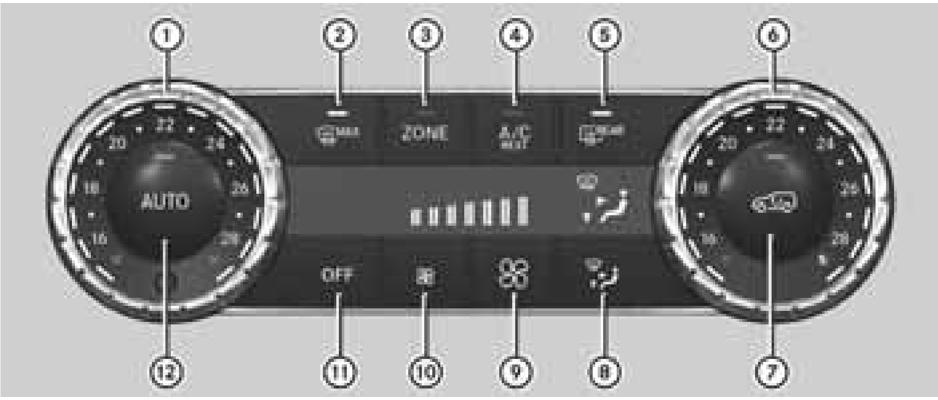
ⓘ 外気温度が高いときは、コンビニエンスオープニング機能 (▷82 ページ) を使用して、車内を一時的に換気してください。これにより、好みの車内温度により速く達することができます。

ⓘ エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。

フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

エアコンディショナーのコントロールパネル



①温度の調整、左側（▷123 ページ）
②デフロスターの作動 / 停止（▷124 ページ）
③ゾーン機能の作動 / 停止（▷124 ページ）
④AC モードの作動 / 解除（▷122 ページ）
余熱ヒーターの作動 / 解除（▷127 ページ）
⑤リアデフォッガーの作動 / 停止（▷125 ページ）
⑥温度の調整、右側（▷123 ページ）
⑦内気循環モードの作動 / 解除（▷126 ページ）
⑧送風配分の設定（▷123 ページ）
⑨送風量を上げる（▷124 ページ）
⑩送風量を下げる（▷124 ページ）
⑪エアコンディショナーの作動 / 停止（▷122 ページ）
⑫オートモードの設定（▷123 ページ）

エアコンディショナー使用時の注意

以下には、エアコンディショナーを最も効果的にご使用いただくための指示と推奨が含まれています。

- AUTO および A/C REST スイッチを使用してエアコンディショナーを作動させてください。AUTO および A/C REST スイッチの表示灯が点灯します。
- 通常は設定温度を 22℃にすることをお勧めします。
- デフロスターモードは、フロントウインドウの曇りが取れるまでのみ、一時的に使用してください。
- 内気循環モードは、外気に不快な臭いがあるときやトンネルの中のときなどのみに、一時的に使用してください。さもないと、内気循環モードでは外気が車内に送風されないため、ウインドウが曇るおそれがあります。

- ゾーン機能は運転席側の温度設定を助手席側にも適応させるときに使用してください。ZONE スイッチの表示灯が消灯します。

エアコンディショナーの操作

エアコンディショナーの作動 / 停止

重要な情報

ℹ エアコンディショナーが停止すると、送風や内気循環も停止します。この設定は短時間のみ使用してください。さもないと、ウインドウが曇るおそれがあります。

ℹ エアコンディショナーは、基本的には AUTO スイッチを使用して作動させてください。

作動 / 停止

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ **作動させる：**AUTO スイッチを押します。

AUTO スイッチの表示灯が点灯します。送風量と送風配分が自動モードに設定されます。

または

▶ OFF スイッチを押します。

OFF スイッチの表示灯が消灯します。以前選択していた設定で再度作動します。

▶ **停止する：**OFF スイッチを押します。

OFF スイッチの表示灯が点灯します。

AC モードの作動 / 解除

重要な情報

AC モードは、エンジンがかかっているときにのみ使用できます。設定温度に応じて、車内の空気が冷房または除湿されます。

⚠ **警 告**

"AC モード " 機能が解除されていると、車内の空気は冷却または除湿されません。ウインドウがより早く曇るおそれがあります。これにより、交通状況を把握できずに事故の原因になります。

AC モードが作動しているとき、除湿された水分は車体下方に排水されます。これは正常であり、故障ではありません。

ℹ エアコンディショナーで使用される冷媒にはフロンガスが含まれていないため、オゾン層を破壊しません。冷媒に関する情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

作動と解除

▶ **作動させる：**A/C REST スイッチを押します。

A/C REST スイッチの表示灯が点灯します。

▶ **解除する：**A/C REST スイッチを押します。

A/C REST スイッチの表示灯が消灯します。AC モードには、少し遅れて解除される機能があります。

AC モードのトラブル

A/C REST スイッチを押したときに、表示灯が 3 回点滅するか、消灯したままになります。AC モードを作動できなくなります。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エアコンディショナーをオートモードに設定する

オートモードでは、設定温度が一定のレベルで自動的に維持されます。システムが送風温度や送風量、送風配分を自動的に制御します。

オートモードは AC モードが作動しているときに、最適な作動を得ることができます。好みによって、AC モードを解除してください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 好みの温度に設定します。

▶ **作動させる：** AUTO スイッチを押します。

AUTO スイッチの表示灯が点灯します。自動的な送風量と送風配分が作動します。

▶ **停止する：** スイッチを押します。

または

▶ または スイッチを押します。

AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

温度の調整

運転席と助手席側で異なる温度を設定できます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ **上げる / 下げる：** ダイアル ① または ⑥ を時計回りまたは反時計回りにまわします（▷121 ページ）。

少しずつ、温度設定を変更してください。22℃から開始してください。

送風配分の設定

中央送風口からの送風になります。

足元送風口からの送風になります。

中央および足元送風口からの送風になります。

デフロスター送風口からの送風になります。

デフロスターおよび中央送風口からの送風になります。

足元およびデフロスター送風口からの送風になります。

デフロスター、中央および足元送風口からの送風になります。

ⓘ 送風配分の設定にかかわらず、サイド送風口からの送風は常に行なわれます。サイド送風口は、サイド送風口のダイアルを下方に下げたときにのみ、閉じることができます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 好みのマークがディスプレイに表示されるまで、[送風] スイッチを繰り返し押します。

送風量の設定

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ **上げる：** [送風] スイッチを押します。

▶ **下げる：** [送風] スイッチを押します。

ゾーン機能の作動 / 解除

▶ **作動させる：** ZONE スイッチを押します。

ZONE スイッチの表示灯が点灯します。

運転席側の温度設定は、助手席側には適用されません。助手席側の温度設定は後席に適用されます。

助手席側の温度ダイアルを操作したときは、運転席側の温度設定は助手席側には適用されなくなります。

▶ **解除する：** ZONE スイッチを押します。

ZONE スイッチの表示灯が消灯します。

運転席側の温度設定が、助手席側に適用されます。

フロントウインドウのデフロスター

フロントウインドウの霜取りや、フロントウインドウまたはサイドウインドウの曇り取りに、この機能を使用することができます。

ⓘ フロントウインドウの曇りが取れるまでのみ、デフロスター機能を選択してください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ **作動させる：** [MAX] スイッチを押します。

[MAX] スイッチの表示灯が点灯します。

以下の内容でエアコンディショナシステムが作動します。

- エンジンがかかっているときは、AC モードが作動します。
- 外気温度によっては、送風量が上がります。
- 外気温度によっては、送風温度が高くなります。
- フロントウインドウとサイドウインドウへの送風配分になります。
- 内気循環モードが解除されます。

▶ **解除する：** [MAX] スイッチを押します。

[MAX] スイッチの表示灯が消灯します。以前選択していた設定が再度作動します。AC モードは作動したままになります。内気循環モードは解除されたままになります。

または

▶ AUTO スイッチを押します。

MAX スイッチの表示灯が消灯します。送風量と送風配分がオートモードに設定されます。

または

▶ 温度ダイアル ① または ⑥ を時計回りまたは反時計回りにまわします (▷121 ページ)。

または

▶ ［風量大］または［風量小］スイッチを押します。

ウインドウの曇り取り

ウインドウの内側が曇るとき

▶ AC モード A/C REST を作動させます。

▶ オートモード AUTO を作動させます。

▶ ウインドウが曇り続けるときは、デフロスター機能を作動させます。

ⓘ フロントウインドウの曇りが取れるまでのみ、デフロスター機能を選択してください。

フロントウインドウの外側が曇るとき

▶ フロントウインドウワイパーを作動させます。

▶ ［マーク］または［マーク］マークがディスプレイに表示されるまで、［スイッチ］スイッチを繰り返し押します。

ⓘ フロントウインドウの曇りが取れるまでのみ、デフロスター機能を選択してください。

リアデフォッガー

作動 / 停止

⚠ 警 告

発進前にすべてのウインドウの氷や雪を取り除いてください。さもないと、損なわれた視界により、お客様や他の方に危険がおよぶおそれがあります。

リアデフォッガーは多くの電力を使用します。リアウインドウの曇りが取れたらすぐに停止してください。数分後に自動的に停止します。

バッテリーの電圧が低下したときは、リアデフォッガーは停止することがあります。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ REAR スイッチを押します。

REAR スイッチの表示灯が点灯または消灯します。

リアデフォッガーのトラブル

リアデフォッガーが短時間で停止するか、作動させることができません。

▶ 読書灯やルームライトなど、必要でない装備を停止してください。

バッテリーが十分に充電されると、リアデフォッガーは再度作動できるようになります。

内気循環モードの作動 / 解除

不快な臭いが車外から車内に入ってくるときは、車外の空気の送風を停止できます。車内にある空気が循環されます。

> ⚠ **警 告**
>
> 外気温度が低いときは、内気循環モードは短時間のみ作動させてください。さもないと、ウインドウが曇りやすくなり、そのために視界が損なわれ、お客様や他の方に危険がおよぶおそれがあります。これにより交通状況への注意が妨げられ、事故の原因になることがあります。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ **作動させる：** [内気循環] スイッチを押します。

[内気循環] スイッチの表示灯が点灯します。

ℹ 外気温度が高いときは、自動的に内気循環モードが作動します。自動的に内気循環モードが作動したときは、[内気循環] スイッチの表示灯は点灯しません。

約 30 分後に、外気が追加されます。

▶ **解除する：** [内気循環] スイッチを押します。

[内気循環] スイッチの表示灯が消灯します。

ℹ 内気循環モードは以下ときに自動的に解除されます。

- 外気温度が約 5℃以下のときは約 5 分後
- AC モードが解除されているときは約 5 分後
- 外気温度が約 5℃以上のときは約 30 分後
- [A/C REST] スイッチを押して AC モードにしたとき

内気循環スイッチを使用してのコンビニエンスオープニング機能 / クロージング機能

> ⚠ **警 告**
>
> サイドウインドウを開閉するときは、サイドウインドウとドアフレームの間に挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。開閉するときは、サイドウインドウに物や身体の部分が触れていないことを確認してください。サイドウインドウが動いているときに、人または物がサイドウインドウとドアフレームとの間に引き込まれたり、挟まれるおそれがあります。挟まれる危険があるときは、サイドウインドウを反対の方向に動かすために、[ウインドウ] スイッチを操作してください。
>
> パノラミックスライディングルーフ * を開閉するときは、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。挟まれる危険があるときは、パノラミックスライディングルーフ * を反対の方向に動かすために、[ルーフ] スイッチを操作してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ **コンビニエンスクロージング機能：** サイドウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が閉じるまで、内気循環 スイッチを押して保持します。

スイッチの表示灯が点灯します。内気循環モードが作動します。

▶ **コンビニエンスオープニング機能：** サイドウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が開くまで、内気循環 スイッチを押して保持します。サイドウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が元の位置まで動いて戻ります。

スイッチの表示灯が消灯します。内気循環モードが解除されます。

ⓘ コンビニエンスクロージング機能で閉じた後に、サイドウインドウまたはパノラミックスライディングルーフ * を手動で開いたときは、次にコンビニエンスオープニング機能を使用して開いたときに、この箇所は動きません。

余熱ヒーター機能の作動 / 解除

エンジンを停止した後に、最大 30 分間、停止した車両を暖め続けるためにエンジンの余熱を使用することができます。暖房時間は設定した温度によります。

ⓘ 送風量の設定に関わらず、送風は低い設定で行なわれます。

ⓘ 高い気温のときに余熱ヒーター機能を作動させたときは、換気のみが作動します。送風は中ぐらいの設定で行なわれます。

▶ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ **作動させる：** A/C REST スイッチを押します。

A/C REST スイッチの表示灯が点灯します。

▶ **解除する：** A/C REST スイッチを押します。

A/C REST スイッチの表示灯が消灯します。

ⓘ 以下のときは、余熱ヒーター機能が自動的に解除されます。

- 約 30 分後
- イグニッション位置を **2** にしたとき
- バッテリーの電圧が低下したとき
- 冷却水の温度が非常に低いとき

* オプションや仕様により、異なる装備です。

送風口の調整

重要な安全上の注意

⚠ 警 告

送風口からは、非常に熱い、または非常に冷たい送風が行なわれることがあります。このため、送風口のすぐ近くでは火傷やしもやけの原因になるおそれがあります。これらの送風口から皮膚を離してください。必要であれば、車内の他の場所に送風を向けてください。

車内の送風口を通して外気を送風するために、以下の点に注意してください。

- ボンネットおよびエンジンルーム内の助手席側の吸気口が、氷、雪、または葉などで覆われていないこと
- 車内の送風口や排気グリルが覆われていないこと

ⓘ 最適な送風を行なうために、送風口を中央の位置に調整してください。

中央送風口の調整

①中央送風口、左
②中央送風口、右
③中央送風口ダイアル、右
④中央送風口ダイアル、左

▶ **開く / 閉じる：**ダイアル ③ と ④ を右または左にまわします。

サイド送風口の調整

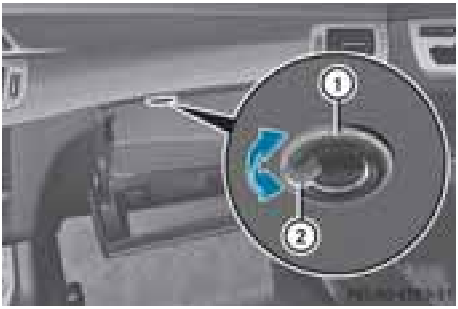
▶ **開く / 閉じる：**ダイアル ③ を上または下にまわします。

グローブボックス送風口

エアコンディショナーが作動しているときは、収納物を冷却するなどのためにグローブボックスを冷却することができます。送風量は、送風量および送風配分の設定によります。

外気温度が高いときは、グローブボックス送風口を開き、AC モードを作動させてください。

! グローブボックス内を冷却したくないときや AC モードを解除しているときは、送風口を閉じてください。さもないと、グローブボックス内に湿気に弱い物を収納してあるときは損傷するおそれがあります。

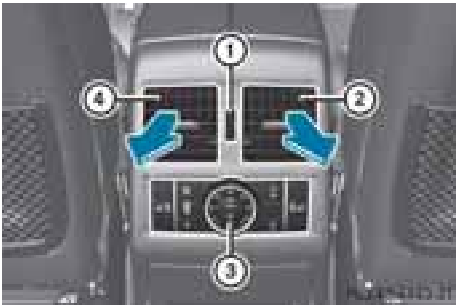


①送風口ダイアル
②送風口

▶ **開く：**ダイアル ① を反時計回りににまわします。

▶ **閉じる：**ダイアル ① を時計回りににまわします。

リア送風口の調整



リア送風口の例
①リア送風口ダイアル
②リア送風口、右
③日本仕様車には装備されません。
④リア送風口、左

▶ **開く / 閉じる：**ダイアル ① を上または下にまわします。

慣らし運転…………………………… 132
走行………………………………………… 132
オートマチックトランスミッション
………………………………………… 142
燃料の給油…………………………… 148
駐車………………………………………… 151
走行時の注意………………………… 154
走行装備……………………………… 163
オフロード走行装備……………… 186

慣らし運転

重要な安全上の注意

⚠ 警告

新品のブレーキパッド / ライニングは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏み、制動力を補ってください。また、ブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングの交換を行なったときも同様です。

最初の約 1,500km まで

最初に十分注意してエンジンを取り扱うことにより、その後、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

- 最初の約 1,500km までは、速度と回転数を変えて走行してください。
- アクセルペダルをいっぱいに踏み込むなど、エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーン（許容限度）の 2/3 を超えないように、適切なギアシフト操作を行なって走行してください。
- アクセルペダルをいっぱいまで踏み込む操作は避けてください（キックダウン）。
- ギアレンジ位置 **3**、**2** または **1** は山道などを低速で走行するときだけに使用してください。

約 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

ⓘ エンジンや駆動系部品の交換を行なったときも、上記の注意事項を守って慣らし運転を行なってください。

走行

重要な安全上の注意

⚠ 警告

運転席の足元には物を置かないでください。運転席の足元にフロアマットやカーペットを敷くときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。

フロアマットを重ねて使用しないでください。

急ブレーキ時や急加速時に、フロアマットが滑ったりブレーキペダルやアクセルペダルに引っかかるおそれがあり危険です。ブレーキやアクセルの操作が確実にできなくなる場合があります。事故やけがにつながるおそれがあります。

⚠ 警告

滑りやすい路面を走行するときは、シフトダウンにより急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失い、車がスリップする原因になります。車のコントロールを失い、事故を起こす原因になります。

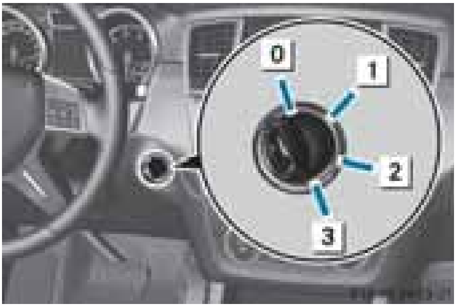
❗ 暖機運転は素早く行なってください。エンジンが暖まっていないときは、エンジン出力を最大まで使わないでください。

シフト操作は、完全に停車して行なってください。

滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。さもないと、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

イグニッション位置

キー



0 キーを抜く位置
1 ワイパーなど複数の電気装備に電源を供給する位置
2 イグニッションオン（すべての電気装備への電源供給）および運転するときの位置
3 エンジンを始動する位置

ℹ 異なる車両のキーを差し込んだときも、エンジンスイッチをまわせることがあります。ただし、エンジンスイッチの位置は選択できません。エンジンの始動はできません。

キーレスゴー *

全体的な注意事項

キーレスゴー装備車には、キーレスゴー機能を内蔵したキーと、着脱可能なキーレスゴースイッチが装備されています。

キーレスゴースイッチをエンジンスイッチに取り付けてあり、車内にキーがあることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んでいないときにキーレスゴースイッチを押すことは、エンジンスイッチのキー位置を変更することに相当します。

ブレーキペダルを踏んでキーレスゴースイッチを押した場合は、エンジンが始動します。

▶ イグニッション位置が **0**：キーレスゴースイッチ①がまだ押されていない場合は、エンジンスイッチからキーを抜いていることに相当します。

▶ イグニッション位置が **1**：キーレスゴースイッチ①を 1 回押します。ワイパーなどを作動させることができます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

この状態からキーレスゴースイッチ ① を 2 回押すと、電力供給が遮断されます。

▶ イグニッション位置が **2**：キーレスゴースイッチ ① を 2 回押します。

この状態からキーレスゴースイッチ ① を 1 回押し、運転席ドアを開くと、電力供給が遮断されます。

キーレスゴースイッチを取り外す

エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、キーを使用することができます。

車両から離れるときは、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外す必要はありません。

キーレスゴーとキー操作との切り替えは、トランスミッションがポジション **P** にシフトしてあるときにのみ可能です。

▶ エンジンスイッチ ② からキーレスゴースイッチ ① を取り外します。

エンジンスイッチ ② にキーレスゴースイッチ ① を取り付けたときは、キーレスゴースイッチ ① が使用できるまでに、システムは約 2 秒間の認識時間を必要とします。

エンジンの始動

重要な安全上の注意

⚠ 警告

密閉された場所では、エンジンをかけたままにしないでください。車の排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。一酸化炭素を吸い込むと健康が損なわれ、意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

エンジンが冷えている状態でエンジンを始動したときは、触媒コンバーターは最大で約 30 秒間予熱されます。この間はエンジン音が変わることがあります。

▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。

マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示に **P** が表示されます。

トランスミッションがポジション **N** のときも、ブレーキペダルを踏んでエンジンを始動することができます。

キーによるエンジンの始動

▶ エンジンスイッチ （▷133 ページ）のキーを **3** の位置にまわして、エンジンが始動したらすぐに放します。

タッチスタート機能を使用することができます。この機能を使用するには、キーを **3** の位置までまわしてから、ただちに手を放します。エンジンが自動的に始動します。

キーレスゴー * によるエンジンの始動

⚠ 警 告

有効なキーレスゴーのキーを使用すれば、エンジンを始動することができます。この理由により、子供だけを車内に残さないでください。

短時間でも車から離れるときは、常にキーを携帯してください。

ℹ キーレスゴースイッチ（▷133 ページ）により、エンジンスイッチにキーを差し込むことなく、エンジンを始動することができます。キーが車内にあり、キーレスゴースイッチがエンジンスイッチに差し込まれていなければなりません。このエンジン始動操作は、ECO スタートストップ機能の自動エンジン始動機能とは独立して作動します。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏み続けます。

▶ キーレスゴースイッチを 1 回押します。

エンジンが始動します。

発進

ℹ トランスミッションをポジション P から好みのポジションにシフトするためには、ブレーキペダルを踏む必要があります。その後にシフトロックが解除されます。ブレーキペダルを踏んでいないときは、DIRECT SELECT レバーの操作はできますが、シフトロックは解除されません。

▶ ブレーキペダルを踏み、そのまま保持します。

▶ トランスミッションをポジション D または R にシフトします。

▶ ブレーキペダルから足を放します。

▶ アクセルペダルを注意しながら踏み込みます。

電気式パーキングブレーキが自動的に解除されます。

メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯 Ⓟ が消灯します。

ℹ 発進すると、車が自動的に施錠されます。ドアのロックノブが下がります。

ドアは車内からいつでもロックを解除して開くことができます。

また、車速感応ドアロックを解除することもできます（▷75 ページ）。

ℹ エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正な作動温度に達します。

パーキングブレーキ作動時からの発進

上り坂での発進時に後方に下がることがないように、電気式パーキングブレーキを効かせてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ ハンドル ① を押して、保持します。

電気式パーキングブレーキが効き、車が後方に下がることを防止します。

メーターパネルに赤色のパーキングブレーキ表示灯 [Ⓟ] が点灯します。

▶ アクセルペダルを踏み込みます。

▶ 車が動き出したら、すみやかにハンドル ① を放します。

電気式パーキングブレーキが解除されます。

メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯 [Ⓟ] が消灯します。

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは、坂道発進時に車が後退または前進することを防ぎ、運転者の発進操作を補助します。ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが車を停止したまま保持します。車が動き出す前に、ブレーキペダルからアクセルペダルへ余裕を持って踏みかえることができます。

> ⚠ **警 告**
>
> ヒルスタートアシストにより車が停止していても、絶対に車から離れないでください。約 1 秒後にはヒルスタートアシストは解除され、車が動き出すおそれがあります。

▶ ブレーキペダルから足を放します。

ℹ ブレーキペダルから足を放したときは、車両はその後約 1 秒間停止します。

▶ 発進します。

ヒルスタートアシストは以下のときは作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- トランスミッションがポジション N のとき
- 電気式パーキングブレーキが効いているとき
- ESP® が故障しているとき

ECO スタートストップ機能

重要な安全上の注意

⚠ 警告

エンジンが停止しているときにマルチファンクションディスプレイにECO インジケーターが表示されているときは、エンジンが自動的に停止しています。しかし、車両のすべてのシステムは機能しています。シートベルトを着用していない状態やブレーキペダルから足を放した状態でドアを開くと、エンジンは自動的に再始動します。車が動き出します。事故やけがをするおそれがあります。車両の予期しない発進を防ぐため、走行を開始するまではブレーキペダルから足を放さないでください。

イグニッション位置を **0** にして、車が動き出さないように固定するまでは、車から離れないでください。

! 車から離れるときは、必ずイグニッション位置を **0** にして、キーを携帯してください。

全体的な注意事項

ECO スタートストップ機能は、車両が停止すると、自動的にエンジンを停止します。

再び発進しようとすると、自動的にエンジンが始動します。ECO スタートストップ機能は、燃料消費と排出ガスを低減させます。

エンジンを始動するたびに、ECO スタートストップ機能は待機状態になります。エンジン自動停止のすべての条件がそろっていて、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター ECO が表示されている場合は、システムは作動可能です。

エンジン自動停止のすべての条件がそろっていない場合は、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター ECO は表示されません。

ECO スタートストップ機能が解除されたときは、ECO インジケーター ECO は表示されません。

エンジンの自動停止

車両にブレーキを効かせて停止し、トランスミッションのポジションが **D** または **N** でブレーキペダルを踏み続けている場合は、ECO スタートストップ機能は自動的にエンジンを停止します。

エンジンは以下のときにのみ停止します。

- 車両が停止しているとき
- 外気温度がシステムに適した範囲内にあるとき
- エンジンが正常な作動温度にあるとき
- 車内の温度がエアコンディショナーの作動温度になっているとき
- バッテリーが十分に充電されているとき
- エアコンディショナーが作動しているときに、システムがフロントウインドウの曇りを検知していないとき

- ボンネットが閉じているとき
- エンジン関係の診断を行なっていないとき
- 運転席ドアが閉じていて、運転席側のシートベルトのバックルが差し込まれているとき

ⓘ トランスミッションを **R** から **D** にシフトした場合は、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター ECO が表示された後に ECO スタートストップは再度作動します。

ⓘ エンジンは連続して最大 4 回（最初の停止と､それに続く 3 回の停止）まで自動的に停止します｡その後は､マルチファンクションディスプレイに再度 ECO インジケーター ECO が表示されるまでは、エンジンの自動停止は作動しません。

ⓘ 車が停車していてエンジンが自動停止しているときは、ホールド機能を作動させることができます。その場合はブレーキを効かせ続ける必要はありません。アクセルペダルを踏むとエンジンが自動的に始動し、ホールド機能のブレーキ作動は解除されます。最初にエンジンを始動させる必要があるため、アクセルペダルは静かに踏み込んでください。

ⓘ エンジンが自動的に停止しているときは、エアコンディショナーの作動能力が低下します。最大限の能力でエアコンディショナーを作動させたいときは、ECO スタートストップスイッチを押して、ECO スタートストップ機能を解除してください。

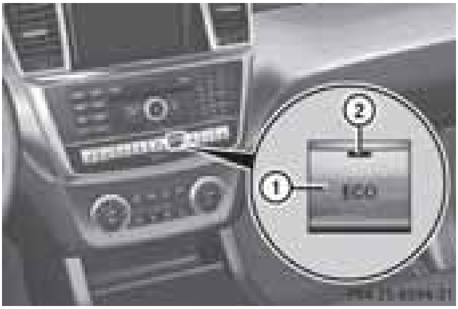
エンジンの自動再始動

エンジンは以下のときに自動的に始動します。

- アクセルペダルを踏んだとき
- ホールド機能が作動していない状態で、トランスミッションがポジション **D** または **N** のときに、ブレーキペダルから足を放したとき
- ECO スタートストップスイッチを押して、ECO スタートストップ機能を解除したとき
- 車両が動き出したとき
- 運転席の乗員がシートベルトを外すか、運転席ドアを開いたとき
- リバース **R** にシフトしたとき
- オフロードモードを設定したとき
- ブレーキシステムが要求したとき
- エアコンディショナーが作動しているときに、システムがフロントウインドウの曇りを検知したとき
- バッテリーの充電状態が低すぎるとき
- 車内の温度が作動温度になっていないとき

ⓘ トランスミッションをポジション **P** にしても､エンジンは始動しません。

ECO スタートストップ機能の解除 / 作動



ECO スタートストップスイッチ

ℹ 表示灯 ② が消灯しているときは、ECO スタートストップ機能は手動により作動が解除されているか、故障が発生しています。停車しても、エンジンは自動的に停止しません。

ℹ エンジンを再始動したときは、ECO スタートストップ機能は毎回待機状態になります。

解除する

▶ スイッチ ① を押します。

スイッチ ① の表示灯 ② とマルチファンクションディスプレイの ECO インジケーター ECO が消えます。

▶ **待機状態にする：**スイッチ ① を押します。

表示灯 ② が点灯します。エンジン自動停止のすべての条件（▷137 ページ）がそろっているときは、マルチファンクションディスプレイに ECO インジケーター ECO が表示されます。

ECO スタートストップ機能のすべての作動条件がそろっていないときは、マルチファンクションディスプレイには ECO インジケーター ECO は表示されません。この場合には、ECO スタートストップ機能は使用できません。

エンジンのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムに異常がある。 • 燃料供給に異常がある。 ▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを **0** の位置にまわすか、キーレスゴースイッチを押して、イグニッション位置を **0** にしてください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 何度始動を試みても、エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がする。燃料残量警告灯が点灯し、燃料計の指針が **0** を示している。	燃料タンクが空になっている。 ▶ 給油してください。
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている。 ▶ ジャンプスタートしてください（▷285 ページ）。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 過度の負荷によりスターターモーターが過熱している。 ▶ スターターが冷えるまで、約 2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。 ▶ アクセルペダルを静かに踏み込んでください。 さもないと、未燃焼の燃料が触媒に入り、損傷するおそれがあります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
冷却水温度が約120℃を超えている。冷却水警告灯が点灯し、警告音も鳴った。	リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ すみやかに安全に停車して、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ 冷却水量を点検してください（▷259 ページ）。必要であれば、冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください（▷259 ページ）。
	冷却水量が正常なときは、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで運転してください。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

オートマチックトランスミッション

重要な安全上の注意

⚠ 警告

決してペダル操作が妨げられることがないように十分注意してください。運転席の足元には物を置かないでください。運転席の足元にフロアマットやカーペットを敷くときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。

フロアマットを重ねて使用しないでください。

⚠ 警告

滑りやすい路面を走行するときは、シフトダウンにより急激なエンジンブレーキを効かせないでください。 駆動輪がグリップを失い、車が横滑りする原因になります。車のコントロールを失い、事故の原因になります。

DIRECT SELECT レバー

シフトポジションの概要

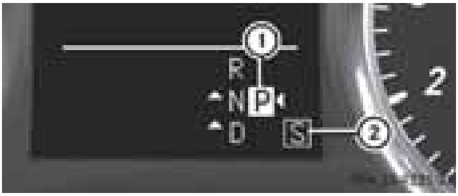
DIRECT SELECT レバーは、ステアリングの右側にあります。

P パーキングロック付きパーキングポジション
R リバース
N ニュートラル
D ドライブ

ℹ DIRECT SELECT レバーから手を放すと、自動的に中立の位置に戻ります。現在のトランスミッションのポジション **P**、**R**、**N** または **D** は、マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示（▷143 ページ）に表示されます。

トランスミッションのシフトポジションの表示

現在のトランスミッションのシフトポジションは、マルチファンクションディスプレイに表示されます。



① トランスミッションのシフトポジション表示
② 日本仕様車には表示されません

ℹ シフトポジション表示の矢印は、DIRECT SELECT レバーで選択できるシフトポジションとその方向を示しています。

! マルチファンクションディスプレイにトランスミッションのシフトポジションが表示されないときは、選択したシフトポジションにあるかどうかを調べるために慎重に発進してください。理想的には、トランスミッションのシフトポジションを **D** にして、ギアレンジは制限しないでください。

パーキングポジション P に入れる

▶ DIRECT SELECT レバーを矢印 **P** の方向に押します。

ℹ 車が停車しているとき、またはトランスミッションがポジション **D** か **R** で、ごく低速で走行しているときに運転席ドアを開くと、自動的にパーキングポジション **P** にシフトされます。

ℹ ブレーキペダルを踏み、DIRECT SELECT レバーを上または下に操作すると、パーキングロックが解除され、トランスミッションがニュートラル **N** にシフトします。

トランスミッションをパーキングポジション **P** から直接 **D** か **R** にシフトするには、ブレーキペダルを踏み、DIRECT SELECT レバーを上または下に抵抗がある位置を越えて押します。

! エンジン回転数が高すぎるときは、**D** から **R**、**R** から **D** に直接、または **P** に直接、オートマチックトランスミッションをシフトしないでください。さもないと、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

自動的なパーキングポジション P へのシフト

以下のときは、自動的にパーキングポジション **P** に入ります。

- キーを使用してエンジンを停止し、キーを抜いたとき、または、キーレスゴースイッチ * を使用してエンジンを停止し、いずれかのフロントドアを開いたとき
- ホールド機能（▷169 ページ）が車両にブレーキを効かせ、以下の条件が満たされたとき
  - システムに故障がある
  - 車両が緩い上り坂または下り坂にある。その後、電気式パーキングブレーキが効きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リバースギア R に入れる

! 必ず停車してからトランスミッションを **R** にシフトしてください。

▶ DIRECT SELECT レバーを、抵抗がある位置を越えて上に押します。

ニュートラル N での ECO スタートストップ機能の作動

ニュートラル **N** でブレーキペダルを踏み続けているときは、車両が停止するまでブレーキを効かせると、ECO スタートストップ機能によりエンジンが自動的に停止します。

ECO スタートストップ機能について、詳しくは（▷137 ページ）をご覧ください。

ニュートラル N にシフトする

▶ DIRECT SELECT レバーを、抵抗がある位置まで上または下に押します。

ドライブポジション D での ECO スタートストップ機能の作動

ドライブポジション **D** でブレーキペダルを踏み続けているときは、車両が停止するまでブレーキを効かせると、ECO スタートストップ機能によりエンジンが自動的に停止します。

ECO スタートストップ機能について、詳しくは（▷137 ページ）をご覧ください。

ドライブポジション D に入れる

▶ DIRECT SELECT レバーを、抵抗がある位置を越えて下に押します。

シフトポジション

P	**パーキングポジション** 停止中に車両が動き出すのを防ぎます。停車しているとき以外はトランスミッションをポジション **P** にシフトしないでください。 以下のときは、オートマチックトランスミッションが自動的に **P** にシフトします。 • キーを抜いたとき • **D** または **R** のときにエンジンを停止し、いずれかのフロントドアを開いたとき
R	**リバースギア** 停車しているときにのみ、トランスミッションを **R** にシフトしてください。
N	**ニュートラル** 走行している間は、トランスミッションを **N** にシフトしないでください。さもないと、トランスミッションを損傷するおそれがあります。 エンジンから駆動輪に動力が伝達しません。 押したりけん引するときなどに、ブレーキを解除すると車両を動かすことができます。 ESP® の機能が解除されているときや異常がある場合は、凍結路などで車がスリップする危険があるときにのみ、トランスミッションを **N** にシフトしてください。

N	キーまたはキーレスゴー * によりエンジンを停止すると、オートマチックトランスミッションが自動的にニュートラル N にシフトします。 ! ニュートラル N で車両を動かすと、トランスミッションの損傷につながります。
D	**ドライブ** オートマチックトランスミッションが自動変速します。すべての前進ギアを使用できます。

ギアシフト操作

オートマチックトランスミッションは、トランスミッションのポジションが D のときに自動的に変速を行ないます。ギアシフトは以下により決定されます。

- 選択されているときは、ギアレンジ
- 選択された走行モード
- アクセルペダルの踏み具合
- 走行速度

運転のヒント

アクセルペダルの位置

運転スタイルは以下のようにオートマチックトランスミッションの変速に影響を与えます。

- 軽く踏んだときは、早くシフトアップします。
- 深く踏み込んだときは、遅くシフトアップします。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

▶ アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速します。

▶ 希望する速度に達したら、アクセルペダルをゆるめます。

オートマチックトランスミッションが元のギアにシフトアップします。

パドル

ステアリングのパドル ① と ② を使用して、ギアレンジを狭くしたり、または広くすることができます（▷146 ページ）。

i パドルによるギアシフト操作は、トランスミッションがポジション D のときにのみ行なえます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ティップシフト

はじめに

オートマチックトランスミッションがポジション **D** のときは、ギアレンジを狭くしたり。広げることができます(▷144 ページ)。

選択されたギアレンジはマルチファンクションディスプレイに表示されます。オートマチックトランスミッションは、選択されたギアの範囲内でのみシフトされます。

ギアレンジ	
3	エンジンブレーキを効かせるために使用
2	以下のような下り坂で走行しているときに、エンジンブレーキを効かせるために使用 • 急な坂道 • 山道 • 過酷な状況
1	非常に急な下り坂や長い下り坂などでエンジンブレーキを効かせるために使用

ギアレンジを狭くする

▶ 左側のパドルを引きます。

オートマチックトランスミッションがシフトダウンし、応じたギアにギアレンジを狭くします。

ⓘ シフトダウンするときにエンジンの最大回転数を超える場合は、シフトダウンを行なわないことでオートマチックトランスミッションはエンジンの損傷を防ぎます。

ⓘ ギアレンジに対応するエンジンの最大回転数に達し、さらに加速を続けた場合は、エンジンの過回転を防ぐため、ギアレンジが狭くなっていてもオートマチックトランスミッションはシフトアップします。

ギアレンジを広くする

▶ 右側のパドルを引きます。

ギアレンジが広くなります。

ギアレンジの制限を解除する

▶ マルチファンクションディスプレイに **D** が再表示されるまで、右側のパドルを引いて保持します。

オートマチックトランスミッションが現在のギアレンジから直接 **D** にシフトします。

または

▶ DIRECT SELECT レバーを使用して、トランスミッションをポジション **D** にシフトします。

オートマチックトランスミッションが現在のギアレンジから直接 **D** にシフトします。

理想的なギアレンジを選択する

▶ 左側のパドルを引いて保持します。

オートマチックトランスミッションは最適な加減速を行なうことができるギアにシフトします。このために、オートマチックトランスミッションは、1 つまたはそれ以上低いギアにシフトダウンします。

オートマチックトランスミッションのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションがエマージェンシーモードになっている。 このときは、2 速ギアまたはリバースギアにのみシフトすることができます。 ▶ 停車します。 ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ エンジンを再始動する前に、少なくとも約 10 秒間待ちます。 ▶ トランスミッションをポジション **D** または **R** にシフトします。 ポジション **D** にしたときは、トランスミッションが 2 速ギアになります。 ポジション **R** にしたときは、トランスミッションがリバースギアにシフトします。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

燃料の給油

重要な安全上の注意

⚠ **警 告**

燃料は高い可燃性です。そのため、燃料を取り扱うときに火気を近付けたり、近くで喫煙をすることは禁じられています。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ **警 告**

燃料に触れないようにしてください。

燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

! ガソリンエンジン車に軽油を給油しないでください。たとえ少量でも誤った燃料が混入すると、燃料システムとエンジンを損傷するおそれがあります。

! 誤って指定以外の燃料を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。さもないと、誤った燃料が燃料系部品全体にまわるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料装置から燃料を完全に抜き取ってください。

! 燃料を入れすぎると、燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。

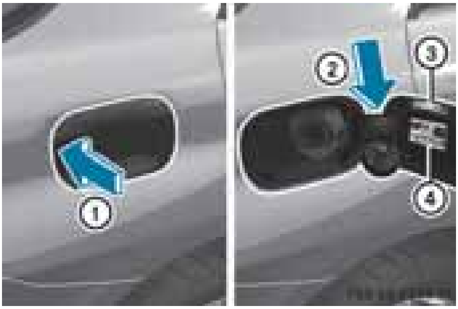
! 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。さもないと、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 燃料携行缶から燃料を補給するときは、フィルターを使用してください。燃料携行缶に付着した微粒子によって、燃料系の配管や燃料噴射システムの部品が詰まるおそれがあります。

燃料と燃料の規格について、詳しくは " 燃料 " の章（▷314 ページ）をご覧ください。

燃料を給油する

燃料給油口



① 燃料給油フラップを開く
② キャップを差し込む
③ 使用燃料ラベル *
④ タイヤ空気圧ラベル

キーまたはキーレスゴー * を使用して車を解錠または施錠すると、燃料給油フラップも自動的に解錠 / 施錠されます。

メーターパネル内には、給油口の位置を示す ⛽ が表示されています。給油ノズルの横の矢印は、給油口の取り付け位置を示しています。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

開く

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ キーレスゴー装備車は、運転席ドアを開きます。

イグニッション位置が **0** で、キーを抜き取った状態と同じになります。

運転席ドアを再び閉じることができます。

▶ 燃料給油フラップを矢印 ① の方向に押します。

燃料給油フラップが少し開きます。

▶ キャップを反時計回りにまわして取り外します。

▶ 外したキャップを燃料給油フラップの裏側にあるホルダーに差し込みます。

▶ 給油ノズルを奥まで差し込み、給油を開始します。

▶ 給油ノズルが自動停止した時点で給油を停止します。

ⓘ 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。さもないと、燃料があふれるおそれがあります。

閉じる

▶ キャップを燃料給油口に合わせ、カチッという音がするまで時計回りにまわします。

▶ 燃料給油フラップを閉じます。

燃料と燃料タンクのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
燃料が漏れている。	⚠ **火災や爆発のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにイグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶ 車を解錠してください（▷74 ページ）。 または ▶ エマージェンシーキーを使用して解錠してください（▷75 ページ）。
	燃料給油フラップは解錠されるが、給油フラップの開閉機構に異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

駐車

重要な安全上の注意

⚠ 警 告

キーが抜かれているとステアリングの操作ができなくなるため、必ず停車しているときにエンジンからキーを抜いてください。

決して子供だけを車内に残さないでください。電気式パーキングブレーキを解除するおそれがあります。重大な、または致命的なけがにつながるおそれがあります。

⚠ 警 告

排気システムには、枯れ草や油などの可燃物が絶対に触れないようにしてください。乾いた草地などには駐車しないでください。高温の排気システムにより可燃物が発火して、車両火災を起こすおそれがあります。

駐車時に車が不意に動き出さないように、以下により車を確実に固定してください。

- 電気式パーキングブレーキを必ず効かせる
- トランスミッションをポジション P にして、必ずエンジンスイッチからキーを抜く
- 上り坂または下り坂では、前輪を歩道の縁石に向ける

エンジンの停止

重要な安全上の注意

⚠ 警 告

走行中はエンジンを停止しないでください。

エンジンが停止しているときは、ブレーキのパワーアシストが作動しなくなります。イグニッション位置が **0** のときは、パワーステアリングも作動しなくなります。

ステアリングとブレーキの操作に非常に大きな力が必要になるため、車両のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

▶ 電気式パーキングブレーキを効かせます。

▶ トランスミッションをポジション P にシフトします。

キーによる操作

▶ キーをまわして、イグニッション位置を **0** にしてから、キーを抜きます。

イモビライザーが作動します。

ℹ トランスミッションがポジション R または D のときにエンジンを停止すると、オートマチックトランスミッションは自動的に N にシフトします。

その後、いずれかのフロントドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、オートマチックトランスミッションは P にシフトします。

エンジンを停止する前にオートマチックトランスミッションを N にシフトしたときは、ドアを開いても、オートマチックトランスミッションは N のままになります。

キーレスゴーによる操作 *

▶ キーレスゴースイッチを押します（▷133 ページ）。

エンジンが停止し、メーターパネルのすべての表示灯が消灯します。

ℹ キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止すると、オートマチックトランスミッションは自動的に N にシフトします。その後、いずれかのフロントドアを開くと、オートマチックトランスミッションは P にシフトします。

ℹ 車両が動いている間は、キーレスゴースイッチを約 3 秒間押すことによりエンジンを停止することができます。この機能は ECO スタートストップのエンジン停止機能とは独立して作動します。

電気式パーキングブレーキ

全体的な注意事項

ℹ 電気式パーキングブレーキは、エンジンが停止すると定期的に機能チェックを行ないます。作動音が発生しますが、異常ではありません。

手動での作動 / 解除

▶ **作動させる：**ハンドル ① を押します。

メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯 Ⓟ が点灯します。

ℹ 電気式パーキングブレーキは、エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときも効かせることができます。

▶ **解除する：**ハンドル ① を引きます。

メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯 Ⓟ が消灯します。

ℹ 電気式パーキングブレーキは、イグニッション位置が **1** か **2** のとき、または、キーレスゴースイッチで操作するときはイグニッション位置が **2** のときにのみ解除することができます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

自動作動

ホールド機能が車両を停止状態に保っているときには、車両の電気式パーキングブレーキが自動的に作動します。さらに、最低でも以下の条件のうち 1 つが満たされる必要があります。

- エンジンが停止している
- 運転席ドアが開いていて、運転席の乗員がシートベルトを外している
- 車両が長時間停車している

メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯 Ⓟ が点灯します。

ⓘ ECO スタートストップ機能によりエンジンが停止したときは、電気式パーキングブレーキは自動的に作動しません。

自動解除

車両の電気式パーキングブレーキは、以下の作動条件がすべて満たされたときに自動的に解除されます。

- エンジンがかかっている
- トランスミッションがポジション **D** か **R** になっている
- シートベルトを着用している
- アクセルペダルを踏んだ

トランスミッションがポジション **R** のときは、テールゲートが閉じていなければなりません。

シートベルトが着用されていないときに電気式パーキングブレーキが自動解除されるには、以下の条件が満たされている必要があります。

- 運転席ドアが閉じている
- トランスミッションをポジション **P** 以外にシフトしたか、あるいは以前に約 3km/h 以上の速度で走行した

緊急ブレーキ

緊急時には、電気式パーキングブレーキスイッチを使用してブレーキを効かせることができます。

▶ 走行しているときに、電気式パーキングブレーキのハンドル ① を押します（▷152 ページ）。

ⓘ ハンドル ① を押している間、車両にブレーキが効きます。ハンドル ① を押し続けるに従い、ブレーキの制動力は強くなります。

ブレーキ作動時には以下のようになります。

- 警告音が鳴ります。
- ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷ 解除してください というメッセージが表示されます。
- メーターパネルの赤色のパーキングブレーキ表示灯 Ⓟ が点滅します。

車両にブレーキが効いて完全に停車すると、電気式パーキングブレーキが効いた状態になります。

長期間駐車するとき

約 4 週間以上駐車したままにすると、バッテリーが完全放電して損傷するおそれがあります。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーからケーブルを外すか、バッテリー充電器を接続してください。

ℹ バッテリー充電器については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

約 6 週間以上駐車したままにすると、不具合が発生するおそれがあります。

▶ 対応について、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

走行時の注意

全体的な走行時の注意

惰行運転中のエンジン停止

⚠ **警 告**

走行中は決してエンジンを停止しないでください。

エンジンが停止しているときは、ブレーキの制動力ブースターは作動しません。

ステアリングとブレーキの操作に非常に大きな力が必要になるため、車両のコントロールを失い、事故につながるおそれがあります。

ブレーキ

重要な安全上の注意

⚠ **警 告**

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。 駆動輪がグリップを失い、車両が横すべりするおそれがあります。

⚠ **警 告**

ブレーキ操作が、後続車などに危険をおよぼすことがないように注意してください。

下り坂の傾斜

長く急な下り坂で、特に荷物を積んでいるときは、適時シフトレンジを **1**、**2**、または **3** に選択する必要があります。

ℹ クルーズコントロールや可変スピードリミッターの作動中も、このことが当てはまります。

エンジンブレーキを併用することにより、車両の加速を抑えるために必要なブレーキを軽減することができます。これにより、ブレーキシステムへの負荷が減り、ブレーキの過熱を防ぐことができます。また、ブレーキの摩耗を防ぐことができます。

強い負荷および弱い負荷

⚠ **警告**

ブレーキペダルの上に常に軽く足を置くなど、決してブレーキを踏んだ状態で運転しないでください。ブレーキシステムが過熱して、制動距離が長くなり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキに高い負担がかかったときは、ただちに停車するのではなく、しばらく走行を続けてください。ブレーキに風を当てることにより、より早く冷却することができます。

ブレーキを効かせずに長時間走行したときなどは、時々ブレーキの効きを確かめてください。このためには、高い速度から強めにブレーキを効かせます。これにより、ブレーキの効きが向上します。

濡れた路面

激しい雨の中でブレーキを踏まずに長時間走行した後、最初にブレーキを踏んだときにブレーキの反応時間が遅れることがあります。洗車直後も同様の反応が起こることがあります。

滑りやすい路面では、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。前車との車間距離を十分に保ってください。

滑りやすい路面の走行後や洗車直後は、周囲の道路状況に注意しながらブレーキを強めに効かせてください。これによりブレーキディスクを暖め、より早く乾燥させて腐食を防ぐことができます。

凍結防止剤が撒かれた路面でのブレーキ性能の制限

⚠ **警告**

ブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングに塩分が付着すると、ブレーキの効きが悪くなるため、制動距離が大幅に長くなり、事故につながるおそれがあります。

危険を回避するために、以下の操作を行なってください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したときは、周囲の交通を妨げないように注意しながら数回に分けてブレーキを効かせてください。ブレーキペダルを数回踏むことにより、ブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングに付着した塩分を除去することができます。
- 前車との車間距離を十分に確保して、慎重に運転してください。
- 車両を駐車する前や発進直後には注意してブレーキを効かせ、ブレーキディスクから塩分を除去するようにしてください。

新品のブレーキパッド / ライニング

⚠ **警告**

新品のブレーキパッド / ライニングは、走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最適な制動性能に達するまでは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。これは、ブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングを交換した後についても適用されます。

安全上の理由により、メルセデス・ベンツ車のために承認された、または品質基準に適合したブレーキパッド / ライニングのみを装着することをお勧めします。メルセデス・ベンツ向けに承認されていない、または品質基準に適合しないブレーキパッド / ライニングは、安全な車両操縦性に影響をおよぼすおそれがあります。

タイヤのグリップについて

⚠ **警告**

濡れた路面や凍結した路面で車両を完全にコントロールするためには、乾燥した路面を走行するときよりも低い速度で走行してください。さもないと、事故を起こすおそれがあります。

外気温度が低いときは、路面の状態に十分注意してください。

路面が凍結しているときは、ブレーキ時にタイヤと路面の間に薄い水の層が形成され、タイヤのグリップが大きく低下します。そのような天候状況では、十分注意して走行してください。

濡れた路面での走行

ハイドロプレーニング現象

路面に一定以上の深さまで水がたまると、以下の状況でもハイドロプレーニング現象が発生することがあります。

- 低い速度で走行している
- タイヤトレッドの溝の深さが十分にある

この理由により、水たまりやわだちを避け、注意してブレーキを効かせてください。

冠水路の走行

冠水した道路を走行しなければならないときは、以下の点に注意してください。

- 許容されている最大水深は車両の装備により異なります。
- 波が立たないような速度で走行してください。

! 前方を走行する車両や対向車からも波が発生することに注意してください。これにより、最大水深を超えることがあります。

状況を問わず、これらの注意事項を守ってください。さもないと、エンジン、電気装備またはトランスミッションを損傷するおそれがあります。

河川などを渡るとき

以下の表は、積載および走行準備が整った車両の最大許容水深値 ① を示します。

積載および走行準備が整った車両とは、燃料を最大に給油し、すべての油脂類が十分に補給され、運転者が乗車した状態です。

最大許容水深値
約 50cm

! 水の深さは、表に記された最大許容水深値を超えないようにしてください。水流があるところでは、最大許容水深値は低くなることがあります。

- 走行前に水深と水流の状況を確認してください。
- ティップシフトでギアレンジ **1** または **2** を選択してください。
- エンジンを高回転までまわさないでください。
- 水に入るときと出るときは水平な場所を選択し、人が歩くくらいの速度で走行してください。

! 水に入るときは、絶対に加速しながら進入しないでください。波が立ちエンジンや車体を損傷するおそれがあります。

- ゆっくりと一定の速度を保って走行してください。
- 途中で停車しないでください。

! 河川を渡っている途中でドアを開かないでください。さもないと、水が車内に入り、車両の電気装備や内装を損傷するおそれがあります。

- 水の中は抵抗が大きく、川底も滑りやすいため、場合によっては不安定になります。そのため、水の中での発進は困難かつ危険です。
- 波を立てないように走行してください。
- 河川を渡った後は、タイヤの溝を洗浄し、付着した泥などを取り除いてください。
- 河川を渡った後は、ブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキパッドを乾かしてください。

寒冷時の走行

重要な安全上の注意

⚠ **警 告**

雪道で動けなくなったときは、マフラーと車両の周囲から雪を取り除いてからエンジンを始動してください。さもないと、有害な一酸化炭素（CO）を含む排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

新鮮な空気により十分な換気を行なうため、風に面していない側のウインドウを少し開いてください。

冬になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で車両に寒冷時の対応作業を行なってください。

" 冬季の使用 " に記載されている注意事項を守ってください（▷300 ページ）。

サマータイヤでの走行

" 冬季の使用 " に記載されている注意事項を守ってください（▷300 ページ）。

滑りやすい路面

⚠ **警 告**

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。 ブレーキにより駆動輪がグリップを失い、車両が横滑りするおそれがあります。

滑りやすい路面では、特に慎重に走行してください。 急加速、急ハンドル、急ブレーキなどは避けてください。

車両がスリップしやすいとき、または低速走行中に停止できないときは、以下の指示に従ってください。

▶ トランスミッションをポジション **N** にシフトします。

▶ ステアリングの修正操作により、車両の操縦性を確保します。

ℹ スノーチェーン装着時の走行について、詳しくは（▷301 ページ）をご覧ください。

オフロードを走行するとき

重要な安全上の注意

⚠ **警 告**

オフロードを走行するときは、普段より慎重に運転してください。障害物などが見つけやすくなることにより、事故を未然に防ぐことができます。

山道では U ターンしないでください。さもないと、車両が横転するおそれがあります。坂が急勾配で上り切れない場合は、リバースギア **R** で後退して下りてください。

斜面を斜めに走行しないでください。さもないと、車両が横転するおそれがあります。斜面を斜めに走行する必要があり、万一横転しそうになった場合は、ただちに斜面の下り側へステアリングをまわし、姿勢を立て直してください。

車を惰性で後退させないでください。ポジション **N** のときはエンジンブレーキが効きません。ブレーキペダル操作だけでは、車両のコントロールを失うおそれがあります。

⚠ **警 告**

砂や汚れた粒子などがブレーキシステムに混入することがあります。これにより、過度の摩耗やブレーキの誤作動につながるおそれがあります。

ブレーキが汚れた状況にさらされた後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でブレーキシステムの点検と洗浄を行なってください。さもないと、緊急ブレーキ時などに十分なブレーキ力が得られなかったり、ブレーキが誤作動するおそれがあります。

⚠ **警 告**

車両の損傷は、運転者や他の道路使用者の事故の危険につながります。損傷しているおそれがあるときは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

一般的な注意事項

オフロードを走行する前に、下記の文章をお読みください。最初はより穏やかなオフロードで練習走行をしてください。

以下の装備により、オフロードでの走行が適正化されます。

- オフロードモード（▷189 ページ）
- オフロード ABS（▷56 ページ）
- オフロード 4TES（▷58 ページ）
- オフロード ESP®（▷60 ページ）
- DSR（▷187 ページ）

以下の事項を守ってください。

- オフロードを走行する前に、停車して、必要に応じてオフロードモードを作動させてください。
- 路面の状況を確認し、常に十分な地上高を確保して走行してください。
- 荷物が確実に収納されていること、または確実に固定されていることを確認してください。
- 坂を下るときは、常にエンジンをかけ、ギアを走行位置にしてください。DSR を作動させてください。
- ゆっくりと一定の速度で走行し、必要に応じて、人が歩くくらいの速度で走行してください。
- 常にタイヤが地面に接していることを確認してください。
- 視界が悪く地形や路面の状況が把握できないときは、最大限の注意を払ってください。安全上の理由により、走行する前に車から降りて、危険がないことを確認してください。
- やむを得ず河川などを渡るときは、走行前に水深と川底の状況を確認してください。
- 岩、穴、木の切り株、溝など、大きな障害物を避けて走行してください。
- 上り坂や下り坂で曲がるときや傾斜を横切るときは注意してください。車両が横転するおそれがあります。
- 走行中は、ドアウインドウとパノラミックスライディングルーフ * を閉じてください。
- ルートを外れて走行しないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ 装着可能なオールシーズンタイヤの情報については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

環 境

環境に配慮して走行し、自然破壊をしないでください。

オフロードを走行する前に

▶ **エンジンオイル量：**エンジンオイル量を点検し、必要であれば補給してください。

坂道を走行するときは、車両へのオイルの循環を十分にするため、オイル量は必ず高いレベルにしてください。

▶ **タイヤ交換工具：**ジャッキが正常に動くか点検し、けん引用ケーブルや折りたたみ式スコップなどを車両に積んでいることを確認してください。

▶ **ホイールとタイヤ：**タイヤの溝の深さと空気圧を点検してください。

▶ ホイールとタイヤに損傷がないか点検し、小石などの異物が挟まっている場合は取り除いてください。

▶ バルブキャップが紛失している場合は、取り付けてください。

▶ リムが歪んでいたり損傷があるホイールは交換してください。

▶ **ホイール：**リムが歪んでいたり損傷があるホイールは、空気圧の低下を引き起こし、タイヤのホイール接合部を損傷する原因になります。オフロードを走行する前にホイールを点検し、必要であれば交換してください。

オフロードを走行した後に

! オフロード走行後に車両の損傷を発見したときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オフロード走行時は、通常の走行時に比べて、車両に多くの負荷がかかります。オフロード走行後は車両を点検してください。これにより、損傷の早期発見や、運転者と他の道路使用者の事故の危険性を減少させることができます。

▶ オフロードモードを解除してください。

▶ DSR を解除してください。

▶ ヘッドライトとテールライトを洗浄し、損傷がないか点検してください。

▶ 前後のライセンスプレートを洗浄してください。

▶ ホイールとタイヤをスプレーガンなどで洗浄し、タイヤに挟まった異物を取り除いてください。

▶ ホイール、ホイールハウス、車体下部をスプレーガンなどで洗浄し、異物の挟み込みや損傷がないか点検してください。

- ▶ 植物や枝などが車体や駆動部に挟まっていないか点検してください。これらが挟まっていると火災の危険があるほか、燃料系部品、ブレーキホース、アクスルジョイントやドライブシャフトのカバーなどを損傷するおそれがあります。
- ▶ 車両の底部、タイヤ、ボディ、ステアリング、駆動系部品、排気系部品などに損傷がないか点検してください。
- ▶ 砂地、泥地、砂利道、水の中などを走行した後は、ブレーキディスク、ホイール、ブレーキパッド / ライニング、アクスルジョイントを点検し、掃除してください。
- ▶ 走行中に強い振動を感じる場合は、ホイールの隙間や駆動部などに異物がかみ込んでいないか点検し、必要であればそれらを取り除いてください。異物によりホイールバランスが狂い、振動の原因になります。

砂地を走行するとき

砂地を走行するときは、以下の注意に従ってください。

- オフロードモードを選択してください（▷189 ページ）。
- 砂地の状況に合わせて、ティップシフトでギアレンジを選択してください。
- 走行抵抗が大きいため、やや速度を上げて走行してください。さもないと、車両が砂地に埋まるおそれがあります。
- 他の車両が残した浅いわだちをなぞって走行してください。わだちは深すぎず、十分なかたさがあり、車両の底部との間に十分な間隔があることを確認してください。

わだちや砂利道を走行するとき

不整地でのわだちや砂利道を走行するときは、以下の注意に従ってください。

! わだちが深すぎず、車両の底部との間に十分な間隔があることを確認してください。さもないと、車両を損傷したり、タイヤが地面から離れて走行不能になるおそれがあります。

- オフロードモードを作動させてください。
- エンジンを高回転までまわさないようにしてください。
- ティップシフトでギアレンジを **1** に制限してください。
- 低速で走行してください。
- わだちが深い場合は、左右どちらかの車輪をわだちの間に乗せて走行してください。

障害物を乗り越えるとき

! 障害物により、車両の底部や車体、駆動部を損傷するおそれがあります。大きな障害物を乗り越えるときは、同乗者に車外から誘導してもらってください。車両に何らかの損傷がある場合は、常に事故の危険性が増加します。

木の切り株や大きな石、その他の障害物を乗り越えるときは、以下の注意に従ってください。

- オフロードモードを作動させてください。
- エンジンを高回転までまわさないようにしてください。
- ティップシフトでギアレンジを **1** に制限してください。
- ごく低速で走行してください。
- 障害物に対して直角になるようにして、障害物の中央を乗り越えてください。

坂道を走行するとき

アプローチ / デパーチャアングル

以下の表は、積載および走行準備が整った車両のアプローチアングル ① およびデパーチャアングル ② を示します。

積載および走行準備が整った車両とは、燃料を最大に給油し、すべての油脂類が十分に補給され、運転者が乗車した状態です。

①	①[1]	②
約 26°	約 25°	約 25°

1）AMG スポーツパッケージ装備車

- 坂道はできるだけまっすぐに上り、まっすぐに下りてください。
- 急な斜面を走行するときは、オフロードモードを作動させてください。
- オフロード走行時の警告をお読みください（▷158 ページ）。
- 低速で走行してください。
- アクセルペダルはゆっくり踏み込み、タイヤを空転させないようにしてください。
- 砂地や泥地などの走行抵抗の大きい路面以外では、エンジン回転数を上げ過ぎないようにしてください。
- 坂の勾配に応じてシフトレンジを選択してください。
- 急な斜面を下る前に、ティップシフトでギアレンジ **1** を選択してください。

急勾配の坂道

路面状態が良い状況では、急勾配の坂道を上ることができます。

ℹ 急勾配の坂で前輪の荷重が不足したときは、前輪は空転しやすくなります。このような状況を検知すると ETS が作動し、自動的にブレーキ制御を行ないます。これにより後輪へのトルク配分が増えて登坂能力が増します。

坂を上り切ったとき

坂を上るときは、坂の頂上に達する直前にアクセルペダルを少しゆるめてください。頂上を越えるために、車両自体の勢いを使用してください。

この運転スタイルにより、以下のことが避けられます。

- 坂の頂上で車両が地面から持ち上がる
- 反対面で車両が急激に下る

坂を下るとき

- 低速で走行してください。
- 坂道はできるだけまっすぐに下りてください。前輪が斜面に対してまっすぐ下り方向を向いていることを確認してください。車両がスリップしたり、横倒しや横転するおそれがあります。
- 急な斜面を下る前に、ティップシフトでギアレンジ **1** を選択してください。
- DSR を作動させてください。DSR による制動力が不十分なときは、慎重にブレーキペダルを踏んでください。このときは、前輪が斜面に対してまっすぐ下り方向を向いていることを確認してください。
- 長い下り坂を走行した後は、必ずブレーキの効きが正常であることを点検してください。

ⓘ オフロードモードを作動させたときは、自動的にオフロード ABS になります。

走行速度が約 30km/h 以下のときは、ブレーキを効かせると前輪が周期的にロックします。地面を掘る効果により、オフロードでの制動距離を短くすることができます。前輪がロックしているときは、車両操縦性が著しく低下します。

走行装備

クルーズコントロール

重要な安全上の注意

⚠ **警 告**

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失い、車両が横滑りするおそれがあります。

⚠ **警 告**

クルーズコントロールは道路や交通事情を考慮することはできません。

クルーズコントロールが作動していても常に交通状況に注意してください。

クルーズコントロールは運転中に運転者を補助するためだけに設計されたものです。運転者は、車両の速度に注意して、適時減速する責任があります。

⚠ **警 告**

以下のときはクルーズコントロールを使用しないでください。

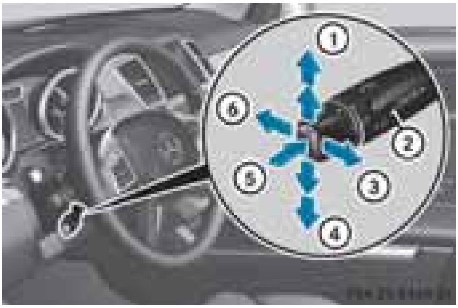
- 一定の速度を維持できないような道路や交通状況のとき（例えば、混雑した交通状況やカーブしている道路)。さもないと、事故を起こすおそれがあります。
- 滑りやすい路面。 ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が横滑りするおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪のときなど、十分な視界が得られないとき。

全体的な注意事項

クルーズコントロールは一定の走行速度を維持します。設定速度を超えないようにするために自動的にブレーキを効かせます。長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時ギアレンジを **1**、**2**、または **3** に選択する必要があります。そうすることにより、エンジンブレーキの効果を利用できます。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキが過熱して早く摩耗することを防ぎます。

道路や交通状況が長時間の一定速度の維持に適している場合にのみ、クルーズコントロールを使用してください。約 30km/h 以上の走行速度を記憶できます。

クルーズコントロールレバー



① 現在の走行速度に設定する、または設定速度を上げる
② LIM 表示灯
③ 現在の走行速度に設定する / 記憶されている前回の設定速度に設定する
④ 現在の走行速度に設定する、または設定速度を下げる
⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ クルーズコントロールを解除する

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールと可変スピードリミッターを操作できます。

▶ **可変スピードリミッターとクルーズコントロールを切り替える：**クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤ の方向に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② は、選択したシステムを示しています。

- **LIM 表示灯 ② が消灯：**クルーズコントロールが選択されています。
- **LIM 表示灯 ② が点灯：**可変スピードリミッターが選択されています。

クルーズコントロールを作動させると、記憶された速度がマルチファンクションディスプレイに約 5 秒間表示されます。その後、マルチファンクションディスプレイの下部にクルーズコントロールインジケーター と記憶された速度が表示されます。

作動条件

以下のすべての作動条件を満たしているときに、クルーズコントロールを作動させることができます。

- 電気式パーキングブレーキが解除されていること
- 約 30km/h 以上の速度で走行していること
- ESP® が待機状態になっていて、作動していないこと
- トランスミッションがポジション D にあること
- DSR が解除されていること
- クルーズコントロールが選択されていること

クルーズコントロールを選択する

約 30km/h 以上の速度を走行しているときは、現在の速度を記憶できます。

▶ 希望の速度に加速します。

▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く押します。

▶ アクセルペダルから足を放します。

クルーズコントロールが作動します。車両は自動的に記憶された速度を維持します。

ℹ クルーズコントロールは、急な上り坂では記憶された速度を維持できないことがあります。勾配が平坦になると記憶された速度に復帰します。クルーズコントロールは急な下り坂では自動的にブレーキを効かせることにより記憶された速度を維持します。

現在の速度を記憶する、または最後に記憶した速度を呼び出す

⚠ **警 告**

記憶されている速度を認識していて、また現在の交通や走行状況に合っているときにのみ、記憶させた速度を呼び出してください。さもないと、意図せずに突然の加速やブレーキ作動が起こり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向 ③ に軽く引きます。

▶ アクセルペダルから足を放します。

最初にクルーズコントロールを作動させたときは現在の速度が記憶され、または以前に記憶した速度に走行速度を制御します。

速度の設定

▶ クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に押します。

▶ 希望した速度に達するまでクルーズコントロールレバーを保持します。

▶ クルーズコントロールレバーから手を放します。

新しい速度が記憶されます。

▶ **1km/h 単位での調整：**クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に、抵抗がある位置まで軽く押します。

最後に記憶された速度が 1km/h 単位で上がる、または下がります。

▶ **10km/h 単位での調整：**クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に、抵抗がある位置を越えて軽く押します。

最後に記憶された速度が 10km/h 単位で上がる、または下がります。

ℹ クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏んでも解除されません。例えば、追い越しのために一時的に加速したときは、追い越しが完了した後に、クルーズコントロールは、最後に記憶された速度に車両の速度を調整します。

クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールを解除するにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ⑥ に軽く押します。

または

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤ の方向に軽く押します。

可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

クルーズコントロールは、以下のときに自動的に解除されます。

- 電気式パーキングブレーキを効かせたとき
- 走行速度が約 30km/h 以下になったとき
- ESP® が作動したときや、ESP® の機能を解除したとき
- DSR を設定したとき
- 走行中にポジション **N** にシフトしたとき

クルーズコントロールが解除されると、確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロール 解除というメッセージが約 5 秒間表示されます。

ℹ エンジンを停止すると、記憶されている速度は消去されます。

可変スピードリミッター

重要な安全上の注意

⚠ **警 告**

ブレーキペダルの上に常に軽く足を置くなど、決してブレーキを踏んだ状態で運転しないでください。ブレーキシステムが過熱して、制動距離が長くなり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

⚠ **警 告**

滑りやすい路面では、シフトダウン操作による急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失い、車両が横滑りするおそれがあります。

⚠ **警 告**

可変スピードリミッターは運転を補助するために設計されたものです。運転者は、車両の速度に注意して、適時減速する責任があります。

⚠ **警 告**

運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

可変スピードリミッターは、制限速度に設定された速度以上に加速する必要がないときにのみ使用してください。さもないと、事故を起こすおそれがあります。

以下の操作を行ない可変スピードリミッターを解除することによってのみ、記憶されている制限速度を超えて走行できます。

- クルーズコントロールレバーを使用する。
- アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込む（キックダウン）。

ブレーキペダルを踏んで可変スピードリミッターを解除することはできません。

全体的な注意事項

可変スピードリミッターは、設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時ギアレンジを **1**、**2**、または **3** に選択する必要があります。そうすることにより、エンジンブレーキの効果を利用できます。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキの過熱と早期の摩耗を防ぎます。制動力がより必要な場合は、継続的にではなく、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。

可変スピードリミッターまたはウィンタータイヤスピードリミッターを設定することができます。

- **可変スピードリミッター**

  市街地などの速度制限のためのものです。

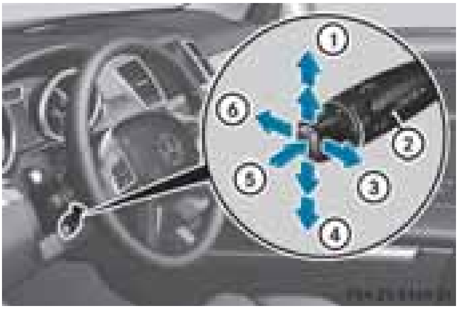
- **ウィンタータイヤスピードリミッター**

  ウィンタータイヤを装着して走行するときなど、速度を長期間制限するためのものです（▷208 ページ）。

ℹ スピードメーターに表示された速度は、記憶された制限速度と若干異なる場合があります。

可変スピードリミッター

クルーズコントロールレバー



① 現在の走行速度、またはより速い速度を記憶する
② LIM 表示灯
③ 現在の速度を記憶する、または最後に記憶した速度を呼び出す
④ 現在の走行速度、またはより遅い速度を記憶する
⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ 可変スピードリミッターを解除する

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールと可変スピードリミッターを操作できます。

▶ **可変スピードリミッターとクルーズコントロールを切り替える：**クルーズコントロールレバーを矢印 ⑤ の方向に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② は、選択したシステムを示しています。

- **LIM 表示灯 ② が消灯：**クルーズコントロールが選択されています。
- **LIM 表示灯 ② が点灯：**可変スピードリミッターが選択されています。

エンジンがかかっているときに、クルーズコントロールレバーを使用して、約 30km/h 以上の速度で制限できます。

可変スピードリミッターを作動する

エンジンがかかっているときに、クルーズコントロールレバーを使用して、約 30km/h 以上の速度を制限できます。

▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く押します。

現在の速度が記憶され、マルチファンクションディスプレイに記憶した速度が表示されます。

現在の速度を記憶する、または最後に記憶した速度を呼び出す

⚠ 警 告

記憶されている速度を認識していて、また現在の交通や走行状況に合っているときにのみ、記憶させた速度を呼び出してください。さもないと、意図せずに突然の加速やブレーキ作動が起こり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

▶ クルーズコントロールレバーを運転者の方向 ③ に軽く引きます。

速度の設定

▶ クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ④ に押します。

▶ 希望した速度に達するまでクルーズコントロールレバーを保持します。

▶ クルーズコントロールレバーから手を放します。

新しい速度が記憶されます。

▶ **1km/h 単位での調整：**クルーズコントロールレバーを抵抗がある位置まで軽く押します。

最後に記憶された速度が 1km/h 単位で上がる、または下がります。

▶ **10km/h 単位での調整：**クルーズコントロールレバーを抵抗がある位置を越えて軽く押します。

最後に記憶された速度が 10km/h 単位で上がる、または下がります。

可変スピードリミッターを解除する

⚠ **警 告**

ブレーキペダルを踏んで可変スピードリミッターを解除することはできません。

可変スピードリミッターを解除するためにはいくつかの方法があります。

▶ クルーズコントロールレバーを前方 ⑥ に軽く押します。

または

▶ クルーズコントロールレバーを矢印を ⑤ の方向に軽く押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が消灯します。可変スピードリミッターが解除されます。

クルーズコントロールが選択されます。

可変スピードリミッターは、以下のときに自動的に解除されます。

- アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込んだとき（キックダウン時）。ただし、記憶された速度より約 20km/h 以上低い速度までは解除されません。このときは警告音が鳴ります。
- DSR を設定したとき

ⓘ エンジンを停止すると、記憶されている速度は消去されます。

ウィンタータイヤスピードリミッター

マルチファンクションディスプレイを使用して、約 160 km/h（例えばウィンタータイヤで走行するとき）から最高速度までの間の値に、速度を常時制限できます（▷208 ページ）。

記憶された速度に到達する少し前に、マルチファンクションディスプレイに速度が表示されます。

可変スピードリミッターを解除しても、ウィンタータイヤスピードリミッターは作動したままになります。

アクセルペダルを抵抗がある位置を越えて踏み込んでも（キックダウン）、記憶された制限速度を超えることはできません。

ホールド機能

全体的な注意事項

ホールド機能は以下の状況で運転者を補助します。

- 特に急な坂道で発進するとき
- 急な坂道で車両を操作するとき

- 発進待ちをしているとき

運転者がブレーキペダルを踏まなくても、車両が停止した状態を保ちます。

発進するためにアクセルペダルを踏み込むと、ブレーキ効果が解除され、ホールド機能は解除されます。

作動条件

ホールド機能は以下のときに作動させることができます。

- 停車しているとき
- エンジンがかかっているとき、または ECO スタートストップ機能によりエンジンが自動的に停止しているとき
- 運転席ドアを閉じているとき、または運転席の乗員がシートベルトを着用しているとき
- 電気式パーキングブレーキが解除されているとき
- トランスミッションがポジション D、R、N のいずれかのとき

ホールド機能を作動させる

▶ 作動条件を満たしていることを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏みます。

▶ マルチファンクションディスプレイにホールド機能表示灯 HOLD が表示されるまで、ブレーキペダルを意識的に素早く深く踏み込みます。

ホールド機能が作動し、ブレーキペダルから足を放すことができます。

ⓘ 最初にブレーキペダルを踏んだときにホールド機能が作動しない場合は、少し待った後に再度試してください。

⚠ **警 告**

ホールド機能が作動しているときは車両にブレーキが効いています。この理由により、車両が他の方法で動かされる場合（例えば洗車機に入れる場合やけん引されるとき）にはホールド機能を解除してください。

ホールド機能を解除する

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- トランスミッションがポジション D または R のときに、アクセルペダルを踏んだとき
- トランスミッションをポジション P にシフトしたとき
- ある一定以上の強さでブレーキペダルを再度踏み、マルチファンクションディスプレイのホールド機能表示灯 HOLD が消灯したとき
- 電気式パーキングブレーキを効かせて車両を動かないようにしたとき

ⓘ 一定時間が経過すると、電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなり、ブレーキ作動の負荷を軽減します。

> ⚠ **警 告**
>
> ホールド機能が作動しているときは決して車両から降りないでください。
>
> ホールド機能は決して同乗者または車外から操作したり解除したりしないでください。
>
> ホールド機能は電気式パーキングブレーキの代わりになるものではありません。駐車するために使用しないでください。
>
> 以下のときは、ホールド機能のブレーキ作動が中断して、車両が動き出します。
>
> - アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏んでホールド機能を解除したとき
> - システムに故障があるときやバッテリー故障などで電力供給が中断したとき
> - エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
> - バッテリーの接続を外したとき
>
> 車両から離れたり、駐車するときは、ホールド機能を解除し、車両が動き出さないようにしてください。

ホールド機能が作動していて以下のようなときは、電気式パーキングブレーキが自動的に作動して車両が動かなくなります。

- 運転席ドアを開いて、運転席のシートベルトを外したとき
- ECO スタートストップ機能で自動的に停止している場合を除き、エンジンを停止したとき
- システムに故障が発生したとき
- 電力供給が不十分なとき

故障が発生した場合は、トランスミッションが自動的に **P** にシフトすることがあります。

パークトロニック

重要な安全上の注意

> ⚠ **警 告**
>
> パークトロニックは補助のみを行なうものであり、すべての障害物を検知するわけではありません。注意を払った運転の代わりになるものではありません。
>
> 安全に対する責任は常に運転者にあり、駐車や移動を行なうときは常に周囲に注意を払ってください。さもないと、お客様や他の方が危険にさらされるおそれがあります。

> ⚠ **警 告**
>
> 車両の周辺に人や動物がいないことを確認してください。さもないと、人や動物がけがをするおそれがあります。

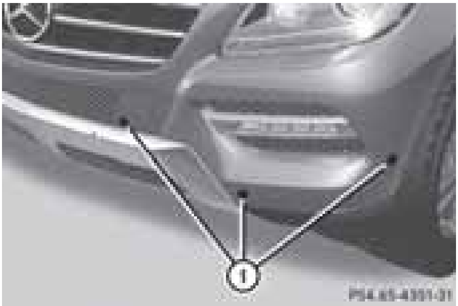
パークトロニックは、超音波センサーによる電子式駐車補助システムです。車両と障害物との距離を視覚的、聴覚的に示します。

パークトロニックは、以下のときに自動的に作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- ポジション **D**、**R**、または **N** にシフトしたとき
- 電気式パーキングブレーキが解除されているとき

パークトロニックは、走行速度が約18km/h 以上になると作動を停止し、それより低い速度のときに再度作動します。

パークトロニックは、フロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 4 個のセンサーにより、車両周辺のエリアをモニターします。

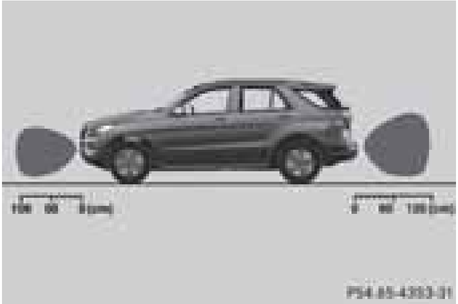


① フロントバンパー左側のセンサーの例

センサーの検知範囲

全体的な注意事項

センサーに汚れや氷および泥が付着しないようにしてください。さもないと、適切に機能しないことがあります。擦り傷や損傷を与えないように注意して、センサーを定期的に清掃してください（▷267 ページ）。



側方図

上方図

フロントセンサー

センター部	約 100cm
コーナー部	約 60cm

リアセンサー

センター部	約 120cm
コーナー部	約 80cm

! 駐車するときは、鉢植えやトレーラーけん引部などセンサーの上下にあるものに十分注意してください。パークトロニックは、これらが車両の至近距離にあるときは検知できません。車両や物を損傷するおそれがあります。

センサーは超音波を吸収しやすい雪やその他のものを検知しないことがあります。

自動洗車機や大型車の排気ブレーキ、空気圧ドリルなどの超音波により、パークトロニックが誤作動することがあります。

不整地などではパークトロニックが正しく作動しないことがあります。

最小範囲

センター部	約 20cm
コーナー部	約 20cm

この範囲内に障害物があるときは、対応する警告灯が点灯して警告音が鳴ります。距離が最小範囲以下になると、距離が表示されなくなることがあります。

警告ディスプレイ

警告ディスプレイはセンサーと障害物との距離を示します。前方エリアの警告ディスプレイは中央送風口上部のダッシュボードにあります。後方エリアの警告ディスプレイは後席のルーフライニングにあります。

前方エリアの警告ディスプレイ
① 車両左側のセグメント
② 車両右側のセグメント
③ 作動可能状態を示すセグメント

車両の各側の警告ディスプレイは、5 個の黄色セグメントおよび 2 個の赤色セグメントに分けられます。作動可能状態を示す黄色セグメント ③ が点灯しているときは、パークトロニックは作動可能です。

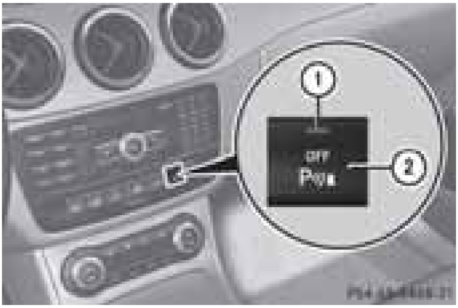
エンジンがかかっているときに、選択したトランスミッションのポジションと車両の進行方向により、どの警告ディスプレイが作動するかが決定されます。

トランスミッションのポジション	警告ディスプレイ
D	前方エリアが作動します。
R、N または、車両が後退しているとき	前方と後方のエリアが作動します。
P	どのエリアも作動しません。

車両が障害物に近づくにつれ、障害物からの車両の距離に応じて 1 個またはそれ以上のセグメントが点灯します。

- 6 個目のセグメントになると、警告音が約 2 秒間断続的に鳴ります。
- 7 個目のセグメントになると、警告音が約 2 秒間鳴ります。これは、最短距離に達していることを示しています。

パークトロニックの解除 / 設定



① 表示灯
② パークトロニックの解除 / 設定

表示灯 ① が点灯しているときは、パークトロニックが解除されています。

ℹ イグニッション位置を **2** にすると、パークトロニックは自動的に設定されます。

パークトロニックのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
パークトロニック警告ディスプレイの赤色セグメントだけが点灯している。 警告音が約 2 秒間鳴った。 約 20 秒後にパークトロニックが解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックの故障のため、機能が解除されている。 ▶ トラブルが続くようであれば、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニック警告ディスプレイの赤色セグメントだけが点灯している。 約 20 秒後にパークトロニックが解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（▷267 ページ）。 ▶ 再度、イグニッション位置を **2** にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が解除されている。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（▷173 ページ）。

サイドビューカメラ

重要な安全上の注意

サイドビューカメラは、COMAND ディスプレイに助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方のエリアを表示します。

発進する際などには、必ずサイドビューカメラで助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方の状況を確認してください。

サイドビューカメラは、助手席側ドアミラー下部にあります。

⚠ 警告

車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。さもないと、人や動物がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

サイドビューカメラは補助のみを行なうものであり、障害物の歪んだ映像を表示したり、不正確にまたはまったく表示しないことがあります。サイドビューカメラは運転者の注意に対する責任を軽減させるものではありません。サイドビューカメラでは、助手席側のフロントタイヤ周辺や助手席ドア下方のエリア以外の物体を表示することができません。

安全に対する責任は常に運転者にあり、駐車するときや移動するときは、常に周囲に注意してください。車両の後方や前方、両側などがこれにあてはまります。さもないと、お客様や他の方が危険にさらされるおそれがあります

⚠ 警告

以下のような場合は、サイドビューカメラは機能しなかったり、機能が制限されます。

- 助手席ドアが完全に閉じていないとき
- 助手席側ドアミラーが完全に展開していないとき
- スノーチェーンや応急用スペアタイヤを装着しているとき
- 激しい雨や雪、霧のとき
- 夜間または非常に暗い場所のとき
- カメラが非常に明るい光にさらされたとき
- 周囲が蛍光灯や LED ライトで照らされているとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 寒冷時に暖房されたガレージに入ったときなど、急激な温度変化があったとき
- カメラのレンズが汚れていたり、付着物があるとき
- ドアミラーやカメラを損傷したとき。このときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置や設定を調整してください。この作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

上記のような場合はサイドビューカメラを使用しないでください。さもないと、発進や路肩への幅寄せをしたときに他の方がけがをしたり、物や車両を損傷するおそれがあります。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更される場合があります。

! 乗車人数や荷物の積載量により、サイドビューカメラの映像範囲は変化します。必ず自分の目やミラーで周囲の状況を直接確認してください。

! 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすことがあります。

サイドビューカメラの作動 / 解除

▶ **作動させる**：イグニッション位置が **2** にあることを確認します。

▶ COMAND システムをオンにします。COMAND システムについて、詳しくは別冊の取扱説明書をご覧ください。

▶ COMAND コントロールパネルの SYS ボタンを押します。

または

▶ アプリケーションエリアの システム を選択します。

▶ サイドビューカメラ を選択します。

サイドビューカメラが作動し、助手席側のエリアが、ガイドラインとともにディスプレイに表示されます。

▶ **解除する**：サイドビューカメラは、以下のときに解除されます。

- COMAND コントローラーを押すか、COMAND コントロールパネルの SYS ボタンを押したとき
- COMAND コントロールパネルのアプリケーション選択ボタンか通話開始ボタンを押したとき
- COMAND システムをオフにするか、イグニッション位置を **2** 以外にしたとき
- 約 15km/h 以上の速度で走行したとき
- COMAND システムのリアビューカメラ機能が設定されているときは、トランスミッションのポジションを **R** にしたとき。このときは、パーキングアシストリアビューカメラが作動します。

ディスプレイの表示

⚠ **警 告**

色覚の方や色の識別能力が低い方は、サイドビューカメラを使用すると危険な場合があります。

サイドビューカメラにより COMAND ディスプレイに表示されるすべての色のガイドラインを見ることが可能で、識別できるときにのみ、サイドビューカメラを使用してください。

⚠ **警 告**

表示されるガイドラインは目安であり、障害物との正しい距離を測るためのものではありません。

そのため、障害物に近づいたときは、赤色ガイドラインを越えないようにしてください。さもないと、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

※上記の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更される場合があります。

赤色ガイドラインは、助手席側ドアミラーを含む車両全幅を示します。黄色ガイドラインは、ステアリングをいっぱいまでまわして曲がったときの、助手席側リアタイヤの軌道の目安を示します。

パーキングアシストリアビューカメラ

重要な安全上の注意

パーキングアシストリアビューカメラは、視覚的に駐車および移動を補助します。ガイドラインとともにCOMAND ディスプレイに車両後方のエリアを表示します。

警 告

車両の周辺に人や動物がいないことを確認してください。さもないと、人や動物がけがをするおそれがあります。

パーキングアシストリアビューカメラは、テールゲートハンドル内にあります。

① パーキングアシストリアビューカメラ

カメラを通しての表示

車両後方のエリアは、ルームミラーに写るように鏡像で表示されます。

警 告

パーキングアシストリアビューカメラは補助のみを行なうものであり、障害物の歪んだ映像を表示したり、不正確にまたはまったく表示しないことがあります。パーキングアシストリアビューカメラは運転者の注意に対する責任を軽減させるものではありません。以下のエリアではカメラは物体を表示することができません。

- リアバンパーのすぐ近く
- リアバンパーの下方
- テールゲートハンドルの上方

安全に対する責任は常に運転者にあり、駐車するときや移動するときは、常に周囲に注意してください。車両の後方や前方、両側などがこれにあてはまります。さもないと、お客様や他の方が危険にさらされるおそれがあります

> ⚠ **警 告**
>
> 以下のような場合は、パーキングアシストリアビューカメラは機能しなかったり、機能が制限されます。
>
> - テールゲートが開いているとき
> - 激しい雨や雪、霧のとき
> - 夜間または非常に暗い場所のとき
> - カメラが非常に明るい光にさらされたとき
> - 周囲が蛍光灯や LED ライトで照らされているとき（映像にちらつきが出ることがあります）
> - 寒冷時に暖房されたガレージに入ったときなど、急激な温度変化があったとき
> - カメラのレンズが汚れていたり、付着物があるとき
> - 車の後部を損傷したとき。このときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラの位置や設定を調整してください。この作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。
>
> 上記のような場合はパーキングアシストリアビューカメラを使用しないでください。さもないと、駐車を行なっているときに他の方がけがをしたり、物や車両を損傷するおそれがあります。

パーキングアシストリアビューカメラの作動 / 解除

▶ **作動させる：**イグニッション位置が **2** にあることを確認します。

▶ COMAND システムのリアビューカメラ機能が設定されていることを確認します。COMAND システムについて、詳しくは別冊の取扱説明書をご覧ください。

▶ リバースギア **R** に入れます。

車両後方のエリアが、ガイドラインとともにディスプレイに表示されます。

▶ **解除する：**パーキングアシストリアビューカメラは、以下のときに解除されます。

- トランスミッションのポジション **P** を選択したとき
- 約 10m 前進したとき
- トランスミッションを **R** から他のポジションにシフトして約 15 秒経過したとき
- 約 10km/h 以上の速度で前進したとき

ディスプレイの表示

⚠ **警 告**

色覚異常の方や色の識別能力が低い方は、パーキングアシストリアビューカメラを使用すると危険な場合があります。

パーキングアシストリアビューカメラにより COMAND ディスプレイに表示されるすべての色のガイドラインを見ることが可能で、識別できるときにのみ、パーキングアシストリアビューカメラを使用してください。

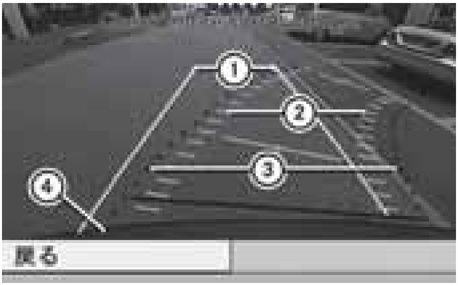
⚠ **警 告**

地面に接していないものは、実際よりも遠くにあるように見えるため、注意してください。例えば以下のようなものがあります。

- 自車の後方に駐車している車両のバンパー
- トレーラーのけん引部
- トレーラーヒッチのボールカップリング
- 大型車両の後端
- 傾いたポスト

表示されるガイドラインは目安であり、障害物との正しい距離を測るためのものではありません。

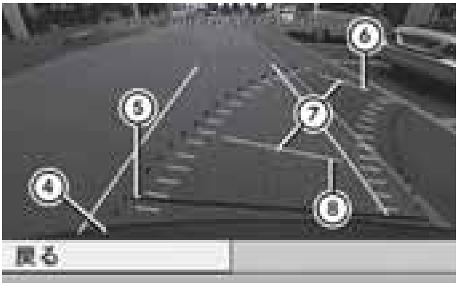
そのため、障害物に近づいたときは、赤色ガイドラインを越えないようにしてください。さもないと、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。



レーン

① ステアリングが直進状態のときの車両全幅を示す白色レーン（固定）
② 現在のステアリング操舵角でのタイヤの進路を示す黄色レーン（ステアリング連動）
③ 現在のステアリング操舵角での車両全幅を示す赤色レーン（ステアリング連動）
④ バンパー

白色および赤色レーンではドアミラーを含む車両全幅が示されます。黄色レーンは、車両の全幅に対する車輪の外側を意味しています。

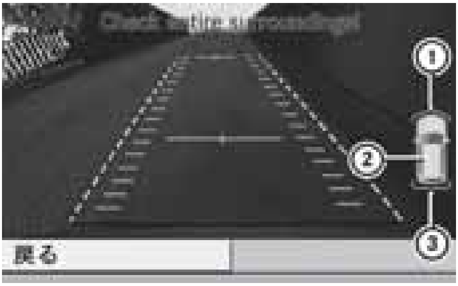


ガイドライン

④ バンパー
⑤ 車両後部から約 0.25m の距離を示す赤色ガイドライン
⑥ 車両後部から約 4.0m の距離を示す黄色ガイドライン
⑦ 車両中心軸（補助マーカー）
⑧ 車両後部から約 1.0m の距離を示す黄色ガイドライン

リバースギア R に入れると、ガイドラインが表示されます。

距離表示は地面にある障害物にのみ適用されます。



追加メッセージ
① フロント警告ディスプレイ
② パークトロニックの作動が可能であることを示す表示
③ リア警告ディスプレイ

パークトロニックが作動可能なときは (▷171 ページ)、作動可能であることを示す表示 ② がディスプレイに表示されます。パークトロニック警告ディスプレイが点灯しているときは、それに応じて警告ディスプレイ ① と ③ もディスプレイ内で点灯します。

後退駐車機能

▶ COMAND システムのリアビューカメラ機能が設定されていて、パーキングアシストリアビューカメラが作動していることを確認します。COMAND システムについて、詳しくは別冊の取扱説明書をご覧ください。

レーンとガイドラインが表示されます。

ステアリングをまわさないで、駐車スペースにまっすぐ後退する

① ステアリングが直進状態のときの進路を示す白色レーン
② 車両後部から約 1.0m の距離を示す黄色ガイドライン
③ 車両後部から約 0.25m の距離を示す赤色ガイドライン

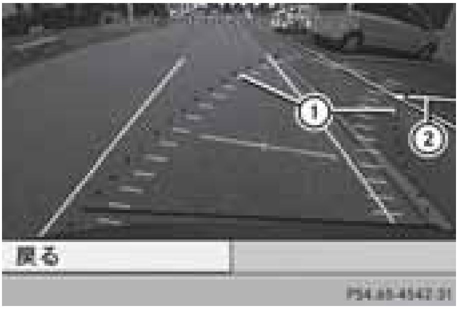
▶ 白色レーン ① の補助により、車両が駐車スペースに合うかどうかを確認します。

▶ 白色レーンを目安として使用して、後端位置に達するまで注意しながら後退します。

赤色ガイドライン ③ が駐車スペースの後端位置になります。車両は駐車スペースとほぼ平行になっています。

ステアリングをまわしながら、直角に後退する

▶ 駐車スペースを通過したら、車両を停止します。



ステアリングをまわす

① 現在のステアリング操舵角での車両の進路を示す赤色レーン
② 駐車スペースのマーク

▶ 車両が停止しているときに、赤色レーンが駐車スペースのマーク ② に達するまで、駐車スペースの方向にステアリングをまわします。

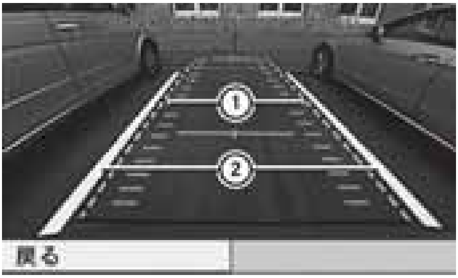
▶ ステアリングをその位置にしたまま注意して後退します。

ステアリングをまわして後退する

① 現在のステアリング操舵角での車両の進路を示す赤色レーン

▶ 駐車スペースのほぼ前になったときに車両を停止します。

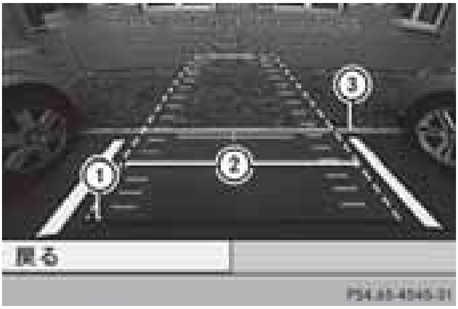
白色レーンが駐車スペースのマークに平行で、できるだけ接近するようにしてください。



後端位置まで後退する

① 現在のステアリング操舵角での車両の進路を示す白色レーン
② 駐車スペースのマーク

▶ 車両を停止しているときに、ステアリングを直進位置にまわします。



① 車両後部から約 0.25m の距離を示す赤色ガイドライン
② ステアリングが直進状態のときの進路を示す白色レーン
③ 駐車スペースの後端位置

▶ 後端位置に達するまで注意して後退します。

赤色ガイドライン ① が駐車スペースの後端位置 ③ になります。車両は駐車スペースとほぼ平行になっています。

アテンションアシスト

はじめに

アテンションアシストは高速道路や幹線道路のような道路で、長時間にわたり変化の少ない走行をするときに運転者を補助します。約 80km/h から約 180km/h の範囲で作動します。

アテンションアシストが運転者の疲労の増加や集中力の欠如などの典型的な兆候を検知したときは、休憩を促します。

重要な安全上の注意

⚠ 警 告

アテンションアシストは運転者の補助のみを行なうものであり、疲労や注意力低下に対する警告が遅れたり、警告がまったく行なわれないことがあります。十分な休憩を取ったり、集中力のある運転者の代わりになるものではありません。

疲労により、危険な状況の認知が非常に遅れたり、また、状況の判断を誤ったり、反応が遅れることがあります。この理由により、運転前や運転中は運転者自身で疲労の度合いを認識してください。特に運転が長時間にわたるときは、適切な時間に定期的に休憩を取ってください。さもないと、適切に危険を認知することができず、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

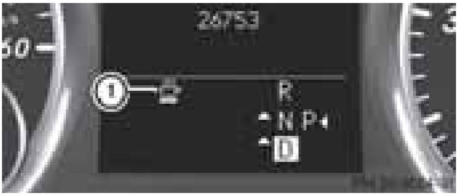
アテンションアシストは以下のような基準を考慮して、運転者の疲労や集中力欠如の度合いを判断します。

- ステアリング操作などの運転スタイル
- 時刻や運転時間などの走行に関する要因

以下のときは、アテンションアシストの機能が制限され、警告が遅れたり、警告がまったく行なわれないことがあります。

- 路面が平坦でなかったり、穴があるなど、道路の状態が悪いとき
- 横風が強いとき
- 高い速度でカーブを曲がっているときや急加速をしているときなど、スポーティな運転を行なっているとき
- 約 80km/h 以下や約 180km/h 以上の速度で走行していることが多いとき
- COMAND システムを操作しているときや COMAND システムの電話機能で通話しているとき
- 時刻の設定が正しくないとき
- 車線を変えたり走行速度を変えるなど、活発な運転状況のとき

マルチファンクションディスプレイの警告とディスプレイメッセージ



▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、アテンションアシストを設定します（▷203 ページ）。

マルチファンクションディスプレイにマーク ① が表示されます。

アテンションアシストが設定されたときは、運転を開始してから約 20 分以内は警告は行なわれません。断続的な警告音が 2 回鳴り、マルチファンクションディスプレイにアテンションアシスト 休憩してくださいと表示されます。

▶ 必要であれば、休憩を取ってください。

▶ OK または ⮌ スイッチを押して、メッセージを確認します。

長時間の運転では、確実に休息するために、適切な時間に定期的な休憩を取ってください。休憩を取らないときは、最短で約 15 分後に再度警告を行ないます。アテンションアシストが運転者の疲労や注意力低下の典型的な兆候を検知すると、再度警告を行ないます。

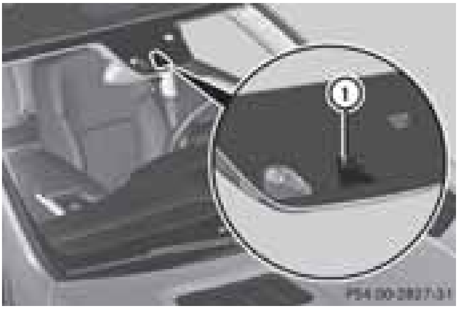
以下のことを行なって走行を続けたときは、アテンションアシストはリセットされ、再度運転者の疲労の検知を開始します。

- エンジンを停止する
- 運転を交代したり休憩を取るなどにより、運転者がシートベルトを外して、運転席ドアを開いたとき

レーンキーピングアシスト *

重要な安全上の注意

レーンキーピングアシストはフロントウインドウ上部にあるカメラで車両前部をモニターします。レーンキーピングアシストは路面の車線マークを検知し、意図せずに車線を外れる前に運転者に警告を行ないます。



① レーンキーピングアシストカメラ

マルチファンクションディスプレイの表示単位 速度 / 距離：（▷204 ページ）機能で km を選択すると、アクティブレーンキーピングアシストは約 60km/h の速度のときに作動を開始します。miles 表示が選択されていると、支援範囲は約 40mph から始まります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **警告**

レーンキーピングアシストは車両を車線内に保つことはしません。道路の車線マークを正しく検知できなかったり、全く検知しないことがあります。

以下のときはシステムが影響を受けたり、機能しないことがあります。

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や小雨のときなど視界が悪いとき
- 対向車や太陽、または他の車両からの反射光などでまぶしいとき
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われているとき
- 車線ラインが何本もあるときや、車線ラインがないとき
- 車線ラインが摩耗しているときや黒ずんでいるとき、または汚れや雪などに覆われているとき
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できないとき
- 近くにある工事などで道路の車線マークが不鮮明なとき
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わるとき
- 道路が狭かったりカーブしているとき

レーンキーピングアシストは道路や交通状況を検知することはできません。注意を払った運転の代わりになるものではありません。走行速度やタイミングに合ったブレーキ操作、適切なステアリング操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。常に交通状況や周囲の状況に注意してください。さもないと、適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

前輪が車線マークを超えると警告が行なわれます。警告はステアリングを約 1.5 秒間以上振動させることにより行なわれます。

レーンキーピングアシストを作動させる

▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、レーンキーピングアシストを設定します（▷203 ページ）。そのためには、標準またはアダプティブ（▷203 ページ）を選択します。

マーク ① がマルチファンクションディスプレイに表示されます。

約 60km/h 以上の速度で走行していて車線マークが検知された場合は、マーク ① が強調されます。レーンキーピングアシストが使用可能な状態になります。

標準

標準を選択すると、以下のときは警告の振動は行なわれません。

- 方向指示灯を作動させたとき。このようなときは、警告が短時間抑えられることがあります。
- ABS や BAS、ESP® などの走行安全装備が作動したとき

アダプティブ

アダプティブを選択すると、以下のときは警告の振動は行なわれません。

- 方向指示灯を作動させたとき。このようなときは、警告が短時間抑えられることがあります。
- ABS や BAS、ESP® などの走行安全装備が作動したとき
- キックダウンなどの急加速を行なったとき
- 急ブレーキを効かせたとき
- 障害物を避けるために急に進路変更をしたり、急に車線変更をするなど、活発なステアリング操作を行なったとき
- きついカーブの内側の車線マークをまたいだとき

車線ラインを越えたときは、必要な状況で適切なタイミングでのみ警告を行なうため、システムは特定の状況を認識し、それに応じて警告を行ないます。

以下のときは、早めに警告の振動が行なわれます。

- カーブの外側の車線ラインに近づいたとき
- 高速道路などの非常に幅の広い道路のとき
- システムが実線の車線マークを検知したとき

以下のときは、遅めに警告の振動が行なわれます。

- 狭い車線の道路のとき
- カーブの内側をまたいだとき

オフロード走行装備

4MATIC

4MATIC は、常に 4 輪すべてが駆動します。ESP® や 4ETS とともに、滑りやすい路面で駆動輪が空転するような場合には常に駆動力を制御します。

⚠ **警 告**

速度が速すぎる場合は、4MATIC は事故の危険性を軽減することができません。

駆動力が不足して駆動輪が空転したときは、以下の操作を行なってください。

- 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- 走行しているときは、アクセルペダルを緩めてください。
- 道路と交通状況に運転スタイルを合わせてください。

! フロントまたはリアをつり上げてけん引しないでください。駆動装置を損傷するおそれがあります。上記による故障については、保証の対象外になります。すべての車輪を接地させるか、または持ち上げてください。すべての車輪を接地した状態でけん引させるときは、けん引時の指示に従ってください。

i 積雪路などでは、ウィンタータイヤ（M+S タイヤ）や必要に応じてスノーチェーンを装着することにより、4MATIC の効果が最大限に発揮されます。

! ダイナモメーター上で走行テストを行なうときは、2 軸ダイナモメーターのみを使用してください。ダイナモメーターでの車両の操作を行なう前に、メルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。さもないと、駆動系部品やブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

オフロードの走行について、詳しくは（▷158 ページ）をご覧ください。

DSR

重要な安全上の注意

DSR（ダウンヒル・スピード・レギュレーション）は、下り坂を走行するときに運転者を補助します。DSR はマルチファンクションディスプレイで設定した速度を維持しようとします。下り坂の勾配が急になるほどブレーキの効き具合は強くなります。平坦な路面やゆるい勾配の路面を走行するときは、ブレーキの効き具合は弱くなるか、ブレーキは作動しなくなります。

⚠ **警 告**

DSR は下り坂を走行するときの、運転者の支援を行なうために設計された単なる補助です。車両の操作を継続し、下り坂勾配が対処可能であるかどうかを判断する責任は運転者にあります。

DSR を設定しているときは、DSR の作動により急激にブレーキが作動する可能性があります。これは下り坂の勾配や、走行速度と DSR の設定速度の速度差によって異なります。路面状況やタイヤの状態によっては、DSR が設定速度を維持できないことがあります。車両のコントロールを失い、事故の原因になります。

状況に合わせた速度に設定し、必要であればブレーキペダルを踏んで減速してください。

DSR は、トランスミッションのポジションが **D**、**R**、**N** のときに、走行速度を制御します。アクセルペダルかブレーキペダルを踏むことにより、マルチファンクションディスプレイで設定した速度からいつでも加減速することができます。

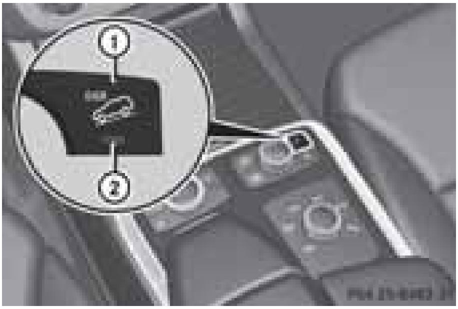
> ⚠ **警 告**
>
> DSR を設定しているときにアクセルペダルを踏み込むと、設定した速度を越えます。アクセルペダルから足を放すとすぐに DSR がブレーキを作動させることに常に留意して、特別な注意を払って下り坂を走行してください。下り坂の勾配や、走行速度と DSR の設定速度の差によっては、DSR の作動により急激にブレーキが作動する可能性があります。車両のコントロールを失い、事故の原因になります。

オフロードの走行について、詳しくは（▷158 ページ）をご覧ください。

DSR の設定 / 解除

設定する

走行速度が約 40km/h 以下のときに DSR を設定することができます。



ON&OFFROAD パッケージ装備車（日本仕様車には設定されません）の例

▶ DSR スイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が点灯します。

マルチファンクションディスプレイに以下のメッセージと DSR インジケーターが表示されます。

現在の走行速度が高すぎるときは、マルチファンクションディスプレイに DSR のアイコン と最高速度 40km/h のメッセージが表示されます。

DSR を解除する

▶ DSR スイッチ ① を押します。

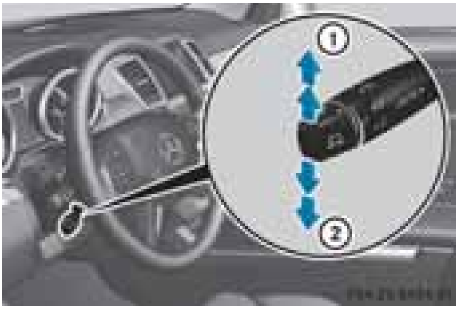
スイッチの表示灯 ② が消灯します。

マルチファンクションディスプレイに DSR のアイコン とオフのメッセージが表示されます。

走行速度が約 45km/h を超えたときは、DSR は自動的に解除されます。マルチファンクションディスプレイに DSR のアイコン とオフのメッセージが表示されます。DSR インジケーター ③ が消えます。確認音も鳴ります。

設定速度の変更

DSR を設定しているときは、2km/h ～ 18km/h の間で設定速度を変更することができます。



▶ **1km/h 単位で設定速度を上げる / 下げる：**クルーズコントロールレバーを、高い速度へは上 ① に、低い速度へは下 ② に軽く押します。

マルチファンクションディスプレイに、設定速度が DSR のアイコン [DSR] と一緒に表示されます。DSR インジケーター ③ も表示されます。

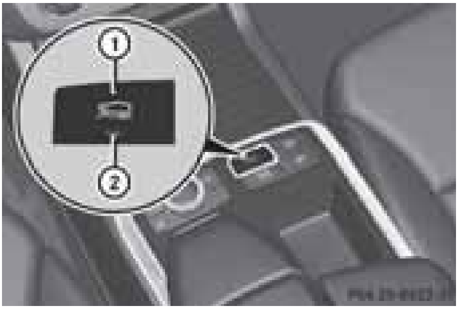
ⓘ DSR の設定速度は、1km/h 単位でいつでも変更できます。これは、クルーズコントロールレバーを抵抗がある位置まで軽く押すか、または抵抗がある位置を越えて押すかどうかに関わりません。

オフロードモード

オフロードモードは、オフロード走行時に運転者を補助します。エンジンの出力特性とオートマチックトランスミッションのギアシフトのタイミングがこの目的のために適合します。ABS、ESP® と 4ETS の制御が特にオフロード走行に適したものになります。穏やかなアクセル開度が選択されます。例えば、加速するときは、アクセルペダルをさらに踏み込まなければなりません。

積雪路や凍結路を走行するときや、スノーチェーンを装着しているときは、オフロードモードを使用しないでください。

オフロードの走行について、詳しくは （▷158 ページ）をご覧ください。



▶ **設定する：**オフロードモードスイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が点灯します。マルチファンクションディスプレイにオフロードモードインジケーター [アイコン] が表示されます。

▶ **解除する：**オフロードモードスイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が消灯し、マルチファンクションディスプレイのオフロードモードインジケーター [アイコン] が消えます。

マルチファンクションディスプレイ

重要な安全上の注意 ………………… 192

ディスプレイと操作 ………………… 192

メインメニューとサブメニュー … 196

ディスプレイメッセージ ………… 211

メーターパネルの表示灯 / 警告灯 ……………………………………… 228

重要な安全上の注意

メーターパネルのイラストについては、" 各部の名称 " の章をご覧ください （▷21 ページ）。

⚠ 警告

道路および交通状況が許されているときにのみ、マルチファンクションディスプレイを使用してください。注意が散漫になり、運転に適切に集中することができず、事故の原因になります。

⚠ 警告

メーターパネルまたはマルチファンクションディスプレイが故障しているときは、メッセージが表示されません。

その結果、速度や外気温度、警告灯や表示灯、ディスプレイメッセージまたはシステム故障などの走行状況の情報を見ることができなくなります。車両操縦性が損なわれるおそれがあります。状況に応じて、運転スタイルと車両の速度を調整してください。

ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ 警告

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムからのメッセージや警告のみを記録し、表示します。この理由により、運転者は車両が安全に運転できる状態であることを常に確認しなければなりません。安全でない車両を運転することにより、事故の原因になります。

⚠ 警告

メンテナンス作業が適切に行なわれなかったときは、車両の操作に関する安全性が損なわれているおそれがあります。車両のコントロールを失い、事故の原因になるおそれがあります。安全装備が本来の目的通りにお客様または他の方を保護できなくなるおそれがあります。

点検整備や修理などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

ディスプレイと操作

エンジン冷却水温度計

エンジン冷却水温度計は、メーターパネルの右側にあります。

冷却水が適切に充填されているときでも、通常の作動条件で冷却水温度の表示が約 120℃付近を示すことがあります。

暑い日や上り坂が続くときなどには、冷却水温度計の指針が上限付近を示すことがあります。

タコメーター

タコメーターのレッドゾーンは、エンジンの許容回転数を超えた範囲を示しています。

! 許容回転数を超えた範囲で走行しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

レッドゾーンに達すると、エンジン保護のため、燃料供給が中断されます。

外気温度表示

マルチファンクションディスプレイ内に外気温度表示があります。

⚠ **警 告**

氷点に近い温度では、特に山間部や橋の上では路面が凍結しやすくなります。状況に運転スタイルを合わせないと、車両が滑るおそれがあります。この理由により、天候状況に運転スタイルや速度を合わせてください。

外気温度の変化は、少し遅れて表示されます。

スピードメーター

走行速度を表示します。

マルチファンクションディスプレイの操作

概要

イグニッション位置を **1** にすると、マルチファンクションディスプレイは作動します。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイの操作と設定を行なうことができます。

① マルチファンクションディスプレイ
② 音声認識スイッチ（別冊の取扱説明書をご覧ください）
③ 右側キーパッド
④ 左側キーパッド
⑤ リターンスイッチ

左側キーパッド

◀ ▶	• メインメニューおよびメニューリストの呼び出し
▲ ▼	**軽く押す：** • リストのスクロール • サブメニューまたは機能の選択 • オーディオメニュー：プリセットされた放送局の選局、音楽トラックまたはビデオシーンの選択 • TEL（電話）メニュー：電話帳の表示および電話帳の名前または電話番号の選択
▲ ▼	**押して保持する：** • オーディオメニュー：高速スクロールによる、前 / 次の放送局または音楽トラック、ビデオシーンの選択 • TEL（電話）メニュー：電話帳を開いている場合、高速スクロールの開始
OK	• 選択項目 / ディスプレイメッセージの確定 • TEL（電話）メニュー： 電話帳への切り替えと発信の開始 • オーディオメニュー：希望の放送局で放送局サーチ機能を停止

右側キーパッド

	• 通話を拒否する、または終了 • 電話帳 / 発信履歴の終了
	• 発信する、または受ける • リダイアルメモリーに切り替える
+ −	• 音量の調節
	• 消音

リターンスイッチ

	軽く押す： • 戻る • 音声認識の終了：別冊の取扱説明書をご覧ください。 • ディスプレイメッセージの消去 / 最後に使用したトリップメニュー機能の呼び出し • 電話帳 / 発信履歴の終了
	押して保持する： • トリップメニューの基本画面の呼び出し

メニューリスト

数値や設定、同様にディスプレイメッセージは、マルチファンクションディスプレイに表示されます。

① 時刻
② 外気温度または速度（▷205 ページ）
③ 表示エリア
④ メニューリスト
⑤ 日本仕様車では表示されません
⑥ トランスミッション表示

▶ **メニューリスト ④ を表示させる：** ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押します。

トランスミッション表示について、詳しくは（▷142 ページ）をご覧ください。

ℹ COMAND システムを使用して時刻を設定することができます。別冊の取扱説明書をご覧ください。

マルチファンクションディスプレイには以下のメッセージが表示されることがあります。

- クルーズコントロール（▷163 ページ）
- LIM 可変スピードリミッター（▷166 ページ）
- DSR DSR（▷187 ページ）
- オフロードモード（▷189 ページ）
- リアワイパー（▷115 ページ）
- アダプティブハイビームアシスト（▷109 ページ）
- アテンションアシスト（▷183 ページ）
- ECO ECO スタートストップ機能（▷137 ページ）
- レーンキーピングアシスト（▷184 ページ）

HOLD ホールド機能（▷169 ページ）

メインメニューとサブメニュー

メニューの概要

表示されるメニューの数は、車両のオプション装備によって異なります。

	機能
①	トリップメニュー（▷197 ページ）
②	ナビメニュー（▷198 ページ）
③	オーディオメニュー（▷200 ページ）
④	TEL メニュー（▷201 ページ）
⑤	アシストメニュー（▷203 ページ）
⑥	メンテナンスメニュー（▷204 ページ） • ディスプレイメッセージの呼び出し（▷211 ページ） • タイヤ空気圧警告システム（▷304 ページ） • メンテナンスインジケーター（▷260 ページ）
⑦	設定メニュー（▷204 ページ）

トリップメニュー

基本画面

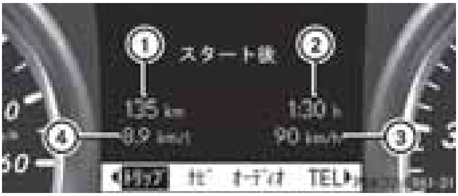
▶ マルチファンクションディスプレイにトリップメーター ① とオドメーター ② を含むトリップ メニューが表示されるまで、ステアリングの [⮌] スイッチを押して保持します。

トリップコンピューター " スタート後 " または " リセット後 "

スタート後サブメニューの数値は、走行開始から算出されるものであり、リセット後サブメニューの数値は、サブメニューが最後にリセットされたときから算出されるものです（▷198 ページ）。

▶ ステアリングの [◀] または [▶] スイッチを押して、トリップ メニューを選択します。

▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、スタート後またはリセット後を選択します。



" スタート後 " トリップコンピューターの例
① 距離
② 時間
③ 平均速度
④ 平均燃費

スタート後のトリップコンピューターは、以下のときに自動的にリセットされます。

- イグニッションがオフになってから約 4 時間以上経過したとき
- 999 時間を超えたとき
- 9,999km を超えたとき

リセット後のトリップコンピューターは、値が 9,999 時間または 99,999 km を超えると、自動的にリセットされます。

走行可能距離と燃費消費の表示

▶ ステアリングの [◀] または [▶] スイッチを押して、トリップ メニューを選択します。

▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、概算の走行可能距離と現在の燃費を選択します。

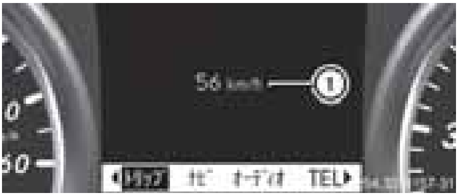
①概算の走行可能距離
②現在の燃費

概算の走行可能距離 ① は、燃料の残量やそのときの運転スタイルによって変わります。燃料タンク内に残っている燃料の量が少ないときは、給油中の車両のマーク [給油中の車両のマーク] が、走行可能距離 ① の代わりにディスプレイに表示されます。

デジタルスピードメーター

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、トリップ メニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、デジタルスピードメーターを選択します。



①デジタルスピードメーター

数値のリセット

以下の機能の数値をリセットできます。

- トリップメーター
- トリップコンピューター " スタート後 "
- トリップコンピューター " リセット後 "

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、トリップ メニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、リセットしたい機能を選択します。

▶ OK スイッチを押します。

" スタート後 " トリップコンピューターのリセットの例

▶ ▼ スイッチを押して、はいを選択し、OK スイッチを押します。

ナビメニュー

ナビゲーション案内の表示

ナビ メニューでは、マルチファンクションディスプレイにナビゲーション案内が表示されます。詳しい情報については別冊の取扱説明書をご覧ください。

▶ COMAND システムをオンにします（別冊の取扱説明書をご覧ください)。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、ナビ メニューを選択します。

ルート案内を行なっていないとき

①進行方向

ルート案内を行なっているとき

進路変更の案内がないとき

①目的地までの距離
②次の進路変更までの距離
③" 案内ルートを進む " のマーク

車線変更を伴わない進路変更の案内があるとき

①進路変更の目標
②進路変更までの距離と距離ディスプレイ表示
③進路変更マーク

進路変更の案内があるときは、距離ディスプレイ表示 ② が進路変更マーク ③ の横に表示されます。案内のあった進路変更地点に近づくにつれて、この表示は下から上へ短くなります。

車線変更を伴う進路変更の案内があるとき

推奨車線は、デジタル地図に関連するデータがあるときのみ表示されます。

①進路変更までの距離と距離ディスプレイ表示
②推奨車線
③車線変更表示

複数の車線がある道路では、次の進路変更のための推奨車線 ② が表示されます。進路変更の間、追加の車線が表示されることがあります。

ナビゲーションシステムの他の状況表示

- 🏁：目的地または立ち寄り地点に到着しました。
- 新ルートまたはルート計算中：新しいルートを探索中です。
- 案内ルート外：車両の位置が地図の範囲外（地図外の位置）にあります。
- ルートなし：選択されている目的地へのルートを計算できませんでした。

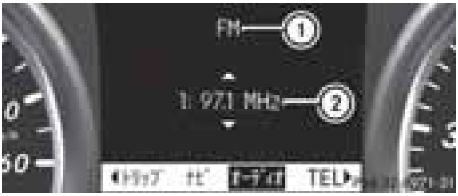
オーディオメニュー

ラジオ放送局を選局する

ℹ プリセット番号は、放送局がプリセットされている場合には、必ず放送局 ② と一緒に表示されます。

▶ COMAND システムをオンにします（別冊の取扱説明書をご覧ください）。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、オーディオメニューを選択します。



① 周波数バンド
② プリセットされたチャンネル周波数

▶ **プリセットされている放送局を選局する：** ▼ または ▲ スイッチを軽く押します。

▶ **放送局リストから放送局を選局する：** ▼ または ▲ スイッチを軽く押して保持します。

放送局リストが受信されない場合は、以下の操作を行ないます。

▶ **放送局サーチを使って放送局を選局する：** ▼ または ▲ スイッチを軽く押して保持します。

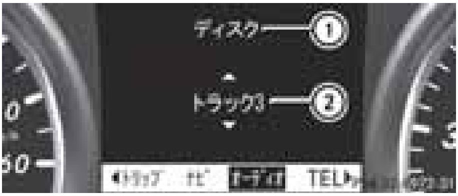
ℹ 周波数バンドの切り替えと放送局のプリセットの情報は、別冊の取扱説明書をご覧ください。

オーディオ機器またはメディアの操作

多彩なオーディオ機器やメディアから音楽データを再生できます。

▶ COMAND システムをオンにします（別冊の取扱説明書をご覧ください）。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、オーディオメニューを選択します。



音楽 CD モードの表示例
① 現在選択されている CD
② 現在のトラック

▶ **次 / 前のトラックを選択する：** ▼ または ▲ スイッチを軽く押します。

▶ **トラックリストからトラックを選択する（高速スクロール）：** 希望のトラックが表示されるまで、▼ または ▲ スイッチを押して保持します。

▼ または ▲ スイッチを長押しすると、スクロール速度が速くなります。すべてのオーディオ機器またはメディアがこの機能をサポートしているわけではありません。

オーディオ機器またはメディアにトラック情報が保存されているときは、マルチファンクションディスプレイにトラック名と番号が表示されます。オーディオ AUX モード（外部オーディオモード）では、現在のトラックは表示されません。

テレビの操作

▶ COMAND システムをオンにして、テレビを選択します（別冊の取扱説明書をご覧ください）。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、オーディオメニューを選択します。

① 現在のチャンネル

プリセットされている放送局を選局する

▶ ▼ または ▲ スイッチを軽く押します。

ℹ 放送局のプリセットの情報は、別冊の取扱説明書をご覧ください。

DVD ビデオの操作

▶ COMAND システムをオンにして、DVD ビデオを選択します（別冊の取扱説明書をご覧ください）。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、オーディオメニューを選択します。

DVD ビデオモードの表示の例

① 現在のチャプター

▶ **次 / 前のチャプターを選択する：** ▼ または ▲ スイッチを軽く押します。

▶ **チャプターリストからチャプターを選択する（高速スクロール）：** 希望のチャプターが表示されるまで、▼ または ▲ スイッチを押して保持します。

TEL メニュー

はじめに

携帯電話を COMAND システムに Bluetooth® 接続することができます（別冊の取扱説明書をご覧ください）。

ℹ 適合する携帯電話と Bluetooth® による携帯電話の接続について、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

> ⚠ **警告**
>
> 運転者は走行中に携帯電話を操作しないでください。交通状況への注意が散漫になり、事故の原因になったり、お客様または他の方がけがをするおそれがあります。

▶ 携帯電話と COMAND システムの電源ををオンにします（別冊の取扱説明書をご覧ください）。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、TEL メニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイに、以下のメッセージのいずれかが表示されます。

- 電話 待ち受けまたはネットワークのキャリア名：携帯電話がネットワークの探索を完了し、受信可能な状態です。
- 発信できません：ネットワークに接続できない状態にあるか、携帯電話がネットワークを探索中の状態です。

着信を受ける

TEL メニューのときに電話が着信すると、マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージが表示されます。

▶ ステアリングの ✆ スイッチを押して、着信した電話を受けます。

TEL メニューでないときも、着信した電話を受けることができます。

通話の拒否、または終了

▶ ステアリングの ☎ スイッチを押します。

TEL メニューでないときも、通話を終了または拒否できます。

電話帳からの発信

携帯電話が着信できるときは、COMAND システムの電話帳から電話番号を検索して、電話を発信することができます。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、TEL メニューを選択します。

▶ ▼ ▲ または OK スイッチを押して、電話帳を呼び出します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、希望の名称を選択します。

高速スクロールを開始するには、▲ または ▼ スイッチを約 1 秒以上押し続けます。

スイッチを放すか、リストの最後まで行くと、スクロールは停止します。

▶ **名称に 1 件だけ電話番号が保存されているとき：** ✆ または OK スイッチを押して、発信を開始します。

または

▶ **その名称に 1 つ以上の番号があるとき：** ✆ または OK スイッチを押して、電話番号を表示させます。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、発信先の番号を選択します。

▶ [発信] または OK スイッチを押して、発信を開始します。

または

▶ **電話の発信を止める：**[終話] または [戻る] スイッチを押します。

リダイアル

マルチファンクションディスプレイでは、最後に発信した名称または番号がリダイアルメモリーに保存されます。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、TEL メニューを選択します。

▶ [発信] スイッチを押して、リダイアルメモリーに切り替えます。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、希望の名称と番号を選択します。

▶ [発信] または OK スイッチを押して、発信を開始します。

または

▶ **電話の発信を止める：**[終話] または [戻る] スイッチを押します。

アシストメニュー

はじめに

アシストメニューでは、以下の選択を行なうことができます。

- アテンションアシストの設定 / 解除
- レーンキーピングアシストの設定 / 解除 *

アテンションアシストの設定 / 解除

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、アシストメニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、アテンションアシストを選択します。

▶ OK スイッチを押します。

現在の選択内容が表示されます。

▶ **設定する / 解除する：**再度 OK スイッチを押します。

アテンションアシスト（▷183 ページ）を設定しているときは、イグニッション位置が 2 のときに、マルチファンクションディスプレイに [☕] マークが表示されます。

レーンキーピングアシストの設定 / 解除 *

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、アシストメニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、レーンキーピングアシストを選択します。

▶ OK スイッチを押します。

現在の選択内容が表示されます。

▶ OK スイッチを押して、確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、オフ、標準、またはアダプティブに設定します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

マルチファンクションディスプレイ

▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

レーンキーピングアシスト（▷184 ページ）を設定していて、イグニッション位置が **2** のときは、マルチファンクションディスプレイに [マーク] マークが表示されます。

メンテナンスメニュー

メンテナンスメニューには、以下の項目があります。

- ディスプレイメッセージの呼び出し（▷211 ページ）
- タイヤ空気圧警告システムの再起動（▷304 ページ）
- メンテナンスインジケーターの呼び出し（▷261 ページ）

設定メニュー

はじめに

設定メニューには、以下の項目があります。

- メーターパネルの設定の変更
- ライトの設定の変更（▷205 ページ）
- 車両の設定の変更（▷208 ページ）
- コンフォートの設定の変更（▷209 ページ）
- 設定項目の初期化（▷210 ページ）

メーター

距離単位の設定

表示単位 速度 / 距離：機能では、マルチファンクションディスプレイの特定の表示のキロメートルまたはマイル表示を選択できます。

選択された距離の表示単位は、以下の項目に適用されます。

- トリップ メニューのデジタルスピードメーター
- オドメーターおよびトリップメーター
- トリップコンピューター
- 現在の燃費と走行可能距離
- クルーズコントロール
- 可変スピードリミッター
- メンテナンスインジケーターの表示

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定メニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、メーターサブメニューを選択します。

▶ OK スイッチを押して、確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、表示単位 速度 / 距離：機能を選択します。

選択された設定が表示されます。km または miles

▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

常時表示機能の選択

サブメーター：機能では、マルチファンクションディスプレイに速度あるいは外気温度を常時表示させるかどうかを選択できます。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定メニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、メーターサブメニューを選択します。

▶ OK スイッチを押して、確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、サブメーター：機能を選択します。

選択されている設定が表示されます。外気温度表示または速度表示 [mph]:

▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

ライト

ヘッドライト点灯モードの設定 / 解除

デイタイムライト：機能を選択し、ライトスイッチが AUTO の位置にあるときは、エンジンがかかっているときに車幅灯、LED ドライビングライト、ヘッドライトが自動的に常時点灯します。

▶ エンジンを停止します。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定メニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ライトサブメニューを選択します。

▶ OK スイッチを押して、確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、デイタイムライト：機能を選択します。

選択されている設定が表示されます。オンまたはオフ

▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

インテリジェントライトシステムの設定 / 解除

インテリジェントライトシステム：を設定したときは、以下の機能が作動します。

- ハイウェイモード
- アクティブヘッドライト
- コーナリングライト
- フォグランプ強化機能

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定メニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ライトサブメニューを選択します。

▶ OK スイッチを押して、確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、インテリジェントライトシステム：機能を選択します。

選択されている設定が表示されます。オンまたはオフ

▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

ヘッドライト照射範囲の設定で、右側通行用を設定しているときは（▷207ページ）、インテリジェントライトシステム設定画面の代わりにｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝﾄﾗｲﾄｼｽﾃﾑ ｼｽﾃﾑ作動できません 右側通行設定では無効というディスプレイメッセージが表示されます。

アダプティブハイビームアシストの設定／解除

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定メニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ライトサブメニューを選択します。

▶ OK スイッチを押して、確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ｱﾀﾞﾌﾟﾃｨﾌﾞﾊｲﾋﾞｰﾑｱｼｽﾄ：機能を選択します。

選択されている設定が表示されます。オンまたはオフ

▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

アンビエントライト照度の設定

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定メニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ライトサブメニューを選択します。

▶ OK スイッチを押して、確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ｱﾝﾋﾞｴﾝﾄﾗｲﾄ 明るさ：機能を選択します。

▶ OK スイッチを押します。

▶ ▼ または ▲ を押して、レベル5～レベル1またはオフに設定を変更します。

▶ OK または ⮌ スイッチを押して、設定を保存します。

アンビエントライトの色調の設定

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定メニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ライトサブメニューを選択します。

▶ OK スイッチを押して、確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ｱﾝﾋﾞｴﾝﾄﾗｲﾄ カラー：機能を選択します。

▶ OK スイッチを押します。

▶ ▼ または ▲ を押して、ソーラー、ニュートラル、またはポーラーを設定します。

▶ OK または ⮌ スイッチを押して、設定を保存します。

ヘッドライト照射範囲の設定

この機能を使用して、ロービームヘッドライトを左右対称または左右非対称に切り替えることができます。

ロービームヘッドライトを右側通行用に設定しているときは、ハイウェイモードおよびフォグランプ強化機能が解除されます。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定メニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ライトサブメニューを選択します。

▶ OK スイッチを押して、確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ﾍｯﾄﾞﾗﾝﾌﾟﾛｰﾋﾞｰﾑ 設定機能を選択します。

選択されている設定が表示されます。左側通行用または右側通行用

▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

設定を変更すると、次に停車したときに変更が実行されます。

ロービームヘッドライトを右側通行 / 左側通行に適した設定に切り替えるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

ロケイターライティングの設定 / 解除

ロケイターライティング：機能を設定していて、ライトスイッチが AUTO の位置にあるときは、周囲が暗いときに以下の機能が作動します。

- **解錠時点灯機能：**キーで車を解錠すると、車外ライトが約 40 秒間点灯し続けます。エンジンを始動するとロケイターライティングの機能が解除され、ヘッドライトオートモードが作動します（▷105 ページ）。
- **車外ライト残照機能：**エンジンを停止した後、約 60 秒間点灯し続けます。すべてのドアとテールゲートを閉じると、約 15 秒後に車外ライトが消灯します。

ロケイターライティング：機能を設定すると、車両の装備に応じて以下のライトが点灯します。

- 車幅灯
- LED ドライビングライト
- ドアミラーのロケイターライティング

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定メニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ライトサブメニューを選択します。

▶ OK スイッチを押して、確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ロケイターライティング：機能を選択します。

選択されている設定が表示されます。オンまたはオフ

▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

車外ライト残照機能を一時的に解除するには、以下のようにします。

▶ 車両から離れる前に、イグニッション位置を **0** にします。

▶ イグニッション位置を **2** にしてから **0** にします。

車外ライト残照機能が解除されます。

次にエンジンを始動すると、車外ライト残照機能が再び設定されます。

ルームライト残照機能の設定 / 解除

ルームランプ 消灯遅延：機能を設定したときは、エンジンスイッチからキーを抜いた後、ルームライトが約20 秒間点灯したままになります。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定メニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ライトサブメニューを選択します。

▶ OK スイッチを押して、確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ルームランプ 消灯遅延：機能を選択します。

選択されている設定が表示されます。オンまたはオフ

▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

車両

ウィンタータイヤスピードリミッターの設定

ウィンタータイヤスピードリミッター（▷169 ページ）は、速度制限（冬タイヤ）：により設定できます。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定メニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、車両サブメニューを選択します。

▶ OK スイッチを押して、確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、速度制限(冬タイヤ):を選択します。

▶ OK スイッチを押して、確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、10km/h 単位（160km/h ～ 240 km/h）でウィンタータイヤスピードリミッターを調整します。オフ設定で、ウィンタータイヤスピードリミッターは解除されます。

▶ OK スイッチを押して、入力を確定します。

車速感応ドアロックの設定 / 解除

車速感応ドアロック：機能を設定したときは、走行速度が約 15km/h 以上になると自動的にすべてが施錠されます。

ℹ 車速感応ドアロックについての詳しい情報は（▷75 ページ）をご覧ください。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定メニューを選択します。

- ▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、車両サブメニューを選択します。
- ▶ [OK] スイッチを押して、確定します。
- ▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、車速感応ドアロック：機能を選択します。

  選択されている設定が表示されます。オンまたはオフ
- ▶ [OK] スイッチを押して、設定を保存します。

アンサーバック機能の設定 / 解除

エレクトロニックキー アンサーバック：機能を設定しているときは、車を施錠すると確認音が鳴ります。

- ▶ ステアリングの [◀] または [▶] スイッチを押して、設定メニューを選択します。
- ▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、車両サブメニューを選択します。
- ▶ [OK] スイッチを押して、確定します。
- ▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、エレクトロニックキー アンサーバック：機能を選択します。

  選択されている設定が表示されます。オンまたはオフ
- ▶ [OK] スイッチを押して、設定を保存します。

コンフォート

イージーエントリー機能の設定 / 解除 *

イージーエントリー：機能を使用して、イージーエントリー機能（▷97 ページ）の設定と解除ができます。

> ⚠ **警告**
>
> イージーエントリーが作動すると、ステアリングが上方に動きます。乗員が挟まれるおそれがあります。イージーエントリー機能を作動させる前に、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。
>
> 子供の身体をチャイルドセーフティシートに固定している場合でも、子供だけを残して車から離れないでください。子供が運転席ドアを開いてイージーエントリー機能が作動することにより、身体が挟まれるおそれがあります。

- ▶ ステアリングの [◀] または [▶] スイッチを押して、設定メニューを選択します。
- ▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、コンフォートサブメニューを選択します。
- ▶ [OK] スイッチを押して、確定します。
- ▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、イージーエントリー：機能を選択します。

  選択されている設定が表示されます。オンまたはオフ
- ▶ [OK] スイッチを押して、設定を保存します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

シートベルト調整機能の設定 / 解除

シートベルト調整機能の詳しい情報は（▷40 ページ）をご覧ください。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定メニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、コンフォートサブメニューを選択します。

▶ OK スイッチを押して、確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ベルト調整：機能を選択します。

選択されている設定が表示されます。オンまたはオフ

▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

施錠時のドアミラー格納の設定 / 解除

ロック時のミラー格納：機能を設定しているときは、車を施錠するとドアミラーが自動的に格納されます。車を解錠して運転席ドアまたは助手席ドアを開くと、格納されたドアミラーが再び展開します。

機能を設定しているときに、ドアのスイッチを使用してドアミラーを格納すると、ドアミラーは自動的に展開しません（▷99 ページ）。ドアミラーはスイッチを使用してのみ展開することができます。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定メニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、コンフォートサブメニューを選択します。

▶ OK スイッチを押して、確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ロック時のミラー格納：機能を選択します。

選択されている設定が表示されます。オンまたはオフ

▶ OK スイッチを押して、設定を保存します。

設定項目の初期化

安全上の理由により、すべての機能が初期化されるとは限りません。ウィンタータイヤスピードリミッターの速度制限（冬タイヤ）：機能は、車両サブメニューでのみ設定できます。ライトサブメニューのデイタイムライト：を初期化したいときは、イグニッション位置を **1** にしなければなりません。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、設定メニューを選択します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、設定初期化サブメニューを選択します。

▶ OK スイッチを押して、確定します。

全ての設定を 初期化しますか？のメッセージが表示されます。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、はいまたはいいえを選択します。

▶ OK スイッチを押して、選択を確定します。

はいを選択したときは、マルチファンクションディスプレイに確認メッセージが表示されます。

ディスプレイメッセージ

はじめに

マルチファンクションディスプレイには、ディスプレイメッセージが表示されます。

この取扱説明書ではマークを含むディスプレイメッセージの表記を簡略化しているため、マルチファンクションディスプレイに実際に表示されるマークと異なる場合があります。

ディスプレイメッセージの指示に従って適切な処置を行ない、この取扱説明書に記載された注意事項をお守りください。

特定のディスプレイメッセージが表示されると、断続的または連続的な警告音も鳴ります。

停車または駐車するときは、ホールド機能（▷169 ページ）と駐車（▷151 ページ）に関する注意事項をお守りください。

ディスプレイメッセージを非表示にする

重要度の低いディスプレイメッセージは消すことができます。

▶ ディスプレイメッセージを非表示にするには、ステアリングの OK または ⮌ スイッチを押します。

ディスプレイメッセージが消えます。

重要度の高いメッセージは赤色で表示されます。

特に重要度の高いディスプレイメッセージは、非表示にすることができません。これらのメッセージは、故障や異常の原因が解決するまでマルチファンクションディスプレイに常時表示されます。

メッセージメモリー

マルチファンクションディスプレイには、特定のディスプレイメッセージが記憶されています。メッセージメモリーに記憶されたディスプレイメッセージを呼び出し、表示させることができます。

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、メンテナンスサブメニューを選択します。

メッセージがある場合は、ディスプレイに 2 メッセージのように故障の件数が表示されます。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、2 メッセージなどを選択します。

▶ OK スイッチを押して確定します。

▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、ディスプレイメッセージをスクロールします。

エンジンスイッチからキーを抜くと、重要度の高い一部のメッセージを除いて、メッセージがすべて削除されます。故障の原因が解決すると、重要度の高いメッセージも削除されます。

安全装備

<table>
<tr><th>ディスプレイ表示</th><th>考えられる原因および症状 /▶ 対応</th></tr>
<tr><td rowspan="2">現在 使用できません
取扱説明書を参照</td><td>⚠ 事故のおそれがあります
ABS（アンチロック･ブレーキング･システム）、ESP®（エレクトロニック･スタビリティ･プログラム）、BAS（ブレーキアシスト）、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。
アダプティブブレーキライトも作動しない。
加えて、メーターパネルの と 、 も点灯している。
たとえば、自己診断機能が終了していない可能性がある。
アテンションアシストは解除される。
ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、たとえば急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。
▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。
メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。
メッセージが表示されたままのとき：
▶ 注意して走行してください。
▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</td></tr>
<tr><td>⚠ 事故のおそれがあります
ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。
アダプティブブレーキライトも作動しない。
加えて、メーターパネルの と 、 も点灯している。
たとえば、電圧が低下している可能性がある。
アテンションアシストは解除される。
ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、たとえば急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。
▶ 注意して走行してください。
メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。
メッセージが表示されたままのとき：
▶ 注意して走行してください。
▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</td></tr>
</table>

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
故障 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライトも作動しない。 加えて、メーターパネルの ⃞、⃞、⃞ と ⃞ も点灯している。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、たとえば急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
現在 使用できません 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライトも作動しない。 加えて、メーターパネルの ⃞ と ⃞ も点灯している。 たとえば、自己診断機能が終了していない可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。 メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
故障 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライトも作動しない。 加えて、メーターパネルの ⃞ と ⃞ も点灯している。 アテンションアシストは解除される。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
EBD ABS 故障 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、EBD（エレクトロニック・ブレーキ・ディストリビューション）、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライトも作動しない。 加えて、メーターパネルの と 、 も点灯し、警告音が鳴った。 アテンションアシストは解除される。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、たとえば急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(P) パ－キング ブレ－キ 解除 してください	赤色の (P) が点滅し、警告音も鳴っている。 電気式パーキングブレーキの自動解除の条件が満たされていない（▷153 ページ）。 電気式パーキングブレーキが効いたまま走行している。 ▶ 手動で電気式パーキングブレーキを解除してください。
	赤色の (P) が点滅し、警告音も鳴っている。 電気式パーキングブレーキを使用して、緊急ブレーキを行なっている（▷153 ページ）。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
(P) パ゜-キング゛ ブ゛レ-キ 取扱説明書を参照	黄色の (P) が点灯している。 電気式パーキングブレーキが故障している。 **パーキングブレーキを効かせる：** ▶ イグニッション位置を **0** にしてください。 ▶ 電気式パーキングブレーキハンドルを少なくとも 10 秒間押してください。 ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	黄色の (P) と赤色の (P) が点灯している。 電気式パーキングブレーキが故障している。 **パーキングブレーキを解除する：** ▶ イグニッション位置を **0** にしてから、**1** にしてください。 ▶ 手動で電気式パーキングブレーキを解除してください。 または ▶ 自動で電気式パーキングブレーキを解除してください（▷153 ページ）。 黄色の (P) が点灯したままか、点滅し続けるときは： ▶ 走行を続けないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	赤色の (P) が点滅し、黄色の (P) が点灯している。 電気式パーキングブレーキが故障している。 **パーキングブレーキを解除する：** ▶ イグニッション位置を **0** にしてから、**1** にしてください。 ▶ 手動で電気式パーキングブレーキを解除してください。 **パーキングブレーキを効かせる：** ▶ イグニッション位置を **0** にしてから、**1** にしてください。 ▶ 手動で電気式パーキングブレーキを効かせてください。 赤色の (P) が点滅し続けるときは： ▶ 走行を続けないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください。 ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトしてください。 ▶ 前輪を路肩方向に向けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
Ⓟ ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ 取扱説明書を参照	黄色の Ⓟ が点灯している。電気式パーキングブレーキを効かせたか、解除した後に、赤色の Ⓟ が約 10 秒間点滅した。その後に点滅は消灯するか、点灯したままになっている。 電気式パーキングブレーキが故障している。 ▶ イグニッション位置を **0** にしてから、**1** にしてください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 電気式パーキングブレーキを効かせることができないときは： ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 電気式パーキングブレーキを解除することができないときは： ▶ 自動で電気式パーキングブレーキを解除してください（▷153 ページ）。 それでも電気式パーキングブレーキが解除されていないときは： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	黄色の Ⓟ が点灯している。手動で電気式パーキングブレーキを効かせるか、解除したときに、赤色の Ⓟ が点滅する。 電気式パーキングブレーキが故障している。手動で電気式パーキングブレーキを効かせることができない。 ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
Ⓟ ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ 故障	黄色の Ⓟ が点灯している。電気式パーキングブレーキを効かせたか、解除した後に、赤色の Ⓟ が約 10 秒間点滅した。その後に点滅は消灯するか、点灯したままになっている。 電圧が高すぎるか、低すぎるために、電気式パーキングブレーキが故障している。 ▶ バッテリーを充電するか、エンジンを始動するなどして、電圧超過または電圧低下の原因を解消してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせるか、解除してください。 電気式パーキングブレーキを効かせる、または解除することができないままのときは： ▶ イグニッション位置を **0** にしてから、**1** にしてください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせるか、解除してください。 それでも電気式パーキングブレーキが解除されていないときは： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	走行している間のみ、ディスプレイメッセージが表示される。赤色の Ⓟ が点滅し、黄色の Ⓟ が点灯している。 手動で電気式パーキングブレーキを効かせることができない。 ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
パーキング ブレーキ イグニッション オンで 解除できます	赤色の が点灯している。 イグニッション位置が **0** のときに、電気式パーキングブレーキを解除しようとしている。 ▶ **キー**：エンジンスイッチのキーを **1** の位置にまわしてください。 ▶ **キーレスゴー**：イグニッション位置を **1** にしてください。
ブレーキ液レベル 点検して ください	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。加えて、メーターパネルの が点灯し、警告音も鳴った。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。問題は解消しません。
ブレーキパッド摩耗 点検して ください	ブレーキパッド / ライニングの摩耗が限界に達している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
プレセーフ 故障 取扱説明書を参照	⚠ **けがのおそれがあります** PRE-SAFE® の重要な機能に異常がある。エアバッグなど他の乗員保護システムの機能は確保されている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
SRS システム 故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** SRS（乗員保護補助装置）が故障している。メーターパネルの SRS 警告灯 も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
フロント左 SRS 故障 工場で点検 または フロント右 SRS 故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** フロント左側、または右側の SRS に異常がある。メーターパネルの SRS 警告灯 も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
リア左 SRS 故障 工場で点検 または リア右 SRS 故障 工場で点検	⚠ けがのおそれがあります リア左側、または右側の SRS に異常がある。メーターパネルの SRS 警告灯 も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ウインドウバッグ左 SRS 故障 工場で点検 または ウインドウバッグ右 SRS 故障 工場で点検	左側、または右側のウインドウバッグに異常がある。メーターパネルの SRS 警告灯 も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ライト

LED に関するディスプレイメッセージは、すべての LED が切れたときにのみ表示されます。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
左コーナリングライト または 右コーナリングライト	左側または右側のコーナリングライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください（▷112 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
左ロービーム または 右ロービーム	左側または右側のロービームが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください（▷112 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
左リアウインカー または 右リアウインカー	リア左側またはリア右側の方向指示灯が切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください（▷112 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

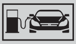
ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
左フロントウインカー または 右フロントウインカー	フロント左側またはフロント右側の方向指示灯が切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください（▷112 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
左ドアミラーウインカー または 右ドアミラーウインカー	左側または右側のドアミラー方向指示灯が切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください（▷112 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ハイマウントブレーキランプ	ハイマウントブレーキライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください（▷112 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
左テールランプ / ブレーキランプ または 右テールランプ / ブレーキランプ	左側または右側のテールライト / ブレーキライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください（▷112 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
左ハイビーム または 右ハイビーム	左側または右側のハイビームが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください（▷112 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ライセンスランプ	左側または右側のライセンスライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください（▷112 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
リアフォグランプ	リアフォグランプが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください（▷112 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
左フロント パーキングランプ または 右フロント パーキングランプ	フロント左側またはフロント右側のパーキングライトが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください（▷112 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
バックランプ	バックランプが切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください（▷112 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
左テールランプ または 右テールランプ	左側または右側のテールライトが切れている。 または 左側または右側のリア車幅灯が切れている。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください（▷112 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
左デイタイム ドライビングランプ または 右デイタイム ドライビングランプ	左側または右側の LED ドライビングライトが故障している。 ▶ ご自身で電球交換が可能かどうか確認してください（▷112 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
インテリジェントライト システム故障	インテリジェントライトシステムが故障している。インテリジェントライトシステムは作動しないが、ライトは通常通り点灯する。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
故障 取扱説明書を参照	車外ライトが切れている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
オートライト 故障	ライトセンサーが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ライトを 消してください	車両から離れるときにライトが点灯していた。警告音も鳴った。 ▶ ライトスイッチを AUTO の位置にしてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
アダプティブ ハイビームアシスト 作動できません	アダプティブハイビームアシストが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
アダプティブ ハイビームアシスト 現在 使用できません 取扱説明書を参照	アダプティブハイビームアシストが解除され、一時的に作動停止している。 可能性のある原因： • フロントウインドウのカメラ付近が汚れている。 • 豪雨や雪、霧などのために、視界が妨げられている。 ▶ フロントウインドウを清掃してください。 カメラが再び完全に機能しているとシステムが判断したときは、アダプティブ ハイビームアシスト 再び使用可能ですのメッセージが表示されます。 アダプティブハイビームアシストが再度作動できるようになります。

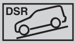
エンジン

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 冷却水を点検 してください 取扱説明書を参照	冷却水量が非常に不足している。 ▶ 作業をする前に注意事項を読んでから、冷却水を補給してください（▷259 ページ）。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジン冷却システムの点検を受けてください。
 停車して エンジンを停止	冷却水の温度が高すぎる。 警告音も鳴った。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車して、エンジンを停止してください。 ▶ 凍った泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ ディスプレイメッセージが消えるまでは、エンジンを再始動しないでください。さもないと、エンジンを損傷することがあります。 ▶ エンジン冷却水表示に注意を払ってください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ファンのモーターが故障している。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
	バッテリーが充電されていない。 警告音も鳴った。 可能性のある原因： • オルタネーターの故障 • V ベルトの摩耗 • 電気システムの故障 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトを点検してください。 **V ベルトが摩耗しているとき：** ! 走行を続けないでください。エンジンがオーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき：** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 給油の際 エンジンオイル量を 点検してください	エンジンオイル量が最低量まで不足している。 警告音も鳴った。 ▶ 遅くとも次回の燃料補給までに、エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でオイルが漏れていないかエンジンの点検を受けてください。
 給油してください	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	燃料タンクに燃料がほとんどない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

走行装備

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 アテンションアシスト 休憩してください	評価基準を基に、運転者が疲労しているか、または注意力が欠如しているとアテンションアシストが判断している。警告音も鳴った。 ▶ 必要であれば、休憩を取ってください。 長距離運転時では、定期的に休憩を取り、身体を十分に休ませてください。

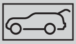
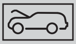
ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 アテンションアシスト 故障	アテンションアシストが作動しない状態になっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 故障	異常の発生により DSR が解除された。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で DSR の点検を受けてください。
HOLD オフ	ホールド機能が解除された。車が横すべりしている。 警告音も鳴った。 ▶ 時間をおいてから、再度ホールド機能を作動させてください。
レーンキープ アシスト 現在 使用できません 取扱説明書を参照	レーンキーピングアシストが解除され、一時的に作動停止している。 可能性のある原因： • カメラ部分のフロントウインドウが汚れている。 • 豪雨や雪、霧などのために、視界が妨げられている。 • 車線ラインがない道路を長時間走行している。 • 車線ラインが汚れや雪などにより覆われている。 ディスプレイメッセージが消えないとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ フロントウインドウを清掃してください。 カメラが完全に作動可能であることをシステムが検知したときは、ディスプレイメッセージが消えます。 レーンキーピングアシストまたはアクティブレーンキーピングアシストは、再度作動可能になります。
レーンキープ アシスト 作動できません	レーンキーピングアシストが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
クルーズコントロールと 可変スピードリミッター 故障	クルーズコントロールと可変スピードリミッターが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
制限速度 - - - km/h	アクセルペダルをいっぱいまで踏み込んでいるとき（キックダウン）は、可変スピードリミッターを作動させることができない。
クルーズコントロール - - - km/h	クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。例えば、約 30km/h 以下の速度でクルーズコントロールを作動させようとした。 ▶ 作動条件が満たされていれば、約 30km/h 以上の速度で走行し、クルーズコントロールを設定してください。 ▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください（▷165 ページ）。

タイヤ

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
タイヤ空気圧 タイヤを点検 してください	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤ空気圧警告システムが空気圧の急激な低下を検知した。 ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。そのときは、交通状況に注意してください。 ▶ タイヤを点検し、必要であればタイヤを交換してください（▷305 ページ）。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気圧を適正にしてください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷304 ページ）。
空気圧点検後 タイヤ空気圧 警告システム 再始動	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれ、その後に再起動が行なわれていない。 ▶ すべてのタイヤの空気圧を適正にしてください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷304 ページ）。
タイヤ空気圧 警告システム 作動できません	タイヤ空気圧警告システムが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

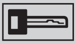
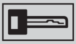
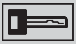
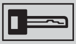
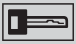
車両

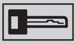
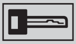
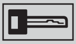
ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
エンジン始動 P または N にシフト	トランスミッションがポジション **D** または **R** のときにエンジンを始動しようとした。 ▶ トランスミッションをポジション **P** または **N** にシフトしてください。
バックアップバッテリー 故障	オートマチックトランスミッション用の補助バッテリーが充電されていない。 ▶ 次の機会に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ それまでの間は、エンジンを停止する前にオートマチックトランスミッションをポジション **P** にしてください。 ▶ 車両から離れる前に、電気式パーキングブレーキを効かせてください。
ブレーキを踏んで P レンジからシフト	ブレーキペダルを踏まずに、セレクターレバーをポジション **D**、**R** または **N** に動かそうとした。 ▶ ブレーキペダルを踏んでください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
ドアが開いています P レンジでは ありません	運転席側のドアが開いていて、トランスミッションがポジション R、N または D になっている。 警告音も鳴った。 ▶ トランスミッションをポジション P にシフトしてください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。
シフトチェンジせず 工場で点検	故障のため、トランスミッションのポジションを変えることができない。 警告音も鳴った。 ポジション D が選択されているときは： ▶ トランスミッションをポジション D から変速することなく、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 ポジション R、N または P が選択されているときは： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
停車中のみ P レンジにシフト できます	車両が動いている。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ トランスミッションをポジション P にシフトしてください。
	テールゲートが開いている。 ▶ テールゲートを閉じてください。
	⚠ **事故のおそれがあります** ボンネットが開いている。警告音も鳴った。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ボンネットを閉じてください。
	いずれかのドアが開いている。警告音も鳴った。 ▶ すべてのドアを閉じてください。
 パワーステアリング 故障 取扱説明書を参照	⚠ **事故のおそれがあります** パワーステアリングの補助が故障している。 ステアリング操作により大きな力が必要になる。 警告音も鳴った。 ▶ 大きな力でステアリングが操作できるか確認してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができるとき：**メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで注意して走行してください。 ▶ **安全にステアリング操作ができないとき：**走行を続けないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
発信できません	車両がネットワークプロバイダーの送受信範囲外にある。 ▶ 携帯電話が使用可能になる表示が現れるまで待ってください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 ウォッシャ液を 補充してください	リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください（▷260 ページ）。

キー

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 キーが違います	エンジンスイッチに不適切なキーを差し込んでいる。 ▶ 正しいキーを使用してください。
 キーを交換 してください	キーを交換する必要がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 キーの電池を 交換してください	キーの電池が消耗している。 ▶ 電池を交換してください。
 キーを認識できません （赤色のメッセージ）	エンジンがかかっているときにこのメッセージが表示されたときは、システムが車内にキーがないと判断している。 警告音も鳴った。 エンジンを停止すると、車の施錠やエンジン始動ができなくなる。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ キーを探してください。
	走行していて、キーが車内にあるときにこのメッセージが表示されたときは、電磁波などの影響により、システムがキーを認識できない。 警告音も鳴った。 ▶ 周囲の道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ 必要であれば、エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
 キーを認識 できません （白色のメッセージ）	システムがキーを認識できない。 ▶ 車内でのキーの位置を変えてください。 それでもキーがシステムに認識されないとき： ▶ 必要であれば、エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 /▶ 対応
 キーが 車内にあります	施錠時にシステムが車内にキーがあると判断している。 ▶ キーを車から遠ざけてください。
 スタートボタンを外し キーを入れてください	システムが一時的に故障しているか異常がある。警告音も鳴った。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ドアを閉めてから ロックしてください	施錠時にいずれかのドアが開いている。警告音も鳴った。 ▶ すべてのドアを閉じてから、再度施錠操作を行なってください。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

シートベルト

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
運転席ドアまたは助手席ドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください（▷40 ページ）。 シートベルト警告灯が消灯します。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。その状態で走行速度が約 25km/h を超えるか、または速度が一時的に約 25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください（▷40 ページ）。 シートベルト警告灯が消灯し、断続的な警告音も停止します。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いている。その状態で速度が約 25km/h を超えるか、または速度が一時的に約 25km/h を超えた。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を、別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、断続的な警告音も停止します。

安全装備

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色のブレーキ警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ブレーキシステムが故障している。また、ブレーキ特性に影響する可能性がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージが表示されるときは、指示に従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
(!) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** ブレーキの倍力装置が故障している。また、ブレーキ特性に影響する可能性がある。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行を続けないください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
(!) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行を続けないください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ブレーキ液を補給しないでください。補給によりこの故障は解消しません。
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）に異常があるため機能が解除されている。この理由により、BAS（ブレーキアシスト）、ESP®（エレクトロニック·スタビリティ·プログラム）、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトも解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、たとえば急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ABS コントロールユニットが故障しているときは、ナビゲーションシステムやオートマチックトランスミッションなどの他のシステムも使用できない可能性があります。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS の機能が一時的に作動しない。そのため、BAS、ESP®、EBD（エレクトロニック・ブレーキ・ディストリビューション）、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトも解除されている。 たとえば、自己診断機能が終了していないか、バッテリー電圧が十分でない可能性がある。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、たとえば急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。 警告灯が消灯すれば、上記の機能は再度作動できる状態になります。 警告灯が点灯したままのとき： ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行を続けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** EBD が故障している。そのため、ABS、BAS、ESP®、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトも作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、たとえば急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯と黄色の ESP® 表示灯、ESP® オフ表示灯、黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS と ESP® に異常がある。そのため、BAS、EBD、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトも故障のため作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、たとえば急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行を続けてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
走行中に黄色の ESP® 表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** 車が横滑りをする危険性があるか、少なくとも 1 つの車輪が空転し始めているため、ESP® やトラクションコントロールなどが作動している。 クルーズコントロールは解除される。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はよりゆるやかに加速ください。 ▶ 道路と天候の状態に運転スタイルを合わせてください。 ▶ ESP® の機能を解除しないでください。 例外は（▷59 ページ）をご覧ください。
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP® の機能が解除されている。車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、ESP® は車両を安定させることができない。 ▶ ESP® を待機状態にしてください。 例外は（▷59 ページ）をご覧ください。 ▶ 道路と天候の状態に運転スタイルを合わせてください。 ESP® を待機状態にできないとき： ▶ メルセデス·ベンツ指定サービス工場で、ESP® の点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトが作動しない状態になっている。車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、ESP® は車両を安定させることができない。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 アテンションアシストは解除される。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキライトも作動しない可能性がある。 車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、ESP® は車両を安定させることができない。 システムの自己診断が終了していない。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、たとえば急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。 表示灯が消えれば、上記の機能は作動できる状態になります。 表示灯が点灯したままのとき： ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
赤色のパーキングブレーキ表示灯が点滅するか、黄色のパーキングブレーキ警告灯が点灯する。または、上記の表示灯と警告灯が点滅 / 点灯する。	電気式パーキングブレーキが一時的に故障しているか、作動を停止している。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
エンジンがかかっているときに赤色の SRS 警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** SRS（乗員保護補助装置）が故障している。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに全く作動しないことがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下のものが故障している可能性がある。 • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム • 燃料システム 排出ガスの制限値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯し、エンジン冷却水温度計の指針が下限にある。	エンジン冷却水温度計の温度センサーが故障している。 冷却水温度を確認することができない。冷却水温度が高すぎる場合は、エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。状況を問わず走行を続けないでください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

トラブル	考えられる原因および症状 /▶ 対応
エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。	冷却水量が非常に不足している。 冷却水量が正常なときは、ラジエターへの送風が遮られているか、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水量の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されない。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ 冷却水量を点検し､補給してください（▷259 ページ)。注意事項を守ってください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 凍結した泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水の温度が 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ そのときは、山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。
エンジンがかかっているときに赤色の冷却水警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	冷却水温度が約 120℃を超えている。ラジエターへの送風が遮られているか、リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している可能性がある。 エンジンが十分に冷却されないため、エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ 冷却水量を点検し､補給してください（▷259 ページ)。注意事項を守ってください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 ▶ 凍結した泥などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ 冷却水の温度が 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ そのときは、山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

積載のガイドライン……………… 236
収納エリア………………………… 236
室内装備…………………………… 248

積載のガイドライン

⚠ 警 告

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。

さもないと、急ブレーキや急な進路変更時、事故のときなどに前方に投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

詳しい情報は、" 積載のガイドライン " をご覧ください。

たとえ荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故などのときに乗員がけがをする可能性は高まります。

⚠ 警 告

エンジンがかかっているときは、テールゲートを開いたままにしないでください。さもないと、排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

荷物を積載した車両の車両操縦性は、車内の荷物の配分に影響されます。この理由により、荷物を運搬するときは、以下の事項を守ってください。

- 荷物の重量が、制限重量(▷319 ページ)を超えないようにしてください。
- 重い荷物は、ラゲッジルームのできるだけ前方および低い位置に配置してください。
- 荷物がシートのバックレストより高くならないようにしてください。
- 荷物は常に、リアシートまたはフロントシートのバックレストに接するように配置してください。バックレストが確実にロックされていることを確認してください。
- 荷物を積むときは、セーフティネット * を使用してください。
- なるべく乗員のいない席の後方に荷物を積んでください。
- 十分な強度で、耐摩耗性のある固定用具で荷物を固定してください。角の部分にはカバーをしてください。

収納エリア

小物入れ

重要な安全上の注意

⚠ 警 告

荷物が収納されているときは、小物入れを必ず閉じてください。収納ネットは重い荷物を固定するためには設計されていません。

以下のときに荷物が投げ出されて、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故のとき

収納ネットには、鋭利な角のある物やこわれやすい物を入れないでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

前席の小物入れ

グローブボックス

ℹ グローブボックスは冷却することができます（▷129 ページ）。

▶ **開く**：ハンドル ① を引いて、グローブボックスカバー ② を開きます。

▶ **閉じる**：グローブボックスカバー ② を押してロックさせます。

エマージェンシーキーを使用して、グローブボックスを施錠または解錠することができます。

1 グローブボックスが解錠
2 グローブボックスが施錠

グローブボックス上部には、平らな物を収納するための仕切り板 ① があります。

サングラスケース

▶ **開く**：マーク ① を押します。

アームレスト下の小物入れ / 携帯電話ケース

ℹ 小物入れ内には USB ポートおよびメディアインターフェースが装着されています。メディアインターフェースは iPod® や MP3 プレーヤーなどのポータブル音楽機器のための汎用インターフェースです（別冊の COMAND システム 取扱説明書をご覧ください）。

ℹ 小物入れ内には iPod® などの物を収納できる取り外し式の収納トレイがあります。

▶ **開く**：ハンドル ① を上方に引きます。

アームレストが開きます。

収納ネット

⚠ 警告

収納ネットには、軽い物のみを収納してください。重い物や鋭利な角のある物、こわれやすい物を運搬するために使用しないでください。事故のときに収納ネットが収納物を十分に固定できないおそれがあります。

収納ネットは、助手席足元と運転席および助手席シート背面にあります。

ラゲッジルームの拡大

重要な安全上の注意

⚠ 警告

車内やラゲッジルームには、重い荷物やかたい荷物を固定していない状態で運搬しないでください。

さもないと、急ブレーキ、急な進路変更または事故のときに、車内に投げ出された物でお客様や他の方がけがをするおそれがあります。

ラゲッジルームを拡大するときは、常に対応するバックレストをいっぱいまで倒し、セーフティネットを装着しなければなりません。

⚠ 警告

エンジンがかかっているときは、テールゲートを開いたままにしないでください。さもないと、排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

⚠ 警告

シートクッションの上にバックレストを倒さないでください。急ブレーキ、急な進路変更または事故のときなどに荷物がバックレストの上を越えて車室内に投げ出されるおそれがあります。事故の原因になったり、お客様や他の方のけがの原因になります。

! リアシートを前方にたたむ前にシートクッションを上方に起こしてください。さもないと、バックレストを損傷することがあります。

バックレストが前方にたたまれているときは、フロントシートを最も後方の位置に移動することはできません。さもないと、フロントシートまたはリアシートを損傷するおそれがあります。

左側および右側のリアシートのバックレストを独立して前方にたたみ、ラゲッジルームの容量を拡大することができます。

リアシートを前方にたたむ

ⓘ 運転席または助手席が身長の高い人のための設定になっている場合は、リアシートを前方にたたむことができないことがあります。この場合は、フロントシートをできるだけ前方に移動してください。

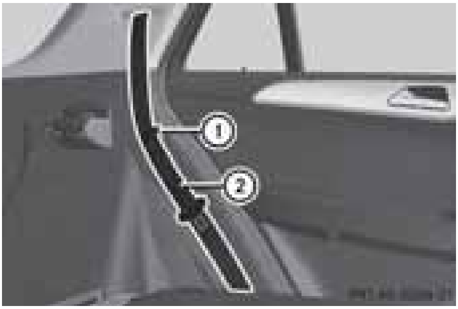
▶ ヘッドレストを最も低い位置にします（▷94 ページ）。

▶ シートクッション ① を矢印の方向に引き上げます。

▶ バックレストが完全に解除されるまで、解除レバー ② を矢印の方向に上方に引きます。

! バックレストは重量があります。そのため、下方にたたむときは注意してください。バックレストおよびシートクッションを損傷させないためにも、ヘッドレストが完全に押し込まれていることを確認してください。

▶ ラゲッジルームと平坦になるまで、バックレスト ① を前方にたたみます。



▶ シートベルト ② をそれぞれのクリップ ① の下に通します。

リアシートを元に起こす

▶ 固定されるまで、シートのバックレスト ② を元の位置に起こします。

▶ シートクッション ① を元の位置に戻します。

▶ 必要であれば、ヘッドレストを引き上げて調整します（▷94 ページ）。

⚠ 警 告

シートのバックレストおよびシートクッションが適切な位置に固定されていることを確認してください。

荷物の固定

荷物固定用リング

⚠ 警 告

荷物固定用リングには均等に荷重を配分してください。

さもないと、以下のときに周囲に投げ出された物により、乗員がけがをするおそれがあります。

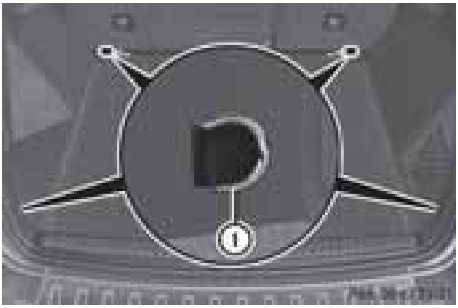
- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故に巻き込まれたとき

積載のガイドラインに従ってください。

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためだけのものですので、これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 固定用具がとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 保護のため、鋭い角にはカバーをしてください。

ラゲッジルームに 4 個の荷物固定用リングがあります。ラゲッジルーム内後方右側の荷物固定用リングを使用する前には、ラゲッジネットを押し下げなければなりません。



① 荷物固定用リング

バッグフック

⚠ **警 告**

バッグフックには軽い荷物のみを掛けてください。重い物やとがった物、壊れやすい物を運搬するために使用しないでください。急ブレーキや急な進路変更のとき、事故のときなどにバッグフックは十分に荷物を固定できません。お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

! バッグフックは、約 3kg までの荷重に耐えることができます。荷物を固定するために使用しないでください。

バッグフックはラゲッジルームの左側にあります。

▶ バッグフックのマーク ① を押します。

▶ 固定されるまでバッグフック ① を引き出します。

固定用フック

固定用フックには軽い荷物のみを固定してください（最大 4kg）。

ラゲッジルームの左右それぞれに 2 個の固定用フック ① があります。

ラゲッジルームカバー

重要な安全上の注意

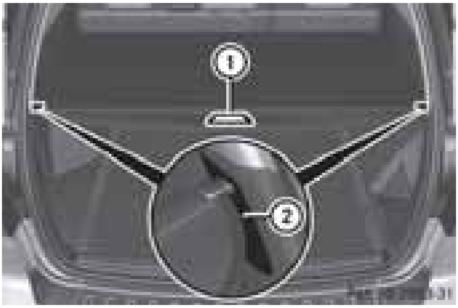
⚠ **警告**

ラゲッジルームカバーは安全装備ではありません。ラゲッジルームカバー下の荷物は適切な方法で固定してください。ラゲッジルームカバーが確実に固定されていることを確認してください。荷物が十分に固定されていないと、急ブレーキや急な進路変更時、事故のときなどに荷物がバックレストを越えて車室内に投げ出されるおそれがあります。事故の原因になったり、お客様や他の方のけがの原因になるおそれがあります。

! 車両に積載するときは、ラゲッジルームの荷物がサイドウインドウの下端よりも高く積み上がっていないことを確認してください。ラゲッジルームカバーの上に重いものを載せないでください。

装備により、ラゲッジルームカバー、または一体型ラゲッジルームカバー / ネット（セーフティネット付きラゲッジルームカバー）は、リアシートのバックレストの背面にあります。

ラゲッジルームカバーの展開と収納



▶ **展開する：**グリップ ① を持ち、ラゲッジルームカバーを後方に引き、左右の固定部 ② に掛けます。

▶ **収納する：**グリップ ① を持ち、左右の固定部 ② からラゲッジルームカバーを外し、完全に収納されるまで前方にスライドさせます。

ラゲッジルームカバー（セーフティネット非一体型）の脱着

▶ **取り外す：**ラゲッジルームカバーが巻き取られていることを確認します。

▶ ラゲッジルームカバー ① の右または左側のエンドキャップ ③ を矢印の方向に押し、ラゲッジルームカバー ① を反対側の固定部 ② に押し込みます。

▶ ラゲッジルームカバー ① を取り外します。

▶ **取り付ける：**右または左側の固定部 ② にラゲッジルームカバー ① を合わせます。

▶ ラゲッジルームカバー ① の反対側のエンドキャップ ③ を矢印の方向に押し、ラゲッジルームカバー ① を反対側の固定部 ② に差し込みます。

一体型ラゲッジルームカバー / ネット（セーフティネット内蔵型ラゲッジルームカバー）の脱着

一体型ラゲッジルームカバーをラゲッジルームから脱着できます。

▶ セーフティネットおよびラゲッジルームカバーが巻き取られていることを確認します。

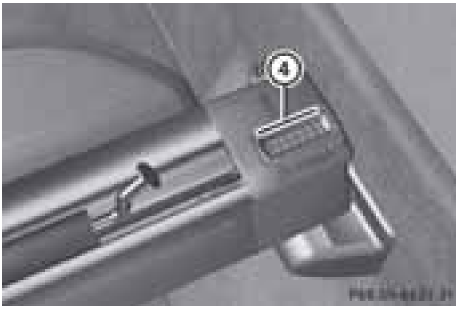
▶ **取り外す：**ボタン ② を押します。

▶ 一体型ラゲッジルームカバー / ネットを矢印の方向に引き出します。

▶ 先に左側の固定部 ① から一体型ラゲッジルームカバー / ネットを取り外し、次に右側の固定部 ③ から取り外します。

▶ **取り付ける：**一体型ラゲッジルームカバー / ネットを右側の固定部 ③ にいっぱいまで押し込みます。

▶ 一体型ラゲッジルームカバー / ネットを左側の固定部に合わせ、音がして一体型ラゲッジルームカバー / ネットが固定されるまで、固定部 ① に押し込みます。



▶ 赤色のロックインジケーター ④ が見えていないことを確認します。そうでないときは、一体型ラゲッジルームカバー / ネットが確実に固定されていません。

一体型ラゲッジルームカバー / ネットのセーフティネット *

重要な安全上の注意

⚠ **警 告**

セーフティネットは重い荷物を固定することはできません。そのため、荷物は常に固定してください。

さもないと、急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに不十分に固定された荷物が投げ出され、乗員がけがをするおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

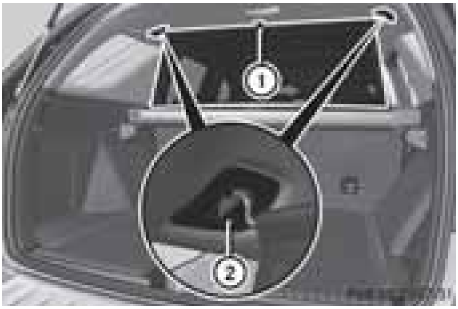
⚠ 警 告

急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどには軽い荷物が投げ出されるおそれがあります。

お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

そのため、軽い荷物を運搬するときは、セーフティネットを使用してください。

セーフティネットの取り付け



▶ タブ ① を持ってセーフティネットを引き出し、固定部 ② にかけます。

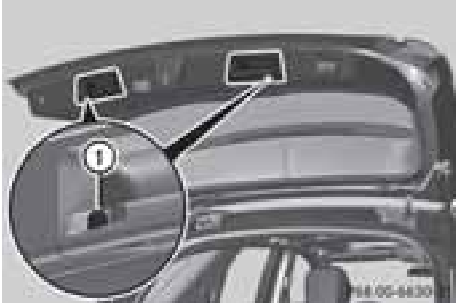
テールゲートのコートフック

⚠ 警 告

コートフックに非常に重い物を掛けた場合は、テールゲートが閉じることがあります。

お客様や他の方が挟まれたり、けがをする原因になるおそれがあります。

コートフックを使用する場合は、軽い衣類のみを掛けてください。挟まれるおそれがある人がいないことを確認してください。



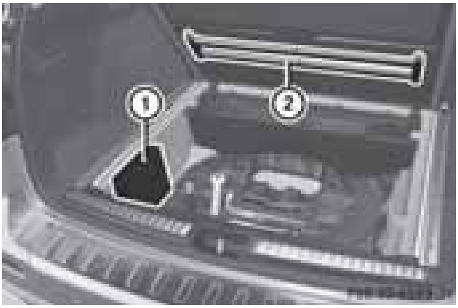
① コートフック

EASY-PACK フィックスキット

構成と収納場所

EASY-PACK フィックスキットにより、ラゲッジルームを様々な用途のために使用することができます。アクセサリーはラゲッジルームフロアの下にあります。

▶ ラゲッジルームフロアを開きます (▷246 ページ)。

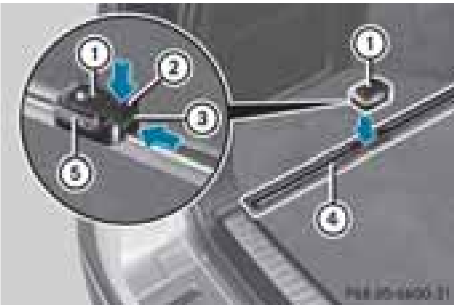


EASY-PACK フィックスキットのアクセサリー部品

① アタッチメント / 伸縮式ベルト収納バッグ

② 伸縮式ポール

ラゲッジルームレールへのアタッチメントの装着



▶ ラゲッジルームレール ④ の中央にアタッチメント ① を差し込みます。

▶ 解除ボタン ② を押し、アタッチメント ① をラゲッジルームレール ④ 内の好みの位置に押します。

▶ 解除ボタンを放します。

▶ ロックボタン ③ を押します。

アタッチメントがラゲッジルームレール ④ に固定されます。

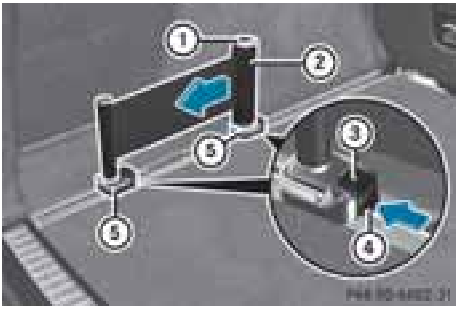
▶ 必要であれば、荷物固定用リング ⑤ を起こします。

> ⚠ **警 告**
>
> 荷物固定用リングには均等に荷重を配分してください。
>
> さもないと、以下のときに周囲に投げ出された物により、乗員がけがをするおそれがあります。
>
> • 急ブレーキ時
>
> • 急な進路変更時
>
> • 事故に巻き込まれたとき
>
> 積載のガイドラインに従ってください。

伸縮式ベルト

伸縮式ベルトは、ラゲッジルーム側面との間に軽い荷物を固定し、動かないようにするために使用することができます。

! 伸縮式ベルトは、重量 7kg 以下で、伸縮式ベルトにより安全かつ確実に固定できる大きさの荷物のみを固定するために使用してください。



▶ **取り付ける：**左右いずれかのラゲッジルームレールにアタッチメント ⑤ を 2 個装着します（▷245 ページ）。

▶ 伸縮式ベルトの解除ボタン ① を押し、伸縮式ベルトを少し引き出します。

▶ 解除ボタン ③ を押し、伸縮式ベルトを固定されるまで下方に押すようにしながら、伸縮式ベルト ② をアタッチメント ⑤ に差し込みます。

▶ 伸縮式ベルトの解除ボタン ① を押し、ベルトを矢印の方向に引き出します。

▶ 荷物をベルトとラゲッジルーム側面の間に置きます。

▶ 片方の手で伸縮式ベルトのロックボタン ① を押します。

▶ もう片方の手で、荷物が固定されるまでベルトをゆっくり引き出します。

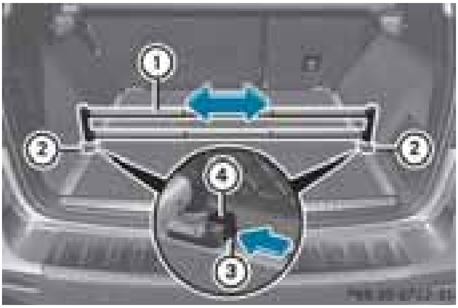
▶ アタッチメント ⑤ のロックボタン ④ が押されていることを確認します。

これにより、アタッチメント ⑤ がラゲッジルームレール上の位置に固定されます。

▶ **取り外す**：対応するアタッチメント ⑤ の解除ボタン ③ を押しながら、伸縮式ベルト ② を上方に引いて取り外します。

伸縮式ポール

伸縮式ポールは、リアシートとの間に荷物を固定し、動かないようにするために使用することができます。



▶ **取り付ける**：左右両方のラゲッジルームレールにアタッチメントを 1 個ずつ差し込み、好みの位置にスライドします（▷245 ページ）。

▶ 解除ボタン ④ を押し、伸縮式ポールを固定されるまで下方に押すようにしながら、伸縮式ベルト ① をアタッチメント ② に差し込みます。

▶ アタッチメント ② のロックボタン ③ が押されていることを確認します。

これにより、アタッチメント ② がラゲッジルームレール上の位置に固定されます。

▶ **取り外す**：対応するアタッチメント ② の解除ボタン ④ を押しながら、伸縮式ポール ① を上方に引いて取り外します。

ラゲッジフロアボード下の小物入れ

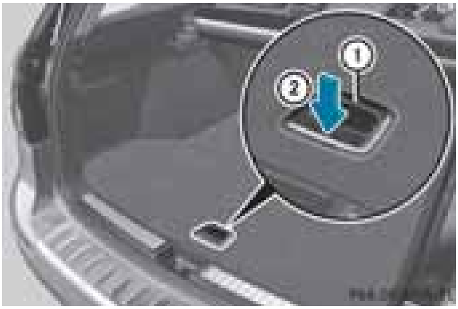
重要な安全上の注意

⚠ **警 告**

ラゲッジフロアボードを開いたまま走行しないでください。

さもないと、急ブレーキや急な進路変更時、事故のときに周囲に投げ出された物により、お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

ラゲッジフロアボードの裏側には EASY-PACK フィックスキットの部品 * が収納され、ラゲッジフロアボードの下には応急用スペアタイヤや車載工具などが収納されています。



* オプションや仕様により、異なる装備です。

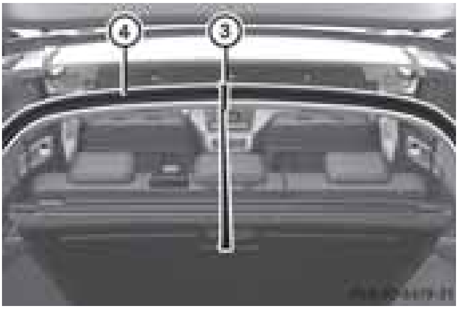
▶ **開く**：テールゲートを開きます。

▶ ハンドル ① を下方 ② に押します。

ハンドル ① が上方に上がります

▶ ハンドル ① を使用し、ラゲッジルームカバーに支えられるまでラゲッジフロアボードを引き上げます。

▶ ラゲッジフロアボード裏側にあるフック ③ を矢印の方向に引き出します。



▶ フック ③ をラゲッジルーム上部のシール部 ④ に掛けます。

▶ **閉じる**：シール部 ④ からフック ③ を外します。

▶ フック ③ をラゲッジフロアボード裏側にある固定部に取り付けます。

▶ ラゲッジフロアボードを下げます。

▶ 固定されるまで、ラゲッジフロアボードを押し込みます。

ℹ ラゲッジルームフロアを取り外すためには、ラゲッジルームフロア下方のベルト固定部を外します。ラゲッジルームフロアを再度取り付けるときは、ベルト固定部に取り付けます。

ルーフキャリア

重要な安全上の注意

⚠ **警 告**

不適切に固定されたルーフキャリアやスキーラック、または荷物は、車両から脱落するおそれがあります。これらのものは周囲に投げ出され、お客様や他の方がけがをしたり、事故の原因になるおそれがあります。ルーフキャリアやスキーラックの製造者の装着指示や使用のための特別な指示に従ってください。

ルーフの荷物は車両の重心を上げ、そのため車両の操縦性に影響を与えます。常にルーフの最大積載量（約100kg）を遵守してください。常にそのときの道路、交通や天候状況にお客様の運転スタイルを合わせ、ルーフに荷物を積んでいるときは、特に注意して走行してください。

! メルセデス・ベンツ車のためにテストされ、承認されたルーフキャリアのみを使用することをお勧めします。これにより、車両の損傷を防ぎます。

走行時に車両が損傷しないような方法で、ルーフの上に荷物を配置してください。

ルーフキャリアを装着しているときにパノラミックスライディングルーフを完全に上げることができること、またテールゲートを完全に開くことができることを確認してください。

ルーフキャリアの装着

▶ ルーフキャリアをルーフレール ① に固定します。

▶ メーカーの装着指示に従ってください。

室内装備

カップホルダー

重要な安全上の注意

⚠ 警 告

車両が動いているときは、カップホルダーには何も置かないでください。さもないと、以下のときに周囲に投げ出された物により乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故に巻き込まれたとき

カップホルダーには適切なサイズかつフタ付きの容器のみを使用してください。さもないと、飲み物がこぼれるおそれがあります。

カップホルダーで熱い飲み物を使用しないでください。火傷をするおそれがあります。

⚠ 警 告

小物入れには、重かったり角が尖っている、または壊れやすいボトルを入れないでください。

事故のとき、小物入れは適切にボトルを固定することができません。お客様や他の方がけがをするおそれがあります。

ドアの小物入れには、容量約 1.0 ℓ までのボトルのためのスペースがあります。

ボトルは固定されていないだけでなく、倒れることを防ぐこともできません。そのため、小物入れには開封した飲み物の容器を置かないでください。

フロントセンターコンソールのカップホルダー

カップホルダーのラバーマットは、取り外して清掃することができます。清潔なぬるま湯でのみ清掃を行なってください。

① カップホルダー
② カバー

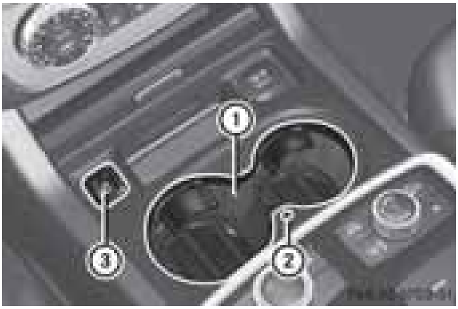
▶ **開く：**カバー ② を最も前方の位置にスライドします。

フロントセンターコンソールの温度調整式カップホルダー *

> ⚠ **警告**
>
> 保温機能を使用するときは、カップホルダーの金属部分が熱くなります。そのため、カップホルダーの金属部分には触れないでください。さもないと、火傷をするおそれがあります。

温度調整式カップホルダーは、冷たい飲み物を冷たく、温かい飲み物を温かく保つことができます。

カップホルダーのラバーマットは、取り外して清掃することができます。清潔なぬるま湯でのみ清掃を行なってください。



① カップホルダー
② 余熱表示灯
③ スイッチ

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ **冷却機能をオンにする：**スイッチの青い表示灯が点灯するまで、スイッチ ③ を押して保持します。

▶ **保温機能をオンにする：**スイッチの赤い表示灯が点灯するまで、スイッチ ③ を押して保持します。

▶ **機能を停止する：**スイッチの表示灯が消灯するまで、スイッチ ③ を押して保持します。

保温機能を使用しているときは、一定以上の温度で余熱表示灯 ② が点灯します。これは、カップホルダーの金属部分が熱くなっていることを意味しています。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リアシートのアームレストのカップホルダー

! 損傷するおそれがあるため、リアシートのアームレストが引き出されているときは、アームレストに座ったり、体重をかけないでください。

▶ リアシートのアームレストを引き出します。

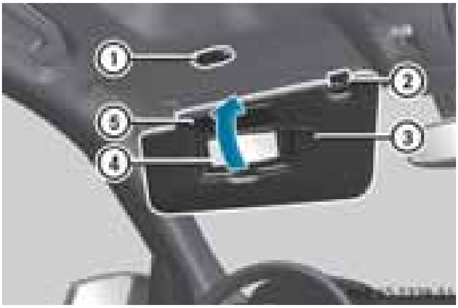
リアシートのアームレストにカップホルダー ① があります。

サンバイザー

サンバイザーの概要

⚠ **警告**

走行中はサンバイザーのバニティミラーカバーを閉じてください。さもないと、眩惑されて交通状況の視認性が損なわれ、その結果事故の原因になります。



① ミラー照明
② フック
③ 駐車チケットなどのためのクリップ
④ バニティミラー
⑤ ミラーカバー

サンバイザーのバニティミラー

ミラーの照明 ① はサンバイザーがフック ② にかかっていて、ミラーカバー ⑤ が開いているときにのみ点灯します。

横方向からの眩しさ

▶ サンバイザー ① を下げます。

▶ サンバイザー ① をフック ③ から外します。

▶ サンバイザーを横にまわします。

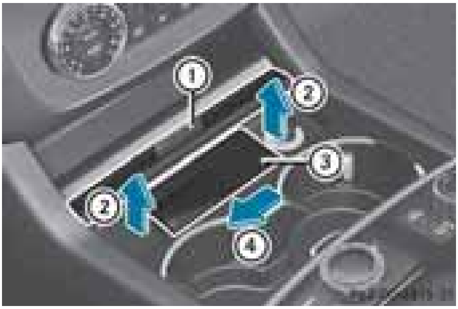
▶ 必要に応じて、サンバイザー ① を前後にスライドさせます。

▶ 補助サンバイザー ② を下げます。

灰皿

フロントセンターコンソールの灰皿

! 灰皿下部の収納スペースには耐熱性がありません。火がついたたばこを灰皿に置く前に、灰皿が確実に固定されていることを確認してください。さもないと、収納スペースを損傷するおそれがあります。



▶ **開く**：カバー ① を最も前方の位置にスライドします。

▶ 灰皿のカバー ③ を上方に開きます。

▶ **灰皿を取り外す**：灰皿 ③ を左側 ④ に押します。

灰皿 ③ の右側が少しだけ上がります

▶ 灰皿 ③ を持ち上げて ②、取り出します。

▶ **灰皿を再度取り付ける**：灰皿 ③ をホルダーに合わせ、固定されるまで右側部分を押します。

後席センターコンソールの灰皿

! リアシートを前方にたたむ前には灰皿を使用せず、灰皿を閉じてください。さもないと、灰皿を損傷するおそれがあります。

▶ **開く**：カバー ② の上端を軽く押します

▶ **灰皿を取り外す**：右側から凹部 ③ を押します。

灰皿 ① の右側が少しだけ上がります

▶ 灰皿 ① を持ち上げて、取り出します。

▶ **灰皿を再度取り付ける**：灰皿 ① をホルダーに合わせ、固定されるまで右側部分を押します。

ライター

⚠ **警告**

熱くなったライターはノブのみを持ってください。さもないと、火傷をするおそれがあります。

乗車している子供が熱くなったライターで火傷をしないよう、または火災の原因にならないように注意してください。

▶ イグニッション位置を **1** または **2** の位置にします。

▶ **開く**：カバー ① を最も前方の位置にスライドします。

▶ ライター ② を押します。

熱くなる部分が赤く熱くなると、ライター ② は自動的にポップアップします。

▶ **閉じる**：カバー ① をいっぱいまで後方に引きます。

12V 電源ソケット

使用する際の注意点

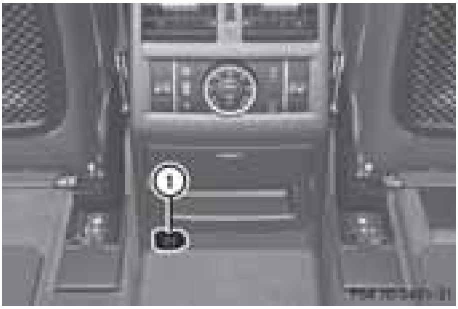
12V ソケットは最大消費電力 240W（20A）のアクセサリーに使用できます。アクセサリーには、照明や携帯電話の充電器のような機器が含まれます。

エンジンが停止しているときに、ソケットを長時間使用すると、バッテリーが放電することがあります。

▶ イグニッション位置を **1** または **2** の位置にします。

ⓘ 緊急遮断により、バッテリー電圧の過度の低下を防ぎます。バッテリー電圧が過度に低下したときは、12V 電源ソケットへの電力が自動的に遮断されます。これにより、エンジン始動用の十分な電力が確保されます。

後席センターコンソールのソケット



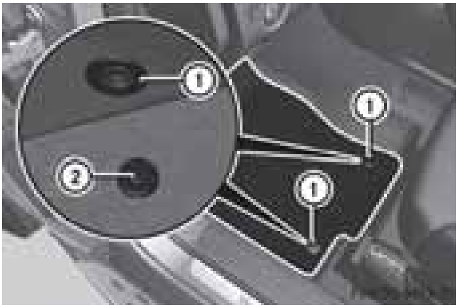
▶ ソケットのカバー ① を上げます。

ラゲッジルームのソケット

▶ ソケットのカバー ① を上げます。

フロアマット

> ⚠ **警 告**
>
> 運転席のフロアマットを使用するときは、ペダル周囲に十分な空間があり、フロアマットが確実に固定されていることを確認してください。
>
> フロアマットは常に、ノブと固定部を使用して確実に固定してください。
>
> 走行前にフロアマットを点検し、必要であれば固定してください。確実に固定されていないフロアマットは滑るおそれがあり、そのためペダルの動きを妨げるおそれがあります。
>
> フロアマットを重ねて使用しないでください。



例：運転席側のフロアマット

▶ **運転席および助手席シート：**対応するシートを後方にスライドします。

▶ **リアシート：**対応するシートを前方にスライドします。

▶ **取り付ける：**足元にフロアマットを敷きます。

▶ ノブ ① を固定部 ② に押し込みます。

▶ **取り外す：**固定部 ② からフロアマットを引き上げます。

▶ フロアマットを取り外します。

反射防止フィルムの装着

ウインドウの内側に装着した反射防止フィルムは、ラジオや携帯電話の受信を妨げることがあります。これは特に、伝導性があり、または金属コートが施されているフィルムの場合がそうです。反射防止フィルムに関しては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

エンジンルーム······················· 256
メンテナンス························· 260
日常の手入れ························· 262

エンジンルーム

ボンネット

ボンネットを開く

⚠ 警告

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて、視界が遮られるおそれがあります。

⚠ 警告

エンジンがかかっていないときでも、ボンネットが開いているとけがの危険性があります。

いくつかのエンジン構成部品が高温になっているおそれがあります。

火傷の危険性を避けるため、取扱説明書に記載されている構成部品にのみ触れ、関連する安全に関する注意事項を守ってください。

⚠ 警告

ラジエターとエンジンの間にあるラジエターファンは、エンジンスイッチからキーを抜いてあるときでも自動的に作動するおそれがあります。この理由により、ファンの回転範囲には手を伸ばさないでください。

⚠ 警告

電子式イグニッションシステムは高電圧を使用しています。この理由により、以下の間は、イグニッションシステムの構成部品（イグニッションコイル、イグニッションケーブル、点火プラグコネクター、またはテストソケット）に触れないでください。

- エンジンがかかっている
- エンジンを始動している

さもないと、感電したり、重大な、または致命的なけがをするおそれがあります。

▶ フロントワイパーが停止していることを確認します。

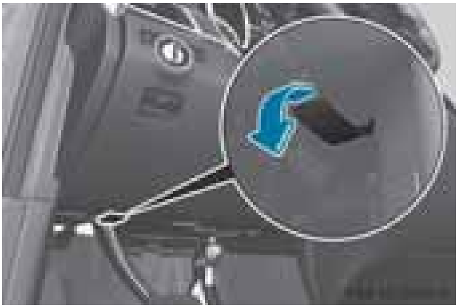
⚠ 警告

フロントワイパーやワイパーの作動部品が動き出すおそれがあります。

ボンネットを開くときは、お客様や他の方がワイパーの作動部品でけがをするおそれがあります。

ワイパーが停止していることを確認してください。エンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー * でイグニッションがオフになっていることを確認してください。メーターパネルのすべての表示灯が消灯していなければなりません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。



▶ ボンネットロック解除レバー ① を矢印の方向に引きます。

ボンネットのロックが解除されます。

! フロントワイパーがフロントウインドウから起きていないことを確認してください。さもないと、フロントワイパーやボンネットを損傷するおそれがあります。

▶ すき間に手を入れ、ロック解除ノブ ② を引いて、ボンネットを上げます。

約 40cm までボンネットを上げると、ボンネットはガスダンパーにより自動的に上がり、開いたままになります。

ボンネットを閉じる

> ⚠ 警告
>
> ボンネットを閉じるときに、挟まれるおそれのある人がいないことを確認してください。

▶ ボンネットを下げ、約 20cm の高さから手で押し下げて閉じます。

▶ ボンネットが確実に閉じていることを確認します。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

エンジンオイル

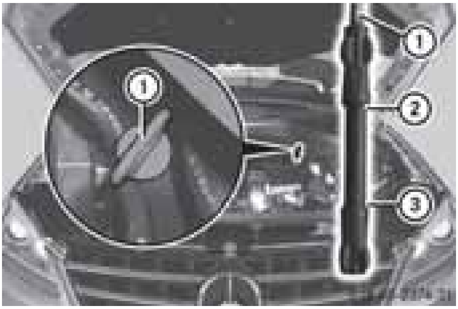
エンジンオイル量に関する注意

運転スタイルより、1,000km につき最大で約 0.8 リットルのエンジンオイルが消費されます。新車時やエンジンを高回転にして頻繁に運転しているときは、エンジンオイル消費量はこれより多くなることがあります。

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 水平な場所に停車します。
- エンジンが通常の作動温度のときは、エンジンを約 5 分停止します。
- エンジンを短時間のみかけたときなど、通常の作動温度でないときは、測定を行なう前に約 30 分間待ちます。

エンジンオイルレベルゲージを使用してのオイル量の点検



▶ エンジンオイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブから抜き取ります。

▶ オイルレベルゲージ ① を拭きます。

▶ オイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブに停止するまでゆっくり差し込み、再度抜き取ります。

レベルが MIN マーク ③ と MAX マーク ② の間にあれば、エンジンオイル量は正常です。

▶ エンジンオイルレベルが MIN マーク ③ かそれ以下のときは、約 0.5 ～ 1 リットルのエンジンオイルを補給します。

エンジンオイルを補給する

⚠ 警 告

エンジンオイルが熱くなったエンジン部品に触れると、発火して火傷をするおそれがあります。エンジンオイルを熱くなったエンジン部品にこぼさないでください。

環 境

エンジンオイルを補給するときは、こぼさないように注意してください。エンジンオイルが地面や排水溝に流れると、環境に悪影響を与えます。

! 車両の点検整備用として承認された、エンジンオイルとオイルフィルターのみを使用してください。メルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたエンジンオイルやオイルフィルターについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

以下のことが、エンジンや排気システムの損傷の原因になります。

- 点検整備用として承認されていないエンジンオイルとオイルフィルターを使用すること
- 点検整備により要求されている交換時期を過ぎてからエンジンオイルとオイルフィルターを交換すること
- エンジンオイルに添加剤を入れること

! エンジンオイルを補給しすぎないでください。エンジンオイルの過度の補給は、エンジンや触媒コンバーターの損傷につながるおそれがあります。エンジンオイルを抜いてください。

エンジンオイルフィラーキャップの例

▶ エンジンオイルフィラーキャップ①を反時計回りにまわして取り外します。

▶ エンジンオイルを補給します。

オイルレベルがエンジンオイルレベルゲージの MIN マークかそれ以下のときは、エンジンオイルを約 0.5 ～ 1 リットル補給します。

▶ キャップ①を補給口に合わせ、時計回りにいっぱいにまわします。

キャップが確実にロックされていることを確認します。

▶ エンジンオイルレベルゲージで、オイルレベルを再度点検します。

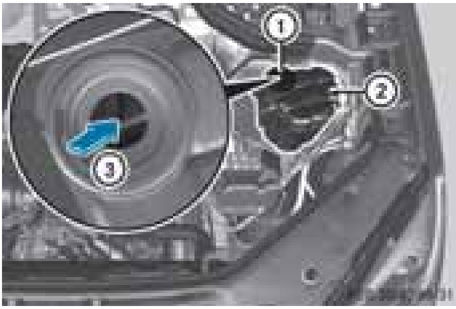
エンジンオイルについては（▷316 ページ）をご覧ください。

他のサービス用品の点検と補給

冷却水の量の点検

⚠ 警 告

冷却システムには圧力がかかっています。そのため、エンジンが冷えてからのみ、キャップをゆるめてください。冷却水温度表示が 70℃以下でなければなりません。さもないと、高温の冷却水が吹き出して、火傷をするおそれがあります。



▶ 水平な場所に車を停めます。

冷却水量の点検は、水平な場所に停車していて、エンジンが冷えているときにのみ行なってください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

キーレスゴー装備車は、キーレスゴースイッチを 2 回押します（▷133 ページ）。

▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度計を点検します。

冷却水温度が約 70℃以下になっていなければなりません。

▶ イグニッション位置を **0** にします。

- キャップ ① を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。
- キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。

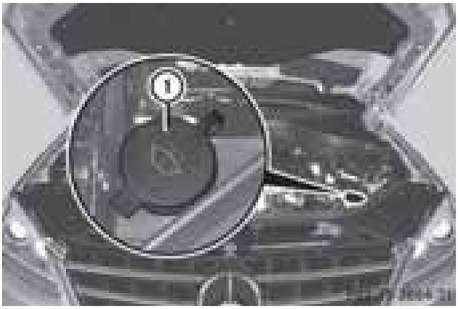
  冷えているときに、補充口のマーカーバー ③ の高さにあれば、リザーブタンク ② に十分な冷却水があります。

  冷却水が温かいときは、液面がマーカーバー ③ より約 1.5cm 上にあれば、リザーブタンク ② に十分な冷却水があります。
- 必要であれば、メルセデス・ベンツによりテストされ、承認された冷却水を補給します。
- キャップ ① を合わせ、いっぱいまで時計回りにまわします。

冷却水について、詳しくは（▷317 ページ）をご覧ください。

フロントウインドウウォッシャー / ヘッドライトウォッシャーの補給

> ⚠ **警 告**
>
> ウォッシャー液は高い可燃性です。発火し、燃焼するおそれがあるため、熱くなったエンジン構成部品にウォッシャー液をこぼさないでください。重大な火災につながるおそれがあります



- **開く：**タブを持ってキャップ ① を上に引きます。
- 水と適正な混合比に混ぜたウォッシャー液を補給します。
- **閉じる：**固定するまでキャップ ① を補給口に押し込みます。

リザーブタンクは、ウインドウウォッシャーとヘッドライトウォッシャー両方に使用されています。

ウォッシャー液について、詳しくは（▷318 ページ）をご覧ください。

メンテナンス

メンテナンスインジケーター

メンテナンスメッセージ

メンテナンスインジケーターは、次回のメーカー指定点検整備の時期を知らせます。

マルチファンクションディスプレイに以下のようなメッセージが数秒間表示されます。

次回のメンテナンス A まで あと XX 日です

メンテナンス A 期限が切れます

メンテナンス A 超過しました －XX 日です

文字はいずれの点検整備が予定されているかを示しています。A は小規模な点検整備を、B は大規模な点検整備を表しています。文字の後に、数字または他の文字が表示されることがあります。この数字は、実施すべき必要な追加の点検整備作業を示しています。

ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲と法定点検の範囲は異なります。

点検整備の種類や点検整備のインターバルについては、別冊の整備手帳をご覧ください。

メンテナンスインジケーターは、バッテリーの接続を外している期間は考慮に入れません。

期日に応じたメーカー指定点検整備時期を維持するには、以下を行ないます。

▶ バッテリーの接続を外す前に、マルチファンクションディスプレイに表示されている点検整備時期を書き留めます。

または

▶ バッテリーを再接続した後に、マルチファンクションディスプレイに表示されている点検整備時期からバッテリーの接続を外していた期間を差し引きます。

ⓘ メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量に関する情報は表示しません。エンジンオイルについての注意事項は（▷316 ページ）をご覧ください。

メンテナンスメッセージを消去する

▶ ステアリングの [↩] または [OK] スイッチを押します。

メンテナンスメッセージを表示させる

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ステアリングの [◀] か [▶] スイッチを押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューからメンテナンスを選択します。

▶ ステアリングの [▲] か [▼] スイッチを押して、メンテナンスを選択し、[OK] スイッチを押して確定します。

マルチファンクションディスプレイにメーカー指定点検整備時期が表示されます。

注意点

メンテナンスインジケーターのリセット

メルセデス・ベンツ指定サービス工場は、点検整備作業が実施された後にメンテナンスインジケーターをリセットします。

点検整備作業に関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! メンテナンスインジケーターが誤ってリセットされた場合は、この設定をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で修正してください。

点検整備作業は、整備手帳に記載されているように実施してください。さもないと、車両の主要部品の摩耗の増加や損傷につながることがあります。

日常の手入れ

手入れに関する注意事項

定期的な車の手入れにより、長い期間に渡って品質を保つことができます。

メルセデス・ベンツが推奨し、承認した用品およびクリーナーを使用してください。

! 車の手入れをするときは、以下のものを使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、かたい布など
- 研磨剤を含むクリーナー
- 有機溶剤
- 有機溶剤を含むクリーナー

強くこすらないでください。

指輪やアイススクレーパーなどのかたい物で塗装面や保護フィルムなどに触れないでください。さもないと、塗装面や保護フィルムなどを損傷したり、こすり傷が付くおそれがあります。

環境

空の容器や汚れた布は、環境に配慮した方法で廃棄してください。

! 洗車してそのままの状態で、特にホイールクリーナーでホイールを清掃したときは、長期間車を駐車したままにしないでください。ホイールクリーナーはブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングの腐食の原因になります。この理由により、洗車した後は数分間走行してください。ブレーキ操作でブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングを温め、乾燥させることができます。その後に駐車してください。

外装の手入れ

自動洗車機の使用

警告

洗車した後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。事故の原因になることがあります。この理由により、洗車した後はブレーキが乾くまで、特に注意して走行してください。

新車時から自動洗車機で洗車することができます。

自動洗車機で洗車する前に、余分な汚れを洗い流してください。

! 自走式の自動洗車機で洗車するときは、オートマチックトランスミッションのポジションが N になっていることを確認してください。トランスミッションが他のポジションになっていると、車を損傷するおそれがあります。

- キーを使用している車両

  エンジンスイッチからキーを抜かないでください。エンジンが停止しているときに、運転席ドアまたは助手席ドアを開かないでください。さもないと、オートマチックトランスミッションが自動的にパーキングポジション **P** を選択し、車輪がロックされます。その前にオートマチックトランスミッションを **N** にシフトすることにより、このことを防ぐことができます。

- キーレスゴー * を使用している車両

  エンジンが停止しているときに、運転席ドアまたは助手席ドアを開かないでください。さもないと、オートマチックトランスミッションが自動的にパーキングポジション **P** を選択し、車輪がロックされます。

オートマチックトランスミッションがポジション **N** にあることを確認するために、以下に従ってください。

▶ 車両が停止していて、イグニッションがオフになっていることを確認してください。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にしてください (▷133 ページ)。

キーレスゴー装備車では、キーレスゴースイッチの代わりにキーを使用してください。

▶ ブレーキペダルを踏んで、保持してください。

▶ オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトしてください。

▶ ブレーキペダルを放してください。

▶ 電気式パーキングブレーキを解除してください。

▶ イグニッションをオフにして、エンジンスイッチのキーをそのままにしてください。

! 以下の点を確認してください。

- サイドウインドウとパノラミックスライディングルーフ * が完全に閉じていること
- 送風が停止していること（OFF スイッチが押されている）
- ワイパースイッチが **0** の位置になっていること

車両を損傷するおそれがあります。

自動洗車機を使用した後は、フロントウインドウやワイパーブレードからワックスを拭き取ってください。これにより、フロントウインドウの残留物による汚れを防ぎ、ワイパーノイズを低減させせます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

手洗いによる洗車

▶ 熱湯を使用せず、直射日光下では洗車をしないでください。

▶ 柔らかいスポンジで洗車してください。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を使用してください。

▶ 低圧の水流で車体全体に水をかけます。

▶ 吸気口に向けて直接水流を当てないでください。

▶ 十分な量の水を使用して、スポンジで洗い流します。

▶ きれいな水で洗い流し、セーム皮などで水滴を拭き取ります。

▶ 塗装面に洗浄液がある状態で乾かないでください。

冬季に車両を使用したときは、すみやかに凍結防止剤を丁寧に取り除いてください。

高圧式スプレーガンの使用

⚠ **警 告**

高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷するおそれがあります。

! 車両と高圧式スプレーガンのノズル間には、常に最低でも 30cm の間隔を確保してください。

高圧式スプレーガンのノズルは円を描くように動かしてください。

高圧式スプレーガンのノズルを直接、以下の物に向けないでください。

- タイヤ
- ドア接合面、ルーフ接合面、ジョイントなど
- 電気装備
- バッテリー
- コネクター
- ライト
- シール部
- トリム部品
- 吸気口

シール部や電気装備が損傷することにより、車内への水の浸入や故障につながります。

ホイールの清掃

! ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキ構成部品を損傷するおそれがあります。

! ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置しないでください。ブレーキディスクやブレーキパッド / ライニングなどが腐食するおそれがあります。この理由により、清掃後は数分間走行し、ブレーキディスクとブレーキパッド / ライニングを温めて乾燥させてください。その後、車を駐車してください。

塗装面の清掃

引っかき傷、腐食残留物、腐食作用を受けた範囲、不適切な取り扱いが原因の損傷は完全に修復することはできません。その場合は、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で補修を行なってください。

▶ 不純物は、強くこすることなく、ただちに取り除いてください。

▶ 虫の死がいはインセクトリムーバーで取り除き、周囲をよく洗い流してください。

▶ 鳥のふんは水で落とし、周囲をよく洗い流してください。

▶ 油脂類、樹液、オイル、燃料、グリースなどは、ベンジンまたはライター用オイルを染み込ませた布で軽く拭いてください。

▶ タールはタールリムーバーで取り除いてください。

▶ ワックスはシリコンリムーバーで取り除いてください。

! 塗装面に以下のものを貼付しないでください。

- ステッカー
- フィルム
- マグネットや類似の物

さもないと、塗装面を損傷するおそれがあります。

マットペイント塗装車の取り扱い

お車がマットペイント塗装の場合は、不適切な取り扱いによる塗装面の損傷を防ぐために、以下の指示に従ってください。

マットペイント塗装されたホイールについても、同様の手入れを行なってください。

! 車体またはホイールを磨かないでください。磨くことにより、塗装面に光沢が出ます。

! 以下のことは塗装面に光沢を持たせたり、マット塗装の質感を損なわせるおそれがあります。

- 不適切な素材で力強くこすること
- 頻繁に洗車を行なうこと
- 直射日光下で洗車を行なうこと

! 塗装クリーナー、磨き布または研磨剤、またはワックスなどの光沢剤を使用しないでください。これらの製品は高い光沢の表面にのみ適しています。マット仕上げの車両にこれらを使用すると、表面の著しい損傷（光沢、まだら）につながります。

塗装の修復は、必ずメルセデス･ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! いかなる状況でもホットワックス仕上げの洗車コースを使用しないでください。

i 洗車は、柔らかいスポンジとカーシャンプー、十分な水で、手洗いで行なうことをおすすめします。

i インセクトリムーバーやカーシャンプーは、メルセデス・ベンツにより推奨され、承認された製品のみを使用してください。

ウインドウの清掃

⚠ **警 告**

フロントウインドウやワイパーブレードを清掃する前に、フロントワイパーを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。キーレスゴー装備車は、メーターパネルのすべての表示灯が消灯するまでキーレスゴースイッチを繰り返し押してください。さもないと、ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

▶ ウインドウの外側と内側を水で湿らせた柔らかい布で清掃してください。

! ウインドウの内側を清掃するときは、乾いた布や研磨剤、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。アイススクレーパーや指輪などのかたい物でウインドウの内側に触れないでください。さもないと、ウインドウを損傷する危険性があります。

! フロントウインドウおよびリアウインドウの排水口を定期的に清掃してください。特定の状況で、葉、花およびほこりなどの残留物が排水を妨げることがあります。これにより、腐食による損傷や電気装備の損傷につながるおそれがあります。

ワイパーブレードの清掃

⚠ **警 告**

フロントウインドウやワイパーブレードを清掃する前に、フロントワイパーを停止し、エンジンスイッチからキーを抜いてください。キーレスゴー装備車は、メーターパネルのすべての表示灯が消灯するまでキーレスゴースイッチを繰り返し押してください。さもないと、ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードを引っ張らないでください。さもないと、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードの清掃を頻繁に行なったり、強くこすらないでください。さもないと、表面のコーティングが損傷するおそれがあります。これは異音の原因になります。

▶ フロントウインドウからワイパーアームを起こします。

▶ ワイパーブレードを、湿らせた柔らかい布で軽く拭きます。

▶ イグニッション位置を **1** や **2** にする前に、ワイパーアームを元の位置に戻します。

! ワイパーアームを元の位置に戻すときは、ワイパーアームをしっかり持ってください。ワイパーアームがフロントウインドウにぶつかると、フロントウインドウを損傷するおそれがあります。

ライト類の清掃

! ライト類の清掃には、樹脂製レンズに適したクリーナーと布を使用してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。

▶ 湿らせたスポンジとカーシャンプーを混ぜた洗浄液、または清潔な柔らかい布でライト類の樹脂製レンズを清掃します。

ドアミラー方向指示灯の清掃

! ドアミラー方向指示灯の清掃には、樹脂製レンズに適したクリーナーと布を使用してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。

▶ 湿らせたスポンジとカーシャンプーを混ぜた洗浄液、または清潔な柔らかい布でドアミラー方向指示灯の樹脂製レンズを清掃します。

センサーの清掃

▶ 流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で走行装備のセンサー ① を清掃します。

! 高圧式スプレーガンでセンサーを清掃するときは、車両と高圧式スプレーガンとの間に最低でも 30cm の間隔があることを確認してください。適正な間隔についての情報は、用品の製造者から得ることができます。

パーキングアシストリアビューカメラ / サイドビューカメラの清掃

パーキングアシストリアビューカメラ

▶ きれいな水とやわらかい布を使用して、カメラのレンズ ① を清掃してください。

! 高圧式スプレーガンで、カメラのレンズやカメラの周辺を清掃しないでください。

マフラーの清掃

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。冬季や洗車後は特に、定期的にマフラーを手入れすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

! ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。

▶ マフラーの手入れについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

内装の手入れ

ディスプレイの清掃

▶ ディスプレイを清掃する前に、ディスプレイがオフになっていて、冷えていることを確認してください。

▶ 市販の不織布とディスプレイクリーナーを使用して、ディスプレイの表面を拭き取ります。

▶ 乾いた不織布でディスプレイを拭きます。

! 清掃するときは、以下のものを使用しないでください。

- アルコール分を含んだ溶剤や有機溶剤、燃料
- 研磨剤を含んだクリーナー
- 家庭用クリーナー

ディスプレイ表面を損傷するおそれがあります。清掃するときは、ディスプレイ表面に圧力を加えないでください。ディスプレイに復元不可能な損傷を与えるおそれがあります。

プラスチックトリムの清掃

⚠ 警 告

エアバッグの収納部分には、スプレー式の車内クリーナーや有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。有機溶剤を含むクリーナーなどで清掃すると、収納部分の表面が劣化し、エアバッグが作動したときにプラスチック部品が損傷して車内に飛散し、重大なけがをするおそれがあります。

! プラスチックトリムに、以下の物を貼付しないでください。

- ステッカー
- フィルム
- 芳香剤のボトルや類似のもの

プラスチックトリムを損傷するおそれがあります。

! プラスチックトリムに、化粧品や防虫剤、日焼け止めなどが付着しないようにしてください。表面の劣化の原因になります。

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ **頑固な汚れ**：専用のクリーナーを使用します。

表面の色が一時的に変化しますが、乾くと元に戻ります。

ステアリングおよびセレクターレバーの清掃

▶ 水で湿らせた布で全体を拭くか、指定のレザーケア用品を使用してください。

ウッドトリムの清掃

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ **頑固な汚れ**：専用のクリーナーを使用します。

! 有機溶剤を含むクリーナーや研磨剤、ワックスなどは使用しないでください。さもないと、ウッドトリムを損傷するおそれがあります。

シート表皮の清掃

! 本革、人工皮革または アルカンターラ ® の表皮の清掃には、不織布を使用しないでください。 頻繁に使用すると、表皮を損傷するおそれがあります。

! 清掃するときは、以下のことに注意してください。

- 本革の表皮は、湿らせた布で注意して清掃し、その後に乾いた布で表皮を拭き取ります。 革が濡れないように注意してください。硬化やひび割れにつながります。承認されたレザーケア用品のみを使用してください。 詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。
- 人工皮革の表皮は、1% の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせた布で清掃します。
- 布の表皮は、1% の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせた不織布で清掃します。拭き残しがないように、注意深くこすり、シート全体をまんべんなく拭きます。 その後、シートを乾燥させます。 清掃の効果は、汚れの種類およびどの程度の期間汚れていたかによります。
- アルカンターラ ® の表皮は、湿らせた布で清掃します。拭き残しがないように、シート全体をまんべんなく拭きます。

i 定期的な手入れを行なうことにより、表皮の見栄えと快適さを長期間維持することができます。

シートベルトの清掃

▶ ぬるま湯か薄めた石鹸水を使用して拭き取ります。

! 化学薬品を含むクリーナーを使用しないでください。直射日光に当てたり、80℃以上の温度で乾燥させないでください。

ルーフライニングおよびカーペットの清掃

▶ **ルーフライニング**：柔らかいブラシを使用して清掃します。ひどい汚れには、指定のクリーナーを使用します。

▶ **カーペット**：指定のクリーナーを使用して清掃します。

車載品の収納場所……………………272
パンクしたとき………………………273
バッテリー……………………………280
ジャンプスタート……………………285
けん引およびけん引始動……………288
ヒューズ………………………………291

車載品の収納場所

停止表示板

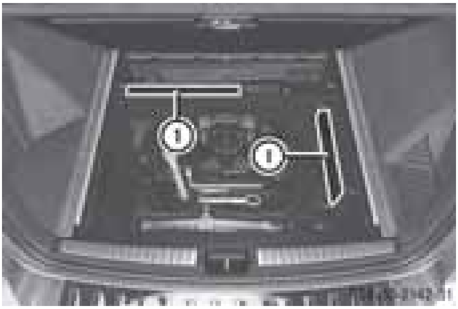
停止表示板の取り外し

停止表示板はラゲッジルームフロアボード下の収納スペースにあります。

▶ テールゲートを開きます。

▶ ラゲッジフロアボードを上げます (▷246 ページ)。

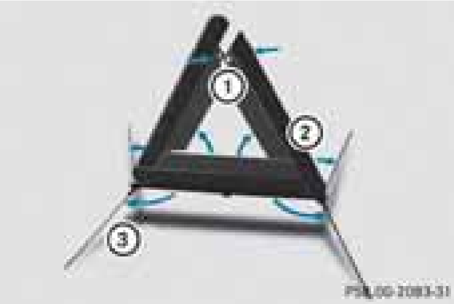
車両の装備により、停止表示板はラゲッジフロアボード下の以下のような場所にあります。



例：停止表示板の収納場所

▶ 停止表示板 ① を取り外します。

停止表示板の組み立て



▶ スタンド ③ を引き出して、停止表示板を地面に立てます。

▶ 反射板 ② を開いて、先端のフック ① をかみ合わせます。

救急セット

▶ テールゲートを開きます。

▶ ラゲッジネットから救急セット ① を取り外します。

少なくとも 1 年に 1 度は救急セットの有効期限を点検してください。必要であれば中身を交換し、無くなった物を交換してください。

車載工具

注意事項

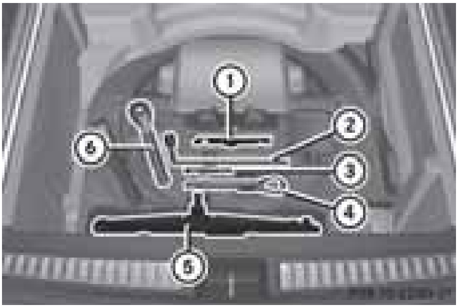
けん引フックおよびタイヤ交換工具はラゲッジフロアボード下の収納スペースにあります。

タイヤ交換工具には以下が含まれます。

- ジャッキ
- ラチェットレンチ
- ホイールレンチ
- ガイドピン
- 輪止め

▶ ラゲッジフロアボードを上げます（▷246 ページ）。

▶ 応急用スペアタイヤを取り出します（▷273 ページ）。

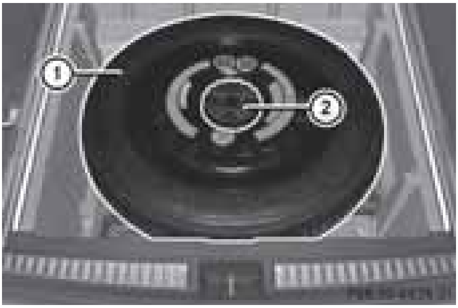


① 輪止め
② ホイールレンチ
③ ガイドピン
④ けん引フック
⑤ ジャッキ
⑥ ラチェットレンチ

応急用スペアタイヤ

応急用スペアタイヤはラゲッジルームフロアボード下の収納スペースにあります。

▶ ラゲッジフロアボードを上げます（▷246 ページ）。



▶ 応急用スペアタイヤ固定スクリュー ② を反時計回りにまわして、取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤ ① を取り出します。

パンクしたとき

車両の準備

▶ 交通からできるだけ離れた、かたくて滑らない、水平な地面に車両を停止します。

▶ 非常点滅灯を点滅させせます。

▶ 電気式パーキングブレーキを手動で効かせます（▷152 ページ）。

▶ 前輪を直進の位置にします。

▶ DIRECT SELECT レバーでポジション **P** にシフトします。

▶ エンジンを停止します。

▶ **キーレスゴー非装備車：** エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ **キーレスゴー装備車：** 運転席ドアを開きます。

車両の電気装備が、キーを抜いたことと同様の、**0** の状態になります。

▶ **キーレスゴー装備車：** エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します（▷134 ページ）。

▶ すべての乗員が車両から出なければなりません。そのときは、彼らに危険がおよばないことを確認してください。

▶ 車輪を交換している間は、危険な範囲に誰もいないことを確認してください。車輪交換を直接補助しない人は、バリアの後方に立つなどしてください。

▶ 交通状況に注意しながら、車外に出ます。

▶ 運転席ドアを閉じます。

▶ 車両の後方から離れた適切な場所に停止表示板を置きます（▷272 ページ）。

▶ 重い荷物を取り出します。

応急用スペアタイヤを使用するときは、最高速度が 80km/h を超えないようにしてください。

⚠ 警 告

応急用スペアタイヤと標準タイヤではタイヤのサイズと種類が異なります。応急用スペアタイヤの装着は、走行特性を著しく損なうことがあります。事故の危険性があります。

危険な状況を避けるために、以下を行なってください。

- 状況に合わせて慎重に運転してください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤの使用は短い時間にとどめてください。
- ESP® の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。交換するタイヤのサイズと種類が正しいことを確認してください。

▶ 記載されている通りに、車両の準備を行ないます（▷273 ページ）。

▶ ラゲッジフロアボード下の収納スペースから以下のもの（装備により異なります）を取り出します。

- 応急用スペアタイヤ
- ホイールレンチ
- 輪止め
- ジャッキ
- ラチェットレンチ
- ガイドピン

▶ 車が動き出すのを防ぐため、車を固定します。

車が動き出さないように固定する

車両の輪止めが装備されている場合は、車載工具にあります（▷272 ページ）。

折りたたみ式の輪止めは、車輪を交換するときなどに車が動き出すのを防止するための補助的な固定手段です。

▶ 両方のプレートを引き起こします ①。

▶ 裏面のプレートを引き出します ②。

▶ 裏面のプレートの突起部分を、ベースプレートの開口部に差し込みます ③。

水平な場所で輪止めをする場合

▶ **水平な場所**：交換する車輪の対角にある車輪の前後に輪止めまたは類似の物を置きます。

緩い下り坂勾配で輪止めをする場合

▶ **下り勾配**：前輪および後輪の前側に輪止めまたは類似の物を置きます。

車両を上げる

⚠ **警 告**

車両の適切なジャッキポイントにジャッキを正しく合わせないと、車両を上げたときにジャッキが倒れるおそれがあります。けがの危険があります。

車両の適切なジャッキポイントにのみジャッキを合わせてください。ジャッキは車両のジャッキポイントの真下にくるようにしてください。

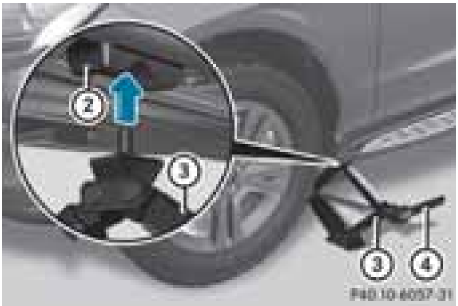
車両を上げるときは、以下の点に注意してください。

- 車両を上げるときは、メルセデス・ベンツによりテストされ承認された、車両専用のジャッキのみを使用してください。不適切なジャッキを使用すると、車両を上げたときにジャッキが倒れるおそれがあります。
- ジャッキは、車輪を交換するときに短時間車両を上げたままにするためだけに設計されています。車両の下での整備作業には適していません。
- 上り坂や下り坂での車輪交換は避けてください。
- 車両を上げる前に、パーキングブレーキを効かせ、また輪止めをして、車両を固定してください。車両を上げているときは、決してパーキンブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、かたく、平坦で滑りにくい路面に置いてください。不整地などでは、大型の耐荷重マットを使用してください。滑りやすい路面では、ラバーマットなどの滑りにくい敷物を使用してください。
- ジャッキの敷物として、木製のブロックなどを使用しないでください。さもないと、高さが制限されることによりジャッキの耐荷重を得られないおそれがあります。
- タイヤ底面と地面との間の距離が 3cm を超えないようにしてください。
- 上げた車両の下には決して手や足を入れないでください。
- 上げた車両の下には決して横たわらないでください。
- 車両を上げているときは、決してエンジンを始動しないでください。
- 車両を上げているときは、決してドアやテールゲートを開閉しないでください。
- 車両を上げているときは、車両に人が乗っていないことを確認してください。

▶ ホイールレンチ ① を使用して、交換する車輪のボルトを約 1 回転ほど緩めます。ボルトを完全に緩めないでください。

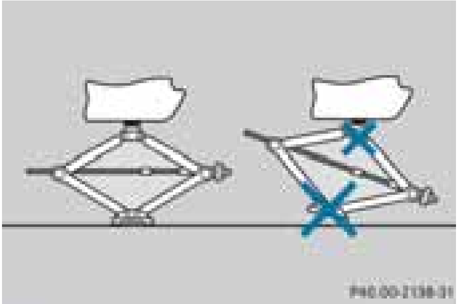
ジャッキポイントは、フロントホイールアーチのすぐ後方、リアホイールアーチのすぐ前方（矢印の位置）にあります。

▶ タイヤ交換工具からラチェットレンチを取り出し、**AUF** の文字が見えるようにジャッキの六角ナットに合わせます。



▶ ジャッキポイント ② にジャッキ ③ を合わせます。

ジャッキのガイドピンがジャッキポイントの開口部に差し込まれていなければなりません。



▶ ジャッキの底部がジャッキポイントの真下にあることを確認します。

▶ ジャッキ ③ がジャッキポイント ② に完全にはまり、ジャッキの底部が均一に地面に接するまで、ラチェットレンチ ④ をまわします。

▶ タイヤが地面から最大で約3 cm離れるまで、ラチェットレンチ ④ をまわします。

車輪を取り外す

▶ 最も上のあるホイールボルトを完全に緩めます。

▶ ホイールボルトの代わりにネジ山にガイドピン ① を締めます。

▶ 残りのホイールボルトを完全に緩めます。

! ホイールボルトを砂や汚れのあるところに置かないでください。さもないと、ボルトを締めるときにホイールボルトのネジ山やホイールハブを損傷するおそれがあります。

▶ ホイールを取り外します。

車輪を取り付ける

⚠ 警告

オイルまたはグリースが付着したホイールボルト、または損傷したホイールボルト / ハブのネジ山はホイールボルトが緩む原因になるおそれがあります。結果として、走行しているときに車輪が外れるおそれがあります。事故の危険があります。

ホイールボルトにオイルやグリースを付着させないでください。ネジ山が損傷している場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷したホイールボルトまたはハブのネジ山を交換 / 再生してください。走行を続けないでください。

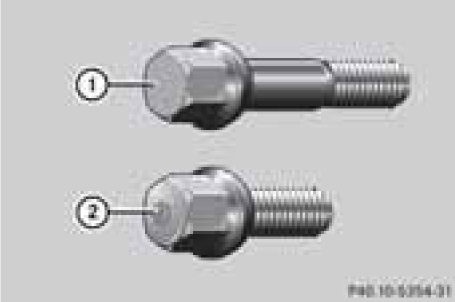
⚠ 警告

車両が上がっているときにホイールボルトまたはホイールナットを締めると、ジャッキが倒れるおそれがあります。けがの危険があります。

車両が地面の上にあるときのみ、ホイールボルトまたはホイールナットを締めてください。

" 車輪の交換 " の指示や注意事項にも常に注意を払ってください（▷305 ページ）。

必ずホイールおよび車両のために設計されたホイールボルトのみを使用してください。安全上の理由により、メルセデス・ベンツ車および対応するホイールのために承認されたホイールボルトのみ使用することをお勧めします。



① 工場ですべてのホイールに装着されているホイールボルト
② 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト

! 応急用スペアタイヤを装着するときは、常にホイールボルト ② を使用してください。他のホイールボルトを応急用スペアタイヤに使用するとブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

修理した後に元のホイールを再装着するときは、必ず元の長さのホイールボルトを使用してください。

▶ ホイールとホイールハブの接合面を清掃します。

▶ ガイドピンに応急用スペアタイヤをスライドさせ、押し込みます。

▶ ホイールボルトを手で締めます。

▶ ガイドピンを緩めます。

▶ 残りのホイールボルトを手で締めます。

車両を下げる

⚠ **警 告**

非常に高い、または非常に低いタイヤ空気圧は、特に重い荷物で走行したときや速度を上げたときに応急用スペアタイヤの破裂につながるおそれがあります。事故の危険性があります。

応急用スペアタイヤの空気圧を点検し、調整してください。そのためには、規定タイヤ空気圧に従ってください。

▶ AB の文字が見えるようにラチェットレンチをジャッキの六角ナットに合わせます。

▶ 車両が再度地面に確実に着くまで、ラチェットレンチをまわします。

▶ ジャッキを脇に置きます。

⚠ **警 告**

ホイールナットおよびボルトが規定の締め付けトルクで締められていないときは、ホイールが緩むおそれがあります。事故の危険があります。

車輪を交換した後は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で締め付けトルクを点検してください。

▶ 図のように対角パターンの順番（①～⑤）で、ホイールボルトを均一に締め付けます。規定の締め付けトルクは **150 Nm** です。

▶ ジャッキを元の位置にまわして戻します。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、他の車載工具とともにラゲッジルームに収納します。

▶ 応急用スペアタイヤに含まれている保護フィルム * で不具合のある車輪を包み、ラゲッジルームで車輪を運搬します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

または

▶ 車輪のサイズによっては、不具合のある車輪を応急用スペアタイヤの収納スペースに固定できることもあります。この場合は、応急用スペアタイヤの収納スペースから収納トレイを取り外し、ラゲッジルームに固定しなければなりません。

ⓘ 応急用スペアタイヤを装着して走行したときは、タイヤ空気圧警告システムは正常に作動しません。不具合のある車輪を新しい車輪に交換したときにのみ、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

バッテリー

重要な安全上の注意

バッテリーが最大限の寿命を得るためには、常に十分に充電されていなければなりません。

車両を主に短距離で使用する場合や、長い期間使用していない場合は、より頻繁にバッテリーを点検してください。

メルセデス・ベンツにより推奨されたバッテリーにのみ交換してください。

長期間車両を駐車したままにするときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。

⚠ **警告**

バッテリーを取り扱うときは、安全の注意に従い、保護対策を取ってください。

爆発の危険があります。

バッテリーを取り扱っているときは、火気、裸火および喫煙は禁止されています。

火花の発生を避けてください。

バッテリーの酸は腐食性です。皮膚、眼および衣服に触れないようにしてください。

手袋、エプロンおよびマスクなどの適切な保護用衣類を着用してください。

飛散した酸は、清潔な水でただちにすすぎ落としてください。必要であれば、医師に相談してください。

保護眼鏡を着用してください。

子供から離してください。

取扱説明書に従ってください。

環 境

バッテリーには有害物質が含まれています。家庭ごみとして廃棄することは違法です。分別して収集され、環境を配慮したリサイクルシステムで廃棄されなければなりません。

バッテリーは環境を配慮した方法で廃棄されなければなりません。放電したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または使用済みバッテリーの収集場所にお持ちください。

警 告

安全上の理由により、メルセデス･ベンツがお客様の車両のためにテストを行ない、承認したバッテリーのみを使用することをお勧めします。これらのバッテリーは、事故でバッテリーが損傷したときに、乗員が酸による火傷を負うことを防ぐ、優れた衝撃保護をもたらします。

酸による火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の安全事項に従ってください。

- バッテリーをのぞきこまないでください。
- 金属製の物をバッテリーの上に置かないでください。さもないと、ショートにつながるおそれがあり、バッテリーガスの混合気が発火するおそれがあります。
- 合成繊維の衣服の着用や繊維を擦ることによる静電気の帯電が発生していないことを確認してください。そのため、カーペットや他の合成繊維物の上でバッテリーを引いたり、スライドさせないでください。
- 最初にバッテリーに触れないでください。帯電した静電気を放電させるためには、最初に車から降りて、車体に触れてください。
- 布を使用してバッテリーを拭かないでください。これにより、静電気の帯電の結果、または火花の発生により、バッテリーが爆発することがあります。

! バッテリー端子の接続を外す前にエンジンを停止し、キーを抜いてください。キーレスゴー装備車はイグニッションがオフになったことを確認してください。メーターパネルのすべての表示灯が消灯していることを点検してください。さもないと、オルタネーターのような電気部品を損傷するおそれがあります。

i 車両を駐車するときは、電気装備が必要でない場合はキーを抜いてください。キーが差し込まれた状態では、車両はわずかな電力を使用し、バッテリーの電力を消耗します。

取り外しや充電など、バッテリーに関する作業はお客様ご自身で実施しないことをメルセデス・ベンツは推奨します。この作業はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実施してください。

バッテリーの装着位置

車両は、車内にバッテリーを装備しています。進行方向右側のフロントシート下部にあります。

▶ 電気式パーキングブレーキを効かせて、トランスミッションをポジション **P** にシフトします。

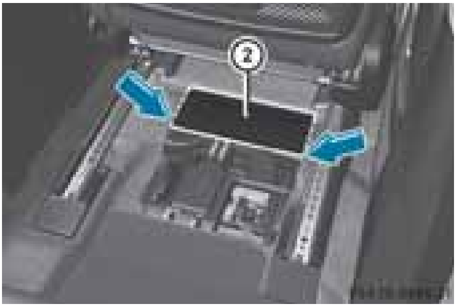
▶ 右側フロントシートをいっぱいまで前方に動かします。

▶ すべての電気装備（オーディオや送風など）を停止します。

▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にして抜きます。キーレスゴー装備車ではイグニッションがオフになっていることを確認します。メーターパネルのすべての表示灯が消灯していなければなりません。

▶ 後席に乗ります。

▶ 右側フロントシート下部のカバー ① を取り外します。



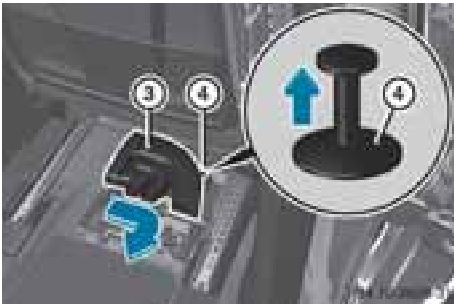
▶ ミシン目がある位置まで、白い点線に沿ってカーペット ② にカッターなどで切り込みを入れます。

▶ 右側フロントシートをもっとも後方の位置に動かします。

▶ 切ったカーペット ② の後端を矢印の方向にめくります。

▶ 右側フロントシートをもっとも高い位置に調整します。

▶ 右側フロントシートをできるだけ前方に動かします。



足元送風口の取り外し

▶ クリップ ④ を上方に引きます。

▶ クリップ ④ 全体を上方に引いて、取り外します。

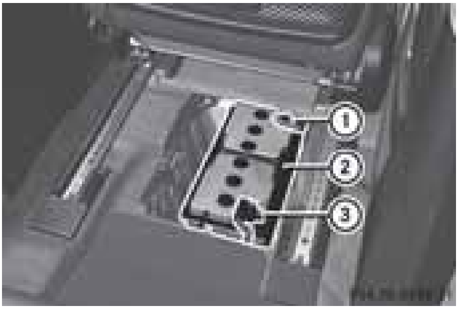
▶ 矢印の方向にエアダクトからリア足元送風口 ③ を引いて、取り外します。

▶ バッテリーカバー ⑤ を上げ、バッテリー ⑥ から取り外します。

バッテリーの接続を外す

! 常に以下に記載されている順番でバッテリーの接続を外してください。端子クランプのプラスとマイナスを入れ替えないでください。さもないと、車両の電気装備を損傷することがあります。

バッテリーの接続を外した後は、トランスミッションがポジション **P** にロックされます。車両は動き出さないように固定されます。車両を動かすことができなくなります。



① プラス端子
② バッテリー
③ マイナス端子

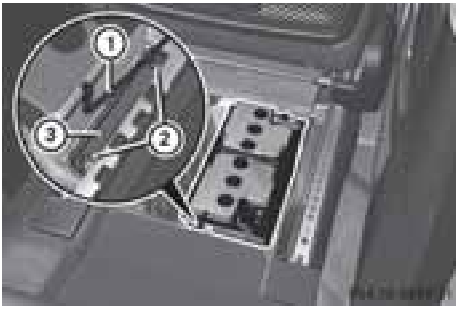
▶ バッテリーのマイナス端子を緩めて、取り外します。

▶ プラス端子のカバーを取り外します。

▶ バッテリーのプラス端子を緩めて、取り外します。

バッテリーの脱着

- **取り外す：**バッテリーの接続を外します（▷283 ページ）。



- ブリーザーホース①を取り外します。
- バッテリーを固定しているブラケット③のボルト②を緩めます。

ⓘ このためには長さが最低 30cm のエクステンションを付けた 13mm のソケットレンチが必要です。この工具は車載工具には含まれていません。

- ブラケット③を取り外します。

- 下端が自由になるまで、バッテリー④の側面を持ち上げます。
- バッテリー④を矢印の方向に引き上げます。
- **取り付ける：**" 取り外す " に記載されているものとは逆の手順で進めます。

バッテリーの再接続

! 常に以下に記載されている順番でバッテリーを接続してください。端子クランプのプラスとマイナスを入れ替えないでください。さもないと、車両の電気装備を損傷することがあります。

- すべての電気装備（ラジオや送風など）を停止します。
- プラス端子を接続して、カバーを固定します。
- マイナス端子を接続します。

ⓘ バッテリーの接続が外されるなど電力供給が断たれた場合は、ドアミラーを一度格納することによる、施錠時のドアミラー格納のリセットが必要になることがあります（▷99 ページ）。

バッテリーの充電

⚠ **警 告**

バッテリーは換気のよい場所でのみ充電してください。バッテリーが充電されると、ガスが発生し、小規模な爆発が発生するおそれがあります。これにより、お客様や他の方がけがをしたり、塗装の損傷や車両の腐食につながるおそれがあります。

バッテリーを装着したままバッテリーを充電できるバッテリー充電器の情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ **警告**

充電作業の間は、バッテリーから発生したガスによる酸により、火傷の危険性があります。充電作業の間は、バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ **警告**

バッテリーの酸は腐食性です。皮膚、目および衣類に触れないようにしてください。

! 装着されたバッテリーは、メルセデス・ベンツによりテストされ、承認されたバッテリー充電器のみで充電してください。これらのバッテリー充電器は、バッテリーを車両に装着している間に充電することができます。

! 最大充電電圧 14.8V のバッテリー充電器のみを使用してください。

! バッテリーを充電するときは、ジャンプスタートの接続端子のみを使用してください。

ジャンプスタートの接続端子はエンジンルーム内にあります(▷287ページ)。

▶ ボンネットを開きます。

▶ ジャンプスタートの手順で救援用バッテリーを接続するときと同じ順番で、バッテリー充電器をプラス端子とアース端子に接続します(▷285 ページ)。

▶ バッテリーを充電する前に、バッテリー充電器の操作説明もご覧ください。

ジャンプスタート

⚠ **警告**

車両をジャンプスタートするときは、バッテリーから発生したガスによる酸により、火傷をする危険性があります。エンジンをジャンプスタートしている間は、バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ **警告**

ジャンプスタートの間にバッテリーから発生したガスは、小規模な爆発につながることがあります。火花の発生を防いでください。裸火はバッテリーから離し、喫煙しないでください。

⚠ **警告**

未燃焼の燃料が排気システムに集まり、発火するおそれがあります。火災の危険性があります。始動操作を長時間繰り返し行なうことは避けてください。

! 始動操作を長時間繰り返し行なうことは避けてください。さもないと、未燃焼の燃料により、触媒コンバーターを損傷するおそれがあります。

車両を始動するために急速充電器を使用しないでください。車両のバッテリーが放電した場合は、他の車両のバッテリー、または他のバッテリーから、ジャンプケーブルを使用してエンジンをジャンプスタートすることができます。以下の項目に従ってください。

- すべての車両でバッテリーに手が届くわけではありません。他の車両のバッテリーに手が届かない場合は、他のバッテリーやジャンプスタート機器を使用して、車両をジャンプスタートしてください。
- エンジンおよび触媒コンバーターが冷えているときにのみ、車両をジャンプスタートすることができます。
- バッテリーが凍結しているときは、エンジンを始動しないでください。最初にバッテリーを解凍してください。
- ジャンプスタートは電圧 12V のバッテリーからのみ行なうことができます。
- 十分な太さがあり、絶縁された端子クランプを持つジャンプケーブルのみを使用してください。
- バッテリーが完全に放電している場合は、始動の試みの前に数分間、バッテリーをジャンプスタートで接続したままにしてください。これにより、空のバッテリーに少しだけ充電が行なわれます。
- 2 台の車両が接触していないことを確認してください。

以下を確認してください。

- ジャンプケーブルが損傷していないこと
- ジャンプケーブルがバッテリーに接続されている間は、端子クランプのむき出しの部品が他の金属部品に触れていないこと
- ジャンプケーブルが V ベルトのプーリーやファンのような部品に触れていないこと。エンジンを始動するときやかかっている間は、これらの部品が動きます。

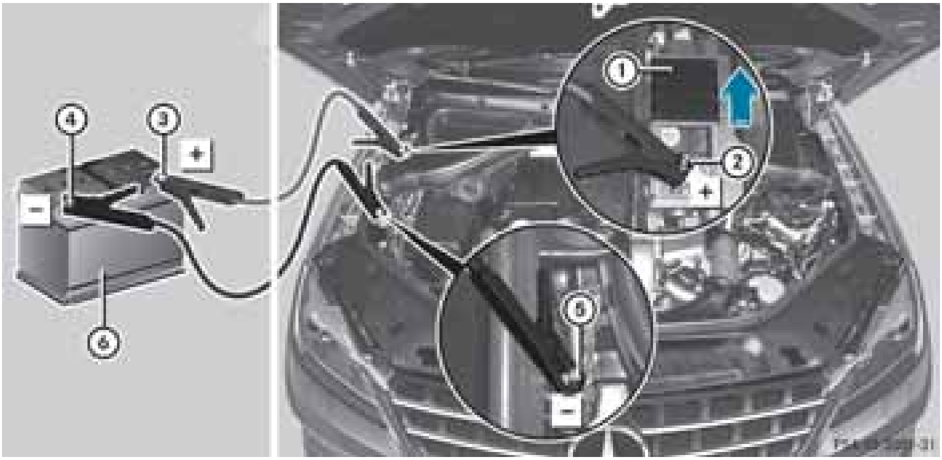
▶ 電気式パーキングブレーキを効かせて、車両が動かないようにします。

▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。

▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして抜きます（▷133 ページ）。キーレスゴー装備車では、イグニッションがオフになっていることを確認します（▷133 ページ）。メーターパネルのすべての表示灯が消灯していなければなりません。

▶ すべての電力装備（オーディオ、送風など）を停止します。

▶ ボンネットを開きます（▷256 ページ）。



⑥は他の車両または同様のジャンプスタート機器の充電されたバッテリーを示しています。

▶ プラス端子②のカバー①を矢印の方向にスライドします。

▶ ジャンプケーブルを使用して、お客様の車両のプラス端子②と救援用バッテリー⑥のプラス端子③を、お客様のバッテリーから先に接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、エンジンをアイドリングさせます。

▶ ジャンプケーブルを使用して、救援用バッテリー⑥のマイナス端子④とお客様の車両のアース端子⑤を、先に救援用バッテリー⑥から接続します。

▶ エンジンを始動します。

▶ ジャンプケーブルの接続を外す前に、数分間エンジンをかけたままにします。

▶ いずれの場合もお客様の車両の接続から先に、まずアース端子⑤とマイナス端子④から、そしてプラス端子②とプラス端子③からジャンプケーブルを取り外します。

▶ ジャンプケーブルを取り外した後に、プラス端子②のカバー①を閉じます。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

ⓘ ジャンプスタートは通常の操作状況とはみなされていません。

ⓘ ジャンプスタートケーブルやジャンプスタートに関する詳しい情報については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

けん引およびけん引始動

重要な安全上の注意

⚠ 警告

エンジンがかかっていないときは、ステアリングのパワーアシストや制動力ブースターは作動しません。ステアリング操作やブレーキ操作に、より大きな力が必要になり、ブレーキペダルを最大の力で踏まなければならないことがあります。

けん引される前に、ステアリングが動き、ロックされていないことを確認してください。

⚠ 警告

ホールド機能が作動しているときは、車両にブレーキが効いています。そのため、車両がけん引される前に、ホールド機能を解除してください。

けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。

! 最大で 50km まで車両をけん引できます。けん引速度は、50km/h を超えないようにしてください。

50km を超えるけん引距離の場合は、車両全体を上げて運搬しなければなりません。

! 電気式パーキングブレーキが解除されていることを確認してください。電気式パーキングブレーキが故障しているときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! けん引ロープは、けん引フックにのみ固定してください。さもないと、車両を損傷するおそれがあります。

! 車両を損傷するおそれがあるため、車両を復帰させるためにけん引フックを使用しないでください。不明なときは、車両をクレーンで復帰させてください。

! けん引の際にはスムーズに発進してください。駆動力が大きすぎるときは、車両を損傷するおそれがあります。

! キーレスゴー装備車では、キーレスゴースイッチの代わりにキーを使用してください。さもないと、運転席または助手席ドアを開いたときにオートマチックトランスミッションがポジション **P** になり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

車両のトランスミッションが損傷している場合は、車両運搬車で運搬してください。

けん引されるときは、オートマチックトランスミッションがポジション **N** になければいけません。

バッテリーが接続されていて、充電されていなければなりません。さもないと、以下のようになります。

- エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわすことができません。

- オートマチックトランスミッションをポジション N にシフトすることができません。

ℹ けん引する前に、車速感応ドアロックを解除してください（▷75 ページ）。さもないと、車両を押したりけん引されるときに、閉め出されるおそれがあります。

けん引される前に、けん引防止警報を解除してください（▷62 ページ）。

けん引フックの取り付け / 取り外し

けん引フックの取り付け

▶ 車載工具からけん引フックを取り出します（▷272 ページ）。

取り外し式けん引フックの装着部はバンパーにあります。前後のカバー内にあります。

▶ **フロントのカバーを開く：**カバー ① のマークを矢印の方向（内側）に押します。

▶ **リアのカバーを開く：**平たく、尖っていない物を切れ込みに差し込み、カバー ② をバンパーから外します。

▶ 開口部からカバー ① または ② を外します。

▶ けん引フックを時計回りに停止するまでまわして締めます。

けん引フックの取り外し

▶ けん引フックを緩めて、取り外します。

▶ カバー ① または ② をバンパーに取り付け、ロックされるまで押します。

▶ けん引フックを車載工具に入れます。

両アクスルを接地させて車両をけん引する

車両をけん引するときは、安全上の指示に従うことが重要です（▷288 ページ）。

⚠ **警告**

エンジンがかかっていないときは、ステアリングのパワーアシストや制動力ブースターは作動しません。車両にブレーキを効かせたり、操舵するために、より多くの力が必要になります。それに応じて運転スタイルを合わせてください。

運転席または助手席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、オートマチックトランスミッションが自動的にポジション **P** にシフトします。車両をけん引するときに、オートマチックトランスミッションをポジション**N**のままにしたいときは、以下のようにしてください。

▶ 車両が停止していて、エンジンスイッチのキーが **0** の位置になっていることを確認します。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置をにまわします。

キーレスゴー装備車では、キーレスゴースイッチの代わりにキーを使用します（▷134 ページ）。

▶ ブレーキペダルを踏んで保持します。

▶ オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。

▶ ブレーキペダルを放します。

▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます（▷106 ページ）。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置のままにします。

ℹ 非常点滅灯を作動させてけん引されているときに方向変更の合図が必要なときは、通常通りコンビネーションスイッチを使用してください。この場合、望む方向の方向指示灯のみが点滅します。コンビネーションスイッチを元に戻すと、再度非常点滅灯が点滅し始めます。

車両を運搬する

運搬したいときは、車両を車両運搬車に引き上げたり、運搬するために、けん引フックを使用することができます。

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にします。

▶ オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。

車両が積載されたら、すぐに以下のことを行ないます。

▶ 電気式パーキングブレーキを効かせて、車両が動かないようにします。

▶ オートマチックトランスミッションをポジション **P** にシフトします。

▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして抜きます。

▶ 車両を固定します。

! アクスルやサスペンション構成部品のような車両部品ではなく、ホイールまたはホイールリムでのみ車両を固定してください。さもないと、車両を損傷するおそれがあります。

4MATIC 車両の注意点

! 4MATIC 車は、フロントまたはリアのみを持ち上げてけん引しないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

トランスミッションまたはフロント / リアアクスルを損傷しているときは、車両運搬車で運搬してください。

電気システムが損傷しているとき

バッテリーに不具合があるときは、オートマチックトランスミッションがポジション P に固定されます。ジャンプスタートと同様に、オートマチックトランスミッションをポジション N にシフトするためには、車両の電気システムに電力を供給しなくてはなりません（▷285 ページ）。

電力が供給できない場合は、車両運搬車で運搬してください。

ぬかるみなどから復帰するとき

! 動けなくなった車両を復帰させるときは、車両を急激に引き出したり、斜めに引き出さないでください。引き出す力が強いと、車両を損傷するおそれがあります。

ぬかるみや泥地で駆動輪がはまった場合は、特に車両に荷物を積んでいるときは、細心の注意とともに車両を復帰させてください。

トレーラーを接続したまま車を引き出さないでください。

スタックしたときは、できるだけ走行してきたわだちに沿って後方へ車両を引き出してください。

けん引始動（緊急エンジン始動）

! けん引始動を行なわないでください。さもないと、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

ジャンプスタートに関する情報は（▷285 ページ）にあります。

ヒューズ

重要な安全上の注意

⚠ 警 告

メルセデス・ベンツにより承認され、システムの要求に合った適切な規格のヒューズのみを使用してください。不具合のあるヒューズを修理したり、ブリッジしようとしないでください。承認されていない、または修理およびブリッジしようとしたヒューズの使用は、ヒューズの過熱の原因になり、火災につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を特定し、修理してください。

車両のヒューズは、不具合のある回路を切断する働きをします。ヒューズが切れた場合は、回路のすべての構成部品とそれらの機能は作動を停止します。

切れたヒューズは、色やヒューズ規格で区別することができる、同じ規格のヒューズと交換してください。ヒューズの規格はヒューズ一覧表に記載されています。

新しく差し込んだヒューズも切れるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を特定し、修理してください。

! メルセデス・ベンツにより承認され、システムの要求に合った適切な規格のヒューズのみを使用してください。エンジンルームとリアシート下部のヒューズボックスには、"S" マークがあるヒューズのみを使用してください。さもないと、構成部品やシステムが損傷するおそれがあります。

ヒューズを交換する前に

▶ 車両を駐車して、電気式パーキングブレーキを効かせます。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

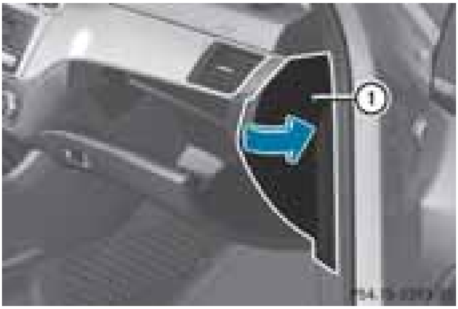
ヒューズは複数のヒューズボックスにあります。

- 助手席側ダッシュボードのヒューズボックス
- エンジンルーム内進行方向右側のヒューズボックス
- リアシート下部のヒューズボックス

リアシート下部のヒューズボックス（▷293 ページ）には、ヒューズ配置表があります。

ダッシュボードのヒューズボックス

! ダッシュボードのカバーを開くときは、ドライバーのような先の尖った物を使用しないでください。ダッシュボードやカバーを損傷するおそれがあります。



▶ **開く：**カバー ① を矢印の方向に引いて、取り外します。

▶ **閉じる：**ダッシュボード前部にカバー ① を掛けます。

▶ 固定されるまでカバー ① を内側に押します。

エンジンルームのヒューズボックス

▶ ボンネットを開きます。

▶ 乾いた布を使用して、ヒューズボックスに付着している水分を取り除きます。

▶ **開く：**クリップ ② を外します。

▶ カバー ① を矢印の方向に開いて取り外します。

! カバーが開いているときに、湿気が入らないことを確認してください。

▶ **閉じる：**シールがカバー ① 内に正しく位置していることを確認します。

▶ ヒューズボックス側面の固定部にカバー ① を差し込みます。

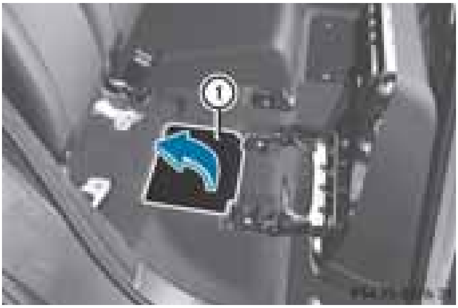
▶ カバー ① を下方に閉じ、クリップ ② を掛けます。

! カバーを閉じるときは、ヒューズボックスに正しくかぶさっていることを確認してください。さもないと、湿気や汚れによりヒューズの作動を損なうおそれがあります。

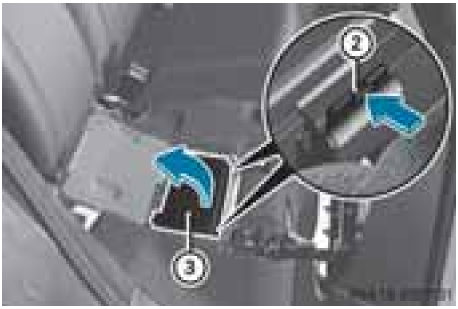
▶ ボンネットを閉じます。

リアシート下部のヒューズボックス

▶ 右側リアシートを前方にたたみます。



▶ **開く：** カーペット ① を矢印の方向に開いて、たたみます。



▶ クリップ ② を押して、矢印の方向に外します。

▶ カバー ③ を矢印の方向に上げて、取り外します。

i ヒューズ配置表はカバー ③ の下部にあります。

! カバーが開いているときに、湿気が入らないことを確認してください。

▶ **閉じる：** カバー ③ をヒューズボックス側面の取り付け部に差し込みます。

▶ クリップ ② が固定されるまで、カバー ③ を押し下げます。

▶ 右側リアシートを元の位置に戻します。

ヒューズ一覧

ダッシュボードのヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
10	7.5A	イグニッションロック
11	10A	オプション
12	5A	メーターパネル
13	-	
14	5A	診断ソケット
15	5A	エアバッグシステム、盗難防止警報システム、非常点滅灯、オフロードモード、パークトロニック、余熱ヒーター、フロントシートヒーター、ECOスタートストップ機能
16	-	
17	-	
18	-	
19	15A	エアコンディショナー
20	5A	エンジンエレクトロニクス
21	5A	中央ディスプレイ
22	-	

リアシート下部のヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
100	5A	オーディオ
101	-	
102	7.5A	運転席シート調整、ステアリング調整
103	7.5A	助手席シート調整
104	5A	電話
105	-	
106	5A	EASY-PACK 自動開閉テールゲート
107	-	
108	-	
109	-	
110	-	
111	-	
112	5A	燃料ポンプ
113	5A	電気式パーキングブレーキ
114	5A	ライトスイッチ
115	-	
116	-	
117	-	
118	-	
119	5A	オフロードモード
120	5A	エンジンエレクトロニクス、トリップレコーダー
121	-	
122	-	
123	-	
124	-	
125	-	
126	-	
127	30A	運転席シート調整、ステアリング調整
128	-	
129	30A	助手席シート調整
130	-	

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
131	-	
132	25A	燃料ポンプ
133	5A	余熱ヒーター
134	5A	助手席シートセンサー
135	5A	グローブボックスライト
136	7.5A	エアバッグシステム
137	5A	パーキングアシストリアビューカメラ、VICS/ETC
138	-	
139	-	
140	-	
141	-	
142	-	
143	-	
144	-	
145	7.5A	温度調整式カップホルダー
146	30A	リアデフォッガー
147	30A	オーディオ
148	15A	ライター
149	-	
150	20A	ラゲッジルームの 12V 電源ソケット
151	20A	後席センターコンソールの 12V 電源ソケット
152	30A	EASY-PACK 自動開閉テールゲート
153	-	
154	40A	EASY-PACK 自動開閉テールゲート
155	-	
156	-	
157	15A	リアワイパー

エンジンルームのヒューズボックス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
201	–	
202	20A	余熱ヒーター
203	5A	盗難防止警報システム
204	25A	ABS/ASR/BAS/ESP®
205	15A	ホーン
206	–	
207	–	
208	–	
209	–	
210	–	
211	–	
212	–	
213	7.5A	エンジンエレクトロニクス
214	15A	エンジンエレクトロニクス
215	15A	エンジンエレクトロニクス
216	15A	エンジンエレクトロニクス
217	20A	エンジンエレクトロニクス
218	–	
219	10A	エンジンエレクトロニクス
220	–	
221	–	
222	–	
223	–	
224	–	
225	–	
226	–	
227	–	
228	–	
229	7.5A	ヘッドライト照射角度調整、ヘッドライト
230	5A	ABS/ASR/BAS/ESP®
231	7.5A	ヘッドライト照射角度調整、ヘッドライト
232	15A	オートマチックトランスミッション
233	15A	ヘッドライト
234	–	
235	20A	オプション
236	–	
237	30A	ABS/ASR/BAS/ESP®、オートマチックトランスミッション
238	–	
239	30A	フロントワイパー
240a	30A	エンジンエレクトロニクス、スターター
240b	30A	エンジンエレクトロニクス、スターター
241	–	

（2011-03-21・A 166 007 37 99）

ⓘ 記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

重要な安全上の注意 ………………… 298
タイヤ / ホイールの使用 ……… 298
冬季の使用 ……………………………… 300
タイヤ空気圧 ………………………… 302
車輪の交換 ……………………………… 305
ホイールとタイヤの組み合わせ … 307

重要な安全上の注意

⚠ **警告**

サイズの異なるホイールやタイヤを使用すると、ブレーキやサスペンションの部品を損傷するおそれがあります。事故の危険があります。

純正品および承認されているホイールおよびタイヤに交換してください。

⚠ **警告**

パンクしたタイヤにより、車両の走行、ステアリング、制動特性が著しく損なわれます。事故の危険があります。

以下を守ってください。

- パンクしたタイヤでは走行しないでください。
- ただちに応急用スペアタイヤに交換するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

メルセデス・ベンツにより承認されていない、または正しく装着されていないアクセサリーにより、操作安全性が損なわれます。

お客様の車両のホイールおよびタイヤのサイズや種類については、" ホイールとタイヤの組み合わせ " の項目をご覧ください（▷307 ページ）。

タイヤ空気圧に関する情報については、以下をご覧ください。

- 燃料給油口フラップのタイヤ空気圧ラベル
- " タイヤ空気圧 " の項目

ブレーキシステムやホイールの改造は許可されていません。また、ホイールスペーサーやダストシールドは許可されていません。保証の適用外になります。

ⓘ タイヤとホイールに関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

タイヤ / ホイールの使用

走行時の注意

- 走行しているときは、振動や騒音、ステアリングが片方向にとられるなどの不自然なステアリングの動きに注意してください。ホイールやタイヤが損傷しているおそれがあります。タイヤやホイールの損傷が疑われるときは、ただちに速度を落としてください。すみやかに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。目に見えないタイヤやホイールの損傷も、不自然なステアリングの動きの原因になります。異常が見つからないときも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

- 車両を駐車するときは、縁石や他の障害物でタイヤが変形していないことを確認してください。縁石や速度抑制用の突起、類似の突起物を乗り越える必要があるときは、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にしてください。さもないと、タイヤ、特にサイドウォールを損傷するおそれがあります。

ホイールおよびタイヤの定期的な点検

⚠ 警告

損傷しているタイヤは空気圧低下の原因になります。その結果、車のコントロールを失うことがあります。事故の危険があります。

損傷している兆候がないかタイヤを定期的に点検し、損傷しているタイヤはただちに交換してください。

- 車両のホイールおよびタイヤの損傷（タイヤの亀裂、パンク、裂け目、膨らみ、およびホイールの変形、ひびまたは著しい腐食）を定期的に、特にオフロードや不整路を走行した後に点検してください。車輪の損傷は空気圧低下の原因になるおそれがあります。
- タイヤの溝の深さやタイヤの幅全体にわたる接地面の状態は定期的に点検してください。必要であれば、前輪をいっぱいまで切り、タイヤの内側も点検してください。
- ほこりや水分の浸入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。
- 定期的に、特に長距離走行の前には、応急用スペアタイヤを含めたすべてのタイヤの空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧を調整してください（▷302 ページ）。

タイヤトレッド

⚠ 警告

溝の深さが十分でないタイヤはタイヤの駆動力を低下させます。また、タイヤが水を排水できなくなります。これにより、特に速度が走行状況にあっていないときは、濡れた路面でハイドロプレーニング現象を起こす危険性が増加します。事故の危険があります。

タイヤ空気圧が非常に高い、または低いときは、タイヤはタイヤトレッドの異なる部位で様々な度合いで摩耗します。すべてのタイヤのトレッド全体にわたり、溝の深さを定期的に点検してください。

溝の深さの最低値は以下の通りです。

- 標準タイヤ：3mm
- ウインタータイヤ：4mm

安全上の理由により、溝の深さが最低値になる前に、必ず新品と交換してください。

タイヤの選択、装着と交換

- 同じサイズ、および同じ銘柄のタイヤとホイールのみを装着してください。
- ホイールに対して適切なサイズのタイヤのみを装着してください。
- 最大限の性能は走行距離が約 100km を超えてからのみ発揮されるため、この距離の間は控えめの速度で走行してください。
- 特に濡れた路面での駆動力が著しく減少するため（ハイドロプレーニング）、溝の深さがほとんどないタイヤで走行しないでください。
- 摩耗にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

  応急用スペアタイヤも同様に交換してください。

タイヤの寿命は以下を含め、様々な要因に左右されます。

- 運転スタイル
- タイヤ空気圧
- 走行距離

冬季の使用

覚えておいていただきたい項目

冬季になる前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で冬季の準備を行なってください。

" 車輪の交換 " の注意事項に従ってください（▷305 ページ）。

標準タイヤでの走行

外気温度が約 7℃以下のときは、標準タイヤは弾力性を失い、それにより駆動力や制動力も失います。ウィンタータイヤに交換してください。非常に低い温度で標準タイヤを使用すると、亀裂が生じてタイヤの損傷の原因になることがあります。この種類の損傷については、メルセデス・ベンツは責任を負いません。

ウィンタータイヤ

外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤを使用してください。

冬季の道路状況では、ウインタータイヤでのみ最良のグリップを得ることができます。これらのタイヤは雪の上での走行のために特別に設計されているため、冬季はこれらのタイヤでのみ ABS や ESP® などの走行安全装備が適切に機能します。

安全なハンドリング特性を維持するため、同じ種類、同じトレッドのタイヤのみを使用してください。

⚠ 警 告

溝の深さが 4mm 以下になったウインタータイヤは、十分な駆動力を確保できないため、冬季の使用には適していません。事故の危険があります。

溝の深さが 4mm 以下になったウインタータイヤは交換してください。

ウインタータイヤを装着したときは、以下を行なってください。

▶ タイヤ空気圧を点検してください（▷302 ページ）。

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷304 ページ）。

応急用スペアタイヤを装着したときは、80km/h 以上で走行しないでください。

⚠ 警 告

標準タイヤ / ホイールと応急用スペアタイヤのサイズおよびタイヤの種類は異なります。応急用スペアタイヤを装着すると、走行特性が著しく損なわれます。事故の危険があります。

以下の事項を守ってください。

- 状況に合わせて慎重に運転してください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤはウィンタータイヤとはサイズが異なるため、短時間のみ使用してください。
- ESP® の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。交換するタイヤのサイズと種類が正しいことを確認してください。

スノーチェーン

安全上の理由により、メルセデス・ベンツによりお客様の車両のために特別に承認された、または同等の品質基準のスノーチェーンのみを使用することをお勧めします。

スノーチェーンを装着するときは、以下のことに注意してください。

- スノーチェーンは、すべてのホイールおよびタイヤの組み合わせに装着できるわけではありません。許容されているホイールおよびタイヤの組み合わせについては（▷307 ページ）をご覧ください。
- 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。
- スノーチェーンは必ず一組かつ後輪のみに装着してください。メーカーの装着指示にも従ってください。

最高速度が約 50km/h を超えないでください。

ℹ スノーチェーン装着中に発進するときは、ESP® の機能を解除したほうがよい場合があります。このようにして車輪をコントロールしながら空転させ、駆動力を増やすことができます（地面を掘る動作）。

タイヤ空気圧

指定のタイヤ空気圧

⚠ 警 告

空気圧が非常に低い、または非常に高いタイヤには、以下の危険があります。

- 特に車両に大きな荷重がかかったときや高い速度で走行しているときに、破裂するおそれがあります。
- タイヤが過度に、または不均等に摩耗して、タイヤの駆動力を著しく損なうおそれがあります。
- 走行やステアリングおよびブレーキの特性を著しく損なうおそれがあります。

事故の危険があります。

以下のときは、推奨タイヤ空気圧に従い、応急用スペアタイヤも含めたすべてのタイヤの空気圧を点検してください。

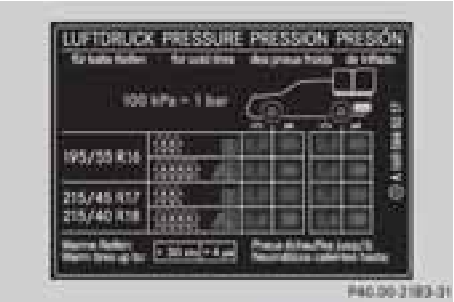
- 少なくとも 2 週間ごと
- 荷重が変わったとき
- 長距離走行前
- 不整地の走行など、使用条件が変わったとき

必要であれば、タイヤ空気圧を調整してください。

応急用スペアタイヤに適用されるタイヤ空気圧は、応急用スペアタイヤまたは " ホイールとタイヤの組み合わせ " に記載されています（▷307 ページ）。

燃料給油フラップ内のラベルには、様々な使用状況でのタイヤ空気圧が記載されていることがあります。乗車人数や荷物の量の違いに応じて、ラベルに定義されています。実際の座席数も様々ですので、詳しい情報は車両の登録書類を参照してください。

タイヤサイズが特定されていないときは、タイヤ空気圧ラベルに記載されているタイヤ空気圧は、この車両のために承認されている、すべてのタイヤに適用されます。



タイヤ空気圧の前にタイヤサイズがある場合、後に続くタイヤ空気圧はそのタイヤサイズのみに有効です。

適切なタイヤ空気圧ゲージを使用してタイヤ空気圧を点検してください。タイヤの外見を点検しても、空気圧を正しく判断することはできません。

⚠ 警告

タイヤバルブに不適切なアクセサリーを装着すると、タイヤ空気圧低下の原因になるようなタイヤバルブの過負荷、および不具合が発生することがあります。設計上、後付けのタイヤ空気圧モニターはタイヤバルブを開いたままにします。これもタイヤ空気圧低下につながるおそれがあります。事故の危険があります。

タイヤバルブには、純正バルブキャップまたはお客様のメルセデス・ベンツ車のための特別なバルブキャップのみを装着してください。

⚠ 警告

タイヤ空気圧が繰り返し低下するときは、ホイール、バルブ、またはタイヤが損傷しているおそれがあります。非常に低すぎるタイヤ空気圧は、タイヤの破裂につながるおそれがあります。事故の危険があります。

- タイヤに異物がないか確認してください。
- ホイールやバルブから空気が漏れていないか確認してください。

問題を解消できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

タイヤ空気圧は、できるだけタイヤが冷えているときに測定してください。以下のときはタイヤは冷えています。

- 直射日光を浴びていない場所で、少なくとも約 3 時間以上駐車したままのとき、そして
- 車両が約 1.6km 以上走行していないとき

周囲の気温、走行速度そしてタイヤへの荷重により、タイヤ温度およびタイヤ空気圧は変化することがあります。10℃あたり 10kPa（0.1bar/1.5psi）です。暖まったタイヤの空気圧を点検するときは、このことを考慮に入れてください。そのときの使用状況に対してタイヤ空気圧が低すぎるときのみ、空気圧を修正してください。

タイヤ空気圧が高すぎたり低すぎる状態で走行すると、以下のようなことが起こります。

- タイヤの寿命が短くなります。
- タイヤの損傷につながります。
- 車両操縦性や走行安全性に悪影響を与えます（ハイドロプレーニングなど）。

ℹ 少ない荷物に対応した空気圧値は、快適な良い乗り心地をもたらすための最低空気圧です。

ただし、多い荷物に対応した空気圧を使用することもできます。これらは許容されており、車両の走行に悪影響を与えません。

環 境

タイヤ空気圧は定期的に点検してください

タイヤ空気圧警告システム

重要な安全上の注意

車両が走行しているとき、タイヤ空気圧警告システムは車輪の回転速度を使用して、設定したタイヤ空気圧をモニターします。これにより、システムはタイヤの急激な空気圧低下を検知することができます。空気圧低下の結果、車輪の回転速度が変化すると、対応する警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

タイヤ空気圧警告システムは、誤ったタイヤ空気圧の設定に対しては警告は行ないません。推奨タイヤ空気圧に関しての注意事項は（▷302 ページ）をご覧ください。

タイヤ空気圧警告システムは複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合には検知できないため、定期的なタイヤ空気圧点検の代わりになるものではありません。

タイヤに異物が貫通した場合など、突然の空気圧低下に対しては、タイヤ空気圧警告システムは警告を行なうことができません。急激な空気圧低下のときは、慎重にブレーキ操作を行なって停車してください。急なステアリング操作は避けてください。

タイヤ空気圧警告システムの機能は、以下のときに制限されたり、遅れることがあります。

- 車両のタイヤにスノーチェーンが装着されているとき
- 冬季の道路状況のとき
- 砂地や砂利道などを走行しているとき
- 非常にスポーティな走行スタイル（高速でのコーナリングや急加速）のとき
- 重い荷物を積載して走行しているとき（車内やルーフの上）

タイヤ空気圧警告システムの再起動

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を変更したとき
- ホイールやタイヤを交換したとき
- 新しいホイールやタイヤを装着したとき

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップ内側のタイヤ空気圧ラベルを参照して、4 輪すべてのタイヤが対応する使用状況に対して適正に調整されていることを確認してください。

タイヤ空気圧警告システムは、適正なタイヤ空気圧に設定されているときのみ、信頼性のある警告を行なうことができます。不適切なタイヤ空気圧に設定されている場合は、それらの不適切な値がモニターされます。

▶ タイヤ空気圧に関する注意事項を確認します（▷302 ページ）。

▶ イグニッション位置が **2** になっていることを確認します。

▶ ステアリングの [◀] または [▶] スイッチを押して、メンテナンスメニューを選択します。

▶ [▼] または [▲] スイッチを押して、タイヤ空気圧を選択します。

▶ [OK] スイッチを押します。

タイヤ空気圧 警告システム オンというメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

再起動を確定したいとき

▶ [OK] スイッチを押します。

タイヤ空気圧 正常ですか？ キャンセル はいというメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

▶ [▼] または [▲] スイッチを押してはいを選択します。

▶ [OK] スイッチを押します。

タイヤ空気圧 警告システム 再始動しましたというメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

読み込み期間終了後に、タイヤ空気圧警告システムが 4 輪すべての設定したタイヤ空気圧をモニターします。

または

再起動を中断したいとき

▶ [↩] スイッチを押します。

または

▶ タイヤ空気圧 正常ですか？ キャンセル はいというメッセージが表示されているときに、[▼] または [▲] スイッチを使用してキャンセルを選択します。

▶ [OK] スイッチを押します。

最後の再起動時に保存されたタイヤ空気圧値が引き続きモニターされます。

車輪の交換

パンクしたとき

" パンクしたとき " の項目には、パンクしたときの対処方法に関する情報が記載されています。車輪の交換や応急用スペアタイヤの装着に関する指示もあります。

車輪の入れ替え

⚠ **警 告**

ホイールまたはタイヤが異なるサイズのときに前輪と後輪を入れ替えると、走行特性を著しく損なうことがあります。ブレーキやサスペンション構成部品を損傷するおそれもあります。事故の危険があります。

ホイールおよびタイヤが同じサイズの場合にのみ前輪と後輪を入れ替えてください。

サイズが異なる前輪と後輪の入れ替えは、保証を無効にします。

" 車輪の交換 " の項目にある指示と安全に関する警告に常に注意を払ってください（▷305 ページ）。

使用状況により、フロントタイヤとリアタイヤの磨耗パターンは異なります。タイヤに明確な磨耗パターンが形成される前に、車輪の入れ替えを行なってください。通常はフロントタイヤはショルダー部が、リアタイヤはセンター部がより磨耗します。

前輪と後輪のサイズが同じ車種の場合は、タイヤの磨耗具合により 5,000 ～ 10,000km 毎に車輪を入れ替えることができます。タイヤの回転方向は維持してください。

車輪を入れ替えるときは常に、ホイールとブレーキディスクの接合面全体を清掃してください。タイヤ空気圧を点検し、必要であればタイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

回転方向

タイヤの回転方向が指定されているタイヤは、例えばハイドロプレーニング現象のおそれがある状況などで補助的な効果を発揮します。 回転方向が指定されているタイヤは、指定された回転方向になるように装着することで性能を十分に発揮できます。

タイヤの側面にある矢印は、適切な回転方向を示しています。

応急用スペアタイヤは回転方向に反して装着できます。

応急用スペアタイヤの表示期間制限、ならびに速度制限に従ってください。

車輪の保管

使用していない車輪は、乾燥した冷暗所に保管してください。オイルやグリース、燃料などからタイヤを保護してください。

車輪の清掃

⚠ **警 告**

車両、特にタイヤを清掃するときに、回転式ジェットノズル付きの高圧式クリーナーを使用しないでください。さもないと、タイヤを損傷したり、事故の原因になるおそれがあります。

ホイールとタイヤの組み合わせ

全体的な注意事項

! 安全上の理由により、車両のためにメルセデス・ベンツにより特別に承認されたタイヤとホイールのみを使用することをお勧めます。

それらは、ABS や ESP® などの制御システムに特別に適合しており、以下のマークが付いています。

- MO ＝メルセデス・ベンツ純正タイヤ
- MOE ＝メルセデス・ベンツ純正ランフラットタイヤ（ランフラット特性を持つタイヤ）
- MO1 ＝メルセデス・ベンツ純正タイヤ（特定の AMG タイヤのみ）

メルセデス･ベンツによりテストされ、承認されたタイヤ、ホイールおよびアクセサリーのみを使用してください。さもないと、ハンドリングなどの特定の特性、車両排出騒音および燃料消費に悪影響を与えます。さらに、荷物を積んで走行しているとき、タイヤサイズの種類によっては、タイヤが車体やアクスル構成部品と接触するおそれがあります。これにより、タイヤまたは車両の損傷につながるおそれがあります。

テストおよび承認されていないタイヤ、ホイールおよびアクセサリーの使用に起因する損傷については、メルセデス・ベンツは責任を負いません。

ホイール、タイヤおよび承認された組み合わせについての詳しい情報には、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 大径ホイールは、特定のホイールサイズでは外周部分が低くなり、悪路での乗り心地も悪くなります。ロール時の快適性やサスペンションの快適性が損なわれ、結果として障害物を乗り越えたときのホイールやタイヤへの損傷の危険性も高まります。

i 車両の燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベルがあります。タイヤ空気圧に関するさらなる情報は （▷302 ページ）をご覧ください。

タイヤが冷えているときにのみ、定期的にタイヤ空気圧を点検してください。

i タイヤとホイールは、以下の点を確認して正しく装着してください。

- 左右には必ず同サイズのタイヤを装着してください。
- サマータイヤ、ウィンタータイヤなど、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

タイヤ

標準タイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
ML 350 4MATIC BlueEFFICIENCY	前後輪 255/55R18	8.0J × 18	56mm
ML 350 4MATIC BlueEFFICIENCY AMG スポーツパッケージ	前後輪 255/50R19[1]	8.5J × 19	59mm
ML 350 4MATIC BlueEFFICIENCY EDITION 1	前後輪 265/45R20[1]	9.0J × 20	57mm

オプションまたは仕様により、以下のタイヤ / ホイールが装着される場合があります。

タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
前後輪 255/50R19	8.0J × 19	56mm
前後輪 255/50R19[1]	8.5J × 19	59mm
前後輪 265/45R20[1]	9.0J × 20	57mm
前後輪 265/40R21[1,2,3]	9.0J × 21	53mm

ウインタータイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
全車	前後輪 255/55R18	8.0J × 18	56mm
	前後輪 255/50R19	8.0J × 19	56mm
	前後輪 255/50R19[1]	8.5J × 19	59mm

1: スノーチェーンの装着は許可されていません。" スノーチェーン " の注意事項に従ってください。
2: " ホイールとタイヤの組み合わせ " の " 大径ホイール " の注意事項に従ってください。
3: エアサスペンション装備車のみ。

応急用スペアタイヤ		
車種	タイヤ	ホイールサイズ
全車	T155/90D18 または T155/90R18 タイヤ空気圧：420kPa（4.2bar/61psi）	4.0B × 18 オフセット 40mm
	T155/80R19 タイヤ空気圧：420kPa（4.2bar/61psi）	4.5B × 19 オフセット 40mm

ⓘ 応急用スペアタイヤの空気圧は、ホイールに黄色で記載されています。

ⓘ 上記の内容は本国仕様のもので、日本においては購入や装着ができない場合があります。適切なホイール / タイヤの組み合わせについては、購入前に必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

テクニカルデータに関する注意事項
.... 312
メルセデス・ベンツ純正部品…… 312
車両の電子機器…………………… 313
ビークルプレート………………… 313
サービスプロダクトと容量……… 314
積載荷物の制限重量……………… 319
テールゲート開口時の寸法……… 319

テクニカルデータに関する注意事項

テクニカルデータは EC 指令に準拠して決定されています。 すべてのデータは車両の標準装備に該当します。 そのため、オプション装備を装備した車両では異なることがあります。

メルセデス・ベンツ純正部品

メルセデス・ベンツでは、お客様の車両に対して特別に承認された純正部品や交換部品、アクセサリーに対して、それらの信頼性、安全性および適合性をテストしています。継続的な市場調査にもかかわらず、メルセデス・ベンツは他の部品を評価することはできません。したがって、個別にまたは公式に承認された部品であっても、これらの使用に対しては、メルセデス・ベンツは責任を負いません。

警 告

承認されていない部品、タイヤやホイール、または安全に関するアクセサリーを使用すると、走行安全性が損なわれるおそれがあります。

これらはブレーキシステムなどの安全性に関連したシステムの故障につながる可能性があります。車両のコントロールを失う原因になり、事故の原因になるおそれがあります。

この理由により、メルセデス・ベンツ純正部品、または同品質の部品を使用することをお勧めします。お客様の車両のために特別に承認されたタイヤ、ホイールおよびアクセサリーのみを使用してください

! 車両の以下の範囲には、エアバッグやシートベルトテンショナー、およびそれらの保護システムのコントロールユニットやセンサーが取り付けられていることがあります。

- ドア
- ドアピラー
- ドアシル
- シート
- ダッシュボード
- メーターパネル
- センターコンソール

これらの範囲には、オーディオシステムのようなアクセサリーを取り付けないでください。修理や鈑金作業を実施しないでください。保護システムの十分な作動を損なうおそれがあります。

アクセサリーはメルセデス・ベンツ指定サービス工場で取り付けることをお勧めします。

環 境

Daimler AG は、新品と同じ品質の再生アセンブリーおよび部品を供給しています。これらには、新品と同様の保証が適用されます。

メルセデス・ベンツ純正部品を注文するときは、常に車台番号（▷313 ページ）およびエンジン番号（▷313 ページ）を特定してください。

車両の電子機器

電子制御部品の改造

⚠ 警 告

エンジン電子機器および関連する構成部品に関わる作業は、常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実施してください。さもないと、車両の安全性に影響を与えるおそれがあります。

! エンジン電子機器およびそれに関連するコントロールユニット、センサー配線類のような部品に関わる作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのみ実施してください。さもないと、車両の構成部品がより早く摩耗することがあったり、車両の使用に関する保証が無効になることがあります。

ビークルプレート

車台番号やカラーコードが記載されたビークルプレート

▶ 右側フロントドアを開きます。

ビークルプレート ① があります。

車台番号

ビークルプレートに刻印されているものに加え、車台番号は車両のボディにも刻印されています。それは運転席足元にあります。

▶ 右側フロントドアを開きます。

▶ カバー ① を矢印の方向に開いて、取り外します。

車台番号が確認できます。

エンジン番号

エンジン番号はクランクケースに刻印されています。詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

サービスプロダクトと容量

重要な安全上の注意

⚠ 警 告

お客様自身や他の方を危険にさらすおそれがあるため、サービスプロダクトの取り扱い、保管、廃棄については、関連する規定に従ってください。

サービスプロダクトは子供の手の届かない場所に保管してください。

お客様の健康を守るために、サービスプロダクトが目や傷に触れないようにしてください。誤ってサービスプロダクトを飲み込んだときは、ただちに医師の診断を受けてください。

環 境

サービスプロダクトは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

サービスプロダクトには以下が含まれます。

- 燃料
- 油脂(エンジンオイル、トランスミッションオイルなど)
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

車両の構成部品とそれぞれの油脂は適合していなければなりません。メルセデス・ベンツによりテストされ、特別に承認された製品を使用することをお勧めします。

詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

燃料

重要な安全上の注意

⚠ 警 告

燃料は高い可燃性です。そのため、燃料を取り扱うときは、火、裸火および喫煙は禁止されています。

補給の前にエンジンを停止してください。

⚠ 警 告

燃料への接触を避けてください。

皮膚が直接燃料に触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に危険を及ぼします。

燃料タンク容量

燃料タンク容量	約 78.0 ℓ
警告灯点灯時の残量	約 10.0 ℓ

ガソリン

! ガソリンエンジン車に軽油を補給しないでください。少量の軽油でも、燃料噴射システムを損傷します。

! 無鉛プレミアムガソリンのみを補給してください。

! 以下は使用しないでください。

- 有鉛ガソリン
- 軽油

これらの燃料をガソリンに混合しないでください。また、いかなる添加剤も使用しないでください。エンジンの損傷につながることがあります。生成残留物の除去および防止のための添加剤は、これには含まれません。ガソリンには、メルセデス・ベンツにより推奨された添加剤のみを混合してください。推奨されている添加剤の詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービスにおたずねください。

添加剤

! 低いグレードのガソリンを補給したり、メルセデス・ベンツによりテストおよび承認されていない添加剤を使用しないでください。さもないと、燃料システムが故障したり、損傷するおそれがあります。

低いグレードの燃料による主なトラブルのひとつに、燃料が燃焼する過程でのカーボン堆積物の生成があります。メルセデス・ベンツは、清浄剤を含有する種類の燃料の使用をお勧めします。

これらの清浄剤を含まない燃料を長期間使用した場合は、カーボン堆積物が生成されることがあります。これらは特に、吸気バルブや燃焼室に発生します。

これにより、エンジン作動の以下の問題につながるおそれがあります。

- エンジン暖気時間の長期化
- 不安定なアイドリング
- エンジン騒音
- ミスファイア
- 出力の低下

燃料に他の燃料の添加剤を混合しないでください。これにより、エンジンを損傷するおそれがあります。

燃料消費に関する注意事項

環 境

お客様の車両の CO_2 排出は燃料消費に直接関係し、そのため以下により左右されます。

- エンジンによる燃料の効率的な使用
- 運転スタイル
- 環境的な影響や道路状況のような、技術的ではない他の要因

慎重に運転し、定期的に点検整備を行なうことにより、車両の CO_2 排出量を最小限にできます。

以下の状況では、車両は通常より多くの燃料を使用します。

- 外気温度が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行するとき

エンジンオイル

覚えておいていただきたい項目

エンジンオイルの品質は、エンジンの機能や使用寿命を決定します。多くのテストの後で、メルセデス・ベンツは現在の技術基準に対応するエンジンオイルを承認しています。

そのため、メルセデス・ベンツが承認したエンジンオイルのみを使用してください。

テストされ、承認されたエンジンオイルに関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。オイル交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実施することをお勧めします。

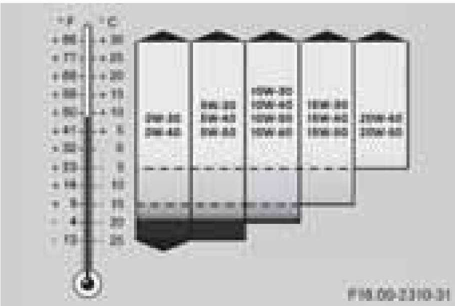
容量

車種	交換量
ML 350 4MATIC BlueEFFICIENCY	約 7.0 ℓ

添加剤

エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジンオイルの粘度



粘度は液体の流動性を示します。エンジンオイルが高い粘度値を持つ場合は、ゆっくり流れます。粘度が低いほど、速く流れます。

エンジンオイルの選択は、対応する外気温度および SAE 等級（粘度）に基づきます。表は使用する SAE 等級を示しています。劣化または煤煙および燃料付着等の原因により、低い温度でのエンジンオイルの特性は著しく損なわれます。そのため、適切な SAE 等級での、承認されたエンジンオイルを使用した定期的なオイル交換に従うことを強くお勧めします。

ブレーキ液

⚠ 警告

時間の経過とともに、ブレーキ液は空気から湿気を吸収します。これにより、沸点が下がります。

ブレーキ液の沸点が非常に低い場合は、ブレーキを過酷に効かせたとき（下り坂での走行など）にブレーキシステムに気泡が形成されることがあります。これによりブレーキ効果が損なわれます。

定期的な間隔でブレーキ液を交換しなければなりません。ブレーキ液交換の間隔は整備手帳にあります。

メルセデス・ベンツにより承認されたブレーキ液のみを使用してください。承認されたブレーキ液の情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ℹ ブレーキ液は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で定期的に点検してください。

冷却水

重要な安全上の注意

⚠ 警告

不凍液は高い可燃性です。不凍液を扱うときは、火、裸火および喫煙は禁止されています。

熱くなったエンジン部品に不凍液が触れると、発火して、お客様自身が火傷をするおそれがあります。熱くなったエンジン部品の上に不凍液をこぼさないでください。

! あらかじめ希望の濃度に混合した冷却水のみを加えてください。

冷却水に関する詳しい情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 適切な冷却水混合液を使用してください。

さもないと、エンジン冷却システムが腐食から十分に保護されず、オーバーヒートします。

冷却水は水と防錆不凍液の混合液です。以下の役割を果たします。

- 防錆保護
- 凍結防止
- 沸点の上昇

適切な濃度の防錆不凍液では、作動時の冷却水の沸点は約130℃になります。

エンジン冷却システム内の防錆不凍液の濃度は以下でなければなりません。

- 少なくとも約 50% 以上にしてください。約 -37℃までエンジン冷却システムの凍結を防止します。
- 約 55% を超えないようにしてください。（約 -45℃までの凍結防止）。さもないと、熱が効果的に発散しません。

車両の冷却水が不足している場合は、水と防錆不凍液の混合液を補充してください。メルセデス・ベンツは、サービスプロダクト 310.1 に関する MB 仕様に準拠した防錆不凍液をお勧めします。

ℹ 車両の納車時には、弊社指定の防錆不凍液を適正な濃度で混合した冷却水がリザーブタンクに充填されています。

ウォッシャー液

⚠ **警告**

ウォッシャー液 / 不凍液は高い可燃性です。発火したり、燃えるおそれがあるため、熱くなったエンジン構成部品の上にウォッシャー液 / 不凍液をこぼさないでください。重度の火傷を負うおそれがあります。

! MB SummerFit または MB WinterFit などのプラスチック製ライトレンズに適したウォッシャー液のみを使用してください。適していないウォッシャー液は、ヘッドライトのプラスチックレンズを損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液に蒸留水や脱イオン水を使用しないください。さもないと、液量のセンサーを損傷するおそれがあります。

! MB SummerFit や MB WinterFit は必ず水と混ぜて使用してください。さもないと、スプレーノズルが詰まるおそれがあります。

気温が氷点より高いときは、以下のようにしてください。

▶ 水と MB SummerFit などのウォッシャー液の混合液をリザーブタンクに補充します。

▶ 水の量 100 に対して MB SummerFit の量 1 を混合します。

気温が氷点以下のときは、以下のようにしてください。

▶ 水と MB WinterFit などのウォッシャー液の混合液をリザーブタンクに補充します。混合比を外気温度に合わせます。

▶ -10℃までは、水の量 2 に対して MB WinterFit の量 1 を混合します。

▶ -20℃までは、水の量 1 に対して MB WinterFit の量 1 を混合します。

▶ -29℃までは、水の量 1 に対して MB WinterFit の量 2 を混合します。

ℹ 1 年を通して、MB SummerFit または MB WinterFit などの濃縮ウォッシャー液をウォッシャー液に加えてください。

積載荷物の制限重量

車種	ルーフレール
全車	100kg

ℹ ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

テールゲート開口時の寸法

ML 350 4MATIC BlueEFFICIENCY	
① 開口部高さ	② 最大頭上高
2195mm	1987mm

上記の数値は本国仕様のもので、日本仕様とは異なる場合があります。

対象モデル

ML 350 4MATIC BlueEFFICIENCY

"ESP®" は Daimler AG の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2012 年 6 月現在のものです。

総輸入元
メルセデス・ベンツ日本株式会社
〒106-8506 東京都港区六本木一丁目9番9号 六本木ファーストビル

環境保護のため、この取扱説明書は再生紙を使用致しました。

MBJCSD 32830-061200800 A
6515 4384 20 NA2011-11d, 06/12